

道路による交通が行はれてゐた。そして支那固有の交通機關たる駄馬・一輪車・馬車・轎・人力車等が用ひられ、その公路の延長は全國で一・九萬杆(日本は九七萬杆)、近年自動車を用ひられるに及んで、自動車の通り得る公路は六・六萬杆に及んでゐるが、雨期には泥濘車輪を埋め、乾期には黄塵萬丈で極めて不完全である。

古今を通じ、支那本部と外蒙・新疆との交通機關に絶對的意義を有するものは駱駝の隊商である。張家口とウランバートル間、厚和・百靈廟と新疆間が特に盛で、使役される駱駝は七萬頭を數へるといふ。

2. 鐵道 總延長一・三萬杆、我が二・七萬杆に比し二分の一以下である。是等の鐵道は一般に外國資本により、外國の督促によつて敷設した所謂借款官辦鐵路と稱せられるものである。列國が支那に勢力を扶植するには最も有利であるため各國は競争して借款を勧め、その獲得に狂奔したものである。

一八七六年英人が上海・吳淞間一六杆に〇・七六米の輕便鐵道を敷設したのが、支那に於ける鐵道の最初である。然る

に之れは風景に害ありとなし、民衆が暴動を起したので政府が買收して臺灣に移した。次で一八九五年佛國は雲南鐵道の敷設權を得、次は一八九六年に露國は東支鐵道に、次で露佛



二國は京漢鐵道を、尙英獨は連繫して津浦鐵道を敷設することとし各國の投資と勢力の扶植は鐵道に表現されてゐる。英國—京漢・京山(北寧)・津浦・海南(滬寧)・海杭(滬杭甬)・道清・粵漢・廣九・浦信等で一八、六八五萬米弗 佛國—利權鐵道として滇越鐵道(投資二〇〇〇萬法)、借款鐵

道は津浦・隴海・粵漢等に一、三八〇萬米弗

米國は八〇〇萬米弗以上の借款を有するも、これによつて敷設せられたる鐵道はなし。

日本は京漢・京包・南潯・膠濟等六、四〇〇萬圓

(一)京山線 北京山海關間四二二杆、一九〇七年英國の借款にて開通

(二)京漢線 北京漢口間、本線一、二二三杆、支線一一七杆、一九〇五年英・佛・日・白諸國の借款にて開通

(三)道清線 清化・道口間一六三杆、一九〇四年英國が敷設し、翌三年借款の形式にて國有となる。

(四)津浦線 天津・浦口間一、〇〇九杆支線七一杆、英・獨・佛の借款にて一九一二年完成。

(五)京包線 北京・包頭間八一六杆、支線五七杆、日・白の借款、北京・張家口間二一〇杆は一九二三年支那資本にて建設された唯一の鐵道である。

(六)膠濟線 青島・濟南間三九四杆、支線六〇杆、一九〇四年ドイツが敷設したもの、日獨戰爭により日本の有に歸し

たが、ワシントン會議により、一九二三年有償にて支那に返還、代金四〇〇〇萬圓は借款の形にて今も残存してゐる。

(七)正太線 石家莊・太原間二四三杆、支線四二杆、もとロシアの借款で一九〇七年開通したが、今は返還され國有となる。

(八)滄石線 滄州・石家莊間で日本資本にて敷設されることとなつてゐた。津浦・京漢・正太三線を連絡せしめ、山西の資源を天津・太沽に搬出せんとするもの。

(九)隴海線 海州・寶雞間二、二五杆で、佛・白・蘭資本にて一九三四年竣成せるもの。

(一〇)南潯線 九江・南昌間一二八杆、我が東亞興業會社の借款一千萬圓にて一九一五年完成せるもの。民營より國有となる。

(一一)海南線 南京・上海間舊京滬鐵道で本線三一杆、支線一六杆、一九〇八年英國借款により開通。

(一二)粵漢鐵道 廣東・武昌間一、〇九〇杆、支線五四杆、一九三六年英・米・獨・佛四國の借款により建設されたもの

(一三) 廣九鐵道 支那國有は廣東・深圳間一四三杆、深圳九龍間三五杆は租借地内に在り、英國所有である。一九一一年英國借款で成立。

(一四) 滇越鐵道 雲南・河内間四六四杆、一九〇四年佛國資本で開通、支那に於ける唯一の外國鐵道である。

支那事變より日本の占領地域の鐵道經營は、北支に於ては北支那開發會社の子會社たる華北交通株式會社(昭和一四年四月創立資本三億圓)が之れに當り、中支那に於ては中支那振興會社の子會社たる華中鐵道會社(昭和一三年四月創立資本五千萬圓)が當つてゐる。

### 3. 内陸水路

イ、内河航行權 支那には揚子江・珠江等内陸水路の發達せる河川があり、北支平原も黃河その他の河川が多く、一般に内陸水路が密である、一八五八年天津條約に基き英國に漢口以下の揚子江航行權を附與せしを始めとし、一八九五年下關係約により我が國に重慶までの航行權と、上海より大運河に入り蘇州・杭州への航行權を與へ、更に、一八九八年には、

内陸水路航行規定及び細則を制定して内河水路を悉く外國に開放した。

その結果、列國は競うて河川交通に進出し、支那の内陸交通は頓に發達したが、支那人の航運業は壓倒される形となつた。

ロ、北支那の内河 北支の河川は黃土地方を流れるため一般に淺瀬が多く、山西以西は高原をなし、更に冬季は凍結する結果、内陸水路の便が少く、従つて、歩行・駄獸による場合が多い。これ「北馬」と稱せられる所以である。然し北支那平野を流れる諸川は大抵ジャンク、小汽船を通じ、白河は天津以下九八杆は三〇〇噸級、上流七八七杆まで小汽船を通ずる。

黃河は中流の中衛・河口鎮間、下流の蘭封・濼口間及び渭水・洛水・汾水等の支流にジャンクを通じ、延長五四七〇杆に達する。北支に於ける航行路は一萬杆に及ぶ。

ハ、大運河は 北京天津より黃河揚子江を横切り杭州に達し延長二、〇七三杆、世界最長の運河で南方の貢米を北方に

運ぶ目的に供せられ、支那の産業政治上に貢獻する處が少くなかつたが、その堤防が黃河・淮水の排水を妨げて洪水の害を増したことも屢々であつた。

二、揚子江 世界有數の内陸水路で、河口より一二〇〇杆の漢口まで増水期には一萬噸、減水期には四千噸の汽船を通じ、漢口宜昌間八百杆は一千噸、更に重慶まで七〇〇杆は増水期に一千噸、減水期は七百噸の小汽船を通ずる。重慶は最上流の開港で、民船は更に叙州・成都にまで達する。

揚子江水運は各國の汽船が錯綜してゐる。事變前に在つては日本船は日清汽船會社其他の三十隻がこれに従ひ、英船三十八隻、米船十三隻、佛船三隻、伊船八隻等で、これに對し支那船は四十二隻であつた。全川に互つて運航するは日・英・支で、その他は上流に多い。

同河の開放に就ては、

一八五八年英國に航行權を與へ、鎮江・漢口を開港、佛國に南京開港

一八六二年英に九江開港

一八七六年英國に大通・安慶・湖口・陵溪口・武穴・沙市を停船地となす

一八九〇年英國に重慶の開放

一八九五年下關係約で日本に對し、沙市・重慶を開放

一八九八—一九一七年の間に支那は自發的に吳淞・岳州・長沙・湘潭・常德・萬縣を開港した

ホ、珠江 南支第一の大河で、本流なる西江は廣東・梧州間に一千噸の汽船を通じ、上流潯州までは小汽船、更に上流には民船を通じてゐる。

### 4. 海運

一八六五年英人が香港廣東澳門汽船會社を設立したが之れが支那に於ける汽船會社の嚆矢である。次で一八六七年には支那航業、一八七七年には印度支那航業會社が設立され支那海運の曙光期をつくつた。

支那では一八七四年に招商局を設立し海運に當らしめ、日本は一八九八年に大阪商船の揚子江航路が開かれ、一九〇三年に日本郵船も揚子江に進出し、一九〇七年には日清汽船會

社が創立され専ら揚子江航路に従事せしめた。

支那は條約により海岸及内陸航路を開放してゐるため、外國船の進出が著しく、そのため海運は急發展をなしたが、支那船は外國船に壓倒されて、その發達を妨害されて來た。

イ、支那唯一の汽船會社招商局の所有船は二九隻六・六萬噸、主として河川及び近海の交通に當つてゐるが、營業不振のため國營となつた。

ロ、英國の在支汽船會社は太古洋行、寶賜洋行その他で合計一四八隻、三二四萬噸で海運の四割を占め揚子江及び、遠洋航海に當つてゐる。

ハ、日本の汽船會社で支那航路に従事するものは日清汽船を主とし、大阪商船、大連汽船等計六一隻一一萬噸であるが更に昭和十四年八月に東亞海運會社(資本七三〇〇萬圓)を創立し、専ら日支交通に當ることゝなつた。

ニ、米國は一八隻一・二萬噸、ノルウェー一八隻五・三萬噸その他は見る可きものがない。

業立後れの觀が著しく。

(三)海岸、内河川の開放の結果、外船の進出が著しく、支那船はその競争に曝され壓倒されて了つた。

(四)國內大資本の集中が困難で、各國と競争し得る汽船會社が成立しなかつた。唯一の招商局すら營業不振に困窮し經營を政府に委ねるに至つた有様である。

5. 航 空

支那の空路は、他の交通機關に比し、著しく發達し、アジア大陸に於ては最も發達した地方の一である。尨大なる國土に、鐵道交通の不振なる支那に於ては長距離交通機關として航空が重要な役目を果してゐるのは當然である。但し資本と技術の缺乏は、あくまで外國依存を必要としてゐる。

(一)中國航空公司 一九三〇年成立、資本一〇〇〇萬元、米支合辦、材料・操縦士を米國に仰ぎ、沿線飛行郵便の獨占輸送權を附與されてゐる。

- 滬漢線(上海・漢口) 九一四軒 漢渝線(漢口・重慶) 八九一軒
- 渝蓉線(重慶・成都) 二七七軒 渝昆線(重慶・雲南)

支那出入船國籍別 (一九三六年)

國籍	汽船	戎船	噸數	%
中國	汽船		三九,三三〇	二七・一%
日本		戎船	四,八六	三・三%
英國			二四,九四	一七・七%
米國			五,三五	三・九%
諸國			三,七三	二・六%
其他			四,四八	三・一%
其他			一〇,二九	七・二%
合計			一四三,〇九	一〇〇・〇%

日・英・支三國船は八七・六〇%を占めて、支那海運を支配し、支那船は全體の僅かに三分の一、外國船は七〇%餘を占めてゐる。かくの如く支那船による海運の不振は

(一)支那は大陸國で、海岸線が短く、古來陸上に於ける民族發展は顯著であつたが、海上に勢力を得た歴史は少く、漢族は海事思想に乏しかつた。

(二)従つて古來自給政策に満足し、外國との取引の必要を感じず、開港の如きも、自發的に行ひたるものは少く、主要なるものは何れも外國に強要された結果による。即ち、海運

滬京線(上海・北京)一、一四〇軒 滬粵線(上海・廣東)一、六二〇軒

(二)歐亞航空公司 一九三〇年創立資本五一〇萬元、大部分が獨逸資本である。歐亞航空郵便を目的としたが、近年は支那本部の航空に従事してゐる。

滬隴線(上海・鄭州・西安・蘭州)一、八六〇軒、本來は迪化・塔城に至る全線四、〇五〇軒に及ぶものである。

京粵線(北京・漢口・廣東)二、〇五〇軒  
包蘭線(蘭州・包頭) 八二〇軒、等

(三)西南民間航空公司 廣東・廣西・貴州三省の出資に成る資本二〇〇萬元、純支那資本の會社

(四)惠通公司 日支合辦 資本五〇〇萬元にして北支と内蒙・滿洲間の航空を司る。

6. 通 信

一八九九年支那に始めて無線電信が輸入せられ、一九二七年には全國に計畫的の發展を見るに至つた。即ち國民政府が統一の手段として積極的に敷設した爲で、廣大なる領土を有する支那に於て、地形を超越せる無電が、航空と共に急發展

をなしたのは偶然ではない。

殊に邊疆部の設備に留意し、是等地方の中央化と、國防の強化につとめたので、一九三六年には全國に八〇箇所の無電臺を有し、全部國營で交通部が之れを經營し、絶えず政情の報告に利用して來た。その中、國際的に使用してゐたものは上海郊外の眞茹及び楓林橋の無電臺で、歐米・アジア各地と通信してゐた。

二七、列國の對支投資について考察せよ。

列國は一八四二年の南京條約以來支那に進出し、其の後天津條約、芝罘條約によつて、今日支那に存在する列國の治外法權、關稅上の特權、内河沿岸航行權及び租界租借地等が確立し、之れに伴ひ、各國の經濟的進出が著しく、政府の借款に應ずる外直接に各種の方面に投資するに至つた。

1. 是等外國資本は支那に於ける事業投資の八〇%を占め、滿洲事變前の一九三一年現在全支投資高は三二億米弗、滿洲を除けば二三億米弗の巨額に達してゐた。

投資總額三二・四億弗の中政府の借款は二二%、他の事

業投資は七八%である。

支那に於ける列國の投資

(單位百萬弗)

列國	一九〇二年		一九一四年		一九三一年	
	投資高	總額ニ對シ	投資高	總額ニ對シ	投資高	總額ニ對シ
イギリス	二六〇・三	三三・〇%	六七五・五	三三・七%	一一一九・二	三六・七%
日本	一・〇	〇・一	三九・六	一・三六	一、二六・九	三五・一
ロシア	二四六・五	三三・三	二六九・三	一六・七	二五三・二	八・四
米 國	一九七	二・五	四九・三	三・一	一六・八	六・一
フランス	九・一	一・一	一七・四	一・〇	一三・四	五・九
ドイツ	一六四・三	二〇・九	二五・六	一・六	八七・〇	二・七
ベルギー	四・四	〇・六	三・九	一・四	八九・四	二・七
オランダ	—	—	—	—	二六・七	〇・九
イタリー	—	—	—	—	四六・四	一・四
合計	七七九	一〇〇・〇	一、六〇・三	一〇〇・〇	三、四二・五	一〇〇・〇

一九三一年に於ける列國の投資は英國(三六・七%)を第一とし、日本(三五・一%)之れに次ぎ、日英二國にて七一・八%を占めてゐる。

一九一四—一九三一年の七年間に於ける投資狀況を見るに

英國は一・九倍になつてゐるに對し、日本は實に五倍の巨額に達し、日本の對支投資はこの間に著しき發展を見た。

列國	一九三四年現在
英國	一、二〇一 三四%
日本	一、四一〇 四〇%
米 國	一、三〇〇 六%

更に一九三四年現在に於ては日本は英を凌駕して斷然その首位を占むるに至つたが、これは滿洲國に對するものが多く同國を除けば、英國が最も多いこととなる。

2. 以上巨額の投資は如何なる方面に使用されたか、その活動分野を見るに

イ、鐵道投資 最も多く八億六千萬圓に達し、その大部が依然として殘存してゐる。英國が最も多く、京漢・京山・津浦・京包・海南・海杭・粵漢・廣九・浦信・浙贛等の諸線に佛は京漢・津浦・正太・隴海・滇越・成渝等の諸線に、日本は京漢・京包・膠濟・南潯等、外に米・獨・白・蘭等の投資もある。

ロ、海運投資 英(四二%)、日(一四%)を主として其の他

(一六%)の列國も投資してゐる。

ハ、航空事業 米獨を主とし、佛國も加つて來た。北支に於ては日本資本による惠通航空会社が近年活動を開始した。

ニ、鑛業投資 日本は漢冶萍・桃沖・魯大公司・博山炭坑に出資し、英國は清化炭坑・門頭溝炭坑・開灤炭坑を有し、鑛業資本中外國出資は六〇%、國內資本は四〇%であつた。

ホ、紡績工業 支那資本一・五億元に對し、日本投資は實にその二倍の三億元に達してゐる。英國は全國に僅に二會社を有するのみで、日本が壓倒的の勢力を有する。

英米は煙草工業に投資するものが多い。

日本の在來事業は支那事變によつて破壊されたるものが相當に多く、治安恢復と共に又各種工場の復活がつけられてゐるが、更に我が國は新支那建設の巨歩を運ぶべく積極的に投資して開發を進める事となつた。而して我が國策會社として北支に於ては北支那開發會社(資本金三・五億圓)、中支に於ては中支那振興會社(資本金一億圓)を創設し、自ら直接に事業を經營せず、多くの子會社の出現と共にその資本の一部

を負擔して事業統制の任に當らしめる事になつてゐる。兩會社の資本は合して四・五億圓であるが、關係會社の出現に伴ふ民間出資も漸次増加することゝならば、建設工作の進捗と共に日本官憲保護の下に我が對支投資は、排日抗日の甚だしき舊支那に於ける時に比し、著しき増加を見るであらう。

3. 投資の地理的分布

英國は上海を中心として中支・南支に投資し、日本は主として滿洲に投資してゐたのであるが、日本の交通・紡績投資が増加するに従ひ、上海・青島等支那本部に進出した。之れに反し、滿洲は日本の獨占地域となり、ロシア勢力は滿洲より退却し、その他の國も全然滿洲投資は中止するに至つた。

對支投資地理的分布 (單位百萬米弗)

	一九〇二年	一九一四年	一九三一年
上海	投資 百分率 100.0 100%	投資 百分率 291.0 181%	投資 百分率 1,133.3 353%
滿洲	336.0 336%	331.6 331.6%	800.0 271%
其他の支那	177.2 177.2%	33.5 33.5%	267.8 168%
其他	284.7 284.7%	336.1 336.1%	325.5 198%

事業借款優先權、鑛山採掘、森林伐採

政府財政の管理、紙幣の發行

5. 通信機關の施設

河川航行權、郵便・有線無線の電信電話施設

6. 未開放地に於ける

土地商租權、旅行・居住・營業の權利

7. 軍事機關に關するもの

公使館護衛隊及び特定地域に於ける軍駐屯權

鐵道守備兵の駐屯、軍艦の航行・碇泊權

8. 九ヶ國條約 一九二二年二月六日ワシントン會議に於て、

日・英・米・佛・伊・蘭・白・葡・支の九國が調印をなしたるもので次の四原則

イ、支那の領土保全

ロ、鞏固なる支那中央政府の確立援助

ハ、支那に於ける門戶開放、機會均等主義の樹立

ニ、支那に於ける他國權益を侵害する恐れある特殊權益を獲得せざること

合計 七七九 100.0 1,110.3 100.0 1,141.4 100.0

二八、支那に於ける列國の特殊權益につきて説明せよ。

英國が始めて支那にやつて來たのは一六三六年の事であるその後一八四二年南京條約によつて阿片戦争の結末をつけ、香港の割讓、上海外四港を開港し、治外法權を承認せしめ、一八六六年には上海に共同租界が設置され、更に一八六〇年の北京條約、一八九五年の下關條約等、重なる條約によつて支那は歐米に特殊權益を與へ、半植民地化せられるに至つたその權益を性質により分類すれば

1. 支那の領土主權を制限するもの

租借權 居留地設置權(租界) 公使館區域(北京) 不割讓地域の設定

2. 支那の司法・行政權を制限するもの

領事裁判權(治外法權) 官吏・教官・顧問の任用要求

3. 支那の行政取締

4. 支那の財政・企業上の幫助・管理に關するもの

鐵道敷設經營及び投資の優先權

九ヶ國條約は、之れが違背に關する制裁規定がなく同七條に、適用問題の討議を必要とする事態發生の時は何時にても條約國間に隔意なき交渉をなすことを得る旨の事が記されてゐるのみである。

9. 支那に於ける租借地

租借地は一八九七年獨逸が膠州灣を租借せしに始まるも現在殘存するものは英・佛の二ヶ所である。

九龍半島 一八九八年英國が租借せるもの、面積九〇〇萬方呎九十九年間である。

廣州灣 一八九九年に、九十九ヶ年の期限にて佛國の租借せるもの、面積は一〇〇〇方呎、首府フォール・バイアルは人口二・五萬である。

10. 租界 居留地とも稱せられ、開港場、開市等に設けられたる商業的根據地である。條約によつて外人の營業居住地とされてゐる一定地域で、その國の治外法權が認められ、支那の主權は全然及ばず、各國領事又は行政委員會等によつて治められてゐる。

従つて軍閥の争闘内亂等相踵ぐ支那に於ては、彼等勢力の及ばざる安全地帯なるが故に、この中に在つて外國官憲保護の下に居住營業をなす支那人も少くない。

租界には數ヶ國に開放したる共同租界又は共同居留地と、特定の國に開放したる專管租界又は專管居留地とがある。

支那にはもと三十一租界があつたが歐洲大戰中、國權恢復運動によつて、獨・澳・露・白等の租界及び英租界の一部が回收されて現在次の如く残存してゐる。

- (一) 上海 共同租界(日本を含む)
- 佛國租界
- (二) 天津 英・佛・日・伊租界
- (三) 芝罘 共同租界
- (四) 厦門 共同租界(日本を含む)
- (五) 福州 日本租界
- (六) 杭州 日本租界
- (七) 蘇州 日本租界
- (八) 沙市 日本租界
- (九) 重慶 日本租界

- (一〇) 漢口 日本・佛租界
  - (一一) 廣東 英・佛租界(沙面)
  - (一二) 蕪湖 共同租界
- 日本の租界は專管租界七ヶ所、共同租界として二ヶ所である。

二九、支那の民族とその民族性につき考察せよ。

四億に達する尨大なる支那住民の民族構成は頗る複雑を極め、之れを大別すれば漢族・滿洲族・蒙古族・トルコ族・西藏族の五族の外、原住民の苗族を有し、尙少數の外國人が居住してゐる。

支那は漢族を主とする複合民族國家である。

1. 漢族 中國人又は華人ともいひ、主として支那本部に居住し、支那全人口の九割以上を占める。普通支那人と稱せられるは漢人を指すのである。

五千年前西方より移動し、黄河上流地方より、黄土高原に居住し、北支より中支・南支に發展し、原住民の苗族を南方に壓迫し、支那本部の大部を占むるに至つた。古來滿洲族、蒙古族、トルコ族、西藏族等と民族争闘が繰返され、屢々是

等外民族に征服されたが、よくそれら外民族を同化し、漢族固有の民族性と、文化とを維持し、現在に至るまで發展を續けて來てゐる。

北方の漢族は體軀大にして力役に耐へ、一般に鈍重であるが、南方人は幾分小さく、敏捷伶俐、輕躁浮華の傾向が大である。漢族はよく自然に順應する體質を具へ、寒暑に對する抵抗力が頗る強く、熱帶地方にも寒帶地方にも至る處に發展して、よく勞動してゐる。又勤勉で忍耐力が強いので、民族としての發展力は實に恐るべきものがある。かくの如く、個人的には恐るべき力を有してゐるに拘らず、今日統一的な國民を形成することが出來ずに、政治的には極めて力の弱い國民となつてゐるのは何故か、

(一) 漢民族には利己的な性質が強く、國家觀念に乏しきこと

(二) 國土尨大にして各地の風土を異にし、従つて各地に割據する民族の經濟・言語・風俗に差異を生じ、交通不便のため融和統一に困難なしりこと

に起因する。而して民族性の主なるものは

イ、獨立性 支那人は利己的である。永い歴史はすべて革命と稱する弱肉強食の争闘であつた。爲政者は人民の保護者ではなく、自己の權勢擴張のため常に人民に對する搾取者であつた。従つて支那の民族は、自己を護る者は自己以外になき事を悟るに至り、國家よりも自己本位の生活がつけられることになつた。この自立自營の性質は、漢族をして、何等國家の保護なきに拘らず、自由に海外に發展して、經濟上偉大なる勢力を占むるに至らしめた一原因である。

ロ、拜金主義 自己を守るものは財力以外にないと確信し金錢を獲得するためには何物をも辭せざる拜金者となり了つた。日夜營々として勤勉に働き、如何なる困苦缺乏にも耐へる強い忍耐力も、要は蓄財の樂みあるがためである。國家的に極めて弱い支那人が、經濟的には實に恐るべき力を有し、世界到る處に發展してゐるのもこの性質の然らしむるものであらう。

ハ、鈍感性 財的には敏感で、すべてを打算的に行動する

支那人も、感情に於ては極めて大陸的で、鈍感である。この非感受性は、外來文化に對して表現し、屢々外民族に征服され、西洋文化に刺戟されることあるも依然として獨特の漢族文化を維持せしめて來た。

然しこの性質は進歩的な近代文化に無關心たらしめ、古き歴史を有するに拘らず、後進國に追隨するを餘儀なくせしめあくまで保守的傾向に甘んずるの弊風を生ぜしむるに至つた  
ニ、支那人は家族制度で、社會は家族を以て單位とする。大家族制度で、一家數十人を擁してゐる。従つて、支那人は團結性が強く、血族者、同郷者、同職者等は夫々集團を作り團結して經濟的に活動してゐる。

2. 滿洲族 東シベリアより滿洲にかけて分布するツングース族中最も進歩した民族である。清朝と共に滿洲より支那本部に移り、清朝建設當時は百萬を數へてゐたが次第に漢族に同化され、今日では殆んど區別が出来ない。滿洲の接壤地殊に河北省に最も多し。

3. 蒙古族 大略二〇〇萬と推定され、外蒙に在る者は多く

を業とし、喇嘛教を信じてゐる。

6. 言語 支那の標準語は官語である。官語といふのは官用語といふ意味ではなく、方言に對する普通語を意味する。主として漢族の間に行はれてゐる言葉であるが、その範圍が廣いので、自然數種に分たれる。

北方官語は北京語を標準とし、北支・内蒙・滿洲國・新疆安徽・江蘇の一部に用ひられる。南方官語は南京語を標準とし、江蘇・安徽・江西・湖北・湖南等に行はれ、更に西蜀官語は四川・貴州・雲南等西南部に用ひられる。方言の主なるものは廣東方言(粵語とも稱し、使用者二千萬)福建方言(閩語といひ、二千萬人使用)浙江方言(上海方言を含む、その使用者は四千五百萬餘)等である。

その他邊疆の蒙古・新疆・西藏等には夫々各民族の言語が行はれ、言語の複雑性は、人種の複雑に拍車をかけ、支那の統一を一層困難ならしめてゐる。

三〇、支那にはどんな宗教が行はれてゐるか。

1. 儒教 孔孟の教で、道德を説いたものであるが、孔廟を

游牧をなしてゐるが、内蒙に住む者は漢族化して半農半牧の生活を營んでゐる。性質は温和で信義に厚く、又情誼に富んでゐるが、生來勇猛で謀略に長じ、喇嘛教を信じ曾ては歐亞に跨る世界的大國家を建設した事がある。



肅・陝西・雲南等に居住する。

5. 藏族 人口は約二〇〇萬で、四川省の西北部より青海甘肅の山地に分布してゐる。一般に文化の程度が低く、農牧

4. トルコ族 新疆省に住む民族で昔突厥・回紇といつたもの、トルコ語を用ひ、回教を信じ回々族とも稱せられる。人口は略一五〇萬に及ぶ。漢族に同化せる者は漢回又は東干族と稱し、支那本部と新疆省の中間なる甘

設けて春秋に祭典を行ふ點より見れば一種の宗教とも見られる。曾ては國家をあげて尊信した事もあるが、今日は上流の一部に行はれるのみである。

2. 道教 在來の民族的信仰が老莊の思想に結合して出來たもので、佛教の影響を受けて宗教的形態を具へた。修道・養生によつて永生し、遂に昇天して仙人になるといふ。

3. 佛教 印度に起り、五〇〇年後西域を通つて後漢明帝の時支那に傳つたもの、唐時代までは榮えたが宋以後衰へ、現今は禪宗の一派臨濟派が稍々盛んに行はれてゐるに過ぎない

4. 喇嘛教 西曆五世紀頃印度より入つて土教と合した佛教の一種である。喇嘛教には新舊二種がある。舊教は紅服・紅帽を着けたため一名紅教ともいひ、一時盛大であつたが、戒律がゆるんで弊害が生じたので、明の永樂年間に宗喀巴なる者出で、改革して黄教を作つた。黄服・黄帽を纏ふ新教である。

目下行はれてゐるものはこの黄教で肉食妻帯を許さず、戒律は嚴格である。經典は地理・歴史・數學・物理・化學・天





日本内地	20,074	西印度諸島	35,400
印度	15,000	南米諸國	15,250
印度洋諸島	5,000	歐洲諸國	10,335
葡領チモール	3,500	合計	76,334
ソ 聯 邦	35,500		

華僑總數を七八〇萬とすれば、この外に滿洲に在る三千萬の漢族も移住者である。

是等移民の中、滿洲シベリア朝鮮等に出るのは山東・河北の者が多く、南洋地方は南支の福建・廣東人が多い。

南洋華僑は六二〇萬に及び華僑總數七八〇萬の八〇%に達する。而して、南洋華僑の構成は

福建人	27%	廣東人	24%
潮州人	22%	客家族	14%
海南島人	11%	その他	2%
廣東省人	64%		
福建省人	34%		
その他	2%		

これを行政區劃に分ければ

福建の如きは臺灣に定着せるもの五〇〇萬、南洋に出るもの二〇〇萬、合計七〇〇萬も出してゐる有様である。

- (一) 飢饉・水害・疾病等の災害が多きため
- (二) 政治不良にして、苛斂誅求の著しきため
- (三) 性强悍で冒險性に富み、海に面して速くより海事思想豊かなること。廣東人の慍悍なる、争鬪性に富める事は有名であるが、福建沿岸漁民は海上生活に慣れ、沿員・海軍となり、又海賊として知られてゐた。

(五) 移住目的地に近く、且つ交通が発達し、海外事情に通じてゐること。

- (六) 移住地に於ける安易なる生活は移民を誘引する。
  - (七) 同郷、親戚關係の牽引力、支那人は家族主義の國で、親族、同郷人の團結力は鞏固である。
- 以上の如き關係で、移住者が多いが、移住者その者も他郷に於て發展し得る適應性を多分に具備してゐる。即ち
- (一) 寒暑如何なる氣候にも平氣で居住・勞働が出来ること
  - (二) 勤勉で忍耐力が強く、勞役に適してゐること

廣東・福建人で九八%を占め、廣東省では廣東・潮州・海南島人が壓倒的に多く、福建省では泉州・漳州等廈門を中心とする南部に多し。

？出國の原因。

(一) 人口過剰と耕地不足

人口密度	耕地の割合	農家の割合	農家一戸當り耕地
河北省	32.05%	45.4%	1.47
山西省	24.03%	4.9%	1.26
河南省	19.25%	40.8%	1.35
福建省	7.6%	2.8%	0.66
廣東省	13.06%	2.6%	0.36
支那本部	10.5%	2.8%	1.26

この條件は單に北支南支に限らないが、河北・河南・山東の人口密度は英本國オランダを凌ぎ、世界に於ける最稠密國ベルギー(二七一人)に次ぐものである。而して福建・廣東に於ては耕地が少く、一戸當り面積は支那本部の平均より著しく狭く、廣東省の如きは河北省の半である。

- (三) 従順でよく働き専業主に歡迎せられること
- (四) 賃銀低廉にして、如何なる仕事にも従事すること
- (五) 生活程度が低く、贅澤を欲せず、低給に甘んじ得ること
- (六) 商才に長じてゐること
- (七) 政治に無關心で、經濟的に勢力を有するも、政治的には在在地に何等影響せぬこと
- (八) 國家的背景なきこと、獨立して移住するので、何等國策に基づくものでなく、政治的野心を有せざる點は、自由なる發展を許容する結果となつてゐる

#### 4. 渡航の方法

移住の方法としては、政府に別段の施設なく、何れも自由渡航者である。即ち、親戚・同郷者の誘致によつて行くものと或は客頭・洋行の媒介による契約渡航者とがある。客頭とは先に渡航して移民先の事情に通じて居り、移民を勧誘して旅費・生活費を貸與し目的地に於て適當の職を周旋し、雇主又は本人より立替金の返還を受けるもので、彼等客頭は相當數に上り、廈門・汕頭・香港等に千五―六百人も居るとの事である。洋行は移民會社で、外國商館や支那商人の建てたも

のがある。近年は移民中

客頭の周旋によるもの	六五%
洋行によるもの	七%
その他の自由渡航者	二八%

移民は初め被傭・雑役としてゴム園・農園・鑛山等に働き漸次小作人より地主となるものがある。又行商人・小賣人から、仲買人・卸賣・貿易商に發展して大成功をなし、巨萬の富を有してゐる者が少くない。

シンガポールに於て、華僑の大資産家は

一千萬弗以上一名、五百萬弗以上一名、百萬弗以上六名
十萬弗以上二九名

の多きに達してゐる。

### 5. 華僑の活動

タイ國 タイ國の華僑は二五〇萬人と算せられる。この數はタイ國人口の四分の一、華僑全部の三分の一に達する。而して、タイ國に於ける商業の九〇%は支那人によつて行はれ輸出の大宗たる米の輸出は支那人の獨占であり、精米業もそ

の八〇—九〇%は華僑によつて行はれてゐる。貿易についても輸出の六〇%輸入の四〇%が華僑によつて取扱はれ、經濟的方面の實權を握つてゐる。勞働賃銀はタイ國人と大差なきも尙その七四・四%は華僑によつて充たされる。

タイ國は曾ては華僑を歓迎したが、支那本國から華僑に呼びかける國民的の意識は、移住地同化より本國還元運動に變化し、タイ國も華僑抑制・排斥の傾向に轉向しなければならなくなつた。而して、入國税は一九二七年の二〇パーセントは漸次高騰して一九三一年に三〇パーセント、一九三三年には一〇〇パーセントとなつた。

一〇〇パーセントは華僑一家の數年間の生活費に當るといふので、支那では大問題となつた。更に同化政策として、華僑學校長をタイ國人とし、教師もタイ國語試験の合格者となし、毎週タイ國語二十一時間を授けしめることとした。かゝる制限の結果は華僑の渡航を抑制し、入國數が著しく減じ、その送金も非常に少くなつたといふ。

馬來 馬來半島の華僑は一七〇萬に達し、住民の三九%を

少くない。

### 6. 華僑と日本との關係

(一)南洋地方は錫・鐵・ゴム・砂糖・木材・コーヒー・石油等の産地で我が國は戰時は勿論のこと、平時と雖も多額に之れを輸入しつゝあるのである。それにつきては一方是等の産地に日本品を輸出する必要があり、常に輸出入高を平衡させて行くことが望ましい。

然るに、南洋地方に於ける華僑は六二〇萬の多數に上り、本邦の輸出綿製品、日用品等の大なる消費者であるのみならず、貿易・小賣等の實權を握つてゐる。

即ち本邦南洋輸出品は南洋華僑によつて制約せられる點が頗る多い。

(二)南洋地方は我が國に近く、本邦移民の重要な活躍舞臺である。既に本邦人は英領馬來に七千人、フィリピンに二萬人、蘭印に七千人といふ如く、多數發展して、或は鑛山に、ゴム園に、砂糖・椰子等の農園に活動し、多數の華僑苦力を使役しつゝある。即ち、本邦南洋移民の活動は苦力

占める。鑛山・ゴム園の經營及び勞働者が多く、又農・商・漁業に従事する者もある。馬來の産業は支那人によつて開發されたものが多く、ゴム園の一七%、百エーカー以下の小ゴム園に於てはその四〇%が支那人の經營であり、その勞働者の1/4を占めてゐる。

錫は世界の三七%を占めて第一に位してゐるが、支那人經營の生産はその二三%に達し、鑛山勞働者の八〇%を華僑で占めてゐるといふ。

蘭印 蘭印に於ける華僑は一二三萬で、總人口の二〇%以上に達する。支那人のジャバア渡航は相當古く、オランダの植民政策を援助し、土人と戦つて將校となり、官吏に用ひられた例も少くない。然し、華僑と土人との衝突が屢々なるため漸次抑壓され、權利の縮小、重税の賦課、土地の回收など種々の手段で壓迫されたが、如何なる環境にあるも屈せざる華僑の忍耐力は着々その實力を扶植し、毎年三・五萬人位宛増加して來た。

主として商業方面に活躍し、製糖、農業等に従事する者も

の力に俟つものが少くない。  
この二點は日支關係が悪化する時に於ては、彼等の民族意識は抗日・排日的傾向を發揮せしめ、我が國の貿易を萎縮せしめ、又本邦人事業を阻害する場合が頗る多い。その表現の様相として、

- イ、日本品を買はざること
- ロ、日本品の積戻しをすること
- ハ、對日取引を中止すること
- ニ、日本人に對し、品物を賣らざること
- ホ、苦力の日本品荷受拒絶
- ヘ、邦人病院・理髮店に對するボイコット
- ト、邦人鑛山に於ける苦力の罷業
- チ、邦人銀行より預金引出しをすること
- リ、邦人に對する債家立退要求
- ヌ、日本人の廣告取扱拒絶 等

(三)日支間に今次の如き戰爭行為が行はれた時は、華僑財閥は巨額の献金をなして政府に對する財的援助をなしてゐる支那事變に於ては、公債引受及び献金を合し一七〇〇萬元

に達してゐるとの事で、この程度のものでは大した事はな  
いにしても、抗争を長引かせ、精神的援助をなす上にも影  
響は決して少しといはれない。

故に我が國は、南洋華僑に對しては、常に協力的態度を要望し感情の融和を必要とする。それがためには、

- (一)華僑出身地の福建・廣東兩省の治安を速かに確立し、常に平和を維持せしめ、安住樂土たらしめること
  - (二)新生支那政權に華僑の有力者を誘導し、華僑の理會と協力を得ることが賢明である。
  - (三)南洋に於ける邦人金融機關を充實せしめること
  - (四)南洋貿易が在來華僑勢力に支配されてゐたのを改め、南洋土人商人との提携に進出して、華僑に獨占せしめざること
  - (五)宣傳機關の擴大強化 南洋の邦字新聞以外に土語・支那語による宣傳を擴大し、本邦品はなるべく本邦人の手によつて販路を擴大したきものである。
- かくて南洋に於ても日支提携の實をあぐべきである。

### 三三、三民主義と新民主義を比較せよ。

#### 第一 三民主義

三民主義は孫文の革命に對する理想と抱負とを歸納大成したものである。革命指導の原理として孫文の發表したのは舊い事であるが、統一された政綱として發表されたのは彼の晩年、國民黨を根本的に改組した一九二四年一月である。

三民主義は民族・民權・民生の三主義を指し、孫文の歐米心酔のあらはれと見るべきである。即ちフランス革命の目標に規り、「自由は國家の自由を求むる民族主義であり、平等は人民の政治的地位の平等を求むる民權主義であり、博愛は四億住民の幸福を求める民生主義である」と孫文は稱してゐる。

1. 民族主義 對内的には五族(漢・滿・回・蒙・西藏)の共和國結を求め、對外的には支那民族の獨立解放を目標として民族意識を喚起し、實行を期する方法を指示してゐる。

2. 民權主義 民主國家としての機能を發揮せしめるため五權憲法を制定する。五權とは、憲法政治の近代國家に用ひられる三憲に孫文独自の工夫を加へたるもので司法・立法・行

政の外に考試(國家試験を司るもの)監察(彈劾權)の二權を加へ、之れにより政治的平等を計り、民主主義的政治革命の成功を期したものである。

3. 民生主義 一種の社會革命を目指すもの、人民の生活・社會の生存、國家の生計、群衆の生命に關する主張で、孫文は之れによつて經濟建設と、經濟的平等を企圖せんとした。之れが方法として地權の平均(地價差増の國有化)、資本節制(獨占又は大規模事業—銀行・鐵道・航路等に限り國營となす)人民の生活の改善(農事指導、保護主義による産業の勃興、土木事業の計畫的實施、教育の普及、救貧保護の實施)等を行ふとしてゐる。

三民主義實行の方法として、軍政・訓政・憲政の三期を分ち、軍政が終へてより訓政期が始り、各省の自治が出来てより憲政期が始まる。各省に於ては省長を選擧し、中央では五院を設立して五權憲法政治を施行するといふのである。

4. 孫文が民族の開放を叫び「中國は半植民地・全植民地ならまだしも、一國も保護する者もない入會地、即ち次植民地

である」と憤慨し、「日本の民族主義精神が旺盛な爲に、日本人ばかりでなく、アジア人全體を白人が輕視し得ない様になつた」と力説したのは、稍正しき認識を有してゐるかの如き觀が無いでもないが、一方、共產組織・ソヴェエト制度が中國に不適であることを承知し乍ら、國共合作を企圖し、ソ聯に對しては、「ソ聯の軍隊は中國の利益及び必要上、外蒙古から撤退するに及ばぬ」と聲明して民族主義を裏切り、歐米に依存して興歐滅亞の結果を招來し、彼の理想と現實の間には相當の矛盾を來してゐる。

彼の三民主義は、もとより歐米主義の焼き直しであり、必ずしも間違つてゐるとはいはれないにしても、はきちがへたる三民主義は遠交近攻、以夷征夷等の傳統的術策を弄し、遂に興亞興邦の大旗に違背する驅日滅邦を叫び、其の自殺的行爲は國民政府今日の末期的現象を呈するに至つたものである

## 第二 新民主義

國民政府の三民主義は、驅日興邦を企圖しながら、世界の赤化、歐洲勢力の東漸、支那の植民地化を助長し、結果に於

て滅邦滅亞を招來してゐる。自國の存立を全うし、東亞の保全と安定勢力を以て任ずる我が國は、中國の是等東亞の破壊工作を默視する能はず、新興支那政府と共に誤れる三民主義を排し、新中國の指導原理として新民主義を標榜するに至つた。新民なる語は大學の「明明德新民」又は「作新民」より出でたもので、これが、新民主義則王道と稱せられる所以である。

1. 東洋精神への復歸 克己復禮を根本として修養の工夫を叙述する。

克己は次の五項目を實踐することである。

格物—私心を去ること

致知—本然の良知を發揮すること

誠意—勵み合ふこと

正心—邪念を去ること

修身—人格を修むること

復歸は次の四項を實行することである。

齊家—人倫を正し男女各々その本分に従ふこと

親郷—地方自治に於て親を親しむの道を以て民衆の教化

醇風の發揚を計ること

治國—禮治徳治を實行して産業を起すこと

平天下—萬物に所を得しめ、國內的、國際的平和を計ること

即ち民衆の知識・文化・生活を向上せしめ、参政權を附與せられたる時は自己の價値を實現することにより興邦に獻替し、東洋傳統の精神を發揚し、東洋文化の復興創造につくさしめんとするものである。

## 2. 東洋中道全體國家主義の發揚

新民主義の王道國家は、決して君主專制でもなければ、墮落した民主政治でもなく、威望と財と力とを適當に融合せしめたもので、力よりも徳を高調する以外は全く全體主義と同一であり、然も永續性に富む理想的典型と稱すべきものである。

全體主義は個人を抹殺するものでなく「自己實現を通して興邦へ、興邦を通して自己實現へ」といふ建前をとらねばな

らぬものであり、又淺薄な單なる獨裁・官僚獨善・衆庶無視を謳歌するものではないので、東洋の全體主義は中道を得なければならぬ。

故に新中華民國が、如何なる政治形式を採用するにせよ全體主義的總統國家の性格を帯ぶべきは當然である。

## 3. 東亞新秩序の創建

前二項の東洋精神への復歸といひ、中道全體主義といひ、共に新秩序に外ならぬものであるが、更に、新に出現する國家は國際上何等の束縛をも受けない處の、自由なる發達を遂ぐべき性質のものでなければならぬ。舊い秩序より開放されたるものでなければならぬ、然らば脱却すべき舊秩序とは何か。

(一) 國際聯盟・不戰條約・海軍縮等々に表白されたる一般國際的平和機構を指す。これらは英・米・佛等既成飽和帝國のヴェルサイユ體制の存續、世界の現狀維持を克ち得んとするもので、世界平和の美名の下に自己領土の保全を企圖しつつあるものである。

(二)太平洋を基調とする特殊の極東平和機構で、九ヶ國條約、四ヶ國條約、その他支那關係諸條約を指す、凡そ米國の極東政策をそのまま具現したもので、曾ては我が國も之れに追従を餘儀なくされてゐた。

(三)孫文主義に現はれた聯ソ容共で、第七回コミンテルン大會の獨逸、日本への攻撃集中決議、中國共產黨の八・一宣言に現はれたる抗日救國人民戰線結成の決議に基き西安事件後國民黨、共產黨の合體が成立したものである。

(四)以上の背景に於て國民政府が、支那古來の戰法なる以夷征夷、遠交近攻の術策を弄し、自己の都合によつて勝手に日本を敵國として、十數年來抗日排日を繼續して來たこと。

以上の如き多くの束縛の中に樹立される新中國は、滿洲國と同様、聯盟を脱退し、九ヶ國・四ヶ國條約・不戰條約等苟も發達を拘束するすべての條約を廢棄し、租界回收、治外法權の撤廢、關稅自主等半植民地體制や、歐米資本主義の束縛より脱せねばならぬ。而して聯ソ容共より一八〇度

轉回して、防共協定に参加すべきである。然る後、政治・經濟・文化の自立性を迅速に恢復し、新中國が、日・滿兩國と東洋意識に立つて團結し、永劫に同胞相爭ふをやめ、相提携して共存共榮の道程に上らねばならぬ。帝國政府が昭和十三年十一月三日の聲明に於て

「帝國ノ冀求スル所ハ東亞永遠ノ安定ヲ確保スベキ新秩序ノ建設ニ在リ。今次征戰究極ノ目的亦此ニ存ス。コノ新秩序ノ建設ハ日・滿・支三國相携へ、政治經濟文化等各般ニ互リ互助連環ノ關係ヲ樹立スルヲ以テ根幹トシ、東亞ニ於ケル國際正義ノ確立、共同防共ノ達成、新文化ノ創造、經濟結合ノ實現ヲ期スルニ在リ、是レ實ニ東亞ヲ安定シ、世界ノ進運ニ寄與スル所以ナリ」

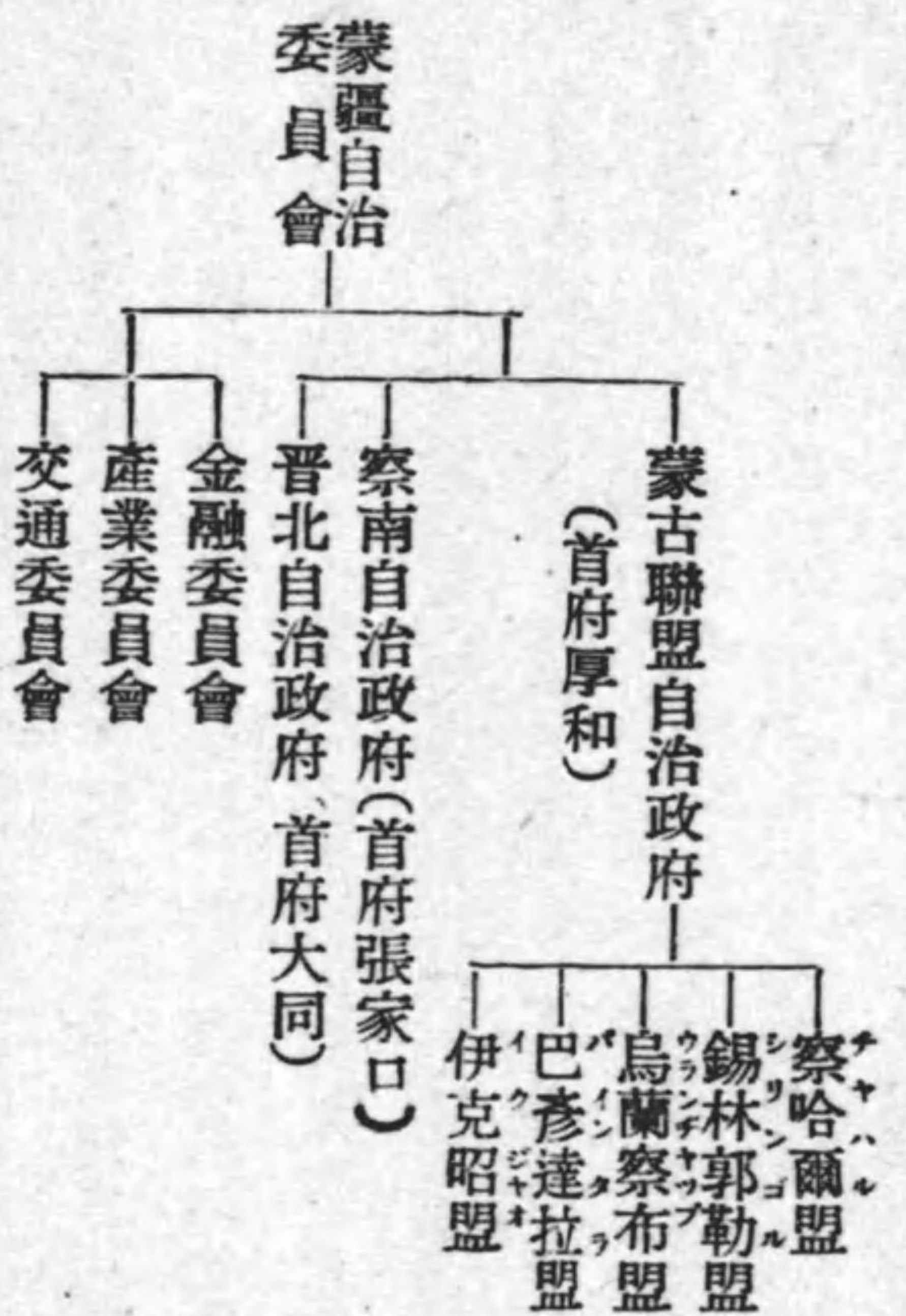
と述べ、十二月二十二日近衛首相談話に於て之れを敷衍し更に、相當期間對支駐兵の要を説けるも亦同趣旨のものである。聯日興邦を標榜する新中國諸政權は全面的に之れを支持してゐる。即ち新民主主義は、以上の三項を指針として進む可く、實踐

項目は常に自己實現を通して興邦へ、興邦を通して興亞へ、興亞を通して眞正國際主義に合致する世界新秩序の建設へ、世界の新秩序を通して大東亞協同體の完成へと。

三三、蒙疆聯合はどうして出來たか

蒙古聯合委員會は長城外の察哈爾・綏遠二省に建國された聯合國で、その面積人口は

察哈爾省 面積 二五・八萬方杆 人口 二〇〇萬人  
綏遠省 面積 三〇・〇萬方杆 人口 一一〇萬人



1. 獨立運動の原因

この二省は内蒙と稱せられる地方で、總人口三百萬に達するも、蒙古人は三十餘萬に過ぎぬ。嘗ての獨立運動はこの少數の蒙古人によつて行はれてゐたものである。漢族對蒙古人關係は頗る古いが、近世に至り、清朝の對蒙政策は巧妙を極めその懐柔に成功してゐた。即ち、

イ、蒙古に旗(ホシヨ)制度を設け、之れに王公を分封して互に牽制せしめ共同動作を抑制した。

ロ、喇嘛教を獎勵して之に耽溺せしめ、勇武進取の氣象を軟化せしめた。

ハ、彼等に文化に接する機会を與へず、游牧に甘んじて經濟力の發展を抑制し、民族的活動を不可能ならしめた。

ニ、年班制により王公を北京に招待し、遊惰に誘引して金錢を浪費せしめた。その結果漢人に土地を賣つた王公もあつた。

ホ、露國の東進に備へ、一八七六年以降漢人の移住を強行獎勵したため潮の如く流入し、彼等の游牧地は漢人の農

地として奪はれた。

かくの如く、蒙古人の發展を阻止し、一方漢族の移住を圖つたので、漢人は蒙古人を驅逐して廣大なる土地を獲得し、漢人部落は一八七二年に張家口北方三四哩に在つたものが、一九二二年には張家口北方百哩以南は殆ど漢人部落で埋められ、その耕地は二百哩北方まで及んだといふ。かゝる事情は少數の游牧蒙古人をして、農耕民漢族の壓迫を脱し、自治又は獨立を要求して立つに至らしめたものである。

而して、一九一一年及び一九二二年の外蒙獨立宣言、一九三二年滿洲國の獨立宣言並に東部内蒙三盟二六旗の滿洲國參加は痛く内蒙人を刺戟し、日滿兩國の援助の下に獨立の決意を固め、交渉の結果一九三四年南京政府と妥協に成功、内蒙自治政府が建設され、徳王がその指導者となつた。

然るに、自治の形式は成つても内容は有名無實であり、察哈爾・綏遠兩省軍閥の壓制が著しく、加ふるに買収、懷柔等の破壊工作が進められ、更に山西方面よりは共產軍の赤化も侵入して來たので、斷乎、徳王は共匪討伐を決し、昭和十一

年秋兩者は衝突して綏遠事件を惹起した。

2. 支那事變が勃發し、皇軍の戦果が漸次擴大するにつれ、察哈爾方面に進んだ我が軍が、昭和十二年八月二十七日張家口に入城するや察南地域一帯の萬全・宣化・懷來等十縣の民衆には蔣政權離脱、自治政府樹立の氣運が生じ、九月四日遂に張家口を中心とする察南自治政府の成立を見た。

口、九月十三日皇軍が大同に入城するや大同・陽高・左雲等十三縣の民衆の總意に基き、十月十五日晋北自治政府が組織された。晋は春秋時代の國名で、山西省一帯をさしてゐた。

ハ、更に皇軍は北西に進み十月十七日には包頭に達した。而して十月二十八日綏遠で行はれた蒙古大會に於て蒙古聯盟自治政府の成立を見、主席に雲王、副主席に徳王を推戴し、年號を成吉思汗紀元七三三年とした。

以上の三自治政府は利害を同する處より、十一月二十二日三政府代表が張家口に相會し、蒙疆自治委員會を組織する

に至つた。

更に一九三九年九月一日を以て徳王を主席とする蒙疆聯合自治政府が成立し、最初の三政府を解體した。

委員會は資本金一二〇〇萬圓で三政府共通の蒙疆銀行を作り、同銀行券を以て舊通貨に替へ經濟の革新を計つてゐる。

3. 蒙疆地方の經濟

イ、牧畜が主であるが、漢人のために北方に驅逐されると共に適地が減少し、氣候も不良となるので家畜は減少の傾向がある。現在は、

羊・山羊 四一五萬 牛 一四〇萬 馬 一三八萬  
駱駝 一六萬 合計 六九八萬

ロ、農耕地は漢人によつて營まれ、主として陰山々脈の南側に分布する。蒙古人は喇嘛を盲信し、「鋤を以て土中の蚯蚓を切ると眞福を得ない」といふ事で、農業者が少い。

此地は雨量に乏しいので黄河沿岸では河水灌漑を行ひ百萬畝の耕地を灌漑してゐる。清朝時代より官營たりし河套水利事業は有名である。河水の便なき察哈爾省では井水灌漑

を行ふ。歸綏平野では地下一五—二〇呎にして地下水を得るといふ。同省に於ける井水灌漑地は一二、〇〇〇畝に達する。

農産には米を第一とし、大麥・小麥・高粱・粟・大豆・玉蜀黍・馬鈴薯等である。

ハ、鑛産資源

察哈爾省 綏遠省  
石炭埋藏高 五〇四百萬噸 四一七百萬噸  
同産高 二〇二千噸 五八千噸  
鐵埋藏高 九一、六四五千噸 一〇、〇〇〇千噸

鐵は龍煙鐵鑛公司(資本五百萬元)に於て採掘され、河北省の石景山で精鍊されてゐるが、それ以外は着手してゐない。石炭は大同附近が有望である。

その他タプスイル及びオルドス地方の鹽湖には鹽・天然曹達を出し、重要資源となつてゐる。

三四、外蒙の自然と産業との關係を考察せよ。

外蒙古はゴビ以北シベリアに接する廣大なる地域で面積一

五五萬方軒、人口七六萬人(一九三〇年)で、その密度は〇・五人で、大部は無人の境といつてよろしい。こゝに蒙古人民共和國が出来てゐる。

1. 外蒙は一大高原をなし、西北部に高く。

ウランバートル	海拔	一、三〇〇米
チブホラントウ(ウリアスタイ)		一、六五〇米
チルガラントウ(ホプト)		一、四〇〇米

平均高さは一、四〇〇米に達し、ゴビ沙漠の如きも平均一、一〇〇米の高原をなしてゐる。東部は興安嶺・陰山山脈によつて限られ、季節風の影響少きため著しき大陸性氣候を呈する。河流は主に北西及び東部の山地に發し、セレンガ・オルボン・オノン・ケレン等が北流し、北西部高原の中にはクスグル湖を初め多くの鹹湖を湛へてゐる。

2. 一般に雨量が少く、著しい乾燥氣候である。ウランバートルの如きは僅に一六〇耗である。南東部は殊に少き故沙漠となり、東西一五〇〇軒、南北一〇〇〇軒に互る廣大なるゴビが連つてゐる。

北西部は雨量が稍多く、高山には積雪を見、森林が繁茂し谷間には草地がつゞいてゐる。氣温は夏冬及び晝夜によつてその較差が甚だしく大であり晝は炎熱灼くが如き酷熱でも、夜は零下五度に降下することがある。

外蒙の氣温

地名	一月	七月	較差	年平均	最高	最低
ウランバートル	(一)二七・八	(一)二七・六	(一)二九・四	(一)二九・四	(一)四三・三	(一)四三・三
チブホラントウ	(一)二四・二	(一)二九・二	(一)四・四	(一)二〇・二	(一)三三・一	(一)四七・三
チルガラントウ	(一)三三・一	(一)二七・〇	(一)九・〇	(一)二九・〇	(一)三六・八	(一)二六・八
ハルビン	(一)三三・三	(一)二四・四	(一)九・七	(一)二九・〇	(一)三九・三	(一)二六・八
滿洲里	(一)二六・四	(一)二四・四	(一)二・〇	(一)二六・〇	(一)三三・八	(一)二六・八

海よりの隔絶性と、北偏性及び高原性は夏季を低溫ならしめ、更に大なる冬季の低下と相俟つて、年較差が著しく大となつてゐる。

殆んど同一の環境にある滿洲里は相似たるも、平原のハルビンとは情態を異にしてゐることが表はれてゐる。

3. 産業 イ、游牧を生業とし、蒙古人は畜産物によつて生活してゐるといふ可きである。即ち、肉類、乳製品を主食とし衣類も毛皮を使用し、住居の包も毛皮を使用してゐる。

羊	一、二七〇萬頭	山羊	二、五五萬頭
牛	一、九七萬	馬	一、〇六萬
駱駝	四三萬	計	二、〇〇萬頭
羊毛	一〇、二〇〇萬	駱駝毛	一、〇〇萬
山羊毛	二、三〇〇萬	馬皮	三、〇〇〇枚
羊皮	一、八〇萬枚	其他の皮	一、五五萬枚

是等畜産品は國內に於ても消費されるが大部は輸出され蒙古の重要輸出品となつてゐる。

ロ、農業は地形氣候の關係上不振である。雨量が少い上に灌漑水も鹽分を有するので耕作には不適であり、河に沿ふ地方に僅かに行はれ、耕地は四・三萬陌、麥・豆類が僅に栽培さるゝに過ぎない。多くは漢族が之れに當り、農業者も五六千人位である。

ハ、林業は北西部山地の自然林に見ることが出来るが、大

した事はない。注目すべきはタルバカン、リス、テン、狼、山猫、アナグマ等の毛皮獸が多く、毛皮が外蒙の重要輸出品となつてゐることである。

ニ、鑛産は砂金の産地として昔より知られ、曾ては採取してゐたこともあるが、現在は著しいものが見られない。一般に産業は氣候の制約を受け、游牧以外は見ざるべきものもなく、従つて素材に乏しいこの國では工業の發達も萌芽期といふ可きである。

三三、外蒙人民共和國の住民政治につき述べよ。

外蒙の人口は七六萬人を數へられてゐるが、近年漸次増加の傾向を示しつゝあるは注目すべきことである。

一九一八年	五四萬人
一九二八年	七一萬人
一九三〇年	七六萬人

1. 種族 イ、外蒙住民の大部を占むるはハルハ族で六十萬を數へる。「ハルハ」は楯、防衛等の意味を有する土語で、成吉思汗直系の子孫が蒙古を守るといふ事から生じたもの

である。

- ロ、ドウルベツト人 六萬人 西部蒙古
- ハ、ブリヤート人 三萬人 北部に住む
- ニ、ザハキン人 五千人 アルタイ山地に住む
- ホ、その他の蒙古族 七千人程
- ヘ、移住漢族 十六萬人
- ト、ソ聯・英・獨人等 合計七、八千人

蒙古族はウラルアルタイ・ツラン系の人種で日本人・滿洲族等と兄弟の關係に在る。言語は膠着語を用ひ、性質は温順寡慾、信義に厚く、情緒に富んでゐるが、勇猛で謀略に長じてゐる。

喇嘛教を狂熱的に信仰し、僧侶は住民の一三%を占め、勤勞階級(八五%)、王族・士族(二%)の上に位してゐる。

僧侶は曾ては二二%に達してゐたが、近時その弊害を自覺し、政府亦十八歳以下の僧侶を禁じたので、漸減したものである。

2. 蒙古族は昔は犬戎・匈奴と呼ばれ、漢族と民族的争闘が

3. 蒙古人民共和国はソ聯の援助により成立したものの故、その政治經濟組織は何れも同國を模倣してゐる。

大フラルダン—政治上の最高權力で、自己の勞働によつて生活する十八歳以上の男女及び兵士より選出した議會で一年一回召集

小フラルダン—大フラルダン閉會中最高權力を行使するもの、中央執行委員に當り、年二回以上召集される。これが政府委員と、十五人の幹部とを選任する。

地方には地方フラルダンが設けられ地方自治委員を選任する。

地方は、一九三一年以來十三アイマーク(部)に分れ、アイマークは更にホシヨ(族)に分たれる。部は土語でアイマークと稱せられる。自衛の必要より生じたる游牧の集團で、酋長を指導者とする。旗は清朝時代に部を分割して作りたるもので、無制限に游牧する民族の移動に、制限を加へたるもの、これによつて土人は、旗界を越えて移動することを許されず一定區域内に封じ込まれることになつた。

絶えず行はれてゐた。元は漢族を征服し、歐亞に互る世界的國家を建設したが、明のため長城外に驅逐され、更に清の時代に於ては、露領と清領の中間に位して緩衝的任務を負はせられ、清はこの地に漢人を移住せしめて露國の東漸に備へようとした。蒙古と支那とは古來從屬關係ではなく、常に對立してゐたと見る可きである。

生活程度の低い游牧民中に高い漢人の侵入した結果、放牧地は農地と變じ、蒙古族の父祖傳來の土地は漢人の占居する處となり、彼等は常に漢人の制壓を感じて居た。

蒙古族の民族觀念を援助し、漢人より解放せしめんとしてロシアの魔手が伸び、一九一一年外蒙の獨立を宣言せしむるに至つた。ロシアは之れを承認し、條約を結んで自國の支配下に置かうとしたのであるが、一九一七年のロシア革命となつたので、支那は外蒙の自治を取消した。

その後外蒙は一時白系露人ウンゲルン將軍の勢力に支配されたが、暴政を行つたのでソ聯の援助により白系露軍を掃蕩し、一九二四年六月蒙古人民共和国を建てた。

三四、新疆省の重要性につき考察せよ。

新疆省はその位置が西偏し、支那の中心部より遠く隔離してゐること及び交通不便にして各方面との聯絡に乏しく且つ資源貧弱にして列國の注意を喚起すること少き等のため、在來あまり問題にされず、關係ある國々に於ても重要視されて居なかつた。果して新疆省はかく等閑視さるべき性質のものなりや、政治・經濟兩方面より検討して見よう。

1. 新疆省は地理的位置に於て、支那の西端を占め、嘗ては西域と稱せられ、中アジアと支那との通路に當つてゐた。従つて、漢民族がこの地を通過して、西方より黃河流域に移動したものと考へられ、印度の佛教・ローマの景教・トルコの回教等主なる宗教及び之れに伴ふ文化は此の地を通じて支那に傳はつたものである。支那にとつては、古來重要な文化の輸入口であつた。

2. 新疆省がソ聯中央アジア・英領印度に隣接してゐる點は、ソ聯の赤化東漸に備ふる第一防共陣として重要性を有する。「新疆を重んずるのは蒙古を保全する所以であり、蒙古を保



全するは京師を衛る所以である」と回教徒の亂を平定した左宗棠が云つてゐる。外蒙は既に赤化したり、新疆省亦ソ聯の勢力下に置かれて第二の外蒙たらんとしてゐる。内蒙の蒙疆聯合自治政府が、日・滿兩國と歩調を合し、防共陣に加はつてゐる今日、この内蒙に肉迫せる外蒙・新疆が赤化することは、直ちに我れを脅威することとなる。西偏せる新疆省の赤化と否とは、東亞新秩序建設の上に大なる影響を及ぼしてゐる。

3. ソ聯の新疆赤化工作

イ、一八七二年に伊犁に回教徒が叛せしとき帝政ロシアは之れに出兵し、一〇ヶ年間占領してゐた。一八八一年兩國間に協定成立し、ロシアは伊犁を清國に還附したが、この時の通商條約で、新疆省に大なる通商上の特權を獲得し、進んで天山南路の英國の勢力を驅逐せんとした。之れに對抗して、英國は一八八九年・一八九八年の二回までカシミールより新疆に通ずるラスカム河上流を占領せんとしたが、ロシアの壓迫によつて果さなかつた。

ホ、邊防督辦盛世才はソ聯の援助により、その後も度々回教徒を征し、實權を握つたが、同時にソ聯の勢力は益々強化され、省政府は飛行機・兵器・自動車をもソ聯より購入する目的で二十萬元の借款をなし、政府の要職にソ聯人の顧問を招聘し、經濟方面にも多くのソ聯技師を入れた。

一九三七年五月馬仲英一味の策動あり、十月にはソ聯飛行機一五臺が來襲し、カシガル、ヤルカンド、ホータン各市を占領し、ヤンギツサル市は爆撃で完全に破壊され、良民の被害されたものも多數であつた。かくてソ聯の進出は經濟的より武力的に變つて來た。

4. 新疆の民族構成

住民は略四〇〇萬人、十四の民族を有するといふ。人口密度は一方軒平均一人である。

ウイグル人(回紇)	二四〇萬人	六〇%
支那人	四〇	二%
蒙古族	三〇	八%
カザック人	三〇	七%

ロ、ロシアの伊犁占領後の南進に對して、英國は新疆の回教徒を援けて、ヤクブ・ベク政府を建てたが、ロシアは支那の討伐軍左宗棠を援けて之れを滅ぼし、英勢力の驅逐に成功した。

ハ、大戦後ソ聯は植民地の民族運動を煽動し、資本主義の崩壊を圖らんとして積極的行動を開始し、一九二〇年バクーにアジア民族大會を開き、印度に呼び掛けた。その前哨戰として新疆省の赤化を計畫したが、これは二重の目的を有する即ち、

(一)新疆の赤化により支那との連絡を圖り

(二)印度を脅かして背後より英國を衝く

ニ、一九二四年ソ聯は新疆省政府と通商暫定協定を締結し有利な地位を獲得。次で一九三一年回教徒叛亂に際して之れが鎮壓に助力して恒久的通商條約に成功した。之れにより甚だ廣範圍の自由通商權を得、不拔の地位を獲得するに至つた。一九三二年回教徒獨立運動が再び鋒起したが、ソ聯の飛行隊により爆撃され、指揮者馬仲英は南方に退却した。

トンガン人	二四	六〇%
滿洲人	八	二〇%
キルギス人	六	一六%
ロシア人	三萬	タヂック人 二萬
	ウズベク人 一・五萬	

ウイグル・カザック、キルギス、トンガン、タヂック、ウズベク人等は回教を信じ、中アジアのタヂック共和國、ウズベク共和國、トルコメン共和國の住民と同族である。ソ聯は自國の回教民族を通じて新疆の回教徒に働きかけ、回教徒を通じて赤化せんとしてゐるが、回教徒は英國を背景として赤化を防止するため、早くより此の地に關心を有しながら、外蒙の如く順調に赤化工作が進捗しなかつたものである。

三五、ツワ人民共和国といふのは何か。

1. 外蒙人民共和国とシベリアとの中間に挾つたところ、クンヌウリヤンハイ(唐努烏梁海)と呼ばれる地方がある。こゝに住む種族を烏梁海人と呼んでゐるが、種族自身はツワ及びツワ人といつてゐる。

2. この地方は帝政ロシア時代より露支間の係争地域であつ

たが、歐洲大戰中支那は軍隊を派遣してロシア軍を追ひ、一九一八年支那の主權を確立した。

ソ聯が成立して外蒙が支那より獨立するや、之れに刺戟されてツワ人民革命黨を結成し、遂に一九二一年八月獨立を宣言し、國名をタンヌ・ツワ共和國と稱した。翌年十二月全國代表大會(大フランダン)に於て憲法を制定し、人民政府を組織した。

3. ソ聯は一九二一年その獨立を承認し、一九二五年修交條約を締結し、財政的援助をなし、國立商工銀行を創立せしめた。一九二六年には外蒙人民共和國と條約を結んでゐる。一九二六年の大フランダンに於て國名をツワ人民共和國と改め一九二八年にはラマ教を國教とし、反共的傾向の鎮撫を行つた。

4. 面積一七萬方籽イニセイ河の上流の高原地方を占め、最低五〇〇米である。ツワ民族は遊牧を主業とし家畜数は七〇萬頭に達し、羊(四五・四%)、山羊(二三・六%)が多い。農業は振はず、ソ聯移民によつて僅かに行はれてゐる。イニ

として發達して來たものである。人口一〇〇萬南支第一の大都會であるが、支那事變中は各地の避難民が集合して一五〇萬に及んだ事がある。

水運の便よく發達して南船の語に違はず、水上に小舟を操つて生活する蛋民は一五萬の多きに達し熱帯氣候らしき地方色を有してゐる。

2. 廣東は近世革命の源泉地である。歐洲の民主思想が早くより傳はり、歐米に遊學して民主國の教育を受けた新しがりやの青年が多く、四千年來の封建的・保守的な支那に革命の希望をもつに至るものであらう。孫文・康有爲・汪兆銘を初め蔣介石も此の地方の出である。廣東市の入口には革命を稱へるかの如く革命烈士七十二人の墓が建て、ある。廣東は華僑の産地に知られる、是等華僑財閥は、資本家の物質的利益に都合よき國家の出現を望んで青年革命家に物質的、精神的の援助を與へることも一原因であらう。

3. 附近は海賊の巢窟として知られる。廣東三角洲及び香港汕頭間の海岸に多い。各國の小船のみならず、支那船も襲は

ニセイ河の人工灌溉によつて小麦・燕麥が作られる。

政府はソ聯の形式により、國營の農場・牧場・工場等を作り、その振興を計つてゐる。貿易も國營で、毛皮を出し、工業品を輸出し、ソ聯との取引が八〇%隣國の外蒙との取引が二〇%である。

5. 住民は蒙古人のツワ族を主とし、全部で七萬人である。

ツワ人 五八〇〇〇人  
ソ聯移民 一二〇〇〇人

外に少數の漢族・朝鮮人

首府キチルは、ハ・ケム河、ベイ・ケム河の合流點に位し人口三千の都市である。駱駝によつて、シベリア、外蒙に交通が行はれる。

三六、廣東市について考察せよ。

1. 廣東は珠江の河口に在る三角洲上に發達し、南支の關門であり、又南支の中心都市である。阿片戦争の後一八四二年の南京條約により開港されたものであるが、遠く一五一七年葡人が渡來してより蘭・英等と取引が行はれ、支那最古の港

れる。政府は之れが掃蕩に盡力してゐるが、實績が擧つてゐない。皇軍上陸のバイアス灣を初め南支一帯の海岸がリアス式となつて彼等の出沒に好都合なためと、沿岸民族の慄怖なる氣質によるものであらう。

4. 廣東の生命は南支の關門として貿易港たることである。珠江の對岸沙面には一八六一年に英佛二國が埋立地を作り、其處に租界を設置し、貿易上の根據地としてゐる。この租界は他と異り、支那人の居住を禁じてゐる。

廣東の貿易 (一九三七年)

輸入 四五、一六六千元(四・七%) 綿布・米・小麦粉・水産・毛織  
石油  
輸出 六三、四八六千元(七・六%) 生絲・花筵・爆竹・扇子・煙草・  
タンクステン

5. 廣東は粵漢鐵道により漢口に通じ、又廣九鐵道によつて九龍香港に通じてゐる。粵漢鐵道は一、一三二籽、一九一一年英・米・獨・佛より六百萬磅を借款し、同年に武昌・株州間一九一五年に廣東・龍州間を造つたが、資本の不足を生じ、一九三三年再び借款を得て一九三六年九月一日に完成した。

廣九鐵道は、一九一一年に英國よりの借款で完成したもので、支那領は一四三軒、英租借地内の三五軒は英國のものである。この二線は相連りて南支中支を結ぶ唯一の交通路をなし、政治・經濟上重要な役目を果してゐた。支那事變に當り皇軍が屢々爆撃し、廣東を占領して連絡を絶ち、國民政府に大なる打撃を與へたことは人々のよく知るところである。

〔讀圖〕

一、支那の大平野

イ、支那の平野は北緯三〇度揚子江の河口附近より北緯四〇度山海關に亘つて展開され、黄河・淮河・揚子江の三角洲が混合して生成したものである。嘗ては山東地塊を島として其の周圍に淺海を繞らしてあつたものが、大部分は黄河によつて



埋められ渤海と黄海とを分離し、山東を陸繋島となすに至つたのである。

ロ、黄河の三角洲は黄土を流して海底を埋めた河成黄土で砂を混じてゐる。黄土層の高原は山西より陝西にかけて面積二〇〇萬方哩、一〇〇米内外の高さに連りその厚さも二、三百米に及ぶ。黄河は峡谷をなして黄土高原を刻み、その土砂を堆積して扇状地を作り黄海渤海等を埋めたものである。大行山脈を横切り、その當時海に出た所は河南・開封の地で、こ



より南流し、舊河道を辿つて南東流し、淮河に合して黄海に注いでゐる。

ハ、湖廣平野の周縁には赤色砂岩の古い岩石が露出し、所謂赤壁をなしてゐるが、中央は昔の雲夢澤の湖底盆地である。而して、揚子江河口の吳平野(江蘇・浙江)も揚子江堆積による沖積平野である。

ニ、是等支那の大平野は沿岸の季節風帯に屬し、支那に於ける生産地帯となり、中支の米・茶、北支の麥・棉・高粱・大豆等主要農産の産地となつてゐる。

二、山東半島の産業



山東半島は、滿洲の東部山地をなす本幹山脈に連續する古い地塊山地である。海岸は陥没によつて遼東半島より分離したのでリアス式となつて居り、屈曲に富み、芝罘、威海衛、膠州灣等の良港が多い。沿岸の雨量は年五六〇ミリ内外でよく乾燥するので、半島の周圍は支那第一の製鹽地となり、年産二四〇萬石―七〇

〇萬石に及び、青島鹽は古來有名である。

1. 鑛産資源 石炭・鐵以外に見るべきものなし

石炭埋藏	無煙炭二、六〇萬噸	有煙炭一六、三〇萬噸	
淄川	天、〇〇〇百萬噸	昌縣	二〇、〇〇〇
博山	一七、〇〇〇	大汶口	四、〇〇〇
坊子	一、〇〇〇	新泰	三〇、〇〇〇

南定	五,000	額莊	二,000
章邱	五,000	沂州	四,000
產出高 (一九三五年)			
魯大公司		六,七千噸	
淄博煤田		一,五〇〇	
中興煤礦		一,三〇〇	
章邱煤田		一〇〇	
章陽磁室		六〇	
其他共合計		三,八〇千噸	
鐵埋藏		一四,三〇〇千噸	

探掘しつゝあるは金嶺鎮一ヶ所にて年産一五萬噸である。

### 2. 農産

耕地面積 一一〇、六六二千畝 (四四・一%)  
 水田 一、三九五 一・八%  
 畑地 一〇八、二六七 九七・二%

畑地の多きこと各省中第一である。農家戸数は八八・九%に當り、一戸當り耕地は一九畝 地味肥沃なるを以て、農産は豊かである。大豆は全國の 1/4、落花生は全國の 1/2

を出して、ドミナンテンをなし、棉花は純白なるを特徴とする。棉花の産地は黃河流域の魯北地區と、津浦線以西の魯西地區並にその南方の魯南地區で、魯西・魯南は各一〇〇萬擔を出して主要生産地域である。従つて青島は日本資本による紡績業で榮えてゐる。

この外、米・小麥・大麥・高粱・粟・玉蜀黍の穀類が多い。東部に山繭絹絲が作られ、中央丘陵には養蠶が行はれ、支那第四の養蠶地となり、生絲生産は七千擔に達する。

3. 林産は振はず、森林面積は僅かに七%、各省中最小である。雨量の少きと、人民の濫伐に任せたる結果であらう。

### 三、天津

1. 天津は北京の南東一三八軒、白河の河口より四〇哩に位し、白河・大運河・西河の會合點に當つて北支の關門をなしてゐる。天津の地理的位置は北京張家口を通する内蒙・外蒙の重要通路の起點なるのみならず、京山線・津浦線の分岐點として、北支の支配的位置を占める事に重要性を有する。人口一三九萬、支那第二の大都會である。

口、天津は一八六一年英佛と戦争の後開港したもので、同時に英・佛兩國の專管租界が白河々畔に設けられ、その後一八九九年に獨逸、一九〇〇年北清事變後に日・墾・伊・露・白等の專管租界が出來、日本租界は城裡に近く商業上有利なる位置を占めてゐる。



歐洲大戰中獨・墾は回收され、後、露・白等は支那に返還し、特別區として、別箇の行政が行はれてゐる。目下残存してゐるものは、英・佛・

日・伊の四ヶ國のみである。租界は治外法權を有し、その行政・警察は各國が夫々委員會を設けて行つてゐる。

ハ、港内は深さ四米、二千噸級の汽船が潮行してゐるが、黃土によつて河底が埋没し、且つ十二月より二月下旬まで凍結するので碎氷船を使用しなければならぬ不便がある。

我が近海郵船、大阪商船、大連汽船、日清汽船等が日本、滿洲、天津間を往復し、その貿易高も上海に次ぎ第二位 (一・五%) を占め、華北第一である。

一九三七年	輸入 八,〇六二千元 (八・八%)	棉・羊毛・皮革・落花生
貿易	輸出 二,八三三千元 (二・五%)	綿布・小麥・小麥粉・米
	出超 四,八二二千元	

支那の各港が入超を續けてゐるのに、獨り北支各港が出超を表はしてゐるのは、北支貿易の特異性といふ可きであらう。これ後背地をなす北支・内蒙各地の産業勃興によるもので、輸出品の生産地は河北省(四〇%) 蒙古・甘肅・新疆(三〇%) 山西(一〇%) 滿洲(一〇%) であり

輸入品の消費地は河北(四〇%) 山西・陝西(二〇%) 熱河・察哈爾・甘肅・新疆(一七%) 滿洲(八%) 山東・河南(五%) である。天津は北支第一の工業地である。従來紡績・製粉・燐寸・製油・骨粉等の工場があつたが、近年日支提携、北支經濟開發の機運が進み我が紡績、電力等の近代工業が盛大となつた。



一九三七年の上海貿易

輸入	五〇、八二千元 (三・四%)	綿製品・棉花・米・小麦・石油
輸出	四四、六七千元 (四・三%)	生絲・棉花・茶・皮革・桐油・雞卵
合計	九五、四八千元 (三%)	
入超	一〇六、二九千元	

面積一七七萬方杆人口二億の揚子江流域を後背地となし、世界有数の貿易港として發展した。その貿易高は九億一千五百萬元、支那貿易の過半を占め、一億元の入超である。

租界は諸外國の商業根據地として商工業振興の策源地となり上海の取引を増大せしめたが、多數の不逞分子も入り込んで各種國際問題發生の温床ともなつてゐる。

5. 工業區 支那第一の貿易港であり、又大生産地たる中支の支關をなしてゐるため物質の集散は自由に行はれ、各國の投資地となつて工業が發展した。共同租界より對岸の浦東にかけて、紡績・製糖・製粉・皮革・煙草・造船等の工場が連つてゐる。

就中綿工業は最も盛大で、支那生産の五五%を占め、日本

人工場が支那を壓倒してゐる。

6. 南市 上海市の南部、佛租界に隣接する支那街である。二〇年前まで周圍五杆の城壁と、之れを繞る濠とを有してゐたが、その後濠は埋められ城壁も除かれた。租界の發展と共に發展し、支那人の經濟機關が多く浙江財閥活動の源泉地である。在住支那人は七一萬に及ぶ。

六、南京

南京は揚子江に沿ひ、古生層の小丘陵が散在する自然の要害を利用して作られた古い都市である。楚の金陵邑、秦の秣陵、吳の建晉及び南朝の建康と稱せられ、吳以後の都として榮えた。明の太祖は都して應天府と稱したが、成祖が燕京に都を遷すに及んで、燕京を北京、この地を南京と呼んだ。



城廓は明の太祖の時代に成つたもので、周圍四四杆、高さは一〇米—一五米、厚さは下部二〇—三〇米、十ヶ所に城門が設けられてゐる。

3. 昭和四年以來國民政府の首府となり、支那の政治上の中心地として發展し、政治・軍事上の種々の機關が設けられた。新支那に於ては、維新政府の首府として依然中支政治の中樞をなし、我が中支經營の策源地となつてゐる。

古い都なるため城の内外には舊蹟が多く、城内の明の故宮城外の孝陵、及び孫文の山中陵は特に著れてゐる。

3. 揚子江沿岸の下關は汽船・汽車の發着場で、對岸の浦口と聯絡し、一八九九年に開港された港で、南京の一部をなしてゐる。

第三章 南東アジア

〔目的〕

南東アジアは日本の南方に位し、滿洲・支那・シベリア等に

次ぎ、我が國の隣接地として密接なる關係を有してゐる。従つてこの地方が、我が國と如何なる關係を有し、又如何なる重要性を有してゐるかを知らしむるを以て目的とすべきである

〔考察問題〕

南東アジアの位置と、位置より生ずる經濟價值につき考察せよ。

1. 南東アジアは、インド支那半島、マレー諸島を含み、アジア大陸とオーストラリア大陸との中間に位し、兩大陸を連絡する陸橋的役目を有して居り、アジア人種、マレー人種等の混合地區をなしてゐる。未開人が多く、各國商品の需要地となつてゐるが、將來文化の進展すると共に、その傾向は益々著しくなつて來るであらう。

2. 赤道の南北に跨り、大部分が熱帶地方に含まれてゐる。アフリカ大陸の如き大陸と異り、大小無數の島嶼より成る此の地方は、高温にして多雨、到る處熱帶植物が繁茂し、實に世界有数の熱帶生産地となつてゐる。世界の文明國間に利用されてゐるゴム・砂糖・米・椰子・煙草・珈琲・規那・木材



政治的組織

ゴム・鐵・錫の生産と、邦人の活動  
海峡植民地と根據地的價値

【考察問題】

一、フランスはどうしてこの地に植民地を有するに至つたか  
1 佛國は一八世紀初めに印度の領土獲得競争に於て英國に敗れ、他に有力なる植民地を獲得せんとしつゝあつたが、豊富な資源を有し、對支貿易上、より有利なる位置に在る印度支那半島に着眼し、この地に侵略の歩を進むるに至つたものである。

2 當時安南は越南國と稱し、清國の封冊を受け、その外藩となつてゐたが、之れに宣教師を送り、着々基礎を固め、偶々同國に背信的行爲があつた事と、宣教師の虐殺されたのを理由に、ナポレオン三世は遠征の軍を派し、サイゴンを陥れ、一八六二年和を講じて南部の交趾支那を割讓せしめ償金を拂はしめた。次で、隣接するカンボディアも、その翌年に國內不統一なるため自ら請うて佛國の保護國となつた。

た。

3、その後安南人は佛人を惡むこと甚しく、再び宣教師を殺したので又佛國と戦ひ、遂に敗れてその保護領となつた。

清國は之れにつき佛國に抗議を申込み、兩國開戦を見るに至つたが清國は破れ、一八八五年天津條約により、清國は佛軍のトンキン占領を承認した。

佛國は更に一八九三年ラオスを保護國となし、シヤムを脅かしてメコン河以東の地を獲得した。

かくて佛領印度支那は、交趾支那領土と、トンキン・安南・ラオス・カンボディアの四保護領とより成立し、面積七四萬方軒、人口二千百萬人に及びトンキンのハノイに總督を置いて統治せられることとなつた。

二、印度支那半島の氣候とその影響につき述べよ。

1 マレー半島を除く印度支那半島全部は熱帯季節風帯に屬し明瞭に雨季と乾季とに分れる。夏は南西風が卓越し一般に高温濕潤であり、殊に半島の南西海岸に雨が多い。冬は北東風が卓越し一般に温暖で乾燥するが、安南の海岸は季節

風の風上で比較的雨がが多い。

トンキン地方は一年を通じて雨量が少く、年雨量一〇〇〇耗以下で氣温も割合に低く、半島中最も凌ぎ易い地方である。南部の交趾支那は年平均二七度、最高三五度の常夏の國である。タイ國も一年を通じ酷熱の時期が多く三月―六月は最も暑い。七月より雨季に入り涼しく、十二月一月は我が國の秋を思はしめる。

2 熱帯地方の雨は我が梅雨とは異なり、三十分乃至二時間に亘る痛快なる驟雨で、一日に一、二回、時には數回來襲することがある。地上の萬物が悉く苦熱に喘ぐ時豪雨沛然として襲來し、時に電光、雷鳴を伴ふことすらある。暫時にして忽ち霽れ、再び強烈なる日光が雨に濡れたる青葉や地面を照らすとき、苦熱は忘れられて、涼味爽快なるものを感じる。

3 湿度が高く、酷暑なることは、衛生思想に乏しき住民に種々の流行病を蔓延せしめる。コレラ、ペスト、天然痘、癩病・トラホーム等で、殊にコレラは猖獗を極め數萬の患者

を出し死亡率は七割に達するといふ。

4. この熱帯氣候は林産、農産を豊富ならしめる。

チークは北緯一七度以北の森林地に分布し世界的産地となつてゐる。メコン河・メナム河・イラワヂ河等の流域は、世界的米産地となつて居り。タイの如きは生産の1/3を輸出し、輸出米は全輸出の八割を占める程農産は米に偏してゐる。この地方の米輸出港は、ラングーン、バクナム、サイゴン等である。

世界の米輸出高(昭和六一〇年平均、單位千石)

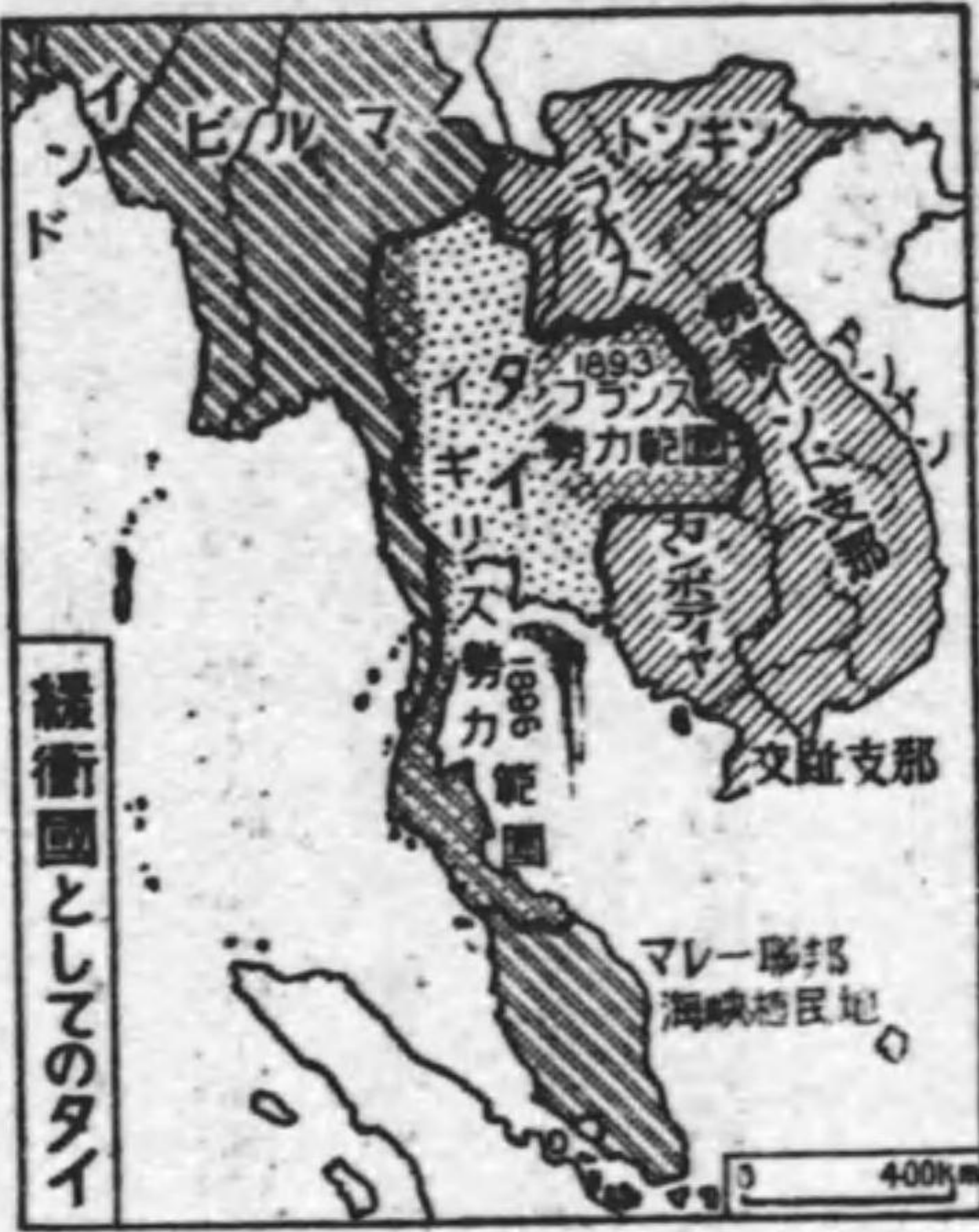
英領印度	一一、九五四
タイ國	一〇、六二〇
印度支那	五、〇五一
英領馬來	一、二二八

米以外の農産にはゴム・珈琲・茶・甘蔗・椰子・煙草等を栽培し土人は粗放農業によつて棉花、玉蜀黍、落花生、胡椒、ジュート麻を栽培し、その生産は有望である。

三、クイ(シヤム)國に於ける列國の活動状態につき考察せよ。



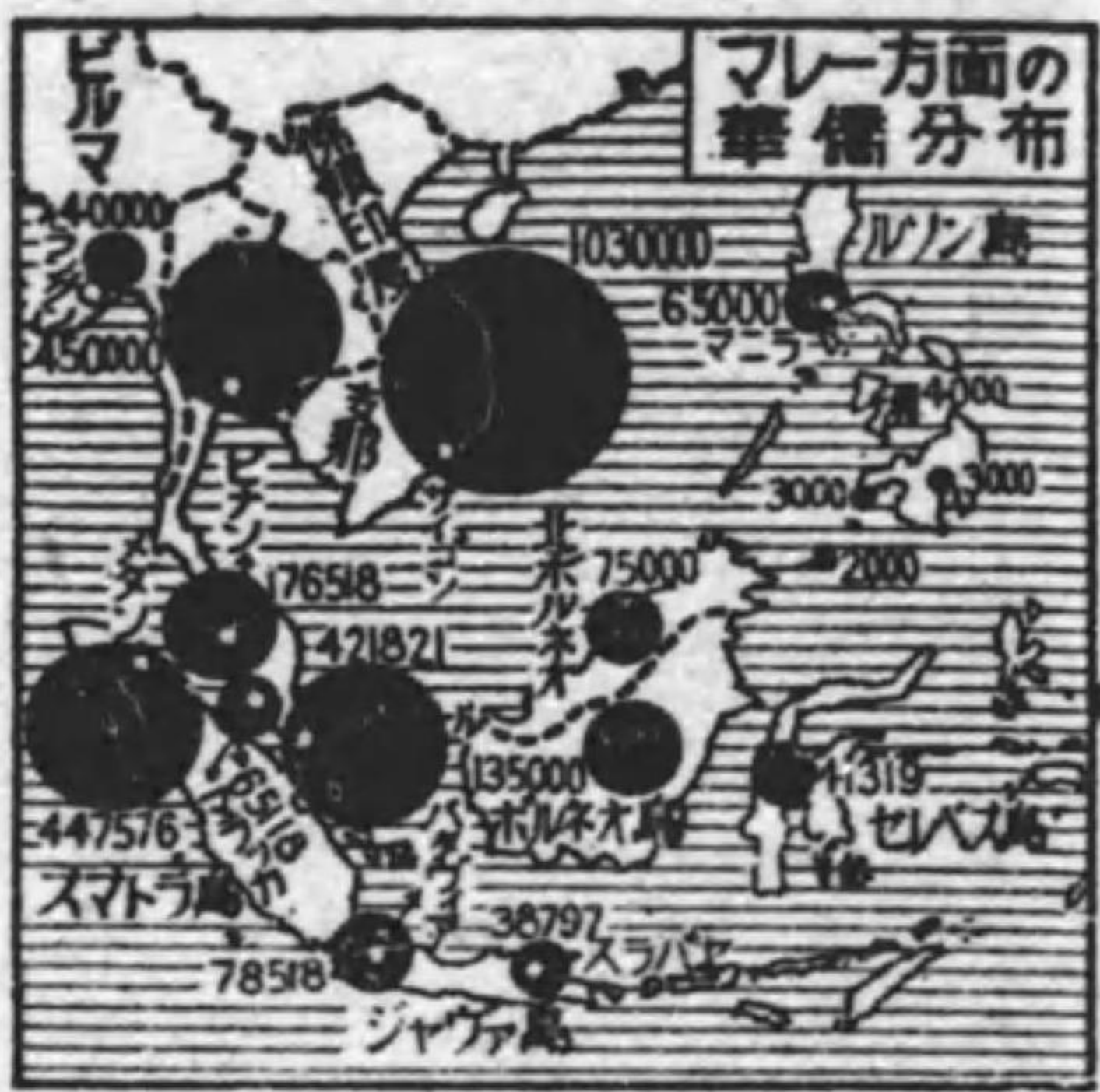
五一萬方杆の面積と、一二七〇萬の人口を有するタイは南東アジアに於ける唯一の獨立國であるが、その國土は、英佛兩國領土に挟まれ緩衝國的任務を果して來た。國民の三分の二はタイ民族より成るを以て、一九三九年六月二四日の革命記念日を以て國名シャム(屬國の意)を改めてタイと稱するに至つた。



緩衝國としてのタイ

1. 英國は一九〇九年當時シャム國の治外法權撤廢を承認したが、その代償として馬來非聯邦四州に對する宗主權をシャムより譲り受け、之れを保護領とした上、シャムの内政改革に當つては多數英人顧問を入れ、政治經濟上極めて有利なる地位を獲得した。コラット鐵道・半島縱貫鐵道及び灌漑事業・電氣・水道等の起債に應じ、その出資高は八百萬磅(全體の九割)に及び、その他チーク材の伐採權、錫鑛の採掘權を有し、銀行・會社・學校・病院等、文化方面への進出も

著しく見る可きものがある。  
出入商船の  $\frac{1}{3}$  は英國汽船であり、タイ貿易の三七%(輸入四二%、輸出二九・八%)は香港・シンガポールを通じて行はれてゐる。即ち、英國は、タイ國に對し、政治・經濟上の不拔の勢力を扶植してゐる。  
2. 佛國 佛國は佛領印度支那の獲得期に於てタイ國に對しては頗る恐怖の念を以て迎へられてゐたが、大戰後は英國と共に文化的發展を期し、經濟上に、學校・病院・寺院・傳道等文化の上に進出することゝなつた。殊に惡疫流行のタイ國に醫科大學を建設し、保健衛生に關する知識の普及には貢獻する事が甚だ大である。  
3. 支那 華僑が多くその數は二五〇萬と見られてゐる。これは華僑全體の  $\frac{1}{3}$ 、タイ國人口の  $\frac{1}{4}$  に達する數であるタイに於ける華僑は、中産階級たる商人階級を獨占し、商業の九〇%まで彼等の手中に收められてゐる。貿易・米穀商・仲買商・倉庫業・雜貨商・小賣商等すべての方面に及び、精米業も八〇%—九〇%まで彼等によつて行はれる。



國家的背景のない華僑は、何等政治的工作を行つてゐないが、高級官吏の六七割は華僑の後裔であるといふ。タイはこれまで華僑の天國であつたが、華僑が近年本國の民族運動に参加し、國家觀念が強化されるに及んで、入國に制限を加へられるに至つた。

即ち入國税は初め二〇バート(二磅は一バート)であつたものを一九三三年に一〇〇バートとなし、二十歳未満の者の入國を禁じ、又華僑學校の校長をタイ人となし、タイ語の教授を強制的に行はしめてゐる。

4. 日本 日本人の在住者は五百人餘、主としてバンコックに在つて商業に従事してゐる。貿易關係より見れば、我が國より綿製品・人絹・紙等五千萬圓を輸入し、米・木材等一千三百萬圓を我れに出し、片貿易となつてゐる。貿易高に就ては英國に比すべくもなす。

近年英・佛の壓迫に對抗して親日的傾向が著しくなつて來たことは注目し得る。

四、英領馬來半島の政治組織につきてのべよ。

北緯六度五五分以南の馬來半島はすべて英國の支配下に置かれ、附近の島嶼と共に英領馬來と稱せられる。一八一九年、英國がスタンフォード・ラッフルスの献策により、ジョホール王と條約を締結し、シンガポールを獲得したのを始めとし、機會ある毎に附近土人王國と協約して現在の植民地を形成したものである。

この地は馬來半島の最南端で、面積一四萬方杆

馬來人	二〇〇萬	四四%
支那人	一五〇萬	三三%
印度人	五〇萬	一一%
歐洲人	二萬	
日本人	〇・九萬	

政治の組織より見れば、

1. 海峽植民地—英國の直轄植民地で、シンガポールに總督が

駐在する。

シンガポール及びその附属島  
ピナン及び對岸ウエルスリー  
ハンコール島と對岸チンデングス  
マラッカ島及び附属地、ラブアン島

2. 馬來聯邦州—英國の保護領で、一八九六年聯邦條約の結果聯邦を組織したものである。各州には英人理事官が駐在し、領主サルタンは州内行政につきて合議し、その指揮を受ける。聯邦政府はクアランブールに在るが海峽植民地總督が統監として之れが監督にあたる。

ペラク、セランゴル、パハン、ネグリセンピランの四州  
3. 馬來非聯邦州—獨立せる酋長國であつて、英國の理事官が行政に參與する。外交權は總督に在る。

ジョホール、ケランタン、トレンガヌ、ゲタ、パリスの五州

ジョホールは一八八五年の條約で外交を英國に委ね、他の四國は一九一〇年タイより割讓を受けた地方である。

五、英領馬來の主要産業を説明せよ

高温にして雨量の大なる熱帯氣候は各種熱帯植物の栽培に適し、世界第一の生産を有するゴムを始め、コ、椰子、パイナップル、油椰子、タピオカ等の産地として著はれ、南洋地方中ジャバと並び稱せられてゐる。この地が歐洲人の投資地となつたばかりでなく、華僑・印度人等の低廉豐富なる勞力が得られ、歐亞主要航路に直面し、貿易上優れた地理的位置に在ることが、今日の隆盛を招いた原因であらう。

(一) ゴム 半島の西南海岸は夏季南西季節風の風上で、雨量が多く、河川が發達してその流域の沖積地が肥沃なるため、早くより開拓が進められ、目下半島の主要ゴム生産地となつてゐる。

世界ゴム輸出高 (一九三六年)

英領馬來	三五九千瓩	四一%
蘭領印度	三一五	三六%
セイロン島	五〇	六%
佛領印度支那	四一	五%

タイ	三五	四%
英領ボルネオ	三〇	三・五%
世界合計	八六九千瓩	



ゴムは原産地はアマゾン流域のセルヴァス森林で、後英國のキュー植物園に移植され一八七七年同植物園より苗木を輸入しハラ州に移植されたのがこの地方ゴム栽培の濫觴である。商品として世界的に認められ、大規模に栽培せられたのは一九〇五年で、現今までの歴史は三〇餘年である。海岸の低地より、斜面の四〇〇米の高地まで植付けられ、南洋各地に廣く栽培せられ、世界のゴムを獨占せる有様である。

南洋地方のゴム投資

總投資額三二億圓

英	一五億圓	四七%	オランダ	五億圓	一六%
米	一億圓		日本	〇・八五億圓	
佛	〇・八億圓		ベルギー	〇・三億圓	



栽培ゴムは英・蘭が六三%を占めてゐる。これはその適地が自國植民地であるといふのが主要原因であるが、それに同胞が介入して活躍してゐるのは喜ばしい限りである。

日本人ゴム園はジョホール河附近及びバトバハ地方に多く、總面積二・五萬エーカーに達し、小規模のものが多い。

(二) 鐵 馬來は錫に於ては實に世界一であつて、又鐵の産地として知られる。注目すべきは半島の鐵の大部分が邦人企

業に依ることである。

スリメダン鐵山はジョホール西部にあり、埋藏一千萬噸と稱せられ、含鐵量六五%の赤鐵鑛を出す、大正十年より石原産業會社の經營に屬し、年産六〇萬噸、露天掘を行ひ、マラッカ海峽のバトバハ港より我が門司に送つてゐる。

大洋鑛山 非聯邦州のトレンガヌ州の南端に位し、三〇%の鐵、二〇%の軟滿掩鑛を含み、更にその西南部の南山鑛床は五五%—六〇%の鐵を含んでゐる。大正十三年以來石原鑛業の經營で、年産は約四〇萬噸。

ヅングン鑛山 トレンガヌ州のヅングン河流域に在り、含鐵量六六%内外の赤鐵鑛又は磁鐵鑛を出す、昭和五年に日本鑛業會社の經營となり、年産七〇萬噸である。

この三地の外に、イポー附近にも鐵鑛床があるが搬出困難のため未だ開拓されて居ない。目下の處年一七〇萬噸の生産が見られ之れを我が九州の八幡に供給してゐるのである  
(三)錫、馬來・蘭印に多く、南洋獨得の鑛産といふことが出來、その産高より見るも、英・蘭二國は實に世界産高の八

六・八%を占めてゐる。

世界錫産高 (一九三六年)

英領馬來	八六千噸	四七・八%
英 國	三五	二〇・〇%
オランダ	二一・二	一一・〇%
蘭領印度	一三・四	七・〇%
世界産高	一七九千噸	

イ、英領馬來に於ては、聯邦州に最も多く、その大部を占め、中にもベラク州中央のキンタ地方を主産地となし、こゝに長さ五八籽、幅四〇籽の錫鑛床が發達し、その錫産高は全馬來半島の五割を占めてゐる。更にセラゴール州のクオランバー、ネグリセンピラン、パハン等にも産する。  
ロ、非聯邦州に於てはジョホール州が第一で、メルシン、コクタン等が主なるものである。

英領馬來の錫は九六%まで砂鑛より採取してゐる。

尙蘭印に於ける錫鑛は英領馬來の鑛床と連続するベンカ、ピリトン、シンケップ等の諸島に豊富である。

第二節 マレー諸島

【目的】

一、マレー諸島はフィリピン、蘭領東印度、英領ボルネオを含み、臺灣の南方に展開する多くの島嶼である。我れに接近するところから、特殊關係を生じ、本邦移民の活躍地となり、貿易の相手國として密接なる關係を生じ、經濟上、實に重要な事を知らしめる。

二、フィリピンは我れに最も近き米國領土である。其他英蘭等の領土と共に、我が南方發展上問題が起り易いので彼我的政治的關係をよく知らしめることが必要である。

【教順】

一、概説

1. 印度支那山脈の南部は海底に續き、弧狀列島となつて複雑なる島列を形成してゐるが、一見雜然たる群島にも整然たる褶曲系統が存在してゐる。

2. 熱帯氣候は特有の自然形態を現してゐる。

- 3. マレー人・華僑・日本人・白人の活動地。
- 4. 我が南方發展地として有望なる地。

二、蘭領東インド

- 1. スマトラ・バンカ・ピリトン・ジャヴァの重要資源。
- 2. ボルネオ・セレベスの林・水産。
- 3. 日蘭貿易關係。

三、米領フィリピン

- 1. 農産と日本人の活動。
- 2. 日本との貿易。
- 3. フィリピン獨立と、日・比・米國關係。

【考察問題】

一、蘭領東印度諸島の重要性と植民政策につき考察せよ。

1. 南洋地方に植民地を有してゐるのは和蘭のみではなく、英・米、佛等もあるが、英米等に於ては廣大なる植民地の一部として所有してゐるのに對し、和蘭は、此處に本國に六〇倍する植民地を有し、本國の人口・食糧問題並に貿易上、この植民地は缺く可からざるもので、これが無ければ本國

の経済的獨立は不可能とされる程、絶對的必要とされるものである。

2. 和蘭は東印度領土の確保が、本國の死活を決する事實であるだけ、同植民地に關しては列國の摩擦が生じない様平和主義をとつてゐる。即ち、貿易上では自由貿易主義となし經濟上、門戶開放・機會均等主義を採つてゐる。一八七二年の關稅定率法によつて本國品と外國品とに一切の差別を設けず平等に扱ふ方針であつた。然るにオランダ本國に於て貿易保護の必要が喧傳せられるに及び、東印度政府も之れに應じ種々の保護政策を講じ、在來の平等方針に大變化が生じて來た。これは自國品が減少し、安價な日本品が激増したため、關稅を引上げ、輸入制限を行ふなど、自國品を保護したのであるが、日蘭間の問題となり、ペーター主義による兩國の協調が成立した。日蘭貿易は昭和四年以來圓價低落のため我が出超となり、昭和八一〇年は出超一億圓を突破した。殊に昭和十年に於ては輸出一億五千七百萬圓に對し、輸入はその三分の一なる五千五百萬圓で、著

しい片貿易となつてゐたものである。

3. オランダの植民政策は文化的政策である。即ち植民地土人の教育、勤勞精神の鼓吹、阿片の取締、保健の設備、水利交通、金融等の諸設備をなして精神・物質兩方面の充實向上を計つてゐる。その結果住民の知識が向上し、自治主義を採る様になつた。

4. 在來門戶開放主義によつて、外國の移民を歡迎してゐたが秩序が整ひ、勞力の充實するにつれ、移民入國に一部制限を加ふることゝなつた。即ち一八三三年八月の外國移民制限當法は一九三四年より實施されたが、

(一) 總督は毎年度の移民總數及び國別割當數を定む  
(普通一、二萬餘を入國せしめつゝあり)

(二) 國別割當數は各國同數とす、(日本は八〇〇名位となる)

(三) 實際の移民數が、移民總數に達せざる限り國別割當數は既往十ヶ年に於ける當該國移民數の十分の一まで超過せらるゝことを得る。(日本は一五〇〇名位まで可能と

なる)

5. 土地の國有を原則とし、土人以外に所有權を有しない。これは土地に執着をもつ土人の舊慣を尊重したもので、この點に於てはオランダ本國人も外國人と同様である。農業の目的で土地權を得るには次の三形式がある。

イ、永租借地 國有の未開墾地の永借權を私人に供與するもので最長七〇年の期間を有し、賣買・讓渡・抵當權の目的物とすることが出来る。永借權の資格は、オランダ人、蘭印の住民、蘭印に設立された商會社に限られるが、邦人は永住權を得て住民となることが出来るから、これにより永租借權をもつ事ができる。永住權の獲得は入國稅一五〇盾を支拂ひ十ヶ年以上蘭印に居住することが必要である。

ロ、農業租借地 スマトラ東岸の一部自治領に存在するのみ、漸次消滅の傾向である。

ハ、借地 土侯又は土人の私有地を農業の目的で借地契約をなすもので、資格は永地の場合と同一である。期間は

土地の種類によつて規定を異にする。

蘭印は右の如き方法によつて門戶を開放し、各國人の企業に便利を計つたので、今日の開拓を見、産業が發達したので、他國植民地が、外人に對して土地を封鎖して不開放主義を採れるものとは大いに趣きを異にしてゐる。

6. 鑛業法 石油・石炭等は官營事業とし、私人の採掘を許可しない。其の他のものは永租借權と同様であるが、會社では重役の半數が蘭人又は永住權者である事が必要である。但し、政府と特殊契約をなしたる場合はこれによらない。

7. 漁業權 一九二八年沿岸漁業令が公布され、外國人漁業者に對しては許可制によるが、蘭人には何等の制限が設けられて居ない。

二、ジャヴァ島の農業と邦人活動につきて説明せよ。

1. ジャヴァ島は東西に長い山勝ちの島で、貿易風帯に屬し、南東風の風上なる南岸に雨多く、五〇〇〇耗に達し、北岸は一〇〇〇—二〇〇〇耗で比較的乾燥する。耕地は全土の四〇%に當るが、南岸に少く北岸に多い。バタヴィアチ

エリボン・テカル・サマラン・スラバヤ等の諸州の耕地は八〇―九〇%に達し、開拓は進み、従つて人口密度は一方糶三一七人で、稠密なること熱帯地方としては勿論、ベルギーを凌いで實に世界第一の地方である。

1. 重要作物は、甘蔗・茶・煙草・珈琲・ゴム・規那・古々椰子・カ、オ・サイザル・カボック・カツザア等で歐人の大農法によるものが多く、主として輸出向である。土人農業では、

米・玉蜀黍・カツザア・甘蔗・落花生・大豆等を産出し、集約農法を用ひ國內食料の自給に供せられる。

イ、甘蔗 古くより行はれたがオランダ領有以來農法の改良を行ひ土人勞力も豊富であつたので急發展をなし、最近の産高一三〇萬噸、印度、キューバに次ぎ世界第三に位する。南北の低地沖積層に栽培せられ、全島一八〇の工場(蘭人經營)で製糖し、主に粗糖のまゝスラバヤ・サマ



ランより日本・英・支等に輸出される。  
 ロ、珈琲 海拔五〇〇―一二〇〇米迄の緩斜地に栽培され良質である。  
 ハ、茶 中部西部の海拔一五〇―四〇〇米の丘陵地、年産五萬噸、印度・セイロンに次ぎ第三位である。  
 ニ、ゴム 西部地方に多く、海拔一〇〇―七〇〇米の間に作られる。近年急發展をなし蘭印は馬來に次ぎ世界の三六%を占むるに至つた。

3. 邦人は五八〇〇人に餘り、會社・銀行・商店等に勤むるもの四三%、商業者二五%、理髮・浴場等七%で他は農・漁・貿易等を營むものである。

イ、邦人企業の主なるものはゴム・椰子・甘蔗・茶・規那・カボック・サイザル等で、借地面積は七萬エーカーに達し、南國産業(ゴム・茶・珈琲・規那)、南洋興業(ゴム・茶)、東印度拓植(ゴム・サイザル麻)、ニヤミル椰子園(椰子・カボック)を主とし、百エーカー以上の農園は一に達する。  
 ロ、本邦品の販賣は華僑の手に獨占せられる形であつたが

彼等の排日思想と共に日本商品の販賣をボイコットするに及び、日本品は邦人の手で行ふこととなり、邦商が進出して來た。本島に於ける邦商は四五〇餘、使用邦人は一千名を越えてゐる。住民の九八%を占める土人の、知識と生活程度が年々向上するに従ひ、生活必需品の需要を増し、購買力も旺盛となるので、將來本邦品の發展は有望である。

ハ、労働者としての邦人は、土人、華僑に比し、生活程度が高きたため彼等と競争することは困難である。

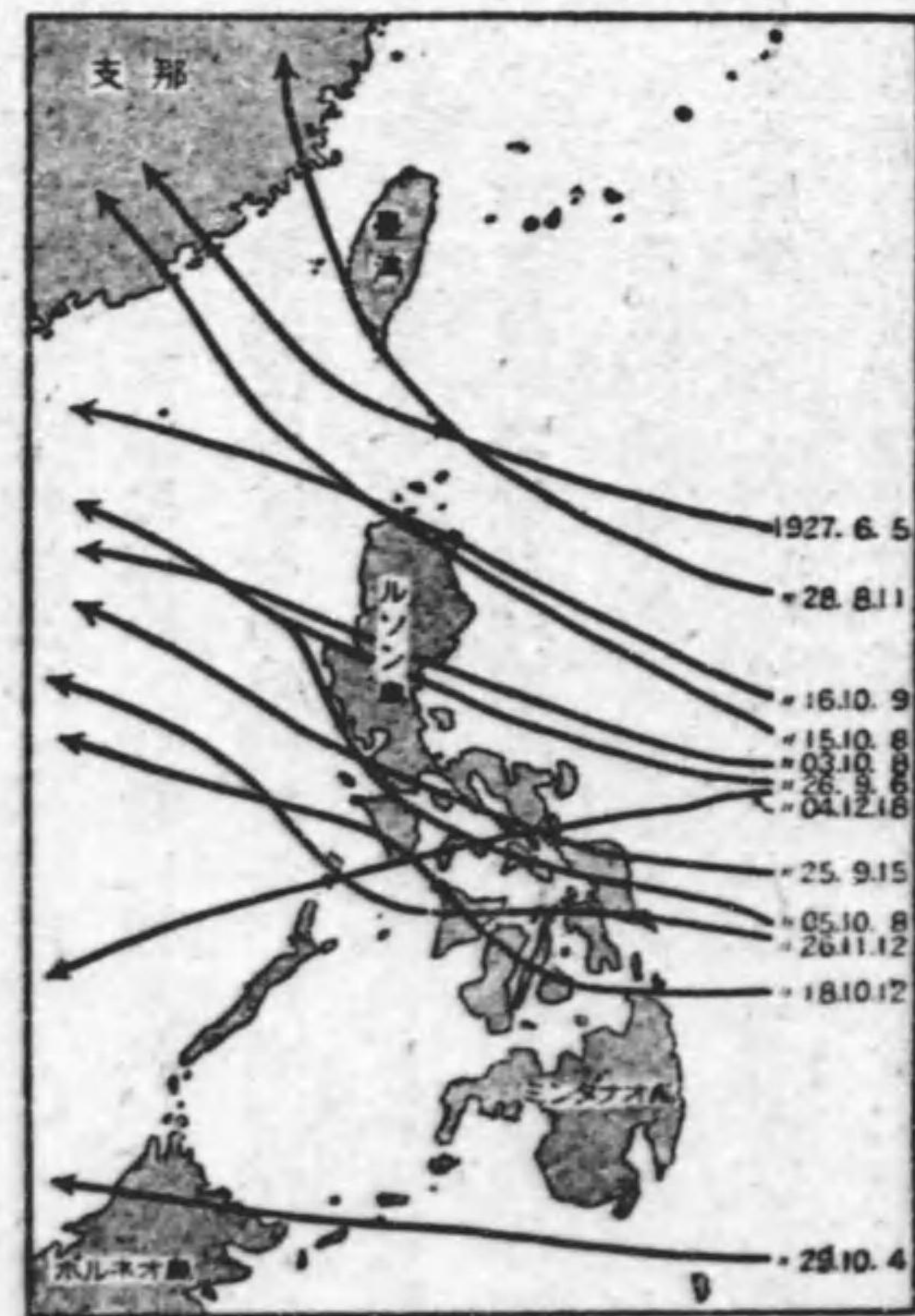


フィリピンの氣候

- イ 東海岸氣候型-全年を通じて降雨を見るも北東貿易風によつて冬期増大する
- ロ 短期の乾燥季節(三・四月)を伴ふ移行型
- ハ 顯著な乾燥季を有せざる移行型
- ニ 西海岸型-雨期乾期の區別明瞭

ニ、漁業 土人の漁業は幼稚なる原始的方法で、沿岸に限られてゐる。鹽魚は土人の食料として必需品である爲、タイ國より輸入してゐた。邦人はこれに着眼して進出し永住者として権利を獲得し、在來行はれなかつた遠洋漁業に新天地を開拓し、使用人となつて、沿岸漁業にも従事してゐる。優秀なる邦人漁法は、將來當地を獨占するに至るであらう。

三、フィリピン諸島の氣候と農業との關係を考察せよ。  
 1. 氣候 フィリピンは北緯五度より二十度に亘り赤道以北の



フィリピンの颱風

熱帯地方を占める。

最高 最低 平均 雨量

気温 マニラ 三六・八 一六・四 一、九六二  
ダヴァオ 三五・四 一八・七 二六・九 二、二九〇

北東貿易風帯の中に位置してゐるが、東部アジアの季節風も影響して、年中風が絶えない。北東風が卓越し、東海岸に雨が多く、西部に少い。又赤道多雨地帯に近き南部に雨多くして北部に少い。

六月―九月は一般に雨期で高温多湿となり、十月―五月は乾期となる。雨期に於ける颱風はフィリピンの特色であり北緯八度乃至一五度の間に生じ、七月―十一月が最も多く二月は全くない。是等の氣候は同島の産業を制約することが夥しい。

2. 土地利用 総面積は三千万陌で之れを利用別に見れば、

既耕地 一二%を占め、三七〇萬陌に達する。

原野 一九% 森林を焼拂ひて草原となし、牧場・耕地に利用する。

沼澤及未探査地は五%

原生林六四%を占め、森林に被はれ、可耕地であるが、好適の部分はその半である。所謂南洋材を多量に蓄積し我が太平洋木材會社、フィリピン木材輸出會社、三井物産、野村木材等の諸會社によつて伐採搬出されてゐる。

3. 主要農産 フィリピン諸島は煙草・甘蔗・古々椰子・マニラ麻等の世界的産地で、我が國へも多量に輸出せられ、又本邦人の活動によつて生産されるものも少くない。

イ、煙草 ルソン島の北部カマヤン流域の沖積平野を主産地とし、葉巻・紙巻はマニラ煙草として世界的に知られてゐる。

ロ、砂糖 生育期に多雨で成熟期に乾燥する土地が理想であるから、概して比島西部に多く、中部ルソン、ネグロス島が適地である。日本・米國・支那に出される。

ハ、古々椰子 氣候變化の少き高温多湿の地、通水良き海岸地帯に適する。比島は海岸線が長いので適地が廣く、コブ

フィリピンの椰子の栽培



ラは世界需要の1/3を充たしてゐる。

一、マニラ麻 芭蕉に似たアバカの纖維で、強靱、耐久力に富み、船舶用綱索及び織物に用ひその需要は廣い。一

六八〇年頃ミンダナオに住む英人ダンピアの盡力で各地に栽培せられたが、今日の如く世界的になつたのは百年以來の事である。ハワイ・印度・アフリカ等熱帯各地に試られたが



今日成功してゐるのは比島のみである。

高温多湿で石灰分を多量に含有する火山灰地又は河岸の砂質壤土の傾斜地に栽培せられ、葉が廣いため強風に耐へる力なく、比島北部の如く颱風の強い地方には適せず、又潮

風の當る處は致命的の障碍である。

比島はミンダナオ島を主とし中部以南の諸島に多い。

四、フィリピンの土地法と邦人の活動につきて述べよ。

米國は資源の豊富なること世界に冠絶してゐるが、熱帯資源中ゴム・珈琲・植物油が不足し、世界的消費國でありながら之れを外國に依存してゐる。茲に於てその自給上、ハワイ・フィリピン等熱帯植民地を開拓し、是等の輸入品を産出してその自給を圖ることとなり、比島の産業開發も漸く著眼せられるに至つた。然るに、比島には土地法なるものがあつて同島の開發上大なる障碍となつてゐる。

1. 公有土地法 一九一九年制定のもので、元來の私有地に關しては何等の制限を加へざるも、舊公有地法によつて拂下を受けたる私有地は、現公有土地法の下に於て拂下を受けれる權利を有せざる者に擔保・讓渡を許さぬものである。

2. 農業地拂下につきての制限

イ、比島人及び米國人につき百陌以下。

ロ、比島人、米人會社でその株式の六一%以上が比島人又

は米人の手にあり、且つ比島で營業を許されたるものは一會社につき一〇二四陌以下、

ハ、比島人に對し官有地拂下の權利を認めてゐる他の國民に對しては比島議會の協賛を経て、一人に付百陌以下、一會社に對して一〇二四陌を超えざること。

ニ、農地租借に就ては前記イ・ロは一〇二四陌以下、ハ及び前記以外の法人及び組合は議會の協賛を経て一〇二四陌以下とし、住宅及工業地拂下並に租借は個人、法人、組合共すべて一〇陌以下とする。

この結果比島の土地は比島人・米人以外には封鎖されることとなり、大資本を投資することは勿論今後新に官有地拂下は一切不可能となつた。本邦人の如きは元來の私有地を買収するか、舊法によつて獲得せる邦人土地に於て事業を始むる以外に途がない。

鑛産は土地に屬するものとせられて居る外に制限がなく、林業・漁業につきても無制限である。

3. 邦人の活動 一九三七年の在留邦人は二・一萬人に及び、

少い事は、邦人商人の進出を促し、マニラ附近には三千の邦商が活動してゐる。日比貿易は年一億圓に上つてゐるが將來は邦商活動の發展と共に有望視される。

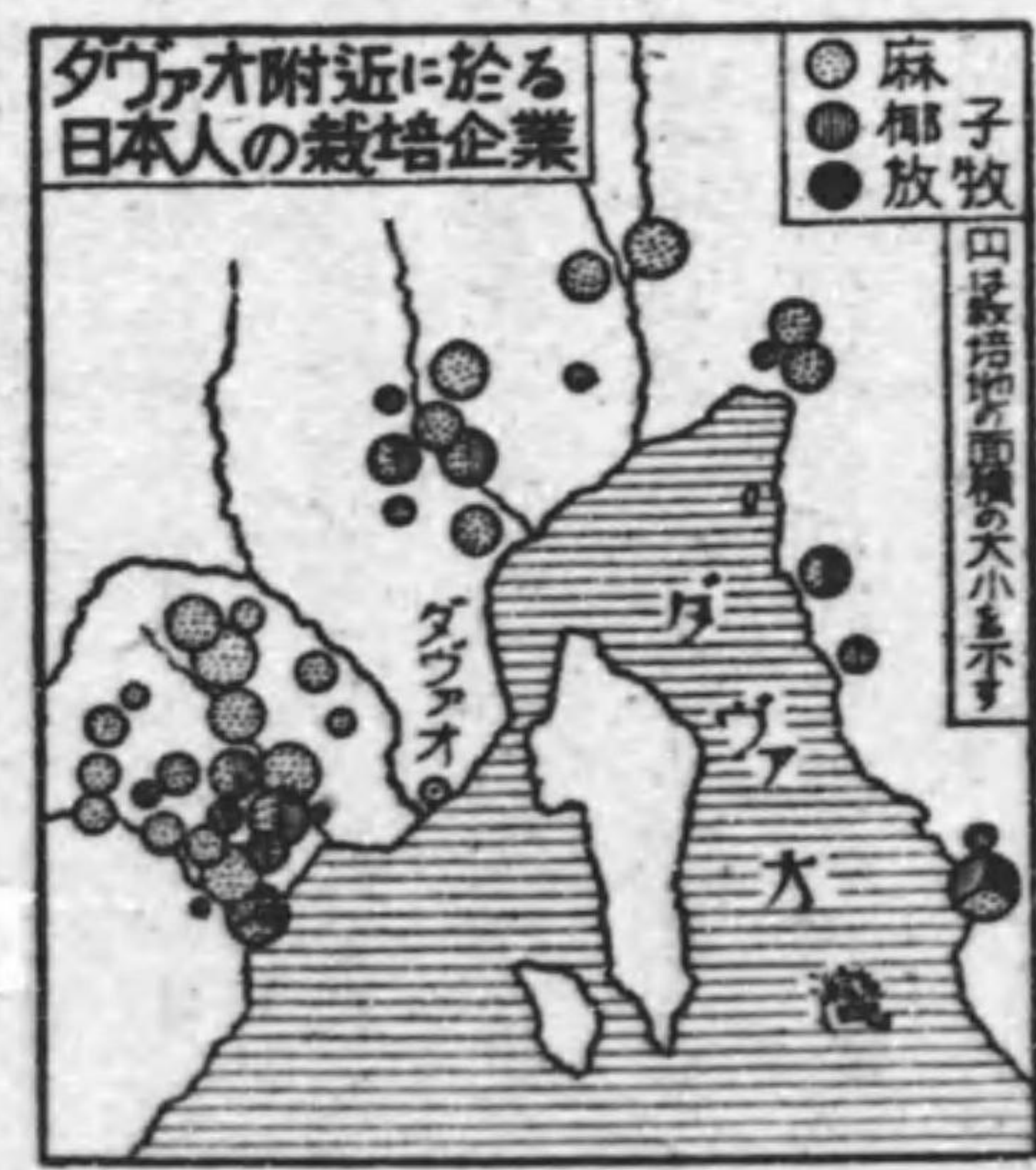
五、フィリピンの沿革と獨立につきて述べよ

1. フィリピン群島は一五二一年、ポルトガル人フェルチナンド・マゼランによつて發見せられ、一五四二年スペイン王フィリップ第二世によつて征服せられたのでフィリピンの名が生じたのである。爾來三百年間スペインの統治下に在り、その間土人の叛亂も屢々起り、一八八五年リサルは獨立運動を企て、死刑に處され、又一八九七年アギナルドも獨立運動に失敗し香港に亡命した事があつた。一八九八年(明治三十二年)米國マッキンレー大統領の時米西戦争が起り、スペインは敗れ、翌年二月のパリ媾和條約に於て二千萬弗を得てフィリピンを米國に割讓するに至つた。

2. 米國は總督を置き、産業開發よりも根據地としての文化開拓に重心を置いたものと見られる。パリ條約批准に際し大統領は、「比島の領有は米國の東洋貿易發達のため必要であ

ミンダナオ島のダヴァオ附近に半以上が居り、他はルソン島に在る。

イ、ダヴァオ附近に於ては殆んどマニラ麻の栽培及び労働に従事し、副業に椰子園・ゴム園を經營してゐる。租借及買入土地三萬陌、投資一千萬圓、邦人農業會社は五十社に垂んとしてゐる。邦人の手によつて生産される麻は世界の三二%に達し、その豊凶は市價を變動せしむるに足る



ダヴァオ附近に於る日本人の栽培企業

ロ、比島は華僑の入國につき、米本國の入國禁止と同様に之れを禁止したので、勞力の不足を生じたが、却つて邦人労働者の進出に好機を與へ、南洋地方第一の邦人労働移民の需要地となつた。華僑は現在一一萬人、マニラに商業をなす者二萬あるが、天才的商才を具へたる華僑の

る」と述べてゐたことに徴しても明かで、資源の豊富な米國としては、遠隔な比島の生産に俟つ必要も無かつたものであらう。

文化開拓政策は土人の教育に多額の經費を投じ、英語普及による同化政策を採用し、且つ土人の知識・生活の向上を計つたので、僅々三十年間に、三百年の歴史あるスペイン語を壓倒して英語が國語化せんとしてゐる。無學なるものは減少し、讀書し得るものが六一・九%に達した。學校の制度はよく整ひ、公立大學を初め、大學専門學校の數は三四を數へ、サン・トーマス大學の如きはハーバート大學よりも古い歴史を有してゐる程である。教育の普及と文化の向上は、比島人の自覺を促し民族的精神を喚起せしむるに至り、比島の獨立運動を誘發せしむる結果となつた。

3. 獨立運動はスペイン領時代に於ても屢起つたものである。當時のものは、本國の搾取政策より脱却するといふ如き皮相のものであつたと思はれるが、米領となつてからのものは、民族的の目覺め、自由の要求より生じた内面的な、相

當根強いものであつた。かくて比島獨立法案は度々米議會に提出された。一九三四年三月比島獨立に關するマダグアイ、タイデングス法案が米國兩議會を通過し、比島獨立の基礎が確立した。

- (一)十年乃至十二年以内に比島の獨立を許可すること。
- (二)比島獨立の上は、米國陸軍根據地を撤廢すること。
- (三)海軍根據地は獨立後も存続すること。

但し獨立二年後に於て大統領は比島政府と此の問題に關して交渉を開始することを得。

其の他の附屬法案によつて、比島憲法の制定、政府の組織、軍事上の目的による土地財産の處分法、獨立後の外國との條約、尙獨立後の對米貿易は他國同様なること、對米移民、歸化權も他國並にすること等を定めた。

フィリピンは一九三五年八月十三日を以て共和國が成立し、初代大統領にケソン氏が立つた。そして十年間の準備期間を置き一九四六年七月四日を以て、その獨立の承認を受くることになつてゐる。

### 第四章 南部アジア—インド

#### 【目的】

一、世界文化の發祥地として古き歴史を有し、又佛教の發源地となつた印度は、宗教的に統制された二億五千萬のヒンヅ族と一億に近き先住ドラヴィタ族とから成る實に老大な國で、支那と共にアジア大陸に於ける特異の存在である。かゝる印度が何故に英國に一植民地として屈從してゐるかを考察せしめる。

二、老大なる領土は世界第一の熱帯生産地となり、三億五千萬の夥しき住民は多くの消費購買力を有して世界的市場を提供し、茲に大なる經濟的價值を有してゐる。我が國の對印度貿易は七・五億圓に達し、米・滿洲に次ぐ第三の貿易國である。かゝる經濟的價值と、日印關係を知らしめることが肝要である。

#### 【教順】

#### 一、概説

#### 3. 交通・貿易

地形と水運・鐵道・港灣の發達關係。  
資源の豐饒、住民の老大性は貿易振興の基本條件となり、植民地型の貿易が行はれること。  
主要貿易品及相手國。  
英本國對印度の特殊貿易關係。

#### 對日貿易關係と重要性

#### 4. 文化・生活

ヒンヅ族の社會階級制度とヒンヅ教。  
民族—宗教の對立(ヒンヅ教徒と回教徒)  
政治の組織

英本國の壓制政策と印度獨立運動

ソ聯の印度洋進出と赤化政策

#### 5. セイロン島

位置の優秀性と豐饒なる生産及輸出港  
直轄植民地

附、ネパール、ブータン

1. 地形の大略と熱帯生産地として豊富なる資源を有すること  
2. 三・五億住民の民族と政治形態を提示して、各論に入る總括的豫備知識たらしめる。

#### 二、地勢・氣候・産業

#### 1. ヒンドスタン平原

ヒマラヤ・カラコラム山脈の地形と、交通・氣候に及ぼす影響。

ガンジス・インダス・ブラマプトラ流域の沖積平野の地形。

印度の季節風と、多雨地・乾燥地の分布、並びに氣候と農産との關係、乾燥地と灌漑耕作地區並に饑饉區域。

主要農産とこれが集散地・輸出港

有畜農業と牧畜—水牛・黄牛

農畜産加工業—製麻・精米・製糖・製粉

#### 2. デカン高原

熔岩臺地と海岸地形及び棉作適地の土質、

季節風と多雨地、乾燥地並に棉・茶・米・椰子産地との關係。

デカン高原の地質と鑛産—鐵・石炭・滿俺・寶石。



## 【考察問題】

## 一、印度はどうして英國の植民地となつたか。

大英國の一部として政治上經濟上最も重要な地位を占める印度は四千年の古き歴史を有してゐるが、一六〇〇年ロンドンに創立せられたる東印度會社によつて完全に植民地化せられた。それ以前は民族の移住・争鬭・侵略・奪掠の歴史であつた。

1. 紀元前二千年、中央アジアの高原に居つたアリアン人は印度西北境の山を越えてインダス河平原に入り、先住民族たる黑人ドラヴィダ族を南方に驅逐し、遂にガンジス河流域の大平原に進出した。ドラヴィダ族はデカン高原に逃げ、サトブラ山脈によつて辛うじて侵略者の南進を阻止したのである。

アリアン人はパンジャブ地方に侵入するや原始林を開き沼澤を埋め都市を經營して漸次印度を自己の支配下に置くに至つた。そして彼等はバラモン教によつてカースト(Caste)社會階級制度)を作り、自己の地位と、民族の維持につと

めた。ブラーマ(僧侶)クシャトリア(王族武士)ヴァイシャ(農工商)スードラ(奴隸)の四種姓は今も尙存する。

2. アリア族印度占居後ベルシア人、フン人、スキチア人等の民族が侵入し、その中紀元前三二六年アレキサンダー大王が侵略して來たがマカド國王チャンドラグプタの爲に大敗し壯圖は挫折した。チャンドラグプタは北印度を統一しマウリア帝國を建設した。以後八〇〇年間つゞき、此間に佛教が起り、文學・美術が著しく發達し、印度文化は驚くべき進歩を見たがその孫アショカ王は自ら佛に歸依し、佛教を國教として廣めた。當時マウリア國土はベンガル地方にまで及び強大であつた。

アショカ王によつて傳播した佛教は遠くギリシャ、エジプト、シリアに及び、その博愛の精神はキリスト教に影響し又バラモン教の内容を改善せしめたものである。阿育王は紀元前二二二年にして死したが、それは佛教が唱へられてから三〇〇年であつた。彼の死後國威衰へ、四〇年にしてマウリア王朝も亡びた。

3. マウリア朝滅亡後幾多紛争がつゞき四世紀の頃グプタ王朝が起り佛教が榮え支那の法顯・玄奘等が訪れたことがあつたが、八世紀頃より回教徒の侵入が盛になり、アラビヤ人・アフガニスタン人・トルコ人等が交々やつて來た。十一世紀に、アフガニスタンに勢力を得たるマームードは十七回も印度を攻略し、遂にパンジャブを支配するに至つた。之れより回教徒の侵入は益々著しく十六世紀にカプール王バールは北印度を支配し、一五二六年モガール帝國を建設した。一六五八年王位につけるオーランゼブ王はヒンズー教徒虐待政策をとつたので、回教徒・印度教徒の對立となり、印度中部のマラータ族は指導者にシワジを立てて回教徒討伐を企て、西南地方を恢復し、印度教徒の國を再興したが、彼の死後は、五小國に分裂し、印度はあげて兩教徒の政權争奪、動亂兵火の中に馳驅してゐたため、その虚に

乗じ、英國人の攻略を受ける様になつたのである。

4. 歐人の東方進出、一四八八年葡人ヴァスコ・ダ・ガマは印度西海岸カリカットに到着し、初めて歐洲人と印度との交渉

が起つた。葡人は一五一〇年ゴアに葡領の首府を置き印度通商によつて獨占的利潤を占めた。次で蘭・英人も進出し一六〇〇年十二月英人商によつてロンドンに英國東印度會社が設立され、國王の特許狀を得、一八一三年まで印度貿易の獨占權を獲得した。かくて同會社は一六〇八年商館をスーラトに設け、當時印度に絶大の勢力を有してゐたポルトガル人を一六一二年一五年の二回に亘り海軍の援助を得て壓迫し、モガール帝國より通商權を獲得した。

5. 東印度會社の勢力が強大になつたのは一七〇二年以後で、その後英國に於て設けられたる他の商社を併合し、印度貿易を獨占し、その存續を議會に承認せしむるに至つた。葡・蘭を驅逐した後の印度に現れたのは佛國の東印度會社で、同社は印度各地に植民地を有してゐたので、俄然英佛兩國が對立し、後には武力を以て抗争するに至つた。一七五一年、土人王國の王位繼承に關し、兩國は互に出兵して相戦ひしことあり、前後三回に亘り干戈を混へ、一七六三年に至り佛國勢力は殆ど印度より一掃されるに至つた。

その後英國は事毎に土人領を没收し、一七五八年ベンガル州の知事となつたクライブ、一七七二年に赴任したワールン・ヘスチング(一七七四年に印度總督と改稱)兩氏によつて領土は頗る擴張され、英領印度の建設が進められた。

6. 英國は、東印度會社の監督官廳を設け、その長官に印度事務大臣を國務大臣として任命し、事實上印度の行政は政府の手に歸した。その後英國の勢力は全印度に及び、一八五八年カンニング總督の時代に會社の行政權は英國皇帝の直轄せられる所となり、今日に至つたものである。

一八五八年十一月一日カンニング總督により、アラハバットに於て布告されたる英國ビクトリア女王の印度統治宣言は藩王諸侯酋長等を臣服せしめ、印度統治の基礎が確立された。その方針により印度の政治は漸次改革された。

イ、東印度會社は純經濟的政策のみに限定され  
ロ、行政・軍事・警察權を印度總督の手中に收め  
ハ、印度人に參政權を賦與して、印度人の幸福を増進せしめんとす。一八六一年にはベンガル・マドラス・ボンベイ

の三州に立法府を設け、印度人の議員を任命した。

ニ、一九一九年印度統治法の改正により半責任政府の實現を見た。

ホ、一九三五年の新憲法により印度は廣汎なる自治を許され。

ヘ、一九三七年四月一日より聯邦帝國となる。

マドラス・ボンベイ・ベンガル聯合州、パンジャブ・ビハール・中央州・アッサム・北西國境州・オリッサ・シンドの各州に分たれ、各州は自治制で州議會を有してゐる。

かくて印度は植民地の域を脱し、印度聯邦帝國として英國皇帝を戴き、二院制の議會を備へてゐる。

二、印度の氣候の特色を説明せよ。

1. 印度の氣候を決定する條件。

イ、北緯八度より北緯三七度に亘る廣い領土は、中央が北回歸線にあたり、熱帯・亞熱帯・温帯の各種の氣候を有すること。  
ロ、北には五〇〇〇米乃至六〇〇〇米の高峰連るヒマラヤ

カラコラム山脈が東西に連り、西藏高原との間に大障壁となつてゐること。

ハ、南部の半島部は三角形をなして印度洋に突出し、海岸には海岸線に沿うて西ガッツ、東ガッツ山脈がデカン高原の周縁をなして走り、高さ一〇〇〇米、海岸に急斜してゐること。

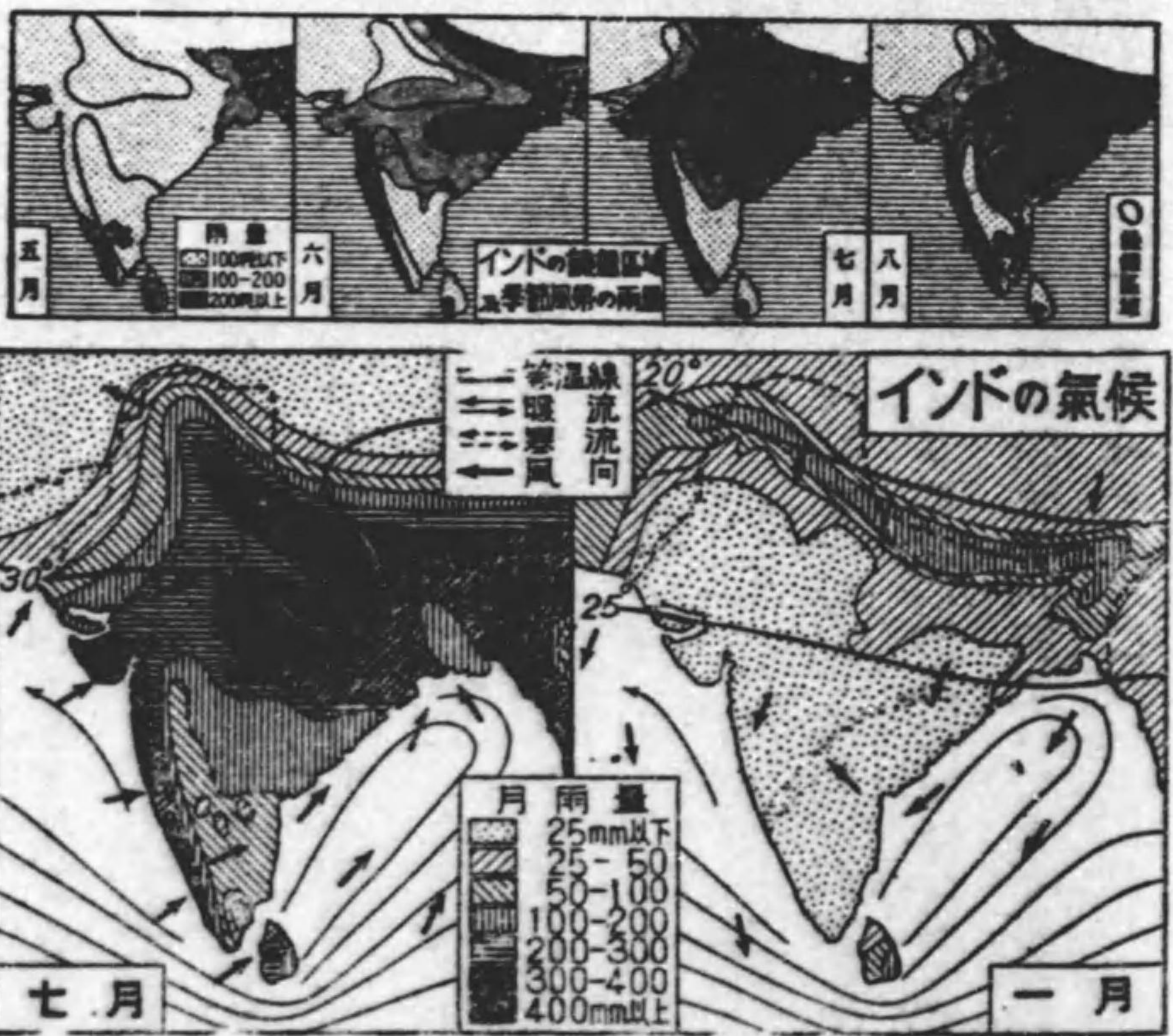
ニ、デカン高原と、ヒマラヤ山脈の間はカンジス・インダスの流域で、こゝに印度大平原を展開し、北部山地と著しき對比をなしてゐること。

ホ、アラビア海、ベンガル灣にかけて北赤道海流が東流して濕潤なる空氣を供給してゐること、

以上の如き自然條件は印度の特色ともいふ可き季節風と相俟つて印度の氣候を決定してゐる。

2. 季節風

イ、夏の季節風 夏はアジア大陸の内部に低氣壓が生じ、印度洋上の高氣壓より南西季節風が起る。六月になつて赤道が印度の中央にうつると、南東貿易風は、アラビア



吹き上ぐるもの、又印度平原よりヒマラヤの斜面を吹き上ぐるもの等あり、印度洋の暖流はこの風によつて海岸近くに吹き寄せられ、その水分は直ちに西ガッツ山脈の斜面、ヒマラヤの斜面に於て多量の降雨となる。この降雨は六月より九月まで三ヶ月に亘り、年雨量の九〇%を

海、ベンガル灣に入つて南西季節風に變り、西ガッツ山脈を越え、半島を横断してベンガル灣に出るもの及びベ

ンガル灣よりビルマに

降らせる。即ち雨期となる。雨期三ヶ月の雨量は

- 西ガッツ山脈の海岸 二五〇〇耗
- 半島中央部 一〇〇〇耗
- アッサム地方 一六三〇耗
- ベンガル地方 一四〇〇耗
- ビハール・オリッサ地方 一一四〇耗
- パンジャブの西南部 一五〇耗

此の間海上に旋風が生じアラビア海より内陸に進み、又はベンガル灣よりガンジス河に沿うて内部に進んで停滞することがある。これによつてモンスーンを誘ひ、内部に多量の降雨を見るが、このため農業に多大の利益を與へることがある。

ロ、冬の季節風 長く降つた雨も十月初には減少し、一、二月になれば冷涼な季節がつゞく。アジア大陸内部より印度洋に向つて乾燥した風が吹いて來るのであるが、印度平原はヒマラヤの山蔭となつて北風を受けない。北西部の高氣壓より印度平原を南東に向つて吹くものは、ベン

ガル灣に出づれば、方向を變へて北東風となり、ヒマラヤの山越風と共に東ガッツ山脈の東斜面や、セイロン島に多量の降雨を齎らせる。

冬季は一般に雨がなく、一二耗内外で、山麓地方でも五〇—一〇〇耗で晴天がつゞき乾期となる。陸上に局部的旋風が生ずれば海上の空氣を引き寄せ、降雨があり、高地には降雪を見ることがある。然し、低氣壓の襲來で大陸北部の寒風が南下し、寒波となつて氣温が急激に低下し、パンジャブ地方にすら零下四・五度となつて作物を凍死せしむることがある。

この間の印度の氣温は一月に半島部で二五度、北部パンジャブで一〇度である。

3. 印度の氣候區

- (一)アッサム・ベンガル地方、雨期に雨が多く、年一三〇〇—二五〇〇ミリに及び海岸に於て二五〇〇ミリ、チェラプンジは世界最大で一萬ミリである。年平均氣温はアッサム二六度、ベンガル二八度

(一)ガンジス平原・中央印度地方 四月よりモンスーンの襲來するまで乾燥した西風のため四三度—四六度の高温に達する。五月の平均は三二・二度、一年を通じて最も暑

す。

(二)西部乾燥地方 この地方は印度の最も乾燥した地方でタール沙漠がある。寒暑の差大で、一、二月には西方高地に發生したる低氣壓のため時々降雨があり、シンドに一三耗、パンジャブに二五耗、夏の雨期にはシンド一二〇耗、其他一五〇—五〇〇耗を示す。五月には三二度の高温となり、六月は更に暑く、時に五七・五度に達することがある。

(四)北部丘陵地方 北部の大山脈と、カンミール高原を含む地域で、高地なれば氣温は一般に低い。西部の高地はモンスーンの影響が少く、冬期に降雨が多い。ヒマラヤ斜面は東より西するに従ひ次第に雨量を減ずる。

ダイジリング三二〇耗、シムラ一六二五耗、ミユリー一四二〇耗、スリナガル六八五耗、バラチナル六六〇耗

レー七五耗である。

- (五)ベルチスタン地方 周囲は二〇〇〇米の山に圍まれ、内部は三〇〇—一〇〇〇米の高原をなす。モンスーンの影響は少く、二月も五一耗、六月—一〇月に於てさへ一二七耗、夏・冬の氣温の差は大で大陸性となる。

(六)半島西岸地方 西ガッツ山脈の斜面で、モンスーンの影響が最も著しい地方である。年雨量は二五四〇耗以上で夏に大部分が降り、冬は少く、氣温の年較差は極めて小である。

(七)半島東岸地方 西岸とは反對で、年雨量はマドラス附近で一二七〇—一〇〇〇耗、冬季北東季節風には、南部に於て一月二月に五〇耗、三月—五月に二五〇—一二五耗の降雨がある。氣温は熱帯性で較差が小である。

(八)半島内部地方 西ガッツ山脈の山蔭となり年雨量が少く一〇〇〇—五〇〇耗であるが、一、二月は一三耗以下で非常に少く、全地域が熱帯内陸であるため氣温の差が少く常夏の國である。

三、モンスーンと農業との関係につきて考察せよ。

印度の農業は肥沃なる印度大平原・デカン高原と之れを潤  
ほすガンジス河やインダス河と、更に二億五千萬の農民との  
交互接觸によつて成立するものである。而して印度が熱帯・  
亞熱帯に位置することによつて氣候に結びつき熱帯生産地と  
して重要な役目を果してゐるが、この熱帯生産に更に重要  
なる條件となるものは雨量の多寡である。これ印度のモン  
スーンが、熱帯生産地印度に決定的な條件を賦與してゐる理  
由である。

夏季モンスーンによる多雨地帯に棉花・米・甘蔗・黄麻・茶・  
椰子等が栽培せられる。殊に棉の植付けはモンスーンの襲來  
と共に始まるもので、その時期と雨量の多少とは棉花の收穫  
に直接に關係をもつものである。若し、モンスーンの時期が  
おくれ、雨量の少い時は收穫は減じ、時には饑饉となること  
が少くない。かゝる旱害を免れるために、古より運河や溜池  
によつて人工灌溉を行つてゐる。  
冬季、モンスーンの方が變じ、乾期となれば、農作物の

四、印度の灌溉區域を説明せよ

印度の文化は一般に灌溉文化と稱せられる如く、印度の農  
業は人工灌溉の上に立つてゐるといふことが出来る。  
1. 印度の農業に決定的な條件となるものは定期的に襲來する  
モンスーンとそれによつて齎らされる雨量とである。その  
時期の早晚と、雨量の多少とは、農産の豊凶を決定し、時  
には饑饉となることがある。

一八九六年より七年にかけての饑饉は、災害地五八萬方  
糶災民六二〇〇萬人の多きに及び、小災害に至つては度々  
各地に見ることである。早魃地方はシンド・カッチ・聯合州  
カンデシ・ベラル・ビハール・ハイデガバード・中央印度・  
グジャラット・ボンベイ高原・マイソール・カーナチック・ラ  
ジプタナ・パンジャブ・オリッサ・マドラス北部等廣大なる  
地域である。  
是等の地方はモンスーンの降雨があれば河水が流れるが、  
なければ涸河となる地方で、全く天水に依存してゐるので

ある。近年政府は貯水池による灌溉法を講じ、幾分之れが  
緩和を計つてゐる。

東印度會社時代の末期一八〇一年に灌溉委員會が設定せら  
れてより國家的に考慮さるゝに至り、ジムナ河・ガンジス  
河等を利用する河水運河が政府事業として行はれ、現今に  
於ては

灌溉面積	合計	四九八八萬エーカー
運河によるもの	政府事業	二、二一九
	民間事業	三八七
貯水池によるもの		六四四
井水によるもの		一、二二一
その他のもの		五一五
地方別灌溉面積		
パンジャブ	一四二四・七萬エーカー	二八・五%
聯合州	一〇〇一・〇	二〇・〇%
マドラス	九二二・九	一八・四%
中央州・ベラル	一一二・八	二・四%
ボンベイ	五〇七・九	一〇・二%

3. ヒマラヤ山麓の運河は融雪に依存するため不安であるが、  
パンジャブ・聯合州のものは全河水を導く永久運河で、舟  
運にも供せられ、シンド地方にあるものは氾濫時に餘分の  
水を利用する様にして  
ある。



4. 貯水池によるものはマ  
ドラス・デカン高原・中  
央州・ベンデルカンド  
等に行はれ、運河が不  
可能なるため河水にダ  
ムを作り貯水池を設け、灌溉・動力に利用してゐる。  
5. 井水灌溉は全灌溉地域の 1/4 に及び、近年は政府事業と  
して年に三〇〇〇の鑿井が行はれてゐる。  
6. 中央印度より南部にかけて雨水を貯水池に利用するものが  
ある。

7. 印度は熱帯地で、一年を通じて作物の栽培が可能でありながら雨は夏季モンスーン季節にのみ降つて冬季が乾燥し、夏に於ても場所によつて季節によつて水不足となるので、廣く灌漑設備が行はれてゐる。而して人工灌漑地域は耕地面積の二二%で、残餘の七八%の耕地は専らモンスーンの降雨に依存してゐる。

人工灌漑によつて作られる農作物は

米	一九〇八萬エーカー	三八・一%
小麦	一〇四五	二〇・九%
大麦	二三七	四・七%
大稷	一四九	三・〇%
穂稷	一二四	二・五%
玉蜀黍	一一〇	二・二%
甘蔗	二二〇	四・四%
棉花	二六四	五・三%

五、印度の土質と農産との關係を述べよ。

1. イングス・ガンジス・ブラマプトラ河の流域より成る印度大平原は、河川の堆積より成る沖積層である。河川に近く、

灌漑・耕作に便前なので最も農業に適し、印度の重要農産たる米・小麦・甘蔗・黄麻・茶等の生産地帯となつてゐる。

2. 平原中、西部のインダス河下流の乾燥沖積土はタール沙漠となり、砂質土のため不毛地となる。



3. デカン高原西部のボンベイ州の大部・ペラル西部・中央州ハイダラバードより中央印度に亘る廣い地域は所謂黒綿土壌より成る。

デカン熔岩臺地を構成する玄武岩が雨水のため侵蝕され、再び堆積して黒土となつたもので、更に東方に堆積した風成土もある。是等の黒綿土は全印度棉花栽培地の七〇%を占め、主要産地となつてゐる。

4. 印度平島の南部及東南部は赤土(ラテライト)をなす。片麻岩・花崗岩等の晶質岩が主要地盤で、その上に形成せられ

た赤土は農業上あまり有利ではなく、デカン・トラップ(黒綿土)と對照をなす、然し、この周縁に堆積した海岸平野は沖積土で米・甘蔗・椰子等の農産物を生産してゐる。

5. 赤粘土はベンガル東部・アッサム東南部の一部地方にも在り。丘陵性で農業上利用價值が少く、不毛地となるものが多い。然し、崩壊して堆積した沖積層に於ては、印度大平原同様米作に適してゐる。

六、印度の耕地及び主要農産を説明せよ。

1. 耕地

廣大なる印度は、大平原、デカン高原に亘る廣い耕地を有し、その面積は一億六千萬ヘクタール、我が國耕地の二七倍に及び、全土の三四・一%を占めてゐる。

土地利用					
直轄地	土 候 國				
耕地	三、五、八千四二%	三、三、三	一八・六%	三、三、三	合計
二毛作地	一三、〇、六	五%			
休耕地	二〇、四、七		四、八、七		五、四、%

森林	三、三、九	一三・九%	六、八、五	三三・六%	九二・%
可耕地	六、三、四、九	三三・一%	七、二、四	三九・%	一四・九%
不毛地	五、三、七	二八・%	二〇、七、九	五八・%	一四・九%

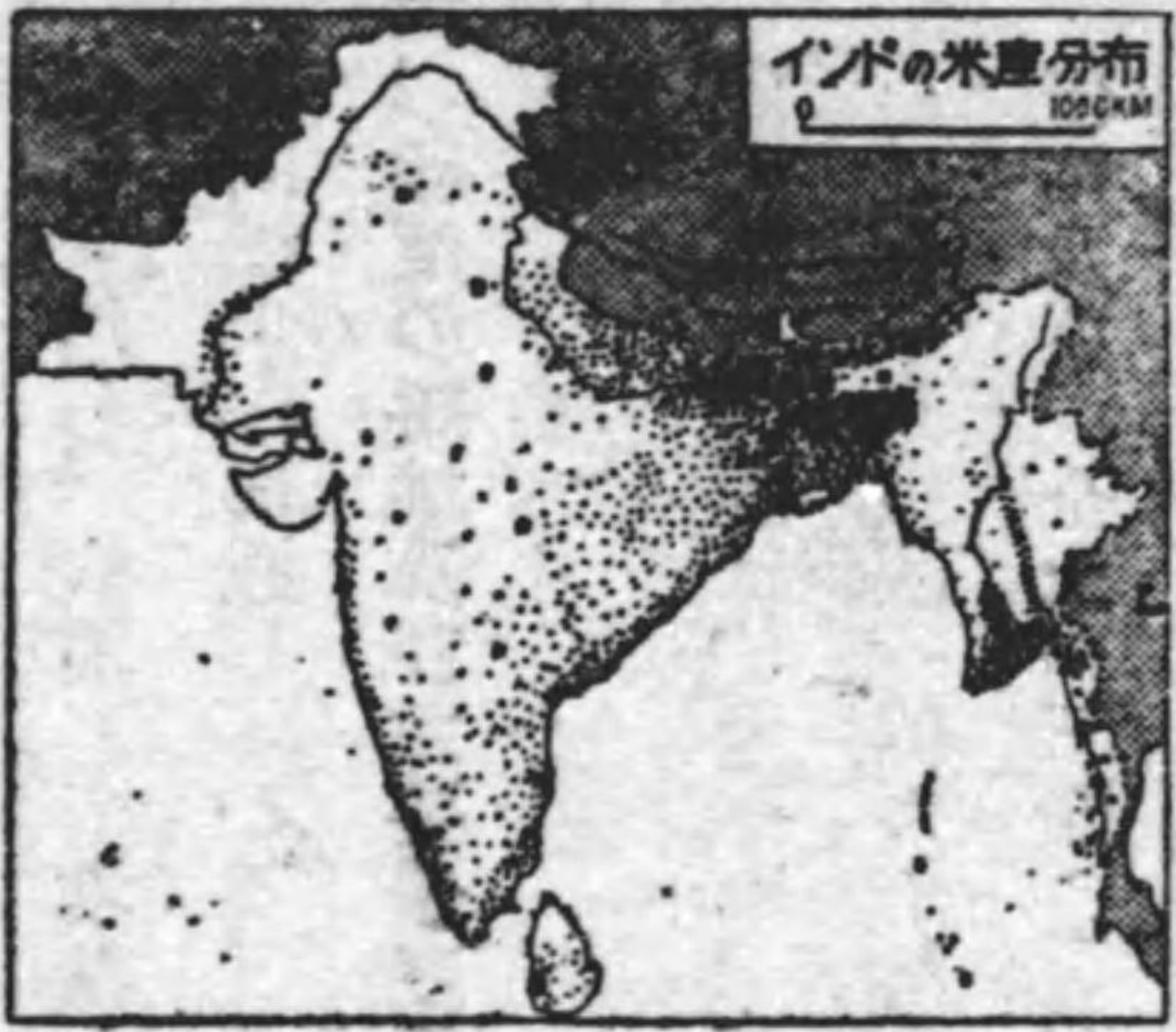
土侯國には沼澤地・沙漠・未測地等が六七・九%に達してゐる。

印度の耕地は茶・椰子・珈琲・規那等の樹木栽培地を含めて大略三〇%と見ることが出来る。氣温は一年を通じて農耕を可能ならしめるが、雨量・人工灌漑等の關係より二毛作を行つてゐるのは全耕地の九分の一程度である。

原則として土地國有で、耕作者は借地してゐるわけである。賣買・抵當は自由である。全國二五、〇〇〇萬(七一%)の農民によつて三四%の耕地が經營されるので、一戸當り耕地は甚だ狭く、〇・八一・二ヘクタール程度で、日本内地に略等しい。冬も耕作が出来、米作の如きも所によつては三回作が行はれてゐるため耕地に對して収益が多い筈であるのに實際は耕地が小さく區分され園耕式で肥料を用ひず、灌漑不充分で一陌當りの收穫が少いため貧農が多い。

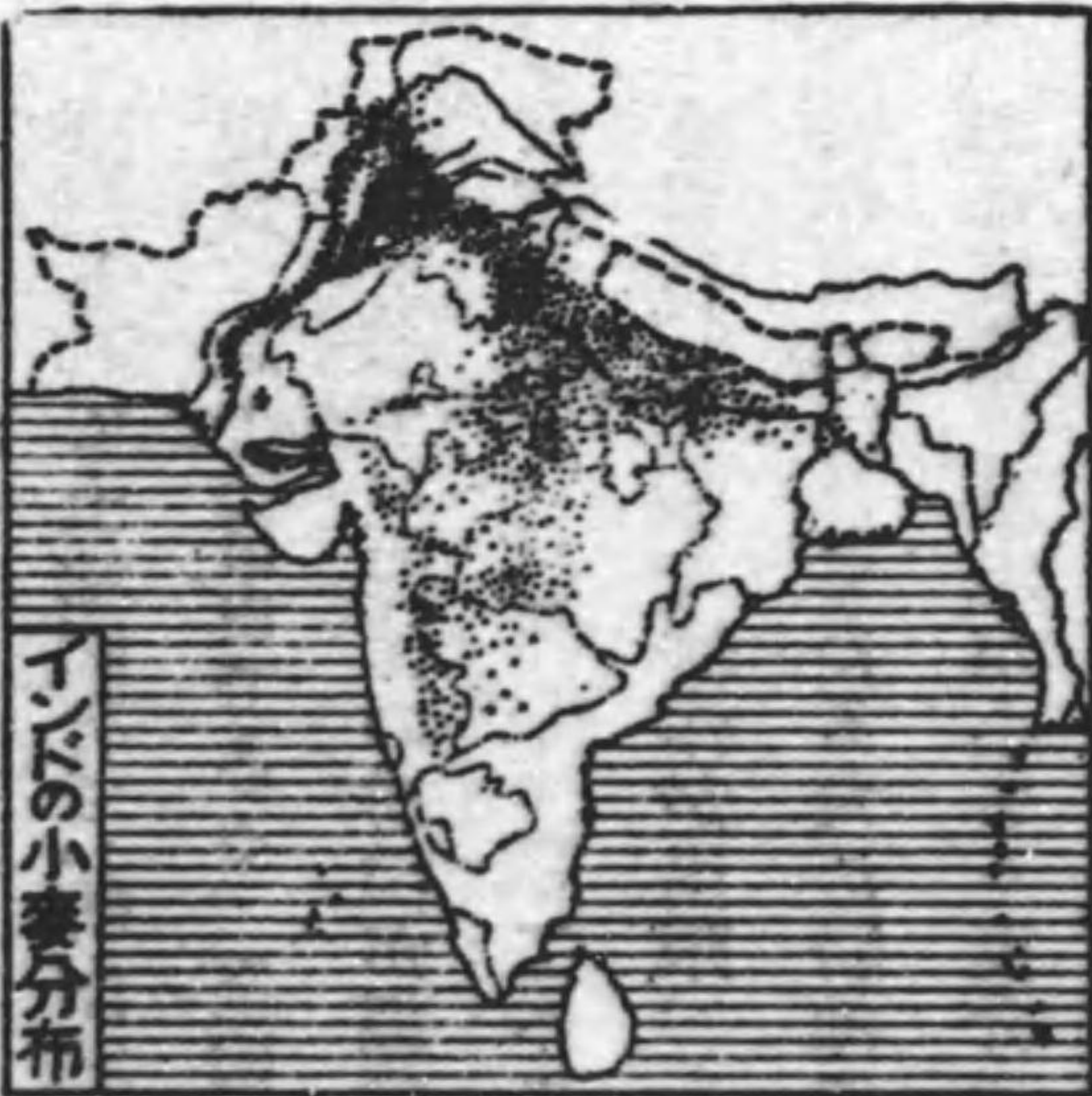
ヒンズー教徒も回教徒も慣習によつて遺産を諸子に分配することゝなつてゐるため耕地は益々狭く区分され、一戸當り面積も小さくなつて耕作には不便を招くに至る。

2. 米、印度は日本・支那と共に世界三大米産國で、一九三六年には四二二九萬噸で世界米産の 1/3 を占めてゐる。而して輸出高は生産の七%、世界第一位に在る。耕作面積は耕地の二五・九%、主要食料なる爲國內の自給に供せられ、輸出される分はビルマより輸入してゐる。水田を用ふる米作はモンスーンの降雨と密接な關係を有し、時に饑饉となることあり、之れを補ふため人工灌溉を必要とし、ベンガル州では米作地の九%、ビハール・オリッサ兩州では略三分の一の灌溉面積を有する。灌溉の便を有する地域では夏米・秋米・冬米の三回作が行はれてゐる。



今振はない。一九三六年の生産は一千萬噸に近く、米・ソ聯と共に世界三大産地である。

3. 小麦、耕作地は全耕地の九%、米に次ぐ重要農産で、氣候上北部に多く、耕地の四〇%は人工灌溉による。パンジヤ・聯合州は生産の 2/3 を占める。小麦は夏季の休閑區域に冬作として蒔くもので三・四月に收穫する。生産の一割を輸出したが、



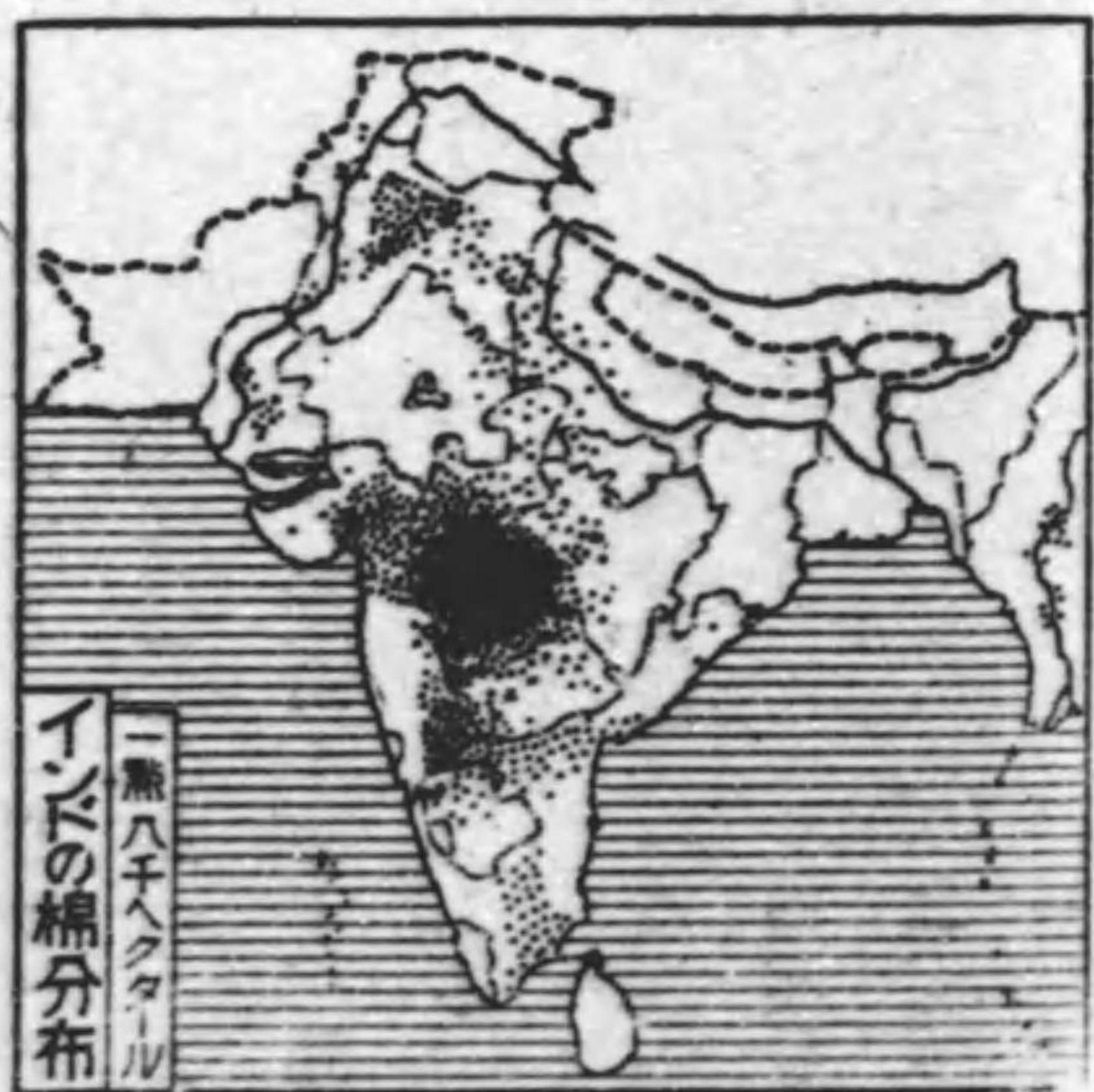
4. 大麥、小麦と同地域に作られる。米・獨・ソ聯・カナダに次ぐ世界的産地であるが、全部國內に消費される。灌溉地域は栽培地の 1/3 に達する。

5. 玉蜀黍 貧民階級の食料となり、家畜の糧秣ともなる。年二五〇萬噸の生産があり國內に消費される。聯合州・パンジヤ・北西國境地方に多く、耕地の 1/6 は人工灌溉による。

6. 茶、アッサム・ベンガル北部・南部印度等高温多濕で、低廉なる勞力の豊富なる地方に作られてゐる。世界産高四七萬噸の約四〇%約一八萬噸を生産し、その九九%が紅茶である。國內消費は極めて少く、生産の八三%(一九三三年)が輸出され、世界市場に重要な位置を占めてゐる。

7. 珈琲 熱帯植物なるため高温多濕を必要とする。温度は一五—三〇度を適當とし、三二度以上及び八度以下は不適である。雨量は年一五〇〇ミリ以上を可とし、過度に亘ることとは不可である。従つて肥沃にして排水良好の傾斜地が最も適地とされ、南部印度のマイソール・マドラス・クールグ等で、その生産は二萬噸、世界生産の一八〇萬噸に比し微々たるものである。

8. 棉花、栽培中高温にして水分の多きこと、育成中降霜なきこと、結實期に乾燥することが必要である。社會的條件としては豊富なる勞力の供給が擧げられる。印度はこの條件に適する地方である。従つて三〇〇〇年の昔より棉花栽培が行はれてゐた。全栽培面積は一、三〇〇萬エーカー、



ボムベイ四二二萬エーカー  
1. 中央州ベラルール四〇〇萬エーカー、マドラス・パンジヤ各二〇〇萬エーカー等が主栽培地區でデカン高原の黒綿土壤地帯がその七〇%を占める。播種は五—二月、收穫は一〇—六月で一年中棉を作つてゐる。産高は一九三七年に一一四萬噸で、米國の二六八萬噸に次ぎ、世界第二位を占める。然し品質が遙かに悪く、耕作法に於ても甚だ劣り、一エーカー收穫は米國では一六二封度であるのに、印度では八七封度に過ぎない。將來品種の改良と相俟つてその栽培にも大いに研究の必要が痛感される。

世界棉花生産	六、八六〇千担(一九三七年)
米國	二、六八六
印度	一、一四四
米國	三九・二%
印度	一六・七%

支那	八四九	一二・四%
埃及	七七〇	一〇・五%
日本(朝鮮)	二四・五	

世界棉花消費高 五、七四〇千疋(一九三六年)

米棉	印棉	埃棉	其他	計	紡績錠數
米國	一、四二八	一〇	一五	三	一、四五六
日本	三七一	三〇〇	二九	三九	七三九
英國	三一七	六九	一一一	八三	五九〇
印度	一六	四七一	一八	三七	五四二
支那	二五	一三	八	二八八	三三四
					五〇〇

9. 黄麻 印度を原産地とするもので、その栽培の歴史は古く、ガンジス流域が主要産地で、耕作地は一九〇萬エーカー、ベンガルを主とし、アッサム・ビハール・オリッサ地方に産し、是等諸地方の産高は全土の九九%を占める。年産一〇品と對立するに至つた。

10. 甘蔗 自然的條件として、夏季高温で平均一六一一八度以上、雨量二〇〇—一四〇〇耗以上にして、收穫期に高温乾燥で日照の充分なることを必要とする。主産地はガンジス河流域の平原と、半島南部のマドラス・ボンベイ・シンド等で、耕作面積三二〇萬エーカーの中人工灌漑をなしてゐるものは二二〇萬エーカー、即ち2/3に及ぶ。産高は世界第一で印度は甘蔗國である。

○萬疋、印度は世界の九九%を占め、世界の黄麻は印度産がすべてである。  
黄麻は品質が粗悪で麻の中最も劣等であるが、低廉なるため穀物・コーヒー・砂糖・茶等の袋に使用され、カルカッタの製麻工場より製品として輸出されるもの七五萬疋に上るといふ。  
甘蔗 自然的條件として、夏季高温で平均一六一一八度以上、雨量二〇〇—一四〇〇耗以上にして、收穫期に高温乾燥で日照の充分なることを必要とする。主産地はガンジス河流域の平原と、半島南部のマドラス・ボンベイ・シンド等で、耕作面積三二〇萬エーカーの中人工灌漑をなしてゐるものは二二〇萬エーカー、即ち2/3に及ぶ。産高は世界第一で印度は甘蔗國である。

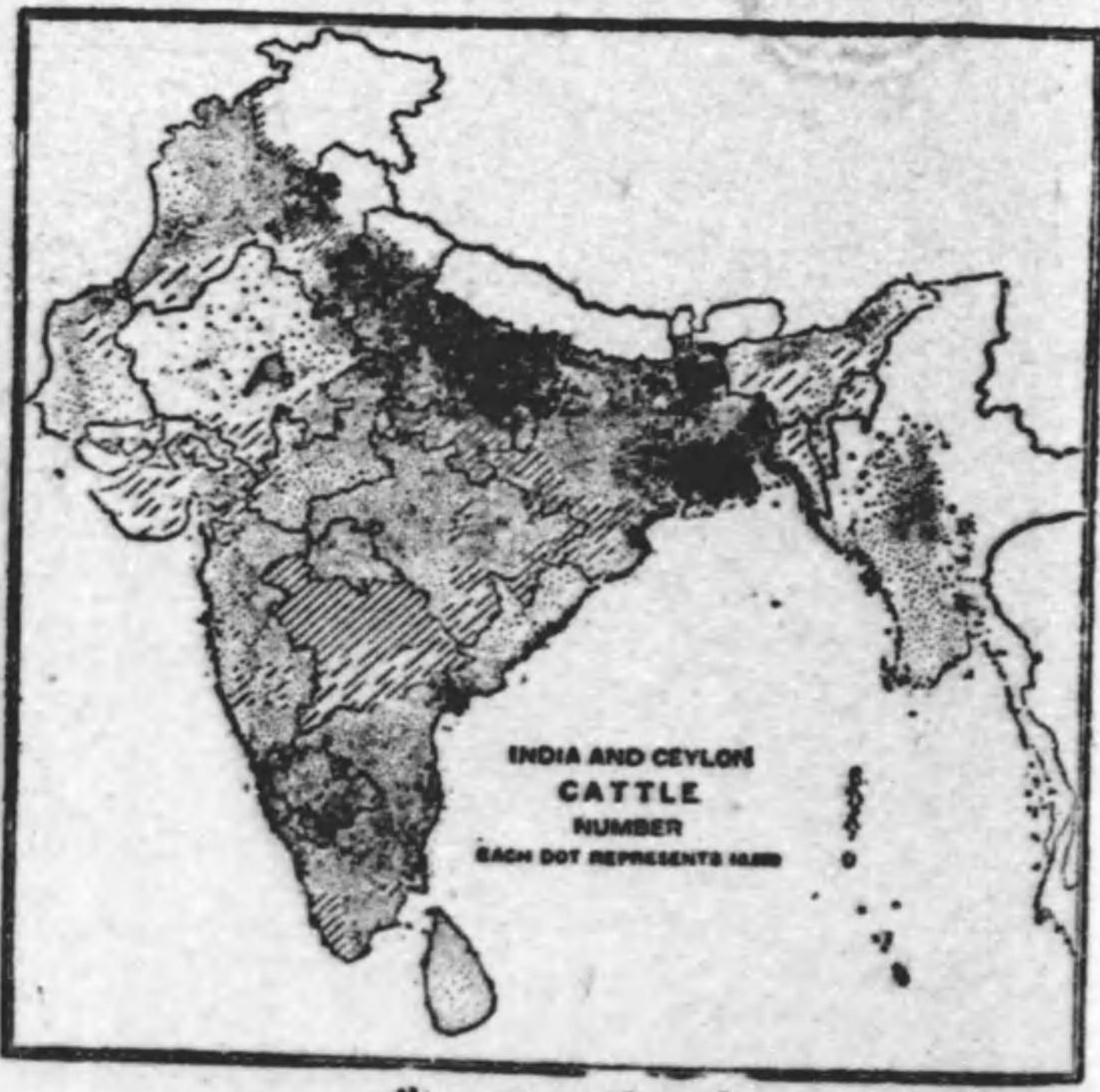
世界甘蔗産高	一八、二七〇千疋(一九三七年)
印度	四、〇九〇
キューバ	二、八二五
蘭印	一、三〇〇
印度	二二・四%
キューバ	一五・五%
蘭印	七・一%

11. 煙草 パンジャブのラホール附近、ボンベイ・マラバル・マドラス附近で、特にボンベイに多い。生産は六三萬疋、米國に次ぎ第二である。

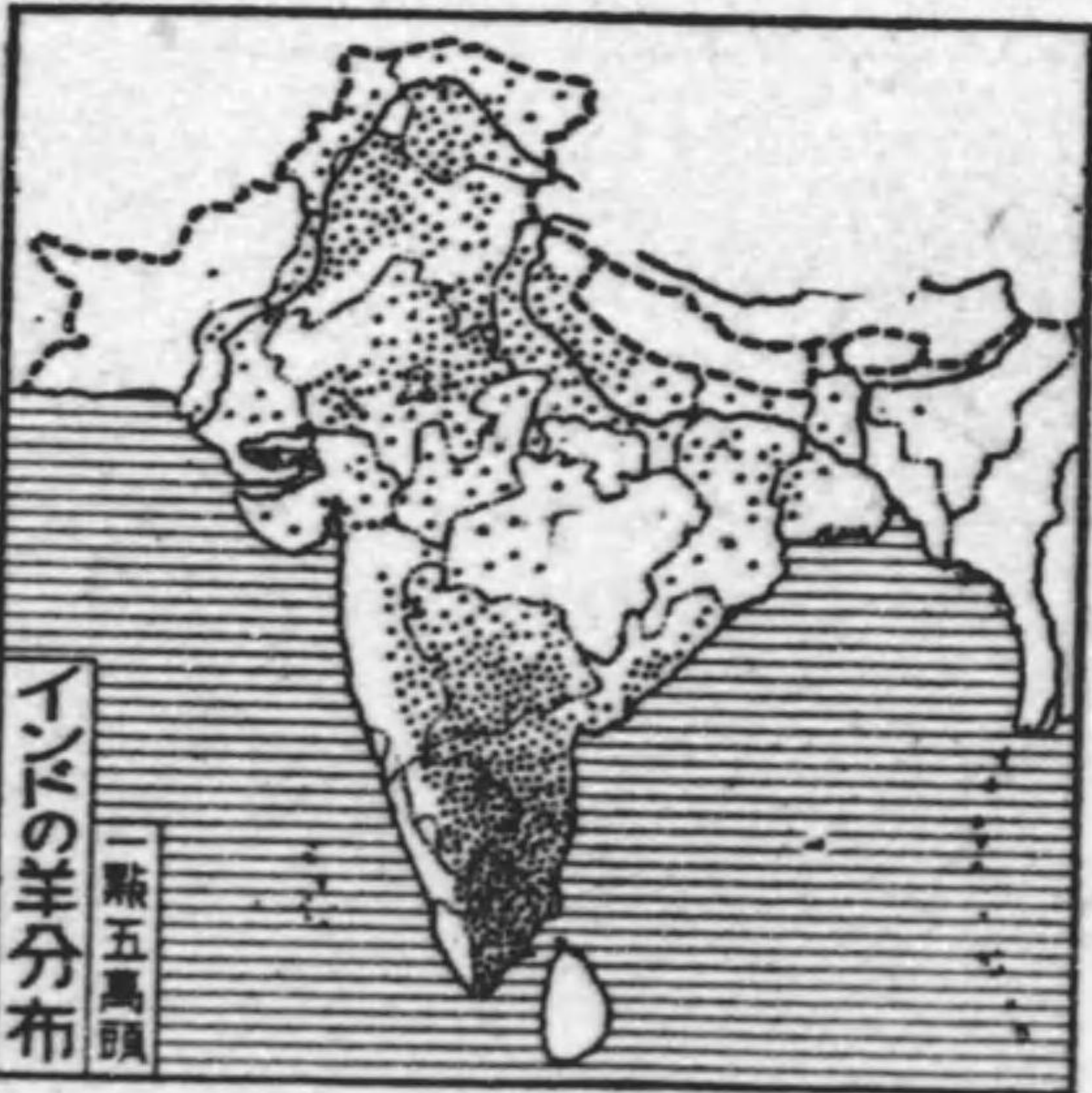
七、印度の牧畜業を説明せよ

1. 特色 印度は農業國である。その農業は小規模に行はれる粗放的有畜農業である。従つて印度の畜産は、滿洲・支那と同様農業の耕作・運搬等勞役用として飼養せられるもので、濠洲・米國・アルジェンチン等に行はれる純然たる牧畜とは頗る趣きを異にして居り、乳・肉・毛・皮等は副産物と見られてゐる。

2. 主要畜産  
イ、牛 役牛を目的とし、宗教上食用に供せられるものは殆どない。牛の數は一億二千萬頭で專業に行はれる米國の六八三〇萬頭を凌ぎ世界第一である。乾燥地を除く全



牛の分布



印度の農業地に飼養され、殊にガンジス流域に多い。  
ロ、水牛 三千萬頭で専ら農耕に供せられ高温濕潤なる地域の重要家畜である。主としてガンジス河流域に多い。  
ハ、羊 牛に適せざる乾燥地の丘陵地に飼養せられる。マドラス・聯合州・パンジャブ・ボンベイ等に多く、全部で二五三〇萬

頭であるが、世界第八位、米國・濠洲等には及ばざること遙に遠い。

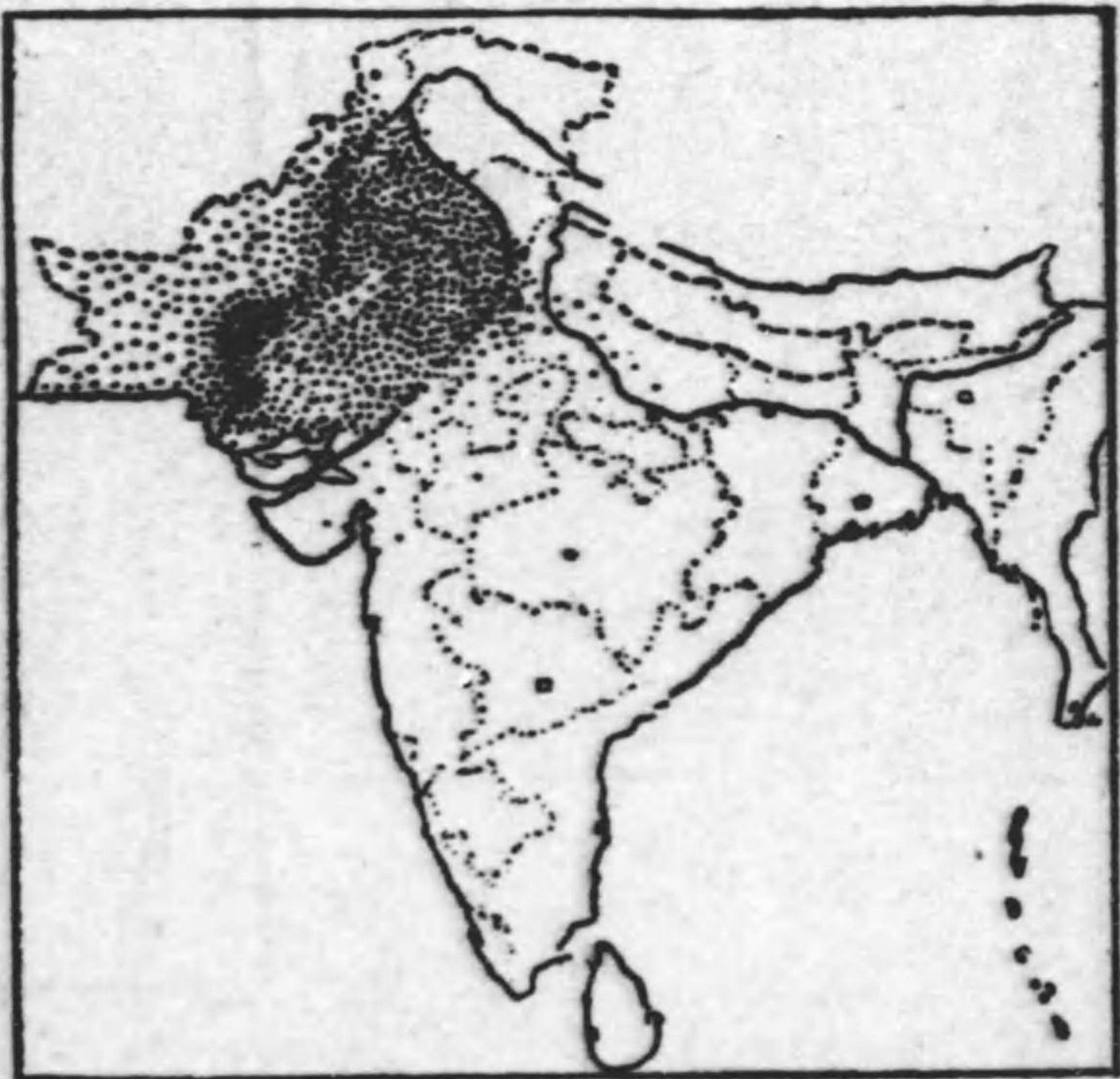
ニ、山羊 羊より粗食で、耐久力に富む故、不毛地や灌木地に飼養せられ、その分布は羊よりも廣い。全國三五六〇萬頭に及び、貧民層は山羊乳を牛乳の代りに用ひ、皮革を賣出してゐる。

カシミヤ種はカシミヤ織の原料として古來有名である。ホ、馬 乾燥せる温帯・亞熱帯に飼はれ、高温・濕潤なるベンガル・マドラス等には全くない。全國一七七萬頭で聯合州・ベンジャブ・ビハール・オリッサ・ボンベイ等に多い、駄獸として荷馬車に用ひられる。

ヘ、騾・驢 粗食に耐へる爲馬よりも不毛地に用ひられる山地の駄用に供せられ、又軍事上にも使用してゐる。

ト、駱駝 沙漠の舟として知られる。印度でも乾燥地の勞役、駄用に供せられ、その數は五三萬に達し、北西部乾燥地方に多く飼養せられる。

チ、象 比較的温順でよく馴れるため家畜として飼養され



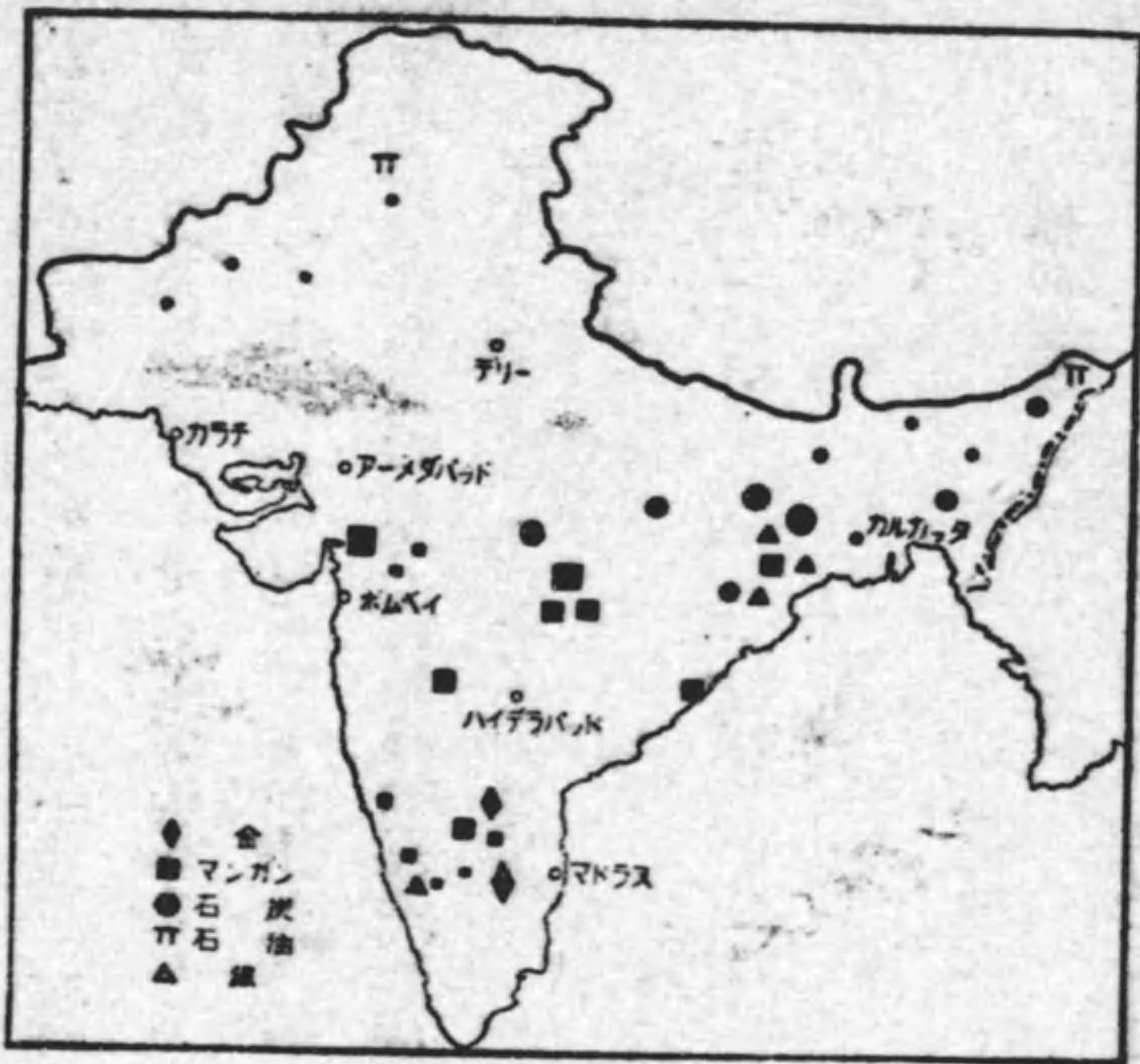
駱駝の分布

てゐる。森林地方の駄用乗用に用ひる。ビルマにて捕へるものが多い。3. ヒンヅー 教・回教

に於ては肉食を禁じ、豚は不淨なるものとして全然飼養されてない。農業に於ても畜糞を肥料に用ふることは不潔なるものとして行はれてゐない。これ、印度の農業の實績が擧らぬ一原因となつてゐる。印度が世界の畜産國として知られて居りながら、その内容に到つては自然・人文の制約を受けること著しく、他の諸國と異なる點が少くない。

ハ、印度の鑛産は有望なりヤ

印度は廣大なる領土を占めてゐても鑛産資源には餘り恵まれて居らない。従つて採掘・精練・加工等を目的とする鑛業も發達せず、鑛産國としては世界に重要な地位を占めてゐるとは云はれない。年百萬磅を越えるものは僅かに石炭・滿俺・金の三種に過ぎない、鑛業従業者も總人口三五〇〇〇萬の中僅かに二〇萬人に過ぎず、鑛産額も二五〇〇萬磅である。近年世界的資源開發の波に乗じ相當に開發が進み輸出も増加し



て來たが、將來、新なる發見と技術の進歩とによつて益々發展するであらう。  
1. 金 主要産地はオリッサのシングブーム、マ

ドラスのアナタプール、マイソールのコラル等である。この中コラルは印度金産の九九%を占め、埋藏は四三萬噸と稱せられる。現今従業員一九、〇〇〇人で産金高は三二・九萬オンスで二五〇〇萬留比に達する。

2. 鐵 主産地はオリッサのケオンジャール・メイウルバンジ・プリー・サムバルプール・シングブーム・マイソール・マンガレー等である。重要なものはメイウルバンジ・シングブームで、何れも赤鐵鑛・鏡鐵鑛・磁鐵鑛で、外に花崗岩・片岩の風化によつて地表に成立した原地堆積鑛床もある。埋藏は三〇億噸であるが、その産出高は  
一九一八年 五〇萬噸 一九二五年 一五五萬噸  
一九三〇年 一九〇萬噸 一九三五年 二二六萬噸

年を逐うて増産の傾向に在る、此の分ならば將來は有望である。

3. 石炭 埋藏量は約七九〇億噸と推定せられてゐるが、ベンガル炭田が最大である。ベンガル地方の炭田は埋藏七八〇億噸、全國の九九%を占め、産炭高も全印度の九〇%に達



する。ゴンドワナ系に屬し、二疊と三疊を代表し、下層に多量の石炭を埋藏するため重要視されてゐる。東部地方は何れも之れに屬してゐる。その他の炭田は第三系に屬して各地に散在してゐる。産出量は逐年増加して來てゐる。

一九一五年	一七二〇萬噸
一九二〇	一八〇〇
一九二五	二一〇〇
一九三一	二〇二〇
一九三五	二三〇〇

州別産高 (一九三四年)

ビハール・オリッサ	一、二三二萬噸
ベンガル	六一五
中央州	一四三
アッサム	一八

是等の石炭はセイロン島・香港・マニラ・シンガポール・フィリピン等に輸出され、一九三二年には輸出量五二萬噸に達した。然し、國內消費が盛で、不足を告げ、濠洲・日本・英本國・東阿等より五萬噸位輸入してゐる。

九、印度の貿易の發達につき考察せよ。

印度と歐洲との貿易はローマ時代に始り、陸路より行はれてゐた。アレキサンダー大王の攻略により一時中絶の形となつたが尙印度の物産は西部アジアを通じて歐洲に取引されてゐた。

1. 一四九八年ヴァスコ・ダ・ガマが印度に上陸するや再び歐洲との取引が開かれ、一五一〇年には葡人がゴアに進出し、一六〇〇年には英國の東印度會社が設立され、女王の特許を得て、ムガル帝國と條約を締結し、有力なる地位に於て貿易を行ひ、スラートに根據地を置いた。而して、一六〇二年にはオランダ東印度會社も出來た。英國東印度會社は一六六八年に葡人よりの西岸ボンベイを得、スラートに代へて、此處を貿易の根據地となすに至つた。

2. 一六六四年にはフランスの東印度會社が設立され競争的地位に立つたが、英國の勢力は絶大にして殆んど獨占的利益を獲得してゐた。一六八五年モガール帝國との關係悪化し干戈を交へたる爲、商館は戰禍を蒙り、續いて佛國と干戈

4. 滿掩 歴史は古く、既に五〇年前より採掘されてゐた。世界のマンガン産國と稱せられ、中央州・ボンベイ・マドラス州に多量に出し、この三地方で四分の三を占める。鑛石は高原のダルウアーの岩石中に最も多く分布してゐる。含有量五〇―五四%、一九二七年に一一五萬噸の産出を見たがその後低下し、一九三五年には三八・五萬噸となつてゐる。

5. 寶石 印度は寶石に恵れ、ダイヤモンド・紅玉・青玉・銅玉・電氣玉・柘榴石・水晶・瑪瑙・玉髓・硬玉・琥珀等を産出し、中央印度諸州に多いが、その量は極めて少い。

6. 石油 東部アッサムと、西部のパンジャブ・ベルチスタン地方に出る。前者はジャヴァ・スマトラ・アラカン・ビルマより連續するもので、後者はイラン・イラク油田に續くものである。何れも第三紀の始新期及中新期の砂岩中より湧出する。

アッサムのデイグボオイ油田が最大で年産四五〇〇萬ガロン東部油田を合して五五〇〇萬ガロンに達する。西部ではパンジャブのアトックが最大で年産七六〇萬ガロンである

を交ふるに至り、貿易は中止の形となつたが、モガール王朝が衰へ、佛國勢力が撃退さるるや、同會社は本國の武力應援を得て積極的に進出し、貿易と共に、政治的の經營をなすに至つた。かくて本國政界の問題となり、實權は英國政府に歸し、一八七三年會社は解散せられる運命となつたのである。

3. かくて英國は全印度を支配し、その經濟的利益を獨占するに至つたが、廣大なる領土に藏する豊富なる資源と老なる住民の購買力とは共に列國の注視する處となり、列國は積極的に印度に進出し、英國の勢力圏内に喰ひ込んで來たこの傾向は歐洲大戰前より著しくなり、殊に大戰中英國勢力の停頓に乗じ愈々増大して來たものである。かくて近年印度に於ける英國の優越性は漸次減退しつゝあり。

その主要なる原因は、  
 (一) 印度の貿易保護政策 印度は在來の自由貿易主義を放棄し、一九二三年保護政策をとることゝし、自主的關稅を採用、國內の製鐵・綿業保護のため、鐵・綿絲・綿布類に

従價税を課することゝした。  
 (二)印度に於ける工業の發達 一九一七年軍需局を設け、國內工業の近代化・指導獎勵に任じ、各種工業が勃興するに至つた。

(三)列國の投資増加 在來英國資本の獨占舞臺だつた印度に、米・獨等の資本が侵入し、或は英人によらざる貿易會社の設立を見るに至つた。

(四)印度の直接貿易 在來印度商品はロンドンに於て仲繼さるゝを常とした。然るに近年は、ロンドンに無關係に直接取引が行はれてゐる。

(五)日本の進出 英國よりも近き位置に在る日本が印度棉と日本綿製品との交換を行ふ結果、ランカシャーは衰退し、その他日本の著しい工業の發達は印度の原料品を利用するに積極的である。

(六)對英反感 從來の反英運動は近世の民族運動に刺戟され、一九二一年非協同團體反英運動、一九二三年印度國民會議の英貨不買運動、一九二八年英貨排斥運動等排英

紅茶	一一%	棉花	六%
黄麻	八%	鐵鋼製品	四%
ガンニー布	八%	人絹	三%
ガンニー袋	六%	コールドール・染料	二%
その他	四九%	その他	七八%

イ、棉花—米・埃及と共に世界の三大産地、生産の四五%は國內に消費し、残りの五五%を輸出し、英本國・日本・伊・獨・佛・白等に向けられる。品質は米綿に劣るが、その製品は又印度に輸出せられるものである。

ロ、黄麻及製品—黄麻の輸出は英國及獨に最も多く、前者は二三%、後者は二二%餘である。ガンニー布は米國がその五七%、ガンニー袋は濠・英に多い。

ハ、綿製品—國內綿工業が、國內需要を充たすに至らず、多量の綿製品を輸入し、一部は西藏・アフガニスタン・イラク等に再輸出するものである。もとは英國品が獨占してゐたのに日本品の進出に壓迫せられるに至り、一九三七年四月、日印會商によつて、日本綿製品の輸入量を三

氣分は一般民衆に及び、印度獨立運動と共に英國にとつては重大なる政治問題となつて來た。

4. 最近の印度貿易

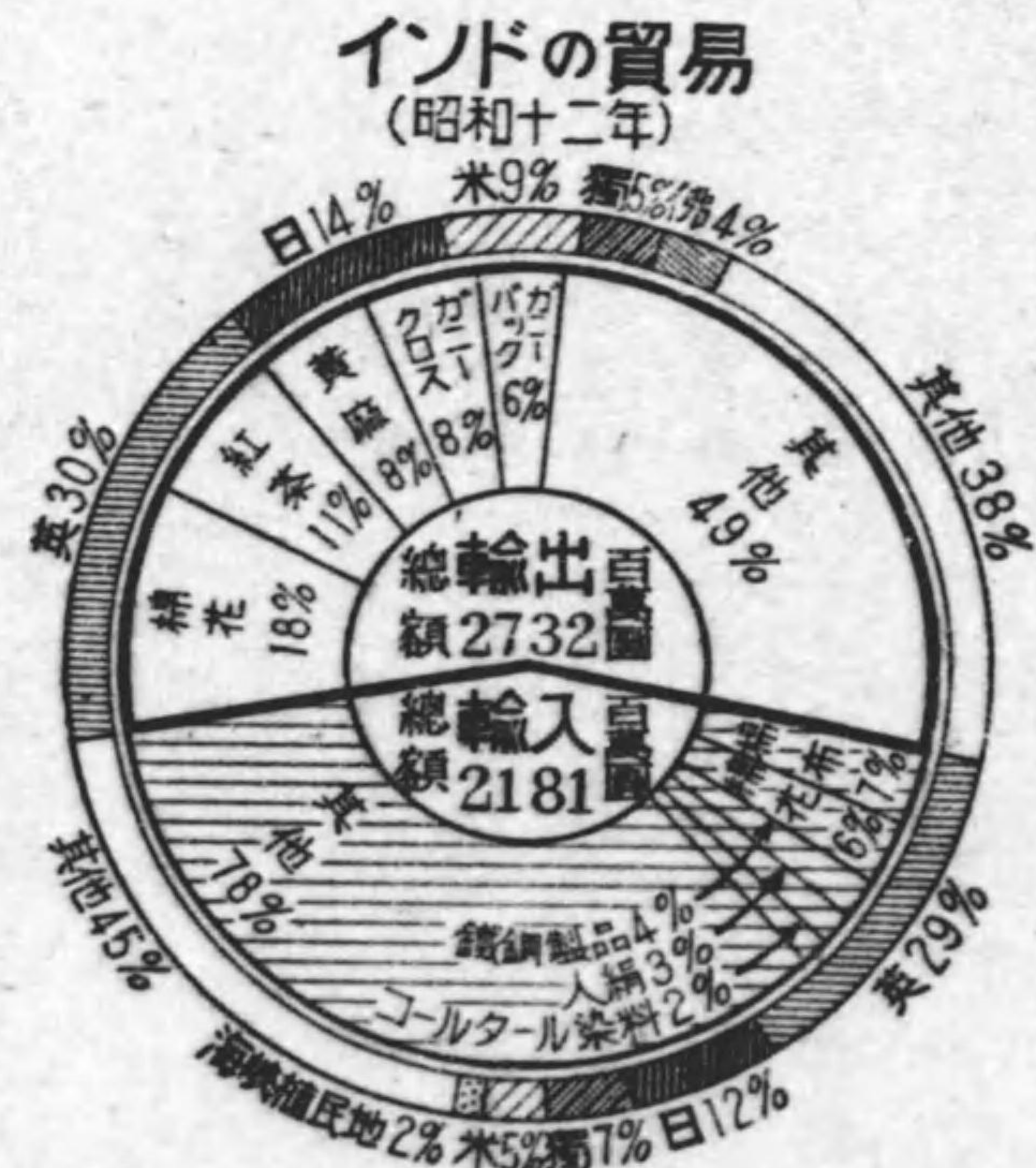
印度は肥沃なる平原高臺を有し、その廣大なる耕地には米・茶・煙草・黄麻・棉花等世界的農産を出し、國內需要を充して海外に輸出してゐる。國內工業は近年漸次勃興の氣運に達したるも、英本國の製品と利害相反せぬ程度に制限され、カースト制度の嚴守は職業の世襲に甘んじて轉業を許さぬ關係上、印度は依然として原始産業の域を脱することが困難である。黄麻工業・綿工業以外は見る可きもの少く、他の製品の大部は國外に仰いでゐる。

而して豊富なる資源の開發が行はれつゝあるが、國民の生活程度は低く、原料・食料品の輸出に比し輸入の少きは植民地貿易の例に倣ひ、印度貿易の一特徴と見る可きである。

輸出	總高 二、七三二萬圓	輸入	總高 二、一八一萬圓
棉花	一八%	綿布	七%

五、八〇〇萬平方碼に協定し、その中生地金巾は約四五%を占めてゐる。  
 ニ、絹布—一般人は綿布を使用するため絹布は主として上流社會に用ひられてゐる。従つて輸入高は少いが、その九〇%は日本品で占めてゐる。

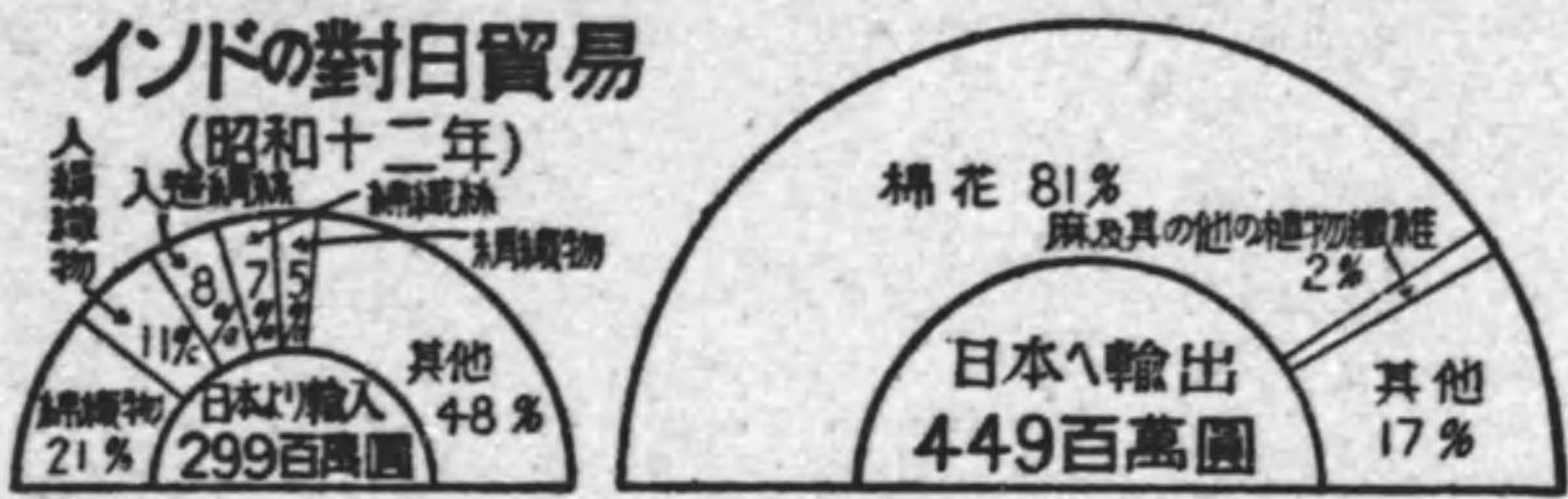
5. 貿易相手國 (一九三七年)



英國は經濟ブロック形成上、最も有利な位置に在り、輸出共第一位を占めてゐる。日本は印度に近く地理的位置が

有利であり、近年の綿業發達に伴ひ印棉を輸入し、綿製品を輸出して求償主義が實現し得る情勢に在つて急發達をなし、第二位を獲得してゐる。

印度は一九三〇年木綿機業保護法を出し、逐次關稅を値上げした。一九三二年に於ては、綿絲は英國品は從價五%其他は六・二五%、綿布は英國品二五%、外國品五%として差別を附して極力外國品を抑制したが、日本品の進出が實に著しいため、一九三三年日印通商條約を破棄し、日本綿布のみ從價七五%の禁止的輸入稅を課することゝなつた。日本紡績業者は報復手段として印綿不買を決行し、茲に關稅戰に入つた。よつて一九三四年日印協商が成立し、關稅を外國並に下げ、日本綿布の制限を行ひ、同時に印棉輸出との均衡をはかる事とし、最大四億平方碼まで日本綿布の輸入を認むることとした。これが第一回日印會商で、一九三七



年まで行はれ、同年第二回會商によつて、前記の如く三五八〇〇萬平方碼を限度として日本綿布の輸入を認むることゝなつたのである。

日印貿易高 七四八、八五三萬圓 (一九三七年)  
日本より印度へ 二九九、三六七 印度より日本へ 四四九、四八六

綿織物	六三、〇四一	棉	花	三六三、六三五
人絹織物	三二、四六六	麻及植物纖維		八、三四四
人造絹絲	二二、一五四	皮革類		五、七五三
綿絲	一九、八四六	豆類		三、二三四
絹織物	一三、八三八	採油原料		二、四五九
毛織物	九、八八四	油粕		一、九四三
生絲	八、四六〇	生ゴム		三四三

### 一、印度の人口密度

面積四〇〇萬方呎の印度に居住する民族は三億五千萬人、一方呎の密度は七五人である。北部の山地西部の乾燥地及び南部の熱帯森林地には居住は困難にして、印度大平原及びデカン高原の生産豊かなる地方には密度が大である。

### 4. 印度の人口増加

過去六十年間の人口増加は一億五千萬に及んでゐるが、昔釋迦の時代より多くの人口を擁して居り、その後領土も増加し、諸民族の侵入を見た印度としては自然増加そのものは決して多くはない。

年	人口	増加數	増加率
一八七二年	二〇、六〇〇萬		
一八八一年	二五、三八九萬	四八〇〇萬	二三・三%
一八九一年	二八、七三一萬	三三四二	一三・二%
一九〇一年	二九、四三六萬	七〇五	
一九一一年	三一、五一六萬	二一七九	七・五%
一九二一年	三一、八九四萬	三七九	
一九三〇年	三五、二三七萬	三三四三	一〇・五%

2. 人口の稠密なるはガンジス流域及び東海岸マドラス附近、西岸のボンベイ以北の地で、一方呎二〇〇人以上である。



七%、藩王國には八〇〇〇萬、人口の二三%に當る。

尙都市に居住するものは三九〇〇萬で一%、地方に居住するは八九%となり、大部分は農村生活者である。

### 3. 職業構成より見れば

農牧業者 七三%  
 礦業者 〇・一七%

一九三五年 三七、〇五〇萬 一八一三 五・一％  
 最近十五年間の人口増加は人口千人につき一〇・二一一〇・五人で  
 日本(一四・八人)に比すれば小であるが英國(三人)の三倍以上に  
 達する。年々人口増加率は漸減の傾向を辿つてゐる。

人口増加減少の理由

イ、早婚によつて嬰兒の死亡率が大であり、女子の死亡も亦多い  
 ロ、飢饉 農民は七三％で、國民が農業への依存性は大である。  
 従つて飢饉による生活難は國民の大部に影響する。

一七七〇年の飢饉は一千萬の人口を失ひ、一八六五―一六六年の時  
 は一五〇萬人、一八七六年―一九〇〇年の間に死者二三七四萬  
 を出してゐる。

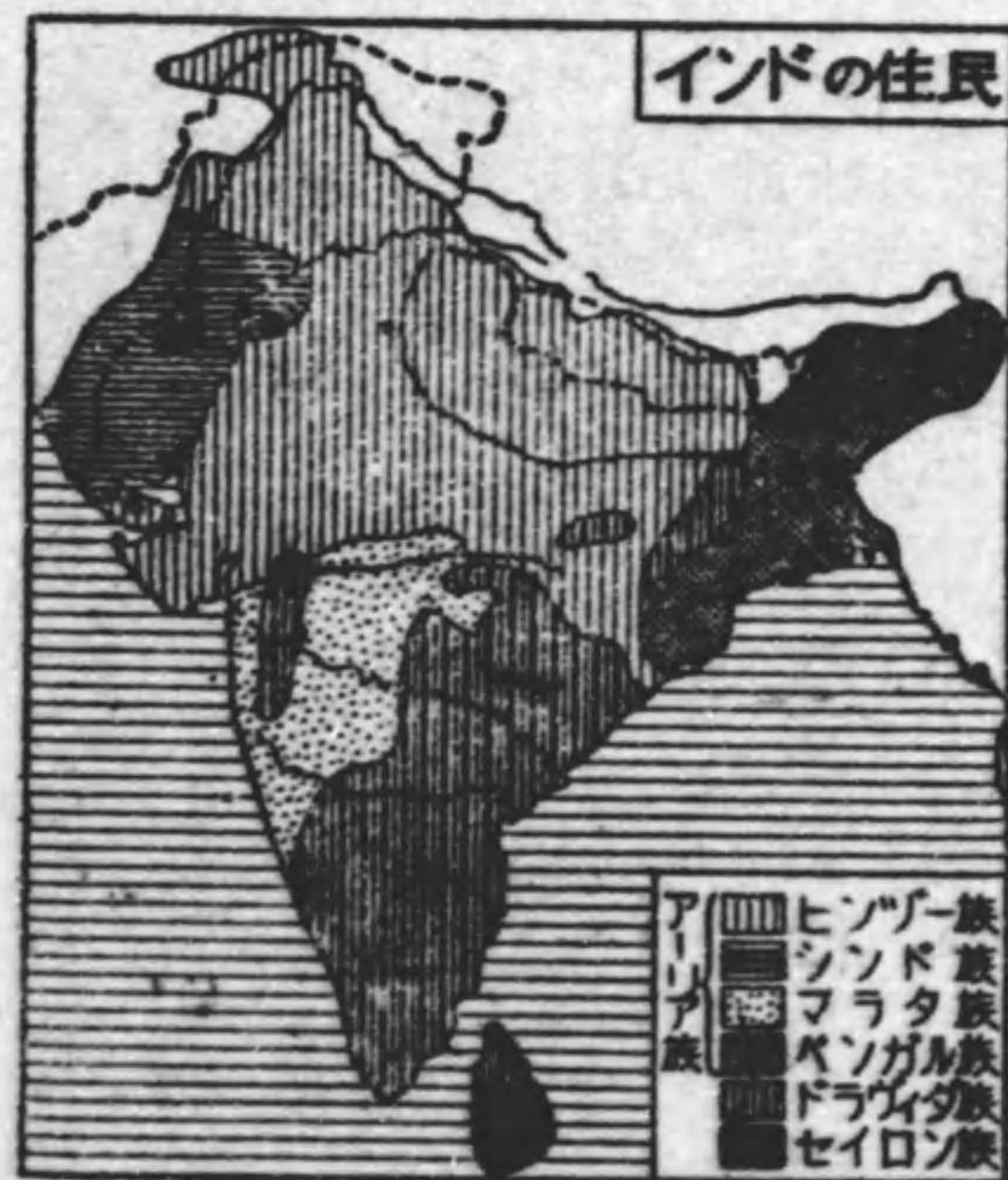
ハ、傳染病 一八六九―一八七一年ベンガル地方のマラーリアは二百萬  
 の死者を出し、一八九六―一九二〇年ボンベイ・パンジャブ・聯  
 合州の疫病に於ては死者一千萬以上を出したといふ。一九一八  
 年六月より翌年二月まで八ヶ月間の短期に發生した流行性感胃  
 は全印度を襲ひ一三〇萬の死者を出したといふ。

ニ、風土病 平時の人口増加を妨げるものは風土病のコレラ・マ  
 ラリアである。一九一―一九二一の十年に前者は三五〇萬、後  
 者は一〇七五萬の死者を出してゐる。

二、印度の住民

印度は廣大なる地域に多くの民族が混合し、他に類を見ざ  
 る程の複雑を極めてゐる。即ち海岸島嶼族の居住地域に、北  
 東より蒙古人種、西部よりイラン族、北西よりアーリア族が  
 侵入し、混血して、實に雑多な民族が混淆して居住すること  
 となつた。

1. ドラヴィダ族 全印度に占據してゐたものであるが三五〇  
 〇年前中央アジアよりアーリア族が侵入したので半島の最  
 も不毛地なる東南部に後退した。ガンジス河沿岸よりマド



ラス・ハイダラバ  
 ード・中央州・中央  
 印度・ナグプール  
 一帯に居住してゐ  
 る。皮膚は黒く、  
 頭が長く扁平な鼻  
 を所持して居り、  
 生活は低い。アー

リア・モンゴリアとの間に雑婚が行はれ混血も非常に多い。  
 昔よりスードラとしてアーリア族と區別されてゐる。

2. インドアーリア族 三五〇〇年前中アジアよりドラヴィダ  
 族の故地を侵略した民族で地中海種族とも關聯をもつもの  
 と考へられてゐる。ヒンヅ族とも稱し、パンジャブ・ラ  
 ジプタナ・カシミール等に居住してゐる。細長い顔、高い  
 鼻、丈高く皮膚は淡褐色である。

3. アーリア・ドラヴィダ族 ガンジス河流域、ジムナ河流域に  
 多く居住し、インドアーリア族とドラヴィダ族の雑婚によ  
 るもので上流のものはアーリアに近く、下流の者はドラヴィ  
 ダに近す。

4. モンゴル族(蒙古) 東部ヒマラヤ山脈を越えて北方より侵  
 入したもので、プラマプロタ河谷、ビルマの諸河谷を利用  
 して移動し來つたものであらう。ヒマラヤ、ネパール、ア  
 ッサムの土人である。廣頭、暗黒色で稍黄色を帯び、鼻低  
 く顔も扁平である。

5. モンゴルドラヴィダ族 蒙古とドラヴィダの雑婚によるも

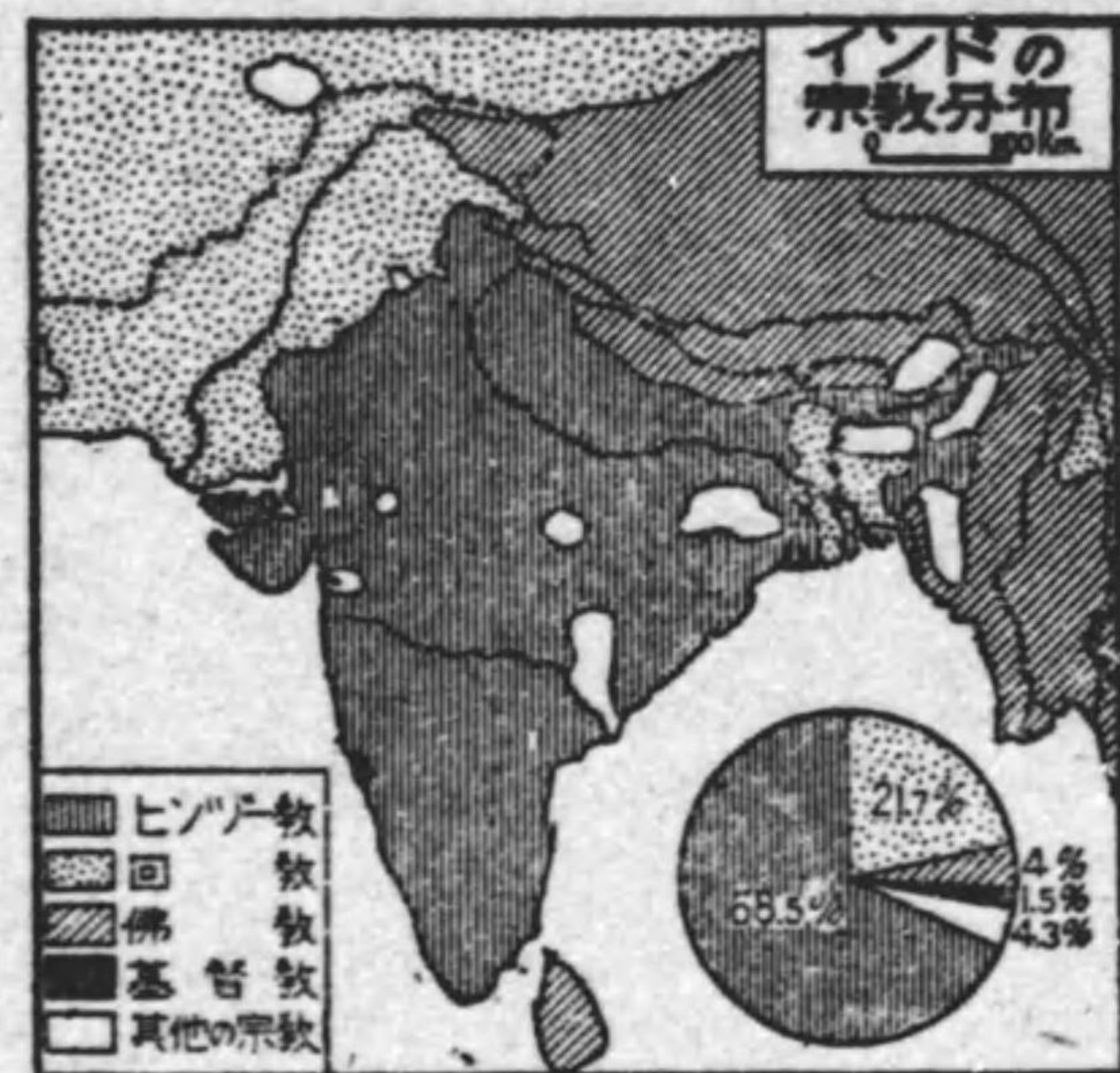
ので、一名ベンガル族とも稱し、ベンガル・オリッサ等に  
 住む。バラモン及回教徒で上流にはアーリアの血を混へた  
 ものも。

6. スキトドラヴィダ アーリア族の後に中アジアより印度に  
 侵入せるスキチャ人はアーリア族の占據せる地域の南に進  
 出し、ボンベイ附近の黒土帯に居住し、ドラヴィダとの雑  
 婚が行はれるに至つた。パンジャブよりクルグに至る西  
 海岸地方に多くマラータブラーマン・クンビス・クルグ人  
 等と稱せられ、丈低く、頭長く、鼻が短い特徴を有する。

7. トルコイラン族 トルコ族とイラン族との雑種で、西北邊  
 境地方、ベルチスタン、アフガニスタンに住む。パロチ・  
 プラフイ・パタン(アフガン)等である。身長は他の種族よ  
 りも高く、色白く鬚多く、廣頭、鼻は細く高い。

三、印度の宗教

宗教の國印度には、三億五千萬民衆に幾多の宗教が行はれ  
 それが政治經濟を著しく制約して居る。その昔宗教の力で  
 發展した印度は、今宗教によつて衰へて行くとも見られる。



の中にバラモン・プラマサマージ・アリアサマージ等の教會がある。

(一)セム系のもは回教・キリスト教・ユダヤ教がある。  
(二)イラン系の拜火教、印度固有の原始教もある。

印度教	二五〇〇〇万人	七・四%
回教	八〇〇〇〇万人	二二・八%
キリスト教	五〇〇〇万人	一・四%
その他	一五〇〇〇万人	四・六%
(拜火教)	一〇〇万人	

昔よりヒンズー教對回教

の對立問題は殆んど印度を二分するかの感さへ抱かしてゐる。

1. 主なる宗教 (一)アリア系のもは印度教、シーク教・ジャイナ教・佛教等で、更に印度教

2. 分布

イ。印度教徒は印度中部のヒンドスタン平原及南部を占める。マドラス州は八八%に達し、ベンガル・ビハール・オリッサ・聯合州・中央印度・ラジプタナ・ボンベイに多い。ロ、回教徒は北西國境州・カシミール・パンジャブ・ベルチスタン・シンド・東ベンガルで、主として北西部に優勢である。

ハ、佛教 ビルマに多く、印度には極めて少い。  
ニ、シーク教 パンジャブに多く、ジャイナ教はラジプタナ・アジメルに多し。

ホ、キリスト教 全印度に散在するも特に南部に多い。  
ヘ、拜火教 ボンベイ市及附近に住む。

ト、原始教 これはドラヴィダ族の間に行はれ中部高原及びデカン高原の山間に多い。

3. 印度教(ヒンズー教) 今日の印度教は、古代の婆羅門教より來れるもので、種々の分派が生じてゐる。今より三五〇〇年前、アリア族が中央アジアより北西國

境を越えて印度に侵入し、インダス河流域に定住するや、

所謂ヴェダ Veda 時代が始まる。リグ・ヴェダによると、當時の宗教は自然崇拜で、雨の神インドラ Indra 火の神アグニ Agni 太陽スルヤ Surya を信奉してゐた。

ヴェダ(吠陀)時代は次に婆羅門時代にうつる。この教義はマヌ法典に記述されてゐる。アリア族にはブラーマン・クシャトリア・バイシャの三社會階級 Caste があつたが、ドラヴィダ族を征服してから之れを奴隸として四階級を作り、その職業を世襲してゐた。

僧侶ブラーマンの宗教思想は新しく、天地最高の神は梵天で萬物は之れより生じ、すべての物は梵天の靈を有し、その靈はたえず輪廻するといふのが根本である。教義は極めて單純であつたが、儀式・祈禱・沐浴等次第に複雑となり、人間が梵天に復歸するには難行苦行を必要とするといひ、犠牲を強要するに至つた。僧侶はソマ酒を神に捧げて享樂に耽つた。そしてカーストにより自己と民族の地位を維持するにつとめた。アリア族は宗教の力で社會と民族を守

つたものである。

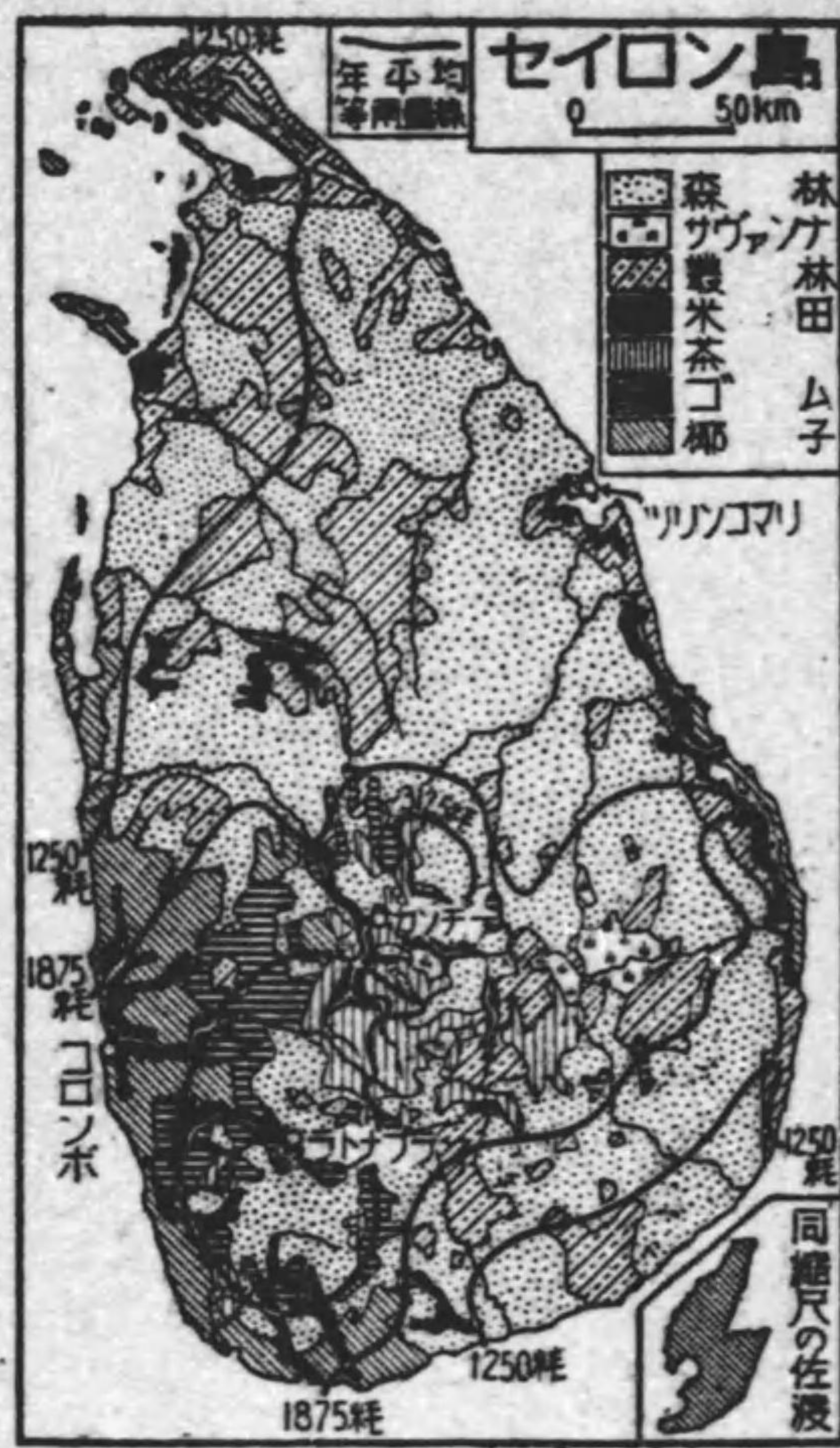
この時、釋迦が現れて、人間の平等を説き、人は信仰によつて救はれるものなる事を唱へて、階級思想を打破したのでその佛教は一時印度を風靡した。

バラモン教は佛教の長所を採り入れ、慈悲・博愛・殺生禁制を教義に加へて今日の印度教を形成し、全智全能の神ブラーマを認めてゐる。而して、ブラーマに關聯して多くの神を造り、多くの偶像を有つてゐる。そのため地方的に信仰の對象を異にし、不統一・複雑なるものとして了つた。現今、カーストの嚴格と、分派の雜多とは、國家不統一の原因となり、職業の世襲は産業の發達を阻害してゐる。

四、セイロン島

1. 北緯五度五分より九度五〇分に亘り、その面積は六五、六〇〇方浬、北西部はボーク海峡・マナール灣を隔てて印度半島に相對し、マナール島より印度のラメスワラン島まで珊瑚礁により連續し、所謂アダム橋をなしてゐる。

2. 全地域が熱帯圈内に在り、高温と濕潤とを特徴とする。印



度半島特有のモンスーンが、夏季と冬季とに來襲し、夏期の南西季節風の時は五月より九月まで本島の西南海岸に多量の雨を降らせ、コロンボには五月に三四〇ミリの降雨がある。冬季、北東季節風の時は本島の北東岸に多量の雨を降らせ、ツリンコマリーに於ける十一月の降雨は三四〇ミリに達する。概して雨量が大で気温の較差が少く、熱帯性の特質を有してゐる。

	年雨量	年平均気温
コロンボ	二二二一ミリ	二七・五度
ツリンコマリー	一五六九ミリ	二七・七度

3. 耕作景觀

イ、茶 五〇—一五〇〇米の高所で、雨量二〇〇〇ミリ以上の斜面を利用して栽培せられてゐる。面積五五・七萬エーカー、年輸出量は一〇萬噸に達し、印度の一四萬噸に次ぎ世界第二である。

ロ、ゴム 中央山地の西斜面七〇〇米以下の山腹に栽培せられ、年雨量二〇〇〇ミリ程度を適地としてゐる。年産五・五萬噸に及ぶ。

ハ、椰子 五〇〇米以下の低地で、二二〇〇—二三〇〇ミリの雨量のある地域に栽培されてゐる。本島に於ては主として夏季モンスーンの降雨地に多い。一一〇萬エーカーの面積を有し、コブラ・椰子油に作られ、纖維は綱・マツト・椰子絲等に用ひられる。

ニ、煙草 全島各地に作られてゐるが、北部に殊に多く、ヤフナは良質のものを産し、又中部のカンディー地方に出るダムバラ煙草は高級品を以て知られる。

ホ、米 本島の主要農産で、耕地面積は八・五萬エーカー、

年産約三〇萬噸に達する。年二回作られてゐるが降雨期が平均しないので、乾季には人工灌溉が行はれる。灌溉は湧水・井水・貯水及び河水の利用等で、印度と同様モンスーンの降雨に依存することが多大である。

へ、その他カカオ・肉桂・棉花・珈琲・パンヤ(カボーク)・チルク棕櫚・パイナップル・胡椒等も栽培せられてゐる。

4. 熱帯性気候なるため森林の繁茂が著しく、低地に椰子、一五〇〇米以上の高地には温帯植物が生育してゐる。カラマンドル・黒檀・樟子木・羅望子等の木材を産出する。近年七〇〇—一五〇〇米の山腹は焼き拂はれ、コーヒー・茶等の栽培に充てられてゐるのも一特色といふ可きである。

5. 眞珠採取は古くより行はれ、西海岸の沖合、ブッターラムよりアダム橋にかけて、セイロン眞珠漁場として知られてゐた。政府事業として定期的に採取し、年産五一七萬留比(一留比は一・三圓)に達する。尙近年三〇方哩の新漁場が発見され、東岸のツリンコマリー附近にあるタムブレガム湖にも可能なることが明瞭となり、將來益々有望となつた。

6. コロンボ セイロン島の西岸に面する人口三〇萬の良港で印度洋を東西に横断する歐亞航路に直面し、歐洲・アフリカ・支那・日本・南洋・濠洲等と連絡を有する海運の要地である。茶・ゴム・コブラ・椰子油・カカオ等本島の主要農産を輸出してゐる。一八七五年より一九一二年に亘り一六億磅の巨費を投じて築港をなし、港内六六〇エーカー、深さ九—一二米の良港となつた。

第五章 南西アジア

1. 南西アジアは、イラン高原以西、メソポタミア平原・アラビア半島・小アジアを含む地方で、地理的位置より見れば赤道以北に位し、北緯四〇度までの熱帯・亞熱帯・温帯に位してゐるが、北回歸高氣壓帯を中心として、その南北に跨るため一般に雨少く乾燥氣候を呈してゐる。従つて廣大なる地域は沙漠・草原となつてゐるものが多く、沃野が連つて農耕地域となつてゐるのは僅かにメソポタミア平原のみである。

2. アジア大陸と、ヨーロッパ大陸の中間區域で、兩大陸の漸移地帯とも見られ、アジア民族と歐羅巴民族との混合地帯である。歐洲から見れば極東に對して近東と稱すべき地方で、この近東地方に英佛兩國の勢力が進出し、又北方よりソ聯の勢力が進出して列強勢力の焦點となつてゐる。

3. この地方に居住する五〇〇〇萬民衆の大部は回教民族である。彼等は永い間の白人植民地化政策に對抗して、民族自主を叫び、或はイラクの獨立、或はイラン・トルコ・アラビアの勃興、或はバレスタインに於ける民族的争鬭等到處に氣勢を擧げて來た。英・佛は彼等の懐柔につとめ、舊勢力の維持を計つてゐる。

4. イラン・イラクにつゞく油田を中心とする經濟戰も重大なる問題として取扱はれ、政治・經濟上多くの脆弱性を藏する此の地方が、將來如何に發展して行くかは列強の共に注目してゐる所であらう。

- (一) 回教徒の勃興獨立と歐洲勢力の退却
- (二) 歐亞二大陸の連絡地として交通上の重要性
- (三) 油田争鬭をめぐる經濟戰

第一節 イラン地方

【目的】

- 一、イラン諸邦が北にソ聯、東に英領印度を控へ、兩國勢力の緩衝地帯として存在してゐること。
- 二、天恵少きイラン高原は經濟的利用少きも西部に連る油田は歐洲に近き關係上その價値が重要視されてゐること。

【教順】

- 一、概説
- 1. イラン高原の地形と氣候—イラン山脈とエルブルズ山脈に挟まれたる高原は内陸性にして高温乾燥、草地・沙漠となり、游牧が行はれる。
- 2. 二二〇〇萬の住民は回教徒
- 3. ベルチスタン(英領印度の一部)

アフガニスタン、イラン(立憲君主國)

二、イラン

游牧生活—ベルシア絨毯の原料

隊商貿易—タプリーズ、テヘラン

ベルシア油田—英波石油會社

【考察問題】

一、イラン國と英・露との關係を考察せよ。

1. ロシアはペートル大帝以來、南進策を樹立し、ベルシア灣岸に進出するため度々コーカサス地方の征服を試みた。アレクサンドル一世は一八〇一年にジョージアを露國の一州とし、更に一八一三年イメレチア・ミンダグレシヤ・ダゲスタン等コーカサスの小國を併合した。一八二八年、ロシアはベルシアと戦ひエリワニ・ナヒチェワン兩地を得、ベルシアに於ける治外法權を獲得した。

一九〇七年露國はベルシアの軍事・財政の實權及び鐵道敷設の獨占權を獲得したが、是等ロシア勢力の南進に對し、英國は印度の防衛上之れを防止するの必要を認め一九〇七

年八月英露協定を締結した。

英國はカスクシュワインよりイスバハン、エズト、カフ等の土地を経てロシア、アフガニスタン兩國々境の交叉點に至る線の外方に於て政治上・商業上の特權讓與を求め又は支持せざることを約す。露國はアフガニスタン國境よりガズイク、ピルジャン、ケルマン等を経てバンドルアバスに至る境線の外方に於て同様の特權を求め又は支持せざることを約す。

2. 獨逸も英露協定に刺戟されてベルシア進出を企て、一九〇一年獨露協定を締結した。即ち、獨逸は北部ベルシアに於ける露國の特權を承認し、その代償としてドイツのバグダード鐵道に關する特權を承認せしめた。ロシアは之れに關しバグダード鐵道の支線カネキン線建設の權利を得た。カネキン線は、ベルシア國境に近きイラクのカネキン市よりベルシア灣に入る鐵道である。

3. ソ聯は、舊ロシアとベルシア間に存在した不平等條約や壓迫的の條約を全部破棄し、修交條約を締結した。尙一九二

七年兩國間に「中立並に相互不侵略協定」が成立し、地理的位置の優越性を利用し、通商の進出を企てたが、多分に赤化の傾向を帯びてゐた爲、一九三七年に、イラン政府は通商協定の廢棄を通告した。以來、ソ聯は振興につとめたが兩國の貿易は頗る不振となつた。

4. 英國は大戦中ベルシア政府に迫り、政治軍事經濟に關し、殆んど保護國に等しき條約の成立に成功したがベルシアでは之れが批准を拒絶し、排英気分が濃厚となつた。

イラン國に存在する現下の英國の權益は、石油及帝國銀行の二件で代表される。

イ、石油利權は一九〇一年英人ウィリアム・ノックス・ダグラーがベルシア政府との間に契約せるもので、一九〇九年英波石油會社が創立さるゝや同社はダグラーの權利を繼承した。その後契約を繰返し、一九二三年より六十ヶ年間、毎年七五萬磅をイラン政府に支拂ひ、採油四〇〇萬噸を超えれば超過量一噸につき四シリングを支拂ふこととし、爾後毎年百七八十萬磅を支拂ひつゝある。

ロ、イラン帝國銀行、一八八九年の創立、英人ロイテルとベルシア政府との間に協定された利權契約に基くものである。

同銀行は資本金四〇〇萬磅とし八〇萬磅まで紙幣を發行する獨占權を有し、毎年イラン政府に十萬フラン以上の納付金をなすこと。

然るにイランの國權恢復運動が熾烈となつた爲同國の希望を容れ、一九三二年紙幣發行權を二〇萬ポンドで同國に引渡した。

### 二、日本とイランとの關係を考察せよ。

我が國とイランとの通商條約の成立は昭和四年（一九二九年）三月であつて、爾來我が國より綿布を出し、彼より原棉・羊毛・阿片・鹽・ゴム等を輸入してゐたが、著しく片貿易であつた。一九三六年三月、イラン國は各國貿易の均衡主義を採用するに至り、同年以後の我が輸出棉製品は相當の打撃を受けるに至つた。輸入權は一切政府に在つて、個人貿易業者は委讓を受けて輸入することゝなつてゐるため、列強の進出は

一層困難となつて來た。

貿易外に於ては近年日伊關係は軌道に乗れる感あり、一九三九年の王室の結婚式典には使節を派遣し、そよ風號の親善飛行をなすなど、友好關係を維持するに力めてゐる。

### 三、バハラヴィ現王朝はどうして出來たか。

一九〇六年ベルシア國內に憲政運動起り、在來の專制政治に對する反抗の氣運が勃興した。時の皇帝ムサファルド・エツチンは遂に憲法を制定したが翌年崩じ、後、同憲法を廢止するに至つた。

一九二四年國民議會は國王アマッド・カジャールを追ひ、憲法會議を召集し、王朝に關する規定の改正を決議し、首相リザ・カン・バハラヴィを臨時政府首班に任命した。

憲法會議は十二月開會せられ、リザ・カンを皇帝に推戴し、同王朝をバハラヴィ王朝を稱した。リザ・カンは一九二四年十二月十七日帝位に即いた。これが現皇帝である。

一九三六年三月、嘗て外國人がベルシアと稱した國名を改めイランと稱することとした。

リザカンは一八七八年三月マザンダラン州の一軍隊長アバズ・アリ・カンの子に生れ天稟の才能を抱きて一兵卒より身を起し一九二〇年ベルシアの政權を掌握し、今日に至つたものである。

### 第二節 イラク

#### 【目的】

古代、バビロニア文化の發祥地となつたのは、メソポタミア平原の肥沃なるに依るものであらう。當地方が西南アジア唯一の農産地となれること、及び、石油の産地として重きを加へてゐることを知らしめ、且つ、委任統治地より獨立せる唯一の獨立國なることを考察せしめる。

#### 【教諭】

メソポタミア平原の地形—ベルシア灣の埋積せる沖積平原 熱帯乾燥氣候と人工灌溉—穀物・煙草・棉・デートの生産。モスール油田の採掘と送油管の敷設。バグダード鐵道及航空路による交通の重要性。



第一種委任統治地より獨立せる回教國。

【考察問題】

イラク國の國情を述べよ。

1. 歐洲大戰中、トルコが同盟國側に加擔したるの故を以て英國はメソポタミア地方を征服し、戦後大軍をこの地に駐屯せしめて政治的勢力を確保し、土人を抑壓した。一九二〇年土民の叛亂相繼ぎて起りたるため、一九二二年、ヘジャズ國王の第三王子エミール・フエイサルをイラク王として迎へ、之れを委任統治する事となつた。

フエイサル王は四圍の地方と折衝を重ねて英國勢力の牽制につとめると共に國力の充實を計つた。而して、一九二七年英國の委任を離脱して獨立國となり、一九三二年には國際聯盟に加入した。

2. メソポタミア平原はベルシア灣(五〇米の淺海)の北部が、チグリス・エウフラテス兩河の三角洲によつて埋められた沖積平野で、頗る平坦である。バグダードは海拔四〇米餘従つてバグダードまで六〇〇軒の間小船を通じ、更にモス

ールまで舟運の便がある。

此地は大陸性で、バグダードの一月氣温一〇度、七月三五度、較差二五度といふ有様であつて、雨量も僅かに年二二七ミリに過ぎない。人工灌溉によつて農業が營まれ、小麦・大麥・玉蜀黍等が多く、米・大豆等も栽培せられる。麥の國外輸出は一〇萬噸である。英國はエウフラテス河を利用し人工灌溉によつて棉を栽培し第二のスイダンたらしめんとしたがうまく行かなかつた。



煙草・椰子(年輸出高十一萬噸)等特殊農産も多い。

3. モスール地方の油田は早くより知られ大戰後トルコ・佛・英をめぐつて油田争奪が行はれたが、聯盟は一九二五年遂に現在の如く國境を區劃し、佛國にはその委任地シリアへ送油管の敷設権を與へた。モスール油田は現在英波(アングロベルシアン)石油會社及び英國當局の背景の下に設立さ

第三節 アラビア

沙漠國アラビアに住む一千萬の回教徒は今サウディアアラビアによつて統一されつゝある。この地方は經濟的には重要視さるべき點なきも、世界の注目を惹きつゝあるは、回教の靈地として世界三億五千萬の回教徒が渴仰しつゝあるがためである。

英・佛等その植民地に多數の回教徒を有する國では、アラビアに對する政策、回教徒の懷柔策に腐心しつゝある。

【考察問題】

アラビア半島の最近の情勢を述べよ。

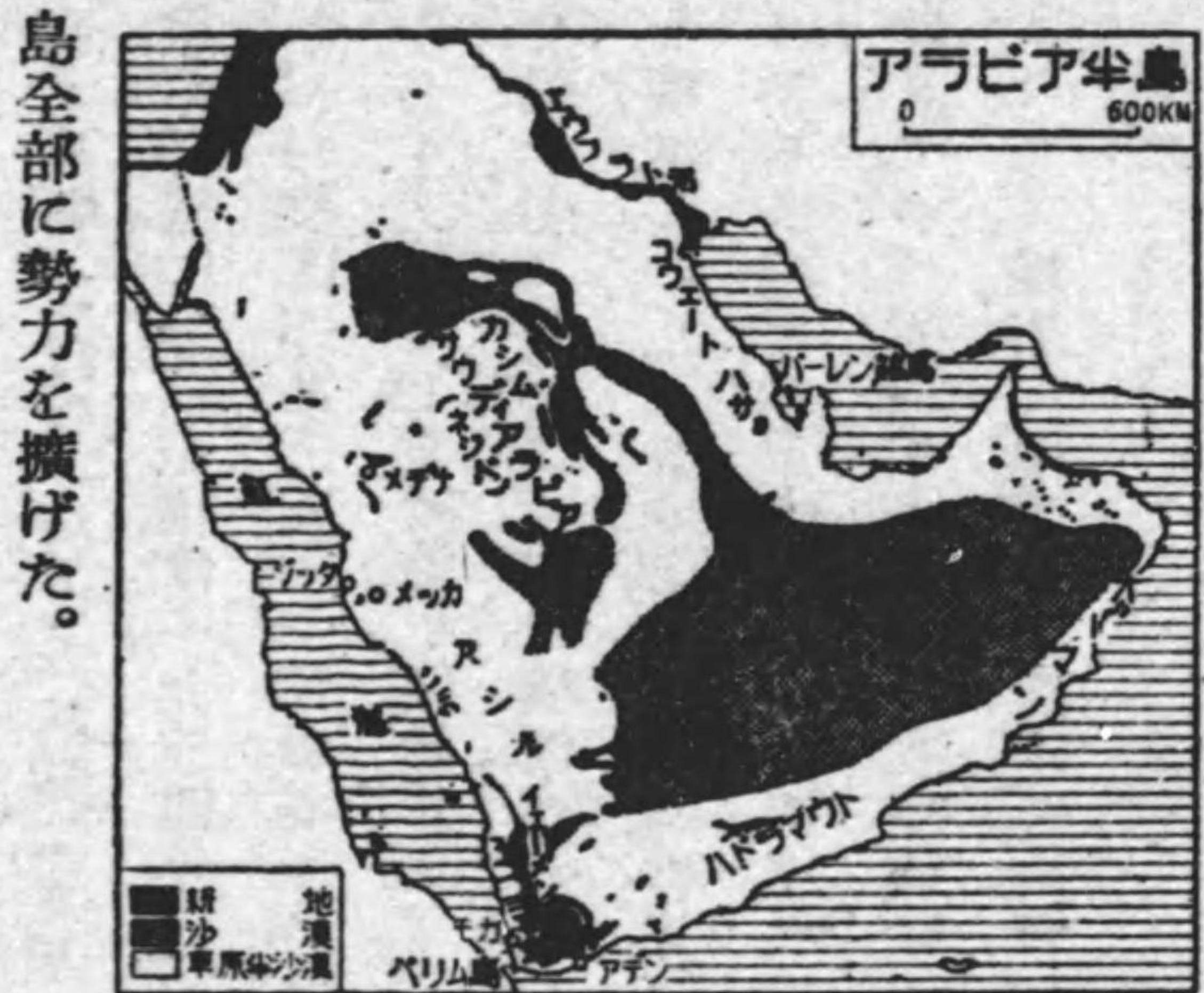
1. 大戰後トルコは全然此の地方の領土を失ひ、半島の北部には英・佛の委任地が造られた。アラビア半島には西部の紅海に面してヘジャズ王國が起り、マホメットの故地を領し英國の援助を得て半島全部に勢力を伸ばすものと見られてゐた。

2. 然るに、半島の中央部に、回教ワハービ派の首領でネジ

れたイラク石油會社の統制下に置かれ年産四〇〇萬噸に達して居る。モスール附近のキルクク油田より地中海沿岸に向つて延長一千二百哩の送油管が造られ、輸送能力一ヶ年四千萬噸、建設費一億七千萬圓は主として英國が支辨した。途中二線に分れ一線は一九三四年にシリアのトリポリに達し、一線は一九三五年一月にパレスタインのハイファに達し一九三五年より操業を開始した。

4. 交通上より見れば、嘗て獨逸の計劃したバグダード鐵道は海峽地帯のスクタリよりトルコのアンカラに通じ、アレツポよりバグダードに入り、更にベルシア灣沿岸のバストラに達してバルカン半島による歐亞連絡線は完成した。かくてシベリア鐵道、中アジア鐵道と相俟つて歐亞連絡三大線の一となつた。

バグダードは、航空路の一中心をなし、エジプト・ギリシヤ・イラン及び印度のカラチに通じ、歐亞を結ぶ航空路も此の地を通過してゐる點より見れば、將來アジア・アフリカ・ヨーロッパを繋ぐ重要な地點となるであらう。



一九二二年には北方のハイール、翌年その北方のシャウフを攻略して、トランスヨルダニアに向つたこともある。而して一九二四年—二五年に遂に西方の雄ヘジャズを征服し、半島全部に勢力を擴げた。

かくて一九二七年英國は彼の獨立國たることを承認せざるを得なくなつた。一九三二年ヘジャズ及びネジド王の稱號を改めて「サウディアアラビア王國」とした。

4. 侵略の手は尙も弛めず一九三四年アデンの背後なるイエーメンを占領し紅海沿岸のホデイダ港を獲得した。アラビア半島は英の保護國たるオーマン、英領アデン、英の勢力範圍としてその保護の下に在るハドラマウト等南方諸地方を除く以外は全土イブン・サウドの支配に屬するに至つた。

第四節 シリア・パレスティン・ケラク

【目的】

三國共英佛の委任統治地である。こゝに於ても民族運動が熾烈となつた。第一種委任統治地につきて知らしめると共に、パレスティンに關係してユダヤ人問題を知らしむるを便とする。(委任統治につきては第六編参照)

【教團】

- 一、シリア 反佛運動と民族獨立、佛の懷柔策、交通上の重要性
- 二、パレスティン

パレスティンの重要性—ユダヤ教・回教・基督教の靈地、ユダヤ人・アラビア人の争闘。

ヨルダン地溝の特異性と産業

三、ケラク(トランスヨルダニア)

地形産業の概観

【考察問題】

一、シリアのサンチャク問題について述べよ。

1. サンチャク、シリアの北西端にアレクサンドレッタといふ港があるが、附近のアンチオク市を含み約四〇〇〇方軒の地域をサンチャク地方といふ。大戦前はシリア・パレスティン等と同様トルコの領土であつたが、戦後シリアの一部としてフランスの委任統治地となつたものである。

民族構成 全住民一八・六萬中、トルコ人八・五萬

シリア系アラビア人・アルメニア人は二・五萬人  
外に クルド人・ユダヤ人・コーカサス人等  
ユダヤ人以外は全部回教徒である。

2. 問題の原因

イ、トルコ領時代は、サンチャク内のアラビア人はトルコ人の支配を受けてゐたものが、現在では反對にトルコ人がアラビア人に支配されてゐるといふこと。即ちトルコ人のアラビア人に對する反感。

ロ、トルコ人はサンチャクの住民中最も多く、民族主義の立場から、トルコ人の多きこの地方の自治を要求するに至つたもの。

ハ、アレクサンドレッタは鐵道によりトルコのイスタンブール、アンカラ、及びイラクのバグダードに連絡を有し商港として又軍港として、小アジアの死命を制する位置にあり、トルコにとつては、同港を手中に收むることは自國の存亡に關するものである。

3. 問題の經過

イ、一九二二年佛土協定に於て、アレツポの外港としてアレクサンドレッタをシリアに加へることを兩國共承認したが、同時に、トルコ人の多きサンチャク地方を特別行政區とし、一九二六年には或程度の自治權を保障し、官

吏にトルコ人を採用することを定めた。

ロ、一九三六年九月、佛國シリア間の友好同盟條約に於てシリアは三年後に獨立共和國となり、シリア共和國は佛國の引請けた一切の責任を負ふことになつた。然しトルコはその結果シリア國に含まれるトルコ人が少數民族として迫害を受けるであらう事を憂へた。

ハ、其の後同問題を聯盟に提出し、トルコ側は、サンチャクの獨立を要望し、シリアと對等の位置に於て聯邦組織となさんとするに對し、佛國側は、之れを自治に止め、外交はシリアに於て行ふ旨を主張し、兩者一致點を見ず一九三八年七月に至り佛土軍事協定が成立し、佛土兩國はシリア・サンチャクの領土保全のため軍事的協力をなす旨が定められ、同時に友好條約も定められた。かくて兩國は各二五〇〇名の軍隊をサンチャクに駐屯せしむる事となつた。

ニ、歐洲に於てドイツが勢力を得、塹國を併合し、チェッコ國を解體し、更にダンチヒをも併合せんとする勢力を

示したため、英佛は獨逸包圍工作を進め群小國家の爭奪戰が行はれるに至つた。一九三九年六月二三日佛國はトルコを自國側に引込まんがため、トルコの多年の要求を容れ、遂にサンチャク地方の無條件讓與を協定するに至り、茲に同問題が解決された。

二、シリア共和國について述べよ。

1. フランスはシリアがトルコ領であつた時代より着眼して投資をつゞけてゐた。佛國の野心を有してゐた理由は、イ、棉の栽培に適する點に注意しフランスのスイダンたらしめんとしたこと。

ロ、モスールの送油管がこの地に敷設せられる重大性に鑑み石油割込みを畫策せんとしたこと。

ハ、地中海よりペルシア灣に出る最近道たることに注意し軍事上重要視したこと。

以上の三項はシリアの重要性と稱することが出来る。

2. 共和國の成立するまで

一九二〇年三月ダマスカス市に於けるシリア議會はシリア

を獨立國なりと宣言し、アラビアのフェイサル王を迎へてシリア王に戴いた。英佛聯合軍はダマスク・アレppo・ハマ・ホムス各地を占領し、フェイサル王を追放し、占領地方に四自治國を形成した。

然るに、ダマスク・アレppo・ラタキアは後に併合してシリア聯邦を作つたが間もなく廢止し、更に、ダマスク・アレppoは合同して一國をなし、ラタキア再び獨立し、ゼベル・ドルーズも獨立した。

斯くの如く内亂興亡頻繁に繰返す中、一九二五年秋ダマスカス市に叛亂が勃發した。フランスはシリア國民の不平緩和のため一九三〇年六月シリアに共和政治を布き新憲法を發布した。然し、兩國民はとかく一致を缺くことが多かつたので、一九三六年九月九日「友好同盟條約」を締結し、シリアは佛國委任統治下に於て三年後即ち一九三九年に獨立共和國になることを決定した。

3. 住民

	平方哩	人口
シリア	四九、一〇〇	一、六九六、六三八
レバノン	三、六〇〇	五九二、八一二
ラタキア	二、八〇〇	二八六、九二〇
ゼベル・ドルーズ	二、四〇〇	五一、七八〇
計	五七、九〇〇	三、六三〇、〇〇〇
回教徒		一、五一四、七五五人
基督教徒		五〇五、四〇〇人
(この中アルメニア教徒三三、〇〇〇人)		

4. 産業 耕地は三〇—三五%

小麦・大麦・マリス・カラス麥・玉蜀黍・棉・煙草・オリイヴ・稻果實類、

フランスは棉作に大なる希望を有してゐたが失敗に歸した。有望なるは牧畜で、乾燥氣候の下に發達せる草地を利

羊	二、一二四千頭
山羊	一、七四〇
牛	三六八
ラタダ	一八九

三、パレスティナのユダヤ人問題につき説明せよ。

1. 霊地パレスティナ

パレスティナは昔のユダヤ國であり、神がユダヤ民族に與へたる地であるといふ。ユダヤ人とパレスティナは密接な關係にあるが、キリストの生地イエルサレムのあるパレスティナはキリスト教にとつても重要な地といはねばならぬ。

マホメットは不思議な駿馬に打跨つてメッカの街よりイエルサレムの聖地ハラメツシ・シリヤリッフに奇蹟的な旅行を試みたことがあるといふ。

この宗教的傳説以來イエルサレムはメッカ、メヂナと共に回教の靈地となつた。そして、一三〇〇年前アラビア人は劍とコーランとを持つてイエルサレムに侵入した。これまで種々の民族によつて幾度か蹂躪せられて來たが、大戦前四〇〇年間はトルコ領となつてゐた。然し、アラビア人は依然この地に踏み止つて自分らの故地の如く思つてゐた。

2. パレスティナの重要性

3. 問題の原因

この地方が三宗教から靈地扱ひを受け、宗教上の争奪戦が展開されんとしてゐるが、事實は宗教を離れて領土の獲得民族獨立といふ様な政治的の意義を多分に包含するに至り問題は一層複雑化して來た。而して英國は委任統治國として主要な役割を演ずる様になつたが、その理由はイ、パレスティナはスエズ運河を防衛すべき前哨地として埃及と共に重要である。  
ロ、地中海の東端に位し、海軍根據地として、將又印度東亞へ達する陸上の要衝として重要である。  
ハ、印度及極東に通ずる空路の仲繼地  
ニ、モスール油田の送油管は地中海岸のハイファに達し、ハイファは地中海のシンガポールとして將來を矚目されてゐる。

ヘンリー・マクマーンは、メッカのアラブ大守フセイン王のアラビア獨立要望を容れ、文書を以て返答を與へ、アラビアを土耳其に反して聯合國側に協力せしめるに成功した。これ、アラビア人がアラビア獨立に英國の協力を得る言質を得たものである。然し獨立の範圍につきては、シリヤを除外する旨の外は明瞭でない。

(二)大戦の初め、マンチェスター大學の化學教授ワイスマン博士(在英二五年に及ぶ猶太人である)は、爆薬原料の代用品發明に成功した。當時陸相ロイドジョージはその合成礦物の讓受けを交渉した處、彼は一文の權利金も要求せず承諾し、その代りユダヤ人安住地としてパレスティナ確立に英國があらゆる協力をなすことを豫約せしめた。



その結果は一九一七年十一月二日外相バルフォア宣言となつて現はれた。英國の下院議

員中にはジェームス・ロスチャイルド始め十八名のユダヤ人が居つたが、英本國に於ける彼等のユダヤ民族運動(シオニズム Zionism)は相當有利なるものがあり、アラブ族にとつて豫期せざるバルフォア宣言は彼等の一大脅威となつた。

(三)當時パレスティナの住民はユダヤ人八萬人に對してアラビア人は約六〇萬人の多數を占めてゐた。然し、パレスティナに於けるユダヤ人を保障するバルフォア宣言の後、歐洲各國のユダヤ人は陸續としてユダヤの故地に集つて來た。

パレスティナの民族

回教徒	ユダヤ教徒	基督教徒
一九二二年 五八九、一七七人	八三、七九〇	七一、四六四
一九二六 六六三、六一三	一四九、五〇〇	七六、四六七
一九三二 七七一、一七四	一八〇、七九三	九〇、六二四
一九三七 八〇五、一七三	三八九、三九〇	一一〇、一四六

かくて十五年間にアラビア人は八〇萬となり、ユダヤ人は

實に五倍に達する四〇萬を數へ全住民の 1/3 を占むるに至つた。これら多數のユダヤ移住者はポーランド(一一一萬)ソ聯(三萬)ドイツ(二・二萬)ルーマニア(一・三萬)等より來れるものが多かつた。アラビアより移つたものも一・三萬に達したといふ。

現在世界各地に散在するユダヤ人は次の如くである。

總數 一六一五萬八千人 (一九三七年)

北米合衆國	四五〇・一萬
ポーランド	三三〇・〇
ソ 聯	二九五・〇
ルーマニア	一〇五・〇
ド イ ツ	六二・〇
ハンガリー	四五・〇
チェッコスロヴァキア	三八・五
その他	二九〇・二

アラビア人は封建的・族長制度が維持され、小作人によつて原始的農業が行はれ、低級な生活をつゞけてゐるのに對し、各地より集るユダヤ人は、文化が進み、多くの蓄財を

5. 兩民族の抗争

一九二一年に衝突が生じ、双方百餘名の死者を出したのを始めとし、一九二八年十一月イェルサレム聖地に在る「嘆きの壁」と稱する大石の争奪が開始され、翌年にはアラビヤ人一・一六名、ユダヤ人一・三三名の死者を出した。

一九三六年再び騷擾續發してアラビヤ人死者一千名、ユダヤ人八二名を出す。英國は解決案を出したが兩者の容るゝ所とならず、一九三八年七月衝突は全國的に行はれたため英國は軍艦を派遣し、軍隊を上陸せしめて警戒に當らしめた。然し、兩者の解決は困難であり、ユダヤ・アラブ兩民族の争ひは、聖地パレスティンを廻りて英國の一大惱みである。老練を誇る英國外交が、あまりにも技巧を弄する結果、自ら破綻を招いた結果に外ならぬものであらう。

四、パレスティンに於けるユダヤ人の經濟的發展につきて述べよ。

ユダヤ人がパレスティンをユダヤ人の故國化せんとする努力は、宗敎的の信念とアラビヤ人に對する競争心、及び彼等

有し、又各地ユダヤ財閥の援助もあつて有福なれば、アラビヤ人より土地を買收し、工業に資本を投じ、文化的施設をなすなど、過去十二年間にパレスティンに投じたものは實に七億圓の巨額に上るといふ。

4. 兩者の要求

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| イ、委任統治の撤廢          | ユダヤ人側  |
| ロ、ユダヤ人移住の停止        | アラビヤ人側 |
| ハ、土地賣買の禁止          | アラビヤ人側 |
| ニ、獨立の獲得、少くとも自治政府建設 | ユダヤ人側  |
| ホ、ユダヤ人國建設の放棄       | アラビヤ人側 |
- イ、委任統治の徹底的實施とユダヤ國建設  
兵力を以て暴力を鎮壓すること  
ロ、ユダヤ人の多數移住を認めること  
ハ、アラビヤ人の經濟を害さぬ範圍で土地買收の自由を許すこと  
ニ、民族を擁護し、立法議會には平等の代表者を選出すること。

の天稟とも稱すべき經濟的能力の綜合によるもので、故國に集つたユダヤ人がバルフォア宣言以來過去十六年間に五倍に達した事實によつて、彼等の意氣が如實に示されてゐる。

1. 農業 ユダヤ民族は世界各地に在つて經濟界に優秀なる地位を獲得してゐる。豊富なる資財を携へてユダヤの故地に歸り、アラビヤ人の所有せる肥沃なる耕地を片つ端より買收した。アラビヤ人はその爲生活を脅かされ、「回教は異教徒に土地は賣らない」といふ教義を高調して不賣運動を試みるに至つた位である。

目下の農地は八萬町歩に達し、四・八萬の猶太農民が活動してゐる。そこには一ヶ所三三〇町歩―六一〇町歩の大農園が百三十ヶ所もあり、穀類・野菜・果實を栽培し、傍ら牧羊を行つてゐる。生産物は共同販賣となし、一九三五年の如き牛乳・バター二三〇萬圓、果實・野菜九〇萬圓の巨額に達した。

ヤッファ港(Jaffa)より輸出したオレンヂは古來有名であつた。その輸出は戦前に比し十八倍の七百萬箱に達し、又、

オレンヂ以上にグレープ・フルートをも輸出してゐるがそれらの七割はユダヤ人によつて栽培されてゐる。

2.工業 ヤッフア港は、首都イエルサレムの外港であるが、その北方のハイファは、油送管の終點で國際的開港として重要性を加へて來た。ユダヤ人は兩地を工業地として製粉・石鹼・セメント・煙草・繊維工業等の近代工業地を發展せしめつゝある。

ヤッフアの北に近くテルアヴィヴ（古代猶太の著名な部落名で、春の丘の意味）があるが、人口十五萬、パレスティン第一の都會で、全人口が悉くユダヤ人から成り、こゝにも彼等は工業地を作らうとしてゐる。

海面下三九四米、ヨルダンの谷底に徒らに擴がる死海は、三八三〇方呎に濃厚な鹹湖を湛へてゐるが、その名の如く何等利用されなかつたものを、ユダヤ人は之れより製鹽をなし、藥用鹽、肥料鹽を採取してゐる。チベリアス湖より流れるヨルダン河の一九〇米の落差を利用して三萬二千馬力の水電を發電し、次々に計畫を進めてゐる。

その外學校、病院等の文化施設にも多くの出資をなし、歐洲を逐はれたユダヤ人學者醫者が之れに當り、年を重ねるに従ひ彼等の文化建設が進みつゝあるものである。

【讀圖】

回教の分布

1.紀元七世紀より八世紀にかけて東は印度より、アラビア、埃及を経て西はイベリア半島に亙る廣大なる地域を領したサラセン帝國も瓦解後はヨーロッパ勢力の下に非常な壓迫を受け、多くは白人の植民地となつてゐた。世界大戰を契機として彼等回教徒は民族活動を起し、各方面に歐洲勢力を排撃せんとする民族争闘として勃興するに至つた。

2.回教徒の分布 近東アジアを中心として中央アジア・印度・馬來群島・アフリカ・歐洲に散在する回教徒は大略三億二千萬と推定され、その中アジア大陸に一億八千七百萬、アフリカに六千九百萬、南洋諸島に六千萬、歐洲に千三百萬、その他に五十萬を算してゐる。

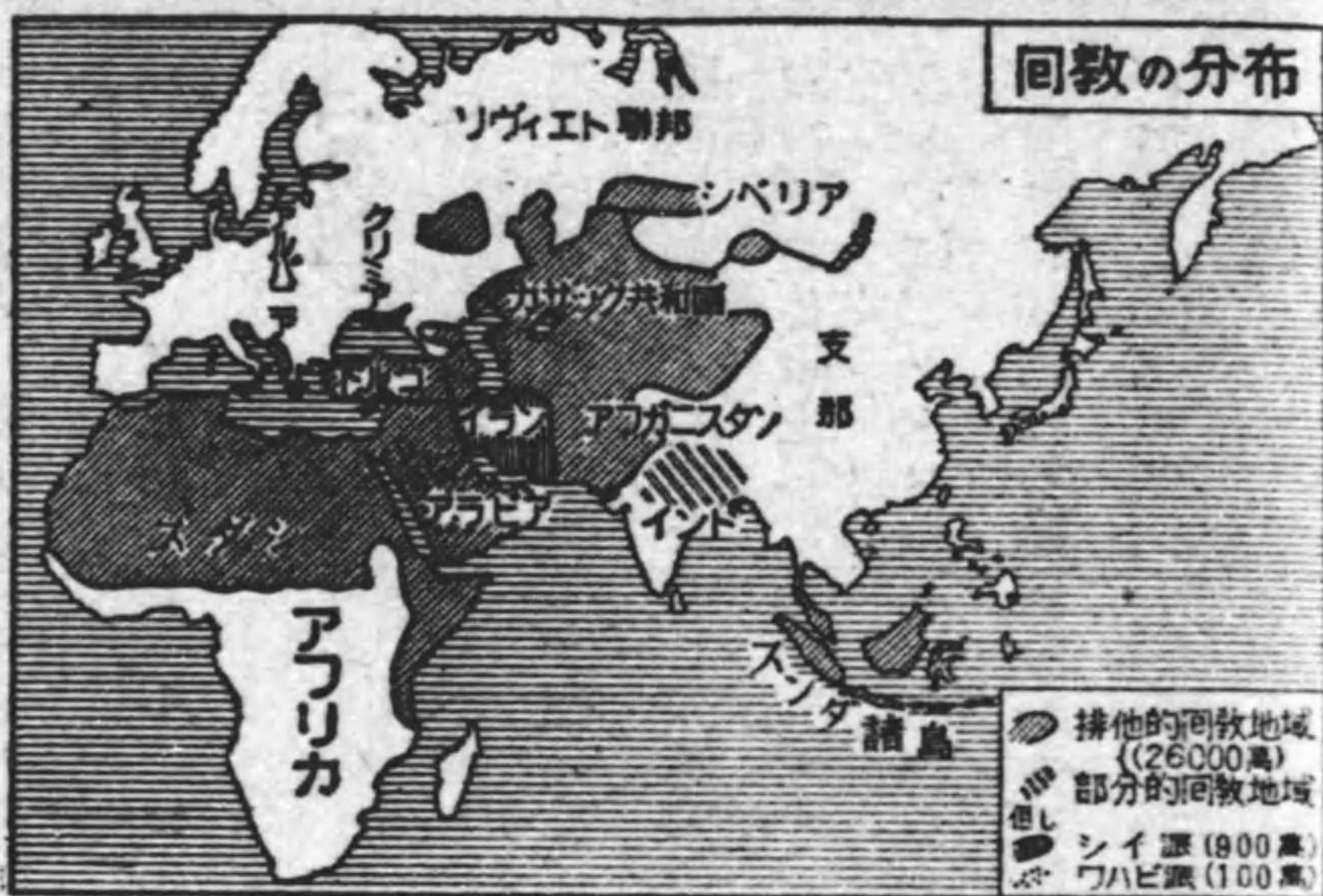
回教徒にして獨立國を形成するものはトルコ・イラン・アフ

の2/3は歐洲人の支配下に喘いでゐる。

4.回教民族の發展 最大の回教民族トルコは、大なる躍進を遂げ、一九二八年回教を國教とする事を廢し、歐亞に跨り重要な地位を占むるに至つた。古き歴史を有するイラン國もリザ・カンの出現後國威を回復し、ソ聯の南方進出を防止し、不平等條約の廢棄につとめて居り、イラクは英國の羈絆を脱して獨立し、アラビアのイブン・サウドは全半島を統一して英國の勢力を驅逐し、民族獨立を計つてゐる。

パレスティン及びシリアに於てもアラビア人の活動は目覺しきものがあり、シリアは既に一九三九年に獨立共和國を成立することを佛國に承認せしめ、パレスティンに於てはマクマーン宣言によりあくまでアラビア人の獨立を主張してやまず、ユダヤ人を廻りて英國と火の出る様な争闘をつゞけてゐる。

5.而して特に注意すべきは支那の新疆省に於ける回教徒を始め、イラン・アフガニスタン・イラク等の回教徒は、ソ聯の赤化工作に反抗し、ソ聯領土を包圍して防共の第一陣をな



ガニスタン・イラク・サウディアラビア・エジプト等、その人口は七千三百五十萬で、全回教徒の二三%であつて、残りの七七%は他の民族の支配を受け、植民地又は少數民族として壓迫を受けてゐるものである。

3.英國は最も多くの回教民族を包容してゐる。その中最も大なるは印度の八

千萬で、近東・東アフリカ等を加へて約一億に達してゐる。オランダは南洋に六千萬に近き海岸島嶼族を支配し、佛國はシリア・アルジェリア・モロッコ等三千六百萬を有してゐる。ソ聯は中央アジア・コーカシアにかけて二千萬、伊國は東アフリカ・リビアを加へて五百三十萬に及び、回教民族

してゐる事である。背後に英國の勢力が在つて、ソ聯の進出を防止せんとする政治的策動の存在が明かであつても、コーカシア・中アジア等に居住して、既にソ聯に加入しつゝある者の外は擧つて排露・防共を表脱してゐる。これは宗教的・民族的の自衛策と、回教徒のもつ封建的思想が共產主義と一致せざる事に基くものであらう。

第五節 トルコ

【目的】

曾て歐亞に跨る大國を形成したトルコは、ヨーロッパ人とアラビア人との中間に介在して、大戦後領土の大部を失ひ、確然たる小アジアを領して國力の挽回に努力し、現在歐洲勢力の東進を阻止して獨立を續け、近年氣勢をあぐるに至つた。こゝでは、トルコの現状を知らしめると共に同國の位置がその發展に如何なる關係を與へてゐるか、又其の自然がトルコの發達を如何に制約してゐるかにつき知らしめる。

【教順】

一、概説

歐亞二大陸を繋ぐ陸橋的位置、黒海の出口を扼する海峽地帯等、トルコの位置は、バルカンと西部アジアの死命を制する。この位置の優越性が、この國を隆盛ならしめ又この國を衰微せしめた。

最近の民族運動と國力の充實、サンヂャク獲得。

二、海岸地方

リアス式海岸、地中海性氣候と果實生産、

歐亞の連絡地點—スクタリ、スミルナ

三、アナトリア高原

乾燥氣候の高原—牧羊・毛織

バグダード鐵道(舊獨資・英佛管理)

首府—アンカラ、イスタンブールに外交機關

【考察問題】

一、トルコの國權恢復につきて考察せよ。

1. 二十世紀に入りトルコは十ヶ年間に四回の戦争を行ひ、一九一四—一八の歐洲大戰に於てはトルコの復活を期して獨

逸側に加擔したが、一九二〇年のセーヴル條約に依てその廣い領土は幾多の民族によつて分割され、本國は極めて



狭小となつたばかりでなく軍事財政の自主權をも失ひ、殆んど聯合國の共同管理下にあるの觀を呈した。

2. ムスタファ・ケマルは屈辱的條約に憤り、皇帝政府の批准を中止せしめ、自らアンカラに國民議會を召集して條約を否定し、ロシアの後援を得て英國の支持するギリシャ侵入軍と戦ひ、一九二二年夏、遂にギリシャ軍を小アジアより驅逐し、進んで、海峽地帯の回收を企てんとしたが、聯合國はトルコの要求を容れて、ギリシャと休戦せしめ翌年ロイズン會議を開いてトルコの要求を認めたる新講和條約を

結んだ。この條約により

(一)セーヴル條約で失ふ筈だつた東トラキアを取戻し

(二)ギリシャの管理に在つたスミルナ及び後背地を保存し

(三)海峽地帯より聯合國軍を撤退させ。

(四)各國の治外法權を放棄せしめて自主權を確立した。

然し、アラビア及バルカンの各地は分割され、海峽地帯の武装を制限された。

3. 一九二四年ケマルは回教廢し、最後のトルコ回教主アブドゥル・メチッド・エツフェンデーを廢位してスイスのテリテーに追放し、年三〇萬圓の年金を賦與して、回教を國教となすことを憲法第二條に於て規定したが、後一九二八年に至り國教は廢されて、政教の分離が行はれた。

ケマルは國民議會に於て大統領に推され、新憲法の下にトルコ共和國が成立した。ケマルは國內の文化開拓につとめ、黒海沿岸のサムスンより地中海のメルシナに達する小アジア横斷鐵道及びアンカラよりソ聯のチフリリスに達する鐵道を計畫する等見る可きものが多い。

一九三六年伊太利のエチオピア征服と共に近東情勢の變化に乗じ、海峽地帯の再武装を議し、列國の承認を得、直に之を實現した。

4. かくてトルコは、領土の恢復は今後の問題として取残されたるも、國權恢復には着々成功し、今や人口一六二〇萬の共和國として列強と對等の國交を修めてゐる。我が國はトルコと大使を交換し、我が大使館はイスタンブールに設置されてゐる。

### 二、トルコの産業を述べよ。

1. 小アジア半島は、南にタウルス山脈が三〇〇〇米の高度を以て東西に連り、黒海沿岸には之れと相對してボンツ山脈が東西に走り、兩山脈間にアナトリア高原が互つてゐる。黒海沿岸は、冬は一般に寒く五度内外となるが夏は二三・五度で涼しい。半島の西部から南にかけての地中海沿岸は明瞭な地中海性氣候を呈し、夏は暖く乾燥し、冬は雨が多く十二月の降雨一三〇耗を呈し、温暖である。沿岸の植物は、北部には松・杉・樅・檜・ブナ等の森林が見ら

れ、地中海岸では無花果・オリヅ・葡萄等の果實を産してゐる。冬、北風を避ける南の谷にはオレンジ・レモン・シトロン・甘蔗・棗椰子等も作られてゐる。

内陸高原は大陸性を帯び夏は平均三二度に及び雨少く、草地がつゞきステップの如き景觀を呈してゐる。

2. 各地に鑛産も見られ、北岸エルグリの石炭は採掘の歴史が古く、タウルス山脈中の金・銀・錫・鉛・硫黄・水銀等も未開發のまゝ残されてあり、東部のエルゼルムにはモスールに續く油田がある。

3. 農産は、棉・煙草・阿片等が有望であり、廣い草原には羊・山羊を飼養し、羊毛モヘーアは一見生絲に見える程良質のものである。

### 第六章 西部アジア

1. 西部アジアは、コーカシア・中アジアを含むソ聯の一地方を稱する。この地方は地中海・印度洋等の海洋より隔絶する内陸地方なれば、雨量が少く、草地沙漠となる處が多く

とを知らしめる。

#### 【教順】

##### 一、概説

コーカサス山脈によつて内トルココーカシアと外トルココーカシアとに分れる。

アジア・歐羅巴をつなぐ廊下で、ロシア人(スラヴ)トルコ人・イラン人の混合地區となり、各民族によつて民族國家が成立した。

##### 二、内コーカシア

北コーカシア地方(大ロシアに屬す)・ダゲスタン自治共和國と七自治州より成る。

草原地帯—牧畜、油田

##### 三、外コーカシア

三共和國—アゼルバイジャン・ジョージア・アルメニア  
温暖多雨—農産・果實  
石油—バク、バツーム等の石油都市

#### 【考察問題】

廣大なる草地は牧場として利用せられてゐる。コーカシアは石油の産地に知られ、歐洲に於ける最大の油田として經濟上重要性を有する。

2. ベートル大帝以來ロシア帝國の印度洋進出政策は、コーカシアの侵略となり、中アジアの進出となつた。この兩地方は經濟的價値よりも政治的意義により重要性を有してゐる。ソ聯に於ては、政治的進出は同時に赤化を伴ひ、イラン、アフガニスタン、新疆省等の回教徒はソ聯赤化の前に曝されるに至つた。

3. コーカシア・中アジアの回教民族は既に獨立してソ聯邦の一部を構成してゐる。

### 第一節 コーカシア

#### 【目的】

ロシア南進政策によつて獲得されたコーカシアは、ソ聯のペルシア灣進出の生長尖端として政治上重要な意味を有し、又歐洲第一の石油産地として經濟上重大なる地域たるこ



一、コーカシアの民族と政治区劃を説明せよ。

1. コーカシアは裏海・黒海の間挟まれたる地峡で、イラン・トルコよりロシアに通ずる陸橋をなしてゐる。従つて南方にはトルコ人・インド人等が居住し、北方にはロシア系の民族が居住し、數民族が混淆雜居して複雑を極めてゐる。此の地方の古くよりの土着民族はジャフエイティック語を使用してゐたジャフエタイド族であつたが、後にロシア人、インド・ユーロピアン族、セミト・ハミティック族、トルコ族等侵入して雜居した。

- チエチエン人・ジョルジア人・ジャフエタイド人種
- アルメニア人・インド・ユーロピアン人種
- クルド人・オセツト人・タト人・タリシユ人・ベルシア人・ジブ
- シール人・アラビア人等はインド・ユーロピアン人種
- アセルバイジャン人・コーカシアン・モンゴロイド

2. これらの民族の雜居するコーカシアは民族別に自治制を布き數多の小自治州及び自治共和國が成立し、ソ聯の一部を横成してゐる。

行政區劃

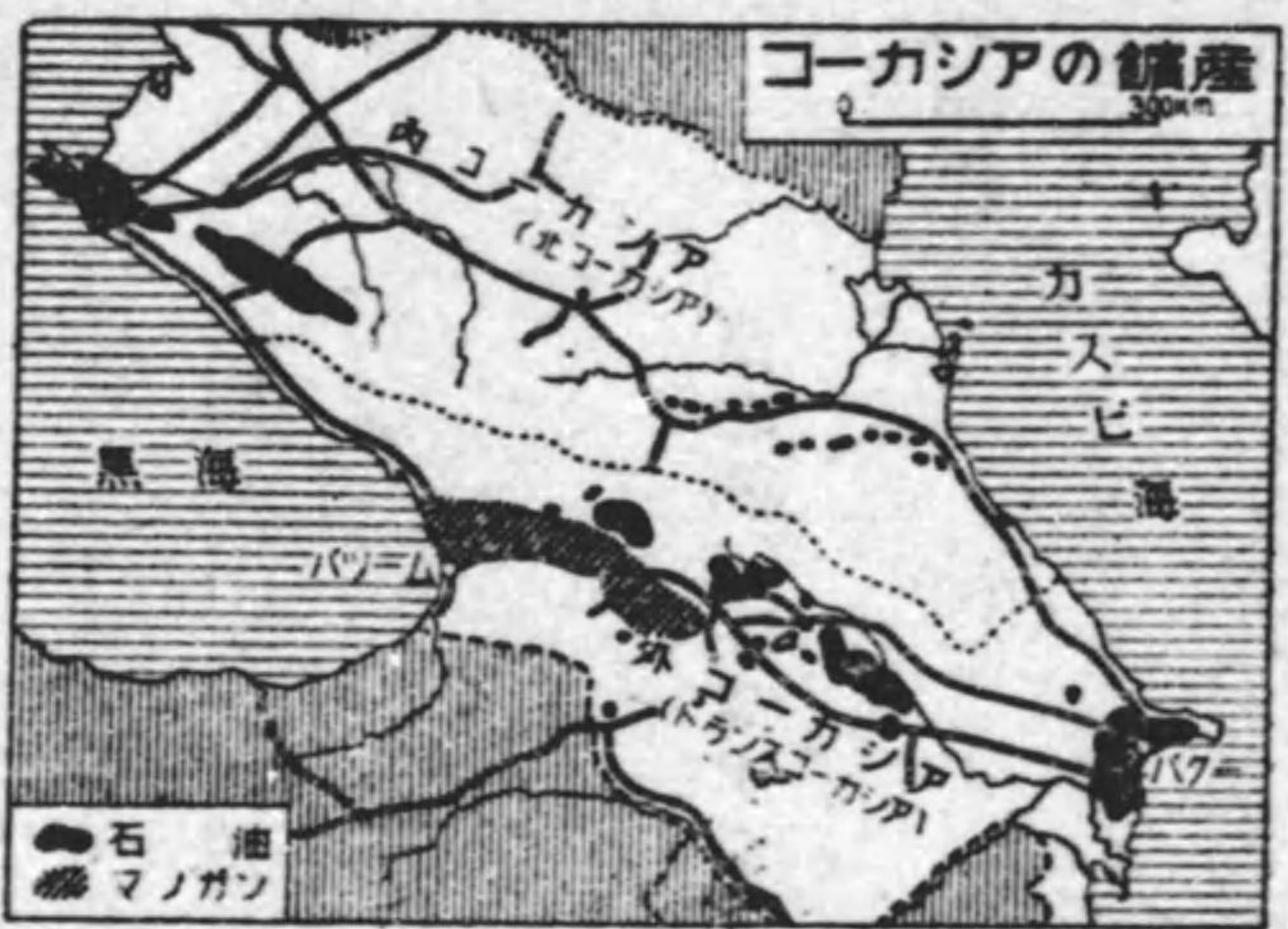
首府

(一)内 <sup>シエ</sup> コーカシア	
北コーカシア地方	ロストフ
ダゲスタン自治共和國	ペトロフスク
アデイゲスク自治州	クラスノダール
チエルケス自治州	ミコヤン・シヤカラ
カラツアエフスク自治州	ナルチツク
カバルト・ハルカルスク自治州	ブラヂカフカズ
北オセチア自治州	ブラヂカフカズ
インクセチア自治州	グロズニ
チエチエン自治州	チフリス
(二)外 <sup>トランス</sup> コーカシア聯邦	
ジョージア共和國	チフリス
アルメニア共和國	エリバン
アセルバイジャン共和國	バクー

二、コーカシアの石油産につきて説明せよ

コーカサス山脈の南北兩側は到る處油田に富み、油脈は遠くイランの北境に沿ひ、メルヴ、サクラーに迄續いてゐる。

この油脈の中目下採油の著しきは外コーカシア地方で、その中心は裏海及びコーカサス山脈南斜面の黒海地方である。著名なる油田はバクー Baku、グロズニイ Grozny、マイコプ Maikop である。



1. バクー油田 南北に連る背斜に在つて、西斜面は緩斜してゐる。古くより採掘せられ、バクーを中心として多くの油井が擴つてゐる。最も多く生産してゐるのはストラハヌイ油田でバクー石油の三〇%を占め、次は舊油田の一なるロマヌイ油田で約一五%を出す。大戦後に經營されたものの中レニン油田は湖岸の埋立地に掘鑿されたもので年産一三〇萬噸を出し、著名となつた。

カラ油田はバクーの東方に在り、浅層は輕質油が存在し將來を囑望されてゐる。是等油田は送油管で黒海岸のバツ

ムに輸送せられ、ここより歐洲各地に供給されてゐる。  
2. グロズニイ油田、バクー市の北西三〇〇哩の地點に在り。近年バクー油田の生産が甚だしく不活潑なるに對し、この地の油井がバクーよりも生命が永く、各油井の産出量も優れて居り、この地の油砂が弛解せざることなど幾多有利なる點を具備し、バクーを凌ぐとする傾向に在る。グロズニイの石油はノヴォルシスクに送り、油槽船によつてヴォルガを廻航し、ロシア各地に輸送されてゐる。

3. マイコプ油田 コーカサス山脈の西端には多數の石油徴候が存在し、ターマン半島には特に著しい。マイコプは大戦前クバン州唯一の産業として知られたもの、數油田より成り、浅層よりは比重〇・九四の重質油が採取され、深層よりは〇・八四の輕質油が採掘されてゐる。この外、アゾフ海の入口を扼するターマン半島及び東クリミアのケルチ等にも新油田が発見されてゐる。

ソ聯は昔は世界第一の石油國として知られたが、米國の勃興により第二位となり、續いて歐洲大戦中は荒廢して産額

も減少したが、ソ聯となつてからは國營アズネフトなるトラスト組織により漸次回復し、年一六〇〇萬噸の生産を見た。近年石油需要の増加と、その重要性に鑑み一九二八年第一次經濟開發五ヶ年計畫を建て、その結果産高は倍加し、その後も増産計畫を繰返して大いに増産を計つてゐるわけである。

### 第二節 中央アジア

#### 【目的】

中央アジアは支那から見れば昔の西域で、印度文化・西洋文化を支那に紹介した地方であり、東西兩洋の陸上交通路として重要な意義を有してゐた。地理的位置から見て、アフガニスタンを経て印度に、新疆省を経て支那本部に出る有利なる地點に在り。ソ聯の勢力はこの地に敷設せられたる二鐵道線により擴大せられ、支那事變に於ては國民政府に對する重要な援蔣ルートとなしてゐた。本地方の教授に當りては、赤化工作の策源地たる重大意義の下に、その政治經濟の一般

を知らしむべきべきであらう。

#### 【教順】

1. 中央アジアの民族構成と政治的區分
2. 乾燥氣候に基く自然人文景觀
3. 沙漠・草地と隊商貿易、タシケント、サマルカンド
4. 外カスピ鐵道・中アジア鐵道の使命

#### 【考察問題】

##### 一、中央アジアの民族・政治につきて述べよ。

1. 中央アジアを最初に征服したのはイラン民族で、彼等は泉地を撰んで居住し、溝渠を掘つて水を引き沙漠と戦つてゐた。紀元前三二〇年頃、アレキサンダー大王がこの地を蹂躪してより後は分裂して多くの小王國とつた。北部には匈奴が來襲し、後には南方よりアラビア人も侵入し來り此の地方に回教を擴め、更に北方よりトルコ族が侵入して來た。トルコ族は中央アジア民族の根幹となり、爾來この地方はトルキスタンと呼ばれるに至つた。

此の地に大なる脅威を與へたのは一二二〇年に成吉思汗の



蒙古軍の侵入である。その後蒙古族に代つたのはチムール(一三三六—一四〇五)であるが彼は文化の開發に留意し、見るべきものがあつた。かくの如き民族争鬭の結果は、種々の民族が混合雜居する事となつた。即ち中央アジアには、イラン、アラビア、トルコ、蒙古族及雜婚による混血が居住し

近世のロシア人も之れに加はつてゐる

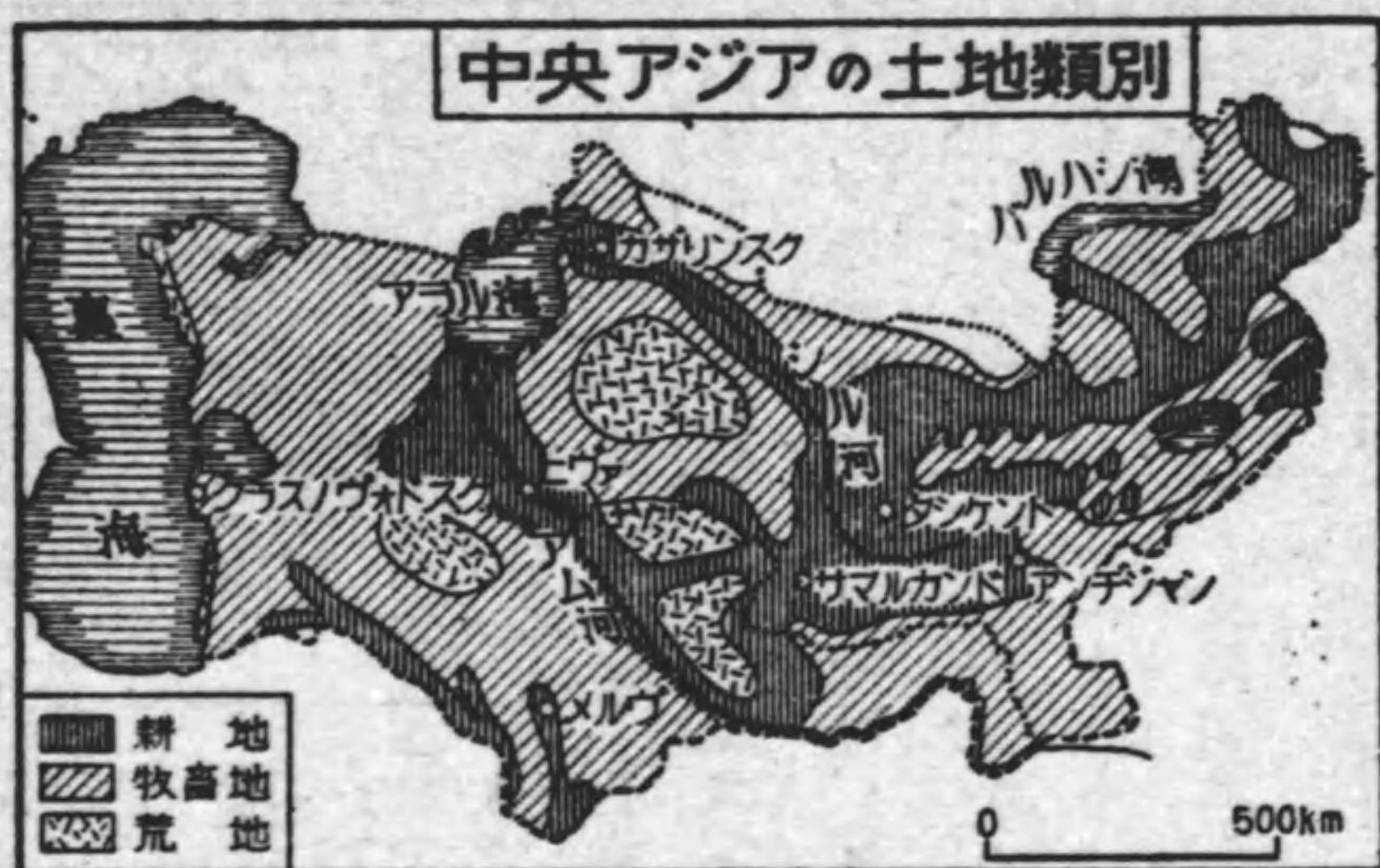
2. ロシアの中央アジア進出は、印度洋に向つて行はれ、十八世紀の末より始まり、十九世紀後半に至つて著しかった。帝政時代に於てはトルキスタン地方に總督を派し、ヒヅア・ブハラの二回教國を保護領としてゐたものである。革命後のソ聯はこの地を修め一九二四年には民族による國境が確定して現在の如くなつた。

1. ウズベク共和国 ウズベク族は十六世紀に侵入してトルコ・モンゴル族の後裔
2. トルクメン共和国 トルコ族
3. タジク共和国 タジク族はイラン族の後裔で、言語もイラン語に近い。
4. カザク共和国 カザク人はキルギス族の一種でカザク・キルギス族又はカイサク族といふ。
5. キルギス共和国 キルギス族の一種カラキルギス族といふべきであるが單にキルギスと略してゐる。キルギス族はトルコ・モンゴル族の系統に屬する。
6. カラ・カルバク自治共和国 カラ・カルバク人はトルコ族の一種。

#### 【讀圖】

##### 中央アジアの土地類別

ウズベク・トルコメン・タジク・カザク・キルギスの五共和国は憲法を有し完全なる獨立國としてソヴィエト聯邦に加入し、カラ・カルバクは憲法を有せずロシア聯邦の一自治州となつてゐる。



夏季の降雨は西より東に移る程多し。

トルキスタン地方	二五〇耗
タシケント	三三四耗
東部山地	五〇〇耗

1. 中央アジアはヒンズークシ山脈・イラン高原等によつて印度洋に隔てられ、海洋の影響が少いため気候は内陸性となつてゐる。冬は極めて寒く、東部山地・キルギス北部に於ては零下四〇度に達することがある。之れに反し、夏は高温となりアラル海の南では四一度、カスピ海北部では三六度となる。印度洋より來襲するモンsoonは東部に影響し、

四・五月の頃雨が多く、河水は氾濫して平地に溢れ、上流の土砂を平地に堆積せしめるため肥沃地と化し、農耕に利することが多い。

2. 河畔・泉地に農耕が行はれ聚落が発達し、昔より大規模の運河を掘り、灌漑と舟運に供せられてゐる。

耕作は主としてアラル海に注ぐアム・シル兩河の潤ほす地域と、パミール高原の雪融水の流れ出る東部山麓地方に行はれる。目下の耕地面積は三六〇〇萬ヘクタール、その七割は灌漑の便を有してゐる。ソ聯政府は水利局を設け、灌漑水の配給を管理せしめてゐる。帝政ロシア時代より中央アジアの棉に留意され、一九世紀末に、米棉の強制栽培を行はしめたが、今となつては此地方の氣候土質に適應し、その生産高はソ聯需要の半を充たすに至つたといふ。棉の外に穀類・ラミー等も作られてゐるが、政府は一九二八年の第一次五ヶ年計畫に際して、農牧の改革を企て、從來の原始的小農に代ふるに機械化せる大農を以てし、又個人的農業を排して集團農業(コルホーズ)を奨励し、コルホーズ

の勃興と共に之れを政府直轄の國營農場(ソウホーズ)に改組しつゝある。

大規模の灌漑と、水利の管理を必要とする大農式の棉作地、ラミー作地及牧場は大概ソウホーズとなつてゐる。

ソ聯政府の企圖した中央アジアの農業政策は

- (一) 農業コルホーズ化の徹底
- (二) 機械化・施肥・耕作の合理化に依る農産増加
- (三) 游牧民の定住化・畜産業の改良
- (四) 農事講習會による舊式農業の改良

3. 農耕地以外の大草原は好牧場である。

蒙古人と等しく游牧の民が多く、家畜は生活の資を給するもので、商品ではない。羊・山羊・駱駝・驢馬・馬を主とし、牛・犏牛も飼養してゐるが、回教徒は豚は不淨なりとして之れを飼養しない風習である。

政府は、定着して牧畜を営み、畜産を商品として賣出すことを奨励してゐる。粗悪なる羊毛は目下中央アジアに於て生活の必需品たる毛織・フェルト・絨氈に作られ、皮は袋

や篋に用ひてゐる。

4. 工業、原料産地のこの地方に、第二次五ヶ年計畫に於ては工業の振興を企圖し、タシケントの綜合纖維大工場を始め絹紡績・製靴等の輕工業工場三四ヶ所、製糖・製肉・冷凍等の食料品工場四三ヶ所の建設を豫定してゐる。

5. 鐵道 在來中央アジアには外カスピ鐵道(クラスノヴォドスク・アンディジャン間)及び中央アジア鐵道(オレンブルグ・タシケント間)の二線が敷設せられ、政治・經濟に重要な意義を有してゐたが、一九二八年第一次五ヶ年計畫に於て左の諸線が設けられた。

イ、ツルクシブ鐵道 シベリア鐵道と中央アジア鐵道とを繋ぐもので、タシケント・セミバラティンスク間一四八〇杆である。支那の國境を離れてゐるが、この鐵道の政治經濟に及ぼす影響は甚大である。近年世界で完成したる最長の線として注目を惹いた。

ロ、タジク國テルメズよりスターリナバード及びカフイルニガンに至る二五六杆、

更に第二次五ヶ年計畫に於ける豫定線としてあげられてゐるもの、

タシケント・チムケント間、メルコーウオ・シユラブ間。  
タシケント・メリニコウオ間、スタリナバード・クルガ  
ンチユベ間。

### 第七章 北部アジア—シベリア

#### 【目的】

シベリアは滿洲・朝鮮の接壤地であり、我が樺太に於て又國境を接する點より特殊の關係を有する地方であるが、我が國は沿海州・カムチャツカ半島に於ける漁業權、北樺太に於ける石炭・石油の採掘權など經濟上密接なる關係をもち、其上我が東亞新秩序建設に對するソ聯の赤化破壊工作等政治的にも可成の緊迫なる關係を持続しつゝあり。ソ聯の極東政策は一に我が國の勢力に對抗するための極東經營に外ならず、かゝる情勢の下に於けるシベリアの地理教授は、

#### 1. 極東に於けるソ聯の經濟工作

(一) 高地帯 バイカル湖以東の山嶽地帯及び太平洋沿岸を含む。

#### 1. 豊富なる鑛産—金・銀・鐵・石炭・石油

##### 北樺太の日本權益

#### 2 沿海州・カムチャツカ半島の水産と日本の權益

3. 一九三二年第二次經濟五ヶ年計畫は極東地方の産業の獨立を企圖し、軍需品の自給を計る。交通の擴張、増産計畫、都市の重工業化、機械化部隊の増派等。

(三) 草地帯 西部のオブ・エニセイ二大河の流域に擴がれるステップ。

#### 1. 黒土帯と乾燥氣候—穀倉(小麦・燕麥・裸麥)

#### 2. ソ聯政府のシベリア農業政策(第一次五ヶ年計畫)

#### 3. ウラル山地の鑛産と鑛山都市

(四) 森林帯 農業地帯の北を東西に連る亞寒帯の針葉樹原始林。

#### 1. 木材・パルプ・毛皮獸の生産・軍需品と木材との關係。

#### 2. 毛皮の取引地—ヤクーツク(寒地に於ける毛皮の重要性)

2. 極東に於けるソ聯の軍事的施設  
3. 極東地方に於ける我が權益とソ聯の不信行爲、  
等なるべく具體的に詳細に知らしめ、ソ聯に對する正しき認識を得しむることにより、不安を一掃し、東亞建設に努力邁進するの覺悟と決心を促すことが必要である。

#### 【教題】

#### 一、概説

1. 北緯五〇度以北に在つて、東西に細長い地形は、氣候を寒冷ならしめて産業を制約すること著しく、北極海は氷に封ざられて存在を失ひ、極東の沿岸のみ重要視せられるに至つた。東西に狭長なるため本國と極東との連絡は長い鐵道によつて多くの日數を要してゐる。かゝる位置による自然的制約の概要、

2. シベリアの原始民族とロシアの植民政策、白人の移住

3. 面積我が一九倍に及ぶ龐大性と豊富なる資源につき

二、地勢・氣候・産業

(一) 自然状態による四地理區

(五) 凍土帯 北極海沿岸と寒極ヴェルホヤンスク附近。

ソ聯の極地開拓(空路・漁業・牧畜・ウランゲルの移民等)

(六) 交通商業

1. 内陸水路—諸川の下流は北極海である。上流地方に文化が發達するシベリア河川の特異性、冬期の凍結と氷上の交通。

2. 鐵道 シベリア鐵道、黒龍江鐵道、ウスリー鐵道

第二次五ヶ年計畫によるバム鐵道建設及び黒龍江鐵道の複線化。

3. 海港 沿海州に於ける商港・軍港の建設

4. 貿易 主要貿易品と取引地

(七) 日本とソ聯との關係

1. 滿洲・朝鮮等シベリアに對する接壤地帯の國境問題、滿洲と外蒙との間に生じたる國境問題。

2. 北樺太に於ける我が權益とソ聯の妨害不信行爲

3. 沿海州・カムチャツカ半島に於ける我が漁業權と之れが條約問題

4. 日ソ貿易関係

5. 防共協定と、ソ聯の極東地方赤化工作

【考察問題】

一、ロシアはどのようにしてシベリア地方を獲得したか。

1. 帝政ロシアのシベリア侵略は十六世紀の中頃に始まる。一五五八年イヴァン四世が、グレゴリー・ストロノゴフにウラル山脈の東麓を與へたので。ストロノゴフはコサツクの酋長イエルマクに命じて東方侵略に向はした。當時オビ河の上流イルティシ河沿岸のシビルといふ町に成吉思汗の一族クチュム汗が居り、附近平原を支配してゐたといふ。シベリアの名稱は、そのシビルより生じたと稱されてゐる。イエルマクはシビルを陥れ、イヴァン四世の援軍を得て東方に進み、一五八七年にはトボルクを建てて策源地となし、一六三三年にはその探検隊はカムチャツカ半島に達した。更に南下して一六四三年にアムール沿岸に現れ、一六六三年にはアムール上流のアルバジンに到達した。

2. 露清關係、清の康熙帝はロシアにアルバジン退去を迫つた

が應じなかつたので一六八五年清は出兵してアルバジンを包圍陥落せしめ露軍をネルチンスクに退却せしめた。清の撤兵と共に再びアルバジンは露軍の手に歸したので、再征を企てたが、その中に一六八九年ネルチンスク條約締結となり國境が確定した。その境界はアルグン河と、ヤプロンイ山脈を東に走りオホーツク海に入るケルベチ川に通ずる線であつた。それ以南は清、北はロシア領としたのである。

3. ロシアの帝國主義 皇帝ニコラス二世は、ムラヴィヨフをシベリア總督として東方經略に當らしめた。當時阿片戦争で清の無力が暴露され、其の後長髮賊の亂に苦しんでゐるのに乘じ、清に國境の改訂を迫り、一八五八年愛琿條約によつてアムール河以北を割讓せしめ、ウスリー河以東の沿海州を共同管理とし、アムールの航行自由を確保せしめた。一八六〇年北京條約によつて沿海州の割讓を承認せしめ、海を求むるに汝々汲々として、一八六一年にはウラディオストクに軍港を建設し、興凱湖界條約を結び、一八八六年には琿春條約によつて東部國境を確保せしめた。

二、シベリアの阿川・海岸の特色を考察せよ

1. シベリアの河川は黒龍江の外はすべて北流し、廣大なる地域を流れるので、概ね長流となり、水量が豊富である。従つて下流には廣大なる沖積平野や三角洲を形成してゐるものが多い。

2. オブ川全長五二〇〇軒、その流域は三〇〇萬方軒冬期は凍結し、結氷しない日は上流一七〇—一八五日、下流一四〇—一六〇日で、盛夏には河口まで舟運が開ける。流域は廣く平原で河口には三角洲の發達が著しい。イェニセイ河との間は九軒の運河で連れてゐる。

イェニセイ川は全長五二〇〇軒、流域は二六〇萬方軒、河口より略一〇〇〇軒上流のミヌシンスクまで四ヶ月間舟航の便がある。

レナ川は四六〇〇軒、面積は二三八萬方軒、河口には二・八萬方軒の大三角洲があり、キレンスク、ヤクーツク間に舟運の便を有する。水量が多いので交通には便であるが、北偏するため凍結期が長く、利用價值が少い。殊に河口は

凍土となり、北極海の凍結と共に交通の促進性を缺如し、非文化地帯となつてゐる。

3. 閉塞海岸 北極海は海岸線一六、〇〇〇軒、屈曲に富み、海岸平野廣しと雖も凍結期間は長く、殆んど一年中船舶の航行を不可能ならしめてゐる。太平洋岸は、半島・灣が多く、延長一二、五〇〇軒の海岸線を有してゐる、海岸線に沿つて山脈が走り、閉塞海岸をなしてゐる上に凍結期間が長く交通上の利用は少い。たゞ豊富なる水産を藏するため盛夏の漁業に榮えてゐる。

三、シベリアの住民とソ聯の植民政策につきて説明よ。

シベリアの人口は一、七五〇萬、人口密度は一・四人で極めて疎である、住民の九割はロシア人のスラヴ族で、原住民は古アジア族・ウラルアルタイ族・トルコ族等で、一割に過ぎない。

1. スラヴ族 一五八一年以來シベリア地方に侵入し來れるもので、増加の著しいのは十九世紀末の流刑者一五萬人の追放、一八九六年の農奴開放で、その後の自由移民を加へて



大戦前には一千万人に達した。主としてシベリア鉄道沿線で大ロシア人が多く白露天・ウクライナ人が之れに次ぐ。八割は農民となつてゐる。

2. 古アジア族 アジア最古の民族で凍地帯にすみ狩獵・游牧に従事してゐる。

- カムチャツカ族 四千人
- 餘、カムチャツカ半島
- チヌクチ族 一萬二千人チヌクチ半島にすみ馴鹿の游牧に従事する。
- コリヤーク族 一萬餘、アナデル海以南
- エスキモー族 ベーリング海峡中の島、二―三千人、
- オスチヤク族 一千人、イェニセイ川下流

ギリヤーク族 四千人、アムール河沿岸、北緯太

3. ウラルアルタイ族 蒙古族に屬するもの、馴鹿の游牧をなす。

- フィン族 オビ河下流東部に住む。オビ・オスチヤク族ともいふ。
- サモエード族 北歐に多いが、ウラル地方に住むものは八千内外
- ツングース族 ザバイカル地方以東に廣く分布する。牧畜・漁業に従事し、一部は農業をなす。ヤクト族と共にヤクトツク自治共和國を形成する。
- ブリヤート族 バイカル地方に住む游牧の民、二〇萬を數へ、ブリヤートモンゴル自治共和國を作つてゐる。
- 4. トルコ族 西部地方に多く、主として農業に従事し、商業を營む者もある。
- オイラート族 アルタイ山脈からトボルスクにかけ、一萬人餘定住して農を營む者が多く、オイラート自治州を作つてゐる
- キルギス族 バイカル湖以西キルギス草地にかけて農牧をやつてゐる。

ヤクト族 二四萬人レナ川流域に多く、ヤクトツク自治共和國をなす。

- 5. 朝鮮族・漢族 朝鮮人は八・七萬人極東地方に多く、農業に従事してゐるが、近年中央アジアに強制的に移住せしめられ問題となつた。漢族は九・二萬人に達する。
- 6. ソ聯の土人對策、帝政時代は、強制的に土人を本國化する政策に出た様であつたが、ソ聯政府は土人に意を用ひ、民族主義の立場から主要民族には自治を許して自治共和國を形成せしめ、土人の生存を擁護すると共に土語の使用を許し、土人固有の風俗文化の維持向上を計らしめ文化開拓を企圖して青年子弟を本國諸學校に入學せしめ、土人も國民の一人として公權を認めてゐる。
- 土人間に廣く行はれるシャマン教は迷信暗愚なるものとして排撃してゐる様である。
- 7. ソ聯政府のシベリア移民政策

極東アムール州及沿海州に送り屯田制を設け、一般移民の先驅として移住を奨励し、十九世紀に入つてよりは流刑者によつて開拓を企圖し、前後一五萬の犯罪者を樺太・極東地方に追放した。

ハ、移民の急激に増加したのは帝政時代の末期一八九六年に法律を以て農民の自由移動を許されてより後のことで更に拍車をかけたものは一九〇四年のシベリア鐵道の全通である。開通前はモスコイ・トムスク間は四〇〇ルーブルの旅費が必要であつたが、鐵道運賃は僅か四ルーブルで足りた。

かくて移民數は一八九六年より七七年間に一二・九萬、一九〇三年より三年間に一八萬人と飛躍し、シベリア人の人口は一八九七年七〇九・一萬より一九一四年九九三・四萬に達し、この一七七年間に二八八萬を増し、年平均一七萬宛増加した事となる。

ハ、ソ聯政府はシベリア植民に意を用ひ、極東移住者には資金を與へ、土地を無料提供し、租税を免除する等種々、

の手段を用いたので、帝政時代の八百萬の住民は現今は倍加するに至つた。

一九二八年極東にユダヤ人自治州(ユダヤ人口二萬)を建設してよりソ聯内ユダヤ人の移住者が著しくなつた。

ニ、刑期を終へたる流刑者は歸還を許してゐるが、流刑は今も繼續して行はれ、反スターリン派、集團農業(コルホーズ)化に反対する者、重刑者等に移し、極地開拓、道路・鐵道の建設、森林伐採等に從事せしめてゐる。

四、シベリアの政治區劃を説明せよ。

この地方には、ソ聯政府の直轄地と、自治を許されたる自治共和國との二種類に分れてゐる。

(一)直轄地

- 1. オムスク州(オムスク)
- 2. 西部シベリア  
オイラート自治州・ハカツス自治州・タラ管區・オスチャク・ウオグール民族管區ヤマル民族管區(サモエード)
- 3. クラスノヤルスク州(イルクツク)

- 4. 極東地方  
アムール州・ゼーヤ州・カムチャツカ州  
ニジニアムール州・沿海州・サハリン州  
(ハバロフスク)  
ハバロフスク州・ユダヤ人自治州
- (二)自治共和國(憲法を有せずソ聯の一部として自治を許されてゐる地方)
  - 1. ブリヤート・モンゴル自治共和國(ウエルフネウチンスク)
  - 2. ヤクート自治共和國(ヤクーツク市)

五、北洋漁業と、我が漁業權益につき説明せよ。

- 1. カムチャツカ半島の東岸よりオホーツク海沿岸日本海に及ぶシベリア東部海岸は延長一二、五〇〇軒、この沿岸と、縁海には、寒流が流れ、その中の豊富なるプランクトンを目指して多くの魚類が集散し、世界有数の漁場を展開してゐる。北海道以北を北洋と稱してゐるが、此方面の漁業は日露戦争後邦人漁業者によつて開拓され、ソ聯もそれに刺戟されて昨今邦人を凌ぐ程隆盛となつたものである。
- 2. 北洋の漁業は豊富なる鮭・鱒を主とし、鯧・鱈を目的とし



3. 日本の北洋漁業權はポーツマス條約第十一條「ロシア國はオホーツク海及びベーリング海に瀕するロシア領地の沿岸に於ける漁業權を日本臣民に許與するたために日本政府と協定をなすべき事を約す」と規定してある原則により、細則を協定する事を約してある。

我が國は堤清六氏の堤商會がカム河口に漁區を借り開始せし

を始めとし、變遷の後現今は日魯漁業會社(資本五三八一萬圓)により従業員二一、〇〇〇人、生産高五千萬圓に達する大規模の仕事が行はれてゐる。作業は領海内の漁業と、沿岸の罐詰工業、並に母船式による鮭・鱒・蟹漁を行ひ移動しつゝ船内にて罐詰製造を行ふものであるが、沿岸漁區三八〇區、借區料約三〇〇萬ルーブルを納入してゐた。

4. 同條約は、一九二八年我が田中大使とカラハン氏との間に調印されたものであるが一九三六年(昭和十一年)に終了、同年更に新條約を締結する運びとなつたものが、十一月二十五日、日獨防共協定の成立せるに不満をもちソ聯側が調印を拒みたる爲、十二月廿九日一ヶ年の暫定協定を決定、更に一九三七年に再び一ヶ年の暫定協定を締結、一九三八年に新條約の締結を迫つたがソ聯は誠意を示さず、一九三九年四月二日に至り我が東郷大使と、ソ聯外務人民委員リトヴィノフとの間に暫定協定の調印を見るに至つた。昭和十一年五月以來四回目の暫定取極である。その内容は

イ、従來の安定漁區

- ロ、期間満了後更に五ヶ年間借受けたるもの 九
  - ハ、契約繼續中のもの 五二
  - ニ、罐詰工場附属漁區 四〇
  - ホ、ソ聯回收漁區の代漁區 一〇
- 總計三六〇漁區で、その中安定漁區を含め二六四區は五ヶ年間安定となつた。

5. ソ聯漁業の發達 ロシア漁業者は沿岸漁業は行つてゐたが沖漁業は頗る不得意とする處である。日本の進出が著しいため之れに刺戟され、一九二八年第一次五ヶ年計畫以來増産を企圖し著しき發展を見た。即ち、一九二八年ソ聯領海内に於ける總漁獲高の八七・三%を日本側が占め、ソ聯側は一二・七%であつたが、一九三八年に於てはソ聯側は四二・五%に進歩してゐる。

漁區に就て見ても一九二三年當時は日本側漁區二五四區に對しソ聯は三四區で、比較にならぬものであつたが、一九三八年に於ては日本側三八九區に對し、ソ聯側は四〇二區を所有し、斷然優位に立つてゐる。



六、シベリアの重要鑛産を説明せよ。  
東部山嶽地帯は古い地質が露出し、廣い地域に互つてゐるので、その間に各種の鑛物が埋藏されてゐるが、其の中著しいものは砂金・石炭・鐵・石油等である。

1. 石炭  
イ、クズネツ炭田 ソ聯に於ける最大炭田で埋藏量四千億噸と稱せられ、一九三六年の産出量は一七八〇萬噸に及ぶ。炭層が淺くて厚く炭質が優れ埋藏が多くて採掘に便利な點は他に類を見ない點で、一九二八年第一次五ヶ年計畫の結果急激に發達した。  
ロ、イルクツク炭田 交通

の便がよく炭量十億噸と稱せられ、その中チェレムホヅ炭田は三・八億噸、アングラ工業地帯の基礎となつてゐる。バイカル湖の東部にも一・五億噸が計算されてゐる。  
ハ、極東地方 プレイヤ炭田はジュラ紀層より良質の石炭を出し、埋藏量三・七億噸、プレイヤ川流域一・一萬方軒に互つてゐる。一九三四年より開發が始まり、こゝに重工業地を建設せんと企圖しつゝある。

ウスリー河のスタン炭田は、埋藏量二・五億噸、無煙炭・骸炭とを出してゐる。ウラディウオストクの東方に在るアルチョムは年産二五〇萬噸に達する。

極東地方の石炭は三〇億噸と稱せられるが1/2はアムールの流域に在つて一九三三年の生産は二〇〇萬噸に達してゐるといふ。

ニ、北樺太炭田 西岸の第三紀層中に在つて、實測によれば瀝青炭二・六億噸、推定量一七・五億噸と稱せられる。我が國は一九二五年の日ソ條約により石炭の採掘權を有し、ツエ炭田を經營してゐる、年産二五萬噸、産額の五

%一八%をロシアに納め、残りの大部は我が樺太に於て消費されてゐるが、將來は内地に供給せられるであらう  
北樺太に於けるソ聯側の産炭量は二七萬噸である。

極東地方全産高は五ヶ年計畫の増産により一九三六年に三六一萬噸となり、自給の域に達した。

2. 鐵 シベリアの鐵は一三・四億噸と稱せられてゐる。東部シベリアにその半を藏し、チェレムホヅの石炭に結びついてアングラ工業地帯を建設せしめてゐる。極東に於てはウスリー鐵道に接近して小ヒンガンに莫大なる鐵を埋藏してゐると稱せられ、同時に花崗岩・耐火粘土・石灰岩等も産出するので、是等を利用してプレイヤ工業地を建設せられる事となつてゐる。

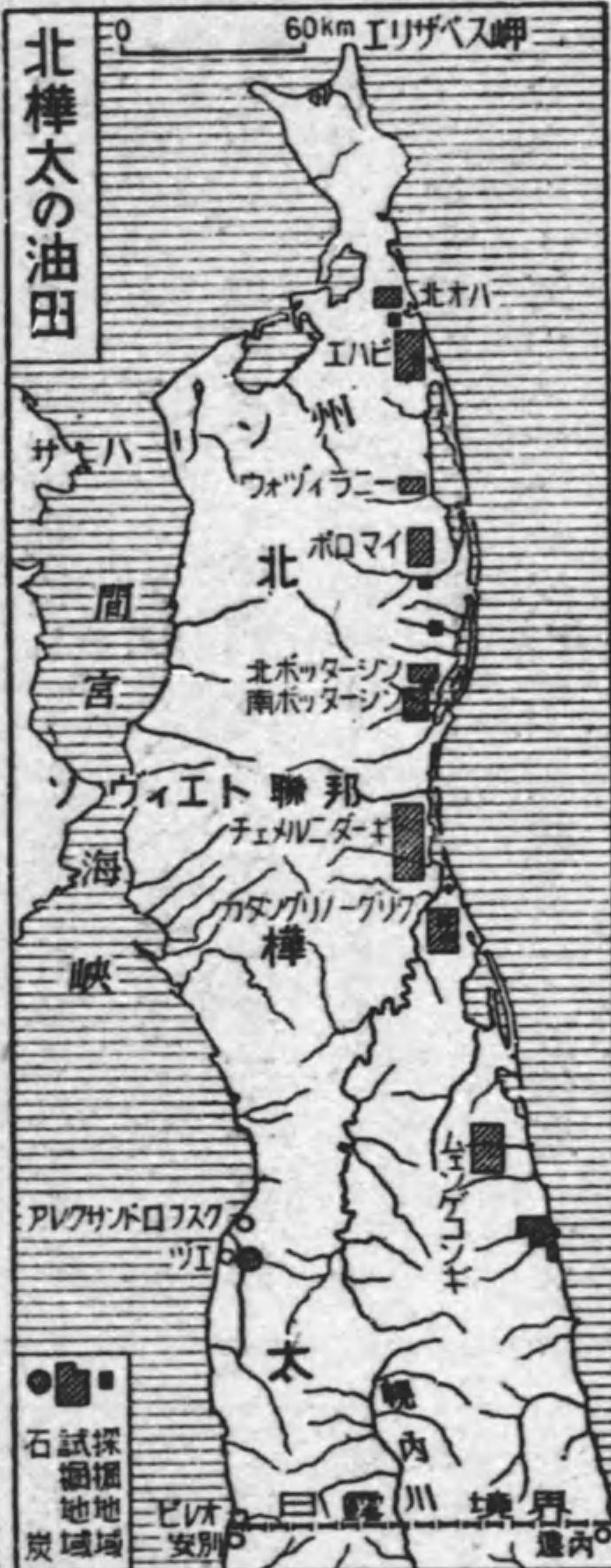
極東地方の鐵の消費は近年一〇〇萬噸を超過してゐるに、自給は二萬噸に過ぎず、コムソモルスクに年産五〇萬噸の大製鐵所を建設中で、一部は操業開始と傳ふ。

3. 石油 北樺太の石油は一八八〇年に發見されたが、採掘に着手したのは大正八年久原・三菱・大倉・日石・寶田によつて



作られたる北辰會で、同年六月ロシア官憲の許可を得て試掘した。大正十二年米國シンクレア會社がソ聯政府から採掘権を獲得したが、大正十四年(一九二五年)日ソ協約が成立した爲自然消滅となつた。翌年北樺太石油會社が創設され、北辰會の事業を繼承して該事業に當ることゝなつた。我が國の得たる鑛區は、合計八〇〇萬坪に達する。

オハ 一五三萬坪、エハビ 九八萬坪、ピリツン 七三萬坪、ヌトウオ 五三萬坪、チャイウオ七三萬坪、マイウオ九八萬坪、ウイクレツク 四九萬坪、カタングリ 九八萬坪



大正十四年末(一九二四年)より四十五年間の採掘期間を約束してある。この外三億四千五百萬坪の未開拓地試掘権を

有し、十一年間の試掘期限は昭和十一年に満了したので更に五ヶ年の延長が成立してゐる。目下北樺太石油會社鑛業所はオハにあり、從來稼行し來れるはオハ・エハビ・カタングリで、現存の油井は一三三坑である。日産量オハは四五〇—五〇〇桶、カタングリは一七〇桶、年産二三萬桶に達する。昭和一七年四六萬桶の見込。ソ聯石油の發展、一九二八年オハ油田に於けるソ聯唯一の油井は日本側九萬二千桶に對し僅かに二九六桶の採油をなしたに過ぎなかつたが、一九三四年には一六九坑に達し、

日本の一二三坑を凌ぎ、年産高も一九三七年には三六萬桶をあげ、日本側一二二萬桶に對し、實に三倍の多きに達した。ソ聯は自國側の増産を企圖する一方極力日本側の採掘を不當に妨害してゐる。北樺太の石油は極東の需要を充たすに足らず、ソ聯に於てはそれを補はんがため豊富なる石炭を利用し

4. 金、砂金が主で黒龍江上流に多い。埋藏量は六〇〇萬噸と石炭液化事業の振興につとめてゐる。

八、極東地方の工業の躍進について考へよ。

1. 極東投資 ソ聯は極東地方の鑛産資源を開拓し、更にそれらを原料として重工業の發達を計り、極東軍の軍需品自給を目指してゐる。一九二八年—三二年の第一次五ヶ年計畫に於ては、ソ聯の基本投資總額六百億ルーブル中、極東地方投資は僅かに九・五萬ルーブルで、全土の一二%を占むる極東地方が投資に於ては一・六%しか認められなかつたわけである。然るに一九三一年に勃發せる滿洲事變並に同國の建國はソ聯を刺戟し、第二次五ヶ年計畫(一九三三年—三七年)に於ては極東地方投資は一躍四〇億ルーブルの豫算を計上せしめるに至つた。しかもこの第二次計畫の實行に當つては豫算額を遙かに超過し、八三億の巨額に及び、二倍に達した。

一九三三年	四・五億ルーブル	一九三六	二四・〇
一九三四	一四・四七	一九三七	二六・〇
一九三五	一四・〇	計	八二・九七億ルーブル

2. 製鐵・機械工業

重工業の根幹をなす製鐵業は在來此地方には皆無であつた。最近(一九三六年)に於ける極東地方の鐵材使用高は、鐵道を除き一〇〇萬噸を超過してゐるのに、自給は僅かに二萬噸即ち二%であつた。そこで政府は鐵鑛山の調査を行ふと共にコムソモルスクに年産五〇萬噸の能力を有する製鐵所を建設中である。又機械製造工業の擴張を期し、一九三〇—三四年の間に金屬工業に投じた資本は二〇億ルーブルに達し、極東投資の七〇%を占むるに至り、兵器・車輛・建築材・飛行機等の工場が各所に設けられた。

自動車工場はハバロフスク、ウラディオストク、ウオロシロフ、コムソモルスク等、大規模の車輛工場はウオロシロフ、ピロビジャン、ウランウデ、飛行機製造 ウラディオストク、ハバロフスク、コムソモルスク等年産二五〇臺、造船 ウオロシロフ、ハバロフスク、コムソモルスク、プラゴヴェシチェンスク、

3. 製油工業 北樺太の採油高は一九三七年に於て三六萬噸を得てゐるが極東地方を自給するに至らず、奥地油田の發見に狂奔し、カムチャツカ半島及びバイカル湖北岸より太平洋に亘る廣大なる地域に油帯が發見され、カムチャツカに於ては既に試掘が行はれてゐる。製油企業を中心はハバロフスクである。

4. 主要工業地

ウラディオストク 商港と共に軍港として重きをなし、大豆・豆粕・豆油・種子・木材等を輸出してゐるが、工業地として近年發展し、金屬・車輛・飛行機・製材・製粉・油脂・麥酒等の工場が多く又造船も盛である。

ウオロシロフ 舊ニコリスクで鐵道の分岐點にあたる。ミコヤン記念油脂工場・製糖・機械修理・車輛・製材・製粉等が行はれる。

ハバロフスク 極東軍司令部所在地で、極東地方の策源地交通の要地で人口二〇萬、自動車・造船・製油・飛行機・製材・製粉等の工業が行はれ、軍需品を主とし、年生産一億ルー

ブルに達してゐる。

コムソモルスク 新興工業都市で、地名はコムソモール(共產青年同盟)から來たものである。大製鐵所が設けられ、重工業の中心となり、自動車修理・機械修理工場をはじめ、冶金・飛行機製作・組立等の各種工業が行はれてゐる。

ビロビジャン ユダヤ人自治州の首府、ユダヤ人二萬に達し資金は豊富である。大規模の車輛工場が作られ、戰車製造が行はれてゐる。

ブラゴヴェシチェンスク 滿洲の黒河に對し、ゼーア河流域の經濟的中心地、造船・金屬工業及食料工業が行はれてゐる。

この外バイカル地方に於けるチタ・ウランウデ・イルクツク等も大規模の工業が行はれてゐる。

九、シベリアに於けるソ聯の極地開發につきて説明せよ。

極北の曠野はソ聯全面積の四〇%を占め、その海岸線は露領にある海岸の大部に達してゐる。ソ聯としては、この大なる領土・長い海岸を有効に利用することが急務であらねばな

らない。

1. 北極海の沿岸は一年の大部は凍結するが六月—十月までは砕氷船によつて航行が可能である。この海岸の航路開拓に功績を立てたのは北方海路總局長オットー・シュミット氏で、彼等は幾多の困難を冒して一九三四年、北極海による歐亞航路に成功した。一九三六年に北極海を航行した船舶は一六〇隻、前年の二倍に達し、輸送貨物は建築材・食料品・狩獵具・工業品等二七〇萬噸であつた。

2. 航空路による歐亞連絡は氣象觀測機關の設置と共に將來有望なるものであらう。ソ聯は北方空路の開拓に留意し、フランツヨセフランド、カラ海のデイクソン島、イエニセイ河口、レナ河口、チュクチ半島に飛行場を作り、多くの觀測所を設置し五六ヶ所の無電通信網を作り、約三萬の移民を送つて沿岸地方に聚落を作らしめてゐる。

3. これまで四十回に亘る大規模の調査隊を送り、全土の四〇%を占むる荒野に埋もれる資源の發見につとめた結果、極北地方に既に一、二七三の鑛床が發見されたといふ。炭田

七三、金二六、白金二、油田三、石棉六等が主なるものである。この未開の地域を開拓することによつて經濟の立直しも豫想されるので、北方航路を先決問題とし、それに二・五億ルーブルも使つてゐるといふ。

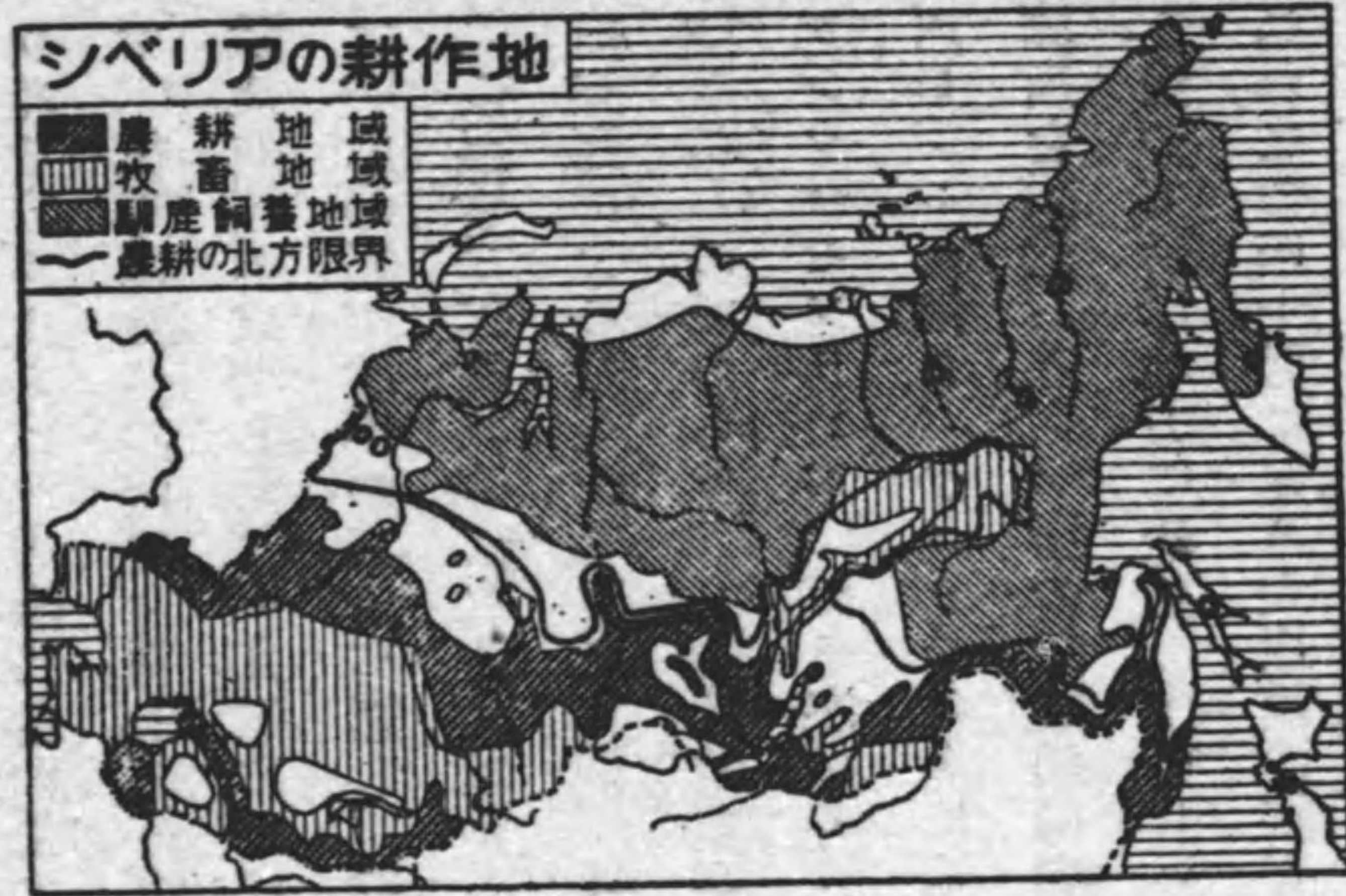
4. 極地には白熊を始め多くの毛皮獸が廣く分布し、又荒野は馴鹿の放牧地である。エスキモー・チュクチ・モンゴリア等の土人が居住してゐるが、更にロシア移民を送つて開發を行はしめると共に、野菜を栽培せしめ、住民の壞血病を豫防するにつとめてゐる。イエニセイ河を始め各河川の流域には豊富な木材が繁茂してゐる。これを河口に流して製材し歐洲に輸出してゐるが、一九三六年にイガルカ港に來た木材積取汽船四五隻中三五隻は英國船であつたといふ。

【讀圖】

一、シベリアの耕作地

1. シベリアの耕地は四萬方軒で、全面積の僅か〇・三%に過ぎない。ウラル地方・西部シベリア等オビ河流域の黒土帯に多く、耕地の三分の二はこの地方に在る。春蒔きの小麦

大麥・燕麥・裸麥・馬鈴薯・甜菜等が作られ、小麥は特に著名で、シベリアの穀倉と稱せられる。



田が開けてゐる。他は主として麥を作り、穀類は耕地の九〇%を占めるといふ。  
第三次五ヶ年計畫に於ては食料偏重主義の農作物に改訂を

極東地方に於ては、山嶽地帯の間に處々に耕地があつて、アムールの支流ゼーヤ・ブレイヤ河流域に最も廣く、集團農場が作られ、中心にブラゴヴェシチェンスクを發達せしめてゐる。沿海州の興凱湖沿岸平野ウスリー江流域は第二の農耕地で、南部には鮮農による水

加へ、飼料・原料等特殊農作物の栽培をも企圖してゐる様である。

極東地方の農産には小麥の外燕麥・米・麻・馬鈴薯・大麻等もあるが、人口に比し生産は少く、食料は1/2を自給し得る程度で不足分は西部シベリアより輸送してゐる。

### 2. ソ聯の農業政策

ソルホーズ(集團農場又は共營農場)一九一八年以來發達したもので、第一次五ヶ年計畫に於て大いに増加され近年は耕地の七割以上に達した。極東地方では耕地の八七・四%までソルホーズ化してゐる。これには次の三種類がある。  
イ、共同耕作組合 最初行はれしもので、耕作のみ共同で行ふもの、  
ロ、農業アルテリ、農家と宅地のみを個人のものとし、耕作地・農具・種子等生産手段をすべて共通とするもの、  
ハ、農業コミュニール 高度のソルホーズで、すべてを社會化し、農民の生活も共同とし、住宅も食堂も共同で使用するもの。

ソウホーズ(國營農場)政府自らが經營し、資本主義的な大農場を農夫の雇傭によつて耕作せしめるもので、今では耕地の一〇%を占めてゐる。廣大なる土地を、大規模の機械耕作をなすには便利である。

### 3. 牧畜

牧畜の盛に行はれるのはキルギス草地の北部よりシベリア鐵道沿線の草地で牛を主とし、羊・馬も飼養せられ、大牧場地帯をなしてゐる。

牛は今日五〇〇萬頭以上に及び、同時にバター・チーズ等の酪業が行はれ年産五〇〇〇萬ルーブルのバターを出し、シベリアの特産となつてゐる。

### 二、シベリアの都市と鐵道

1. シベリア鐵道は極東に海を求めて作られたもので、その目的は、政治的・軍事的であつた。一八九一年に着手し、工費二億ルーブル、一九一七年黒龍江線の完成まで一五ヶ年を要した。なるべく短時間でウラディオストク・旅順に出づる様シベリアの既有都市に無關係に敷設せられてゐる。然



し東侵政略が日本との戦に挫折してからは専らシベリアの開拓鐵道として意義を有するに至つた。同鐵道が、北緯五〇度―五五度に亘る開拓地域に敷設せられてゐる點より考察しても明瞭である。

第三の意義はこの鐵道が世界の交通幹線をなし、歐亞連絡の最短距離をなしてゐることである。ウラディオストク―モスコ―十三日、急行は九日である。

近年日ソ關係が逼迫し、再び政治的意義は重大となつて來た。

シベリア鐵道は全長七、三八一軒で、支線を加ふれば實に一三、八〇〇軒に達するものである。

内バイカル線 チェリアピンスク・イルクツク間

三、三四三軒

外バイカル線 イルクツク・カリムスカヤ間

一、五一七

アムール線 カリムスカヤ・ハバロフスク間

一、八六一

ウスリー線 ハバロフスク・ウラディオストク間

七六〇

2. バム鐵道 第二次五ヶ年計畫に於ては、極東の交通強化を企畫し、

イ、シベリア鐵道の複線化完成

ロ、滿洲國との接壤地帯に鐵道網建設

ハ、新にシベリア横斷線を建設すること。(バム鐵道)

を決定、既に第一の複線は完成し、第二の鐵道網は一九三六年ウランウデよりキャフタを経て外蒙ウランバートルに達する鐵道を完成し、其の他も着々實現を期しつつあり、バム(バイカル-アムールの略)鐵道(一八〇〇軒)は東支鐵

纏め、且つ本大陸の特徴を把握せしめる。

【概観】

一、地勢・海洋 バミール高原を中心として東西に伸びる褶曲山脈、褶曲山脈の北方即ち大陸の中央部に互る地塊山地群、更にその北部即ちシベリア地方に古い臺地が分布し、その間に、デカン高原・西藏高原・蒙古高原が連り、夫々成因と地形を異にする。

海岸には、東部アジアより南東アジアにかけて弧狀列島の多き特徴とし、その内側に縁海を抱く。

河川は印度洋斜面、太平洋斜面、北極海斜面及び中アジアの内陸地方の四方面に分流する。大河が多く又水量の豊富なるを特徴とする。

二、氣候 太平洋岸に於ける季節風と、印度洋に於ける季節風とは、世界の各大陸中最も特徴ある氣候で、これが本大陸の産業に關係する事が多い。

三、産業 農業は季節風帯の特質をあらはしてゐる。牧畜は有畜農業の副産物として行はれ、又游牧には生活必

道を失ひたる代り、北方開拓と沿海州のソウガワニに出づる政治的重要性を兼ねて企圖せられ、第二次五ヶ年計畫中に於ては外バイカル地方の一部を完成したるのみであるが目下建設を急いでゐる。

その支線のハバロフスク對岸のウオロチャエフカとコムソモルスク間三六〇軒は一九三六年に完成し、運輸を開始してゐる。尙計畫中のものにはブレイヤ・ライチーハ線、ウーユル・コムソモルスク線等がある。

3. シベリアの都市は主として鐵道の沿線に在つて人口の九割を占めてゐる。物資の集散地、交通の要地として發達したものが多いが、第二次五ヶ年計畫によつて工業地化して來た。

第八章 總括

【目的】

アジア大陸の各國別に授けたる自然・人文の個々の知識を復習し、之を總括して大陸全部を一單位としたる知識として

需品として飼養せられ、畜類は商品化されざるを特質とする。

水産は日本・沿海州を中心とする世界第一の水産國がある。

四、交通・商業

原始的交通・鐵道・海運・空路の發達

貿易 原料食料の輸出地と工業國

五、住民 十一億で世界人類の二分の一を占め、文化程度は

一般に低い。漢族・日本人・マレー人種・ヒンヅ族・イラン族・アラビア人等の分布。

世界三大宗教の發生地。

六、政治 大部は歐洲諸國の植民地、委任地となり獨立國が

少い、世界列強勢力の集注點

日滿支の東亞ブロックの建設

【考察問題】

一、アジア大陸の地形の特色は何か

1. アジア大陸は世界で最も廣い陸塊で、ヨーロッパ大陸と連続し、これをユーラシア大陸と總稱してゐる。ユーラシア

大陸の南部には、略東西方向に大造山帯が連り、二列の高峻なる褶曲山脈は常に南北に對應しつゝ走り、その間に中間山地として高原が連つてゐる。西部アジアより東方に向つて、ポンツ山脈・エルブールズ山脈・ヒンヅークシ山脈・カラコラム山脈・崑崙山脈と一列に連續するに對應して、南方にはタウルス山脈・イラン山脈・スリマン山脈・ヒマラヤ山脈が連り、兩山系間に、アナトリア高原・イラン高原・西藏高原が連り、更に印度支那半島より馬來諸島に連つて海中の弧狀山脈をなし、中間山地は海侵を受けてジャヴァ海・セレベス海となつてゐる。

何れも第三紀時代の褶曲山脈で之れをメソイデン Mesoiden と稱する。メソイデンの北方には中アジアより支那の新疆蒙古滿洲國及びシベリアの國境地方に互つて古生代の褶曲山脈(これをパレイデン Palaiden としふ)が連り、長期の削削によつて準平原化してゐたものが、第三紀時代の陸山運動の影響で動搖し、地塊山地となつて隆起してゐる。準平原が斷裂して隆起したものの故、山頂が平坦になつてゐる。

盛夏には低氣壓を生成し、アジア大陸のモンスーンを生ぜしめる特徴を有する。

3.メソイデンは、馬來群島より、日本列島・カムチャツカ半島につゞき、東部アジアより、南東アジアにかけて、著しい花綵列島の幾列かを形成し、他の大陸に見ざる特異の地形を呈し、その弧狀列島の外側には著しき海溝を繞らして居る。世界最深海エムデン海淵(一〇七九三米)もその一部のフィリピン海溝中に存在する。これもアジア大陸の地形に於ける第三の特色といふことが出來よう。

二、アジア大陸の氣候の特色は何か

前問にある如く、アジア大陸は世界最大の大陸で、その中央部は海岸より遠き上に高山によつて包圍され、廣い高原が連つてゐる。かゝる特異の地形は盛夏に著しい低氣壓を生ぜしめ、太平洋・印度洋の高氣壓部より季節風がやつてくる。

1.太平洋とアジア大陸間のモンスーンは、夏季は南東風となつて大陸に向つて吹き、印度支那半島・支那・日本の南東海岸に多量の降雨をあらはし、夏季の高温と共に農産を豊富

るものも少くない。天山・アルタイ・サヤン・ヤプロノイ・興安嶺・シホタ等の山脈は何れもそれで、山脈の一方又は兩側に斷崖を有してゐる。かゝる斷崖による山地をネオパレイデン Neo-Palaiden とつてゐる。その間には蒙古高原・タリム盆地がある。ネオパレイデン群の北方には太古代の如き古き時代の褶曲が、準平原化し、幾度か海侵を受けてゐてもそのまゝの平坦面を維持し、臺地化してゐる部分、即ちアルケイデン Archaiden と稱せられる地域がある。ジウスのアンガラ・ランド Angara Land 即ちバイカル湖以北のシベリア臺地がそれである。かくの如く、アジア大陸に於ては、シベリア・支那・南アジアの順序に北方より南方にかけて順次に古い褶曲より新しい褶曲に變化して並び、デカン高原に至り、ゴンドワナランドの殘壘と見られる古い地塊に停止してゐる。これはユーラシア大陸造山現象の一特徴と見られるものである。2.而して、この世界最大の陸地の中央部は高山によつて海より隔絶し、然かも五〇〇〇—一〇〇〇〇米の高原が廣く互り



季は反對に北東風となつて大陸部より印度洋に吹く爲印度

ならしめる。即ち米・茶・甘蔗・棉・麻等を多量に生産せしめる。冬は大陸内部より太平洋の低氣壓に向つて北西風となり、寒い乾燥空氣がやつて來る。その爲沿岸各地は乾燥し、日本の北西海岸には降雪が甚だしい。

印度に於ては夏季は南西季節風となつて半島の西岸、ヒマラヤ山脈の斜面に多量の降雨を現はし、アッサム地方のチェラプンジは實に一〇、〇〇〇ミリに達する。然るに冬

は乾期となり、灌漑によつて耕作するに至る。かくて印度に於ても、モンスーン地方特有の米・茶・棉・麻・甘蔗等の世界的生産地となつてゐる。

一、アジアの植物の分布



アジア大陸の大部は北半球にあつて、赤道直下の熱帯より北緯八〇度の寒帯に亘り、又雨量に於ても世界の最多雨地より内陸乾燥地にかけて、總ての氣候状態の下に極めて變化ある植物相を呈してゐる。

1. 凍土帯

Tundra 北極圏以北は殆んど凍土をなし

る。

植物相を呈して

ゐる。

凍土をなし

る。

一般に低濕地を覆ふ蘚苔類及び、高燥地に在る地衣類が一面に廣がり、處によつては灌木が僅かに見られる程度で、利用價值が少く、僅に馴鹿の游牧が行はれてゐる。

2. 森林帯 1. ツンドラの南方、シベリアの中央部を東西に連る亞寒帯針葉樹林がある。落葉松・シベリア松・蝦夷松・縦・松等

3. 草原帯 中央アジアでは冬期の寒冷と、雨量の不足から森林帯の連續を許さず、草地に變化してゐる。この草地は森林帯の南につき、中央アジアより蒙古・滿洲・北支にまで分布してゐる。植物は一部を除く外は全部草本で、初夏の多雨期には急速に生長し、乾燥時には地上部は枯れて一面褐色となる。

4. 潤葉樹帯 草地に接し、沃地に於ては潤葉樹が繁茂する。冬期寒冷なる地方は落葉となり、冬期も尙温暖なる南部に於ては常緑潤葉となる。前者は沿海州・日本・支那西部・コーカシアに見られ、檜・樺・ブナ等が多く、後者は支那本部の南半で、樟・櫟の如きもの。然し、今は多くは栽培植物に

置き替へられ、自然の林相を呈してゐない。

5. 地中海硬葉樹帯 冬期温暖で降雨の大なる小アジアの縁邊と地中海東部ではコルク櫟・オリブ・月桂樹等硬潤葉樹が繁茂する。

6. 熱帯・亞熱帯の密林帯 馬來諸島の如く一年を通じ、高温で多雨なる熱帯地には、常緑の原始林が連り、着生植物や蔓生植物によつて鬱蒼たる林相を呈する。

7. 熱帯草地及季節森林帯 高温にして雨の少き地域には草地があつてサヴァンナとなり、季節風によつて夏の多降雨を見る地方では夏季緑林が連り、冬の乾燥期は落葉する特殊な景觀となる。然し是等の地域も栽培植物に被覆され、自然の植物景觀を知ることが困難である。

二、アジアの人口密度

アジア大陸の人口は約十一億で世界人口の過半を占めてゐる。人口の分布は地形・氣候・植物繁茂状態等の自然に支配されるゝことが多く、アジア大陸に於ては、東部及び南部のモンスーン地方に居住するものが全人口の九割を占めてゐる。

人口稠密地			
日本内地	188.4 (静岡県 250人)	江蘇省	303
山東省	244	ジャヴァ	320
廣東省	143	マドラス州	129
ベンガル州	250		

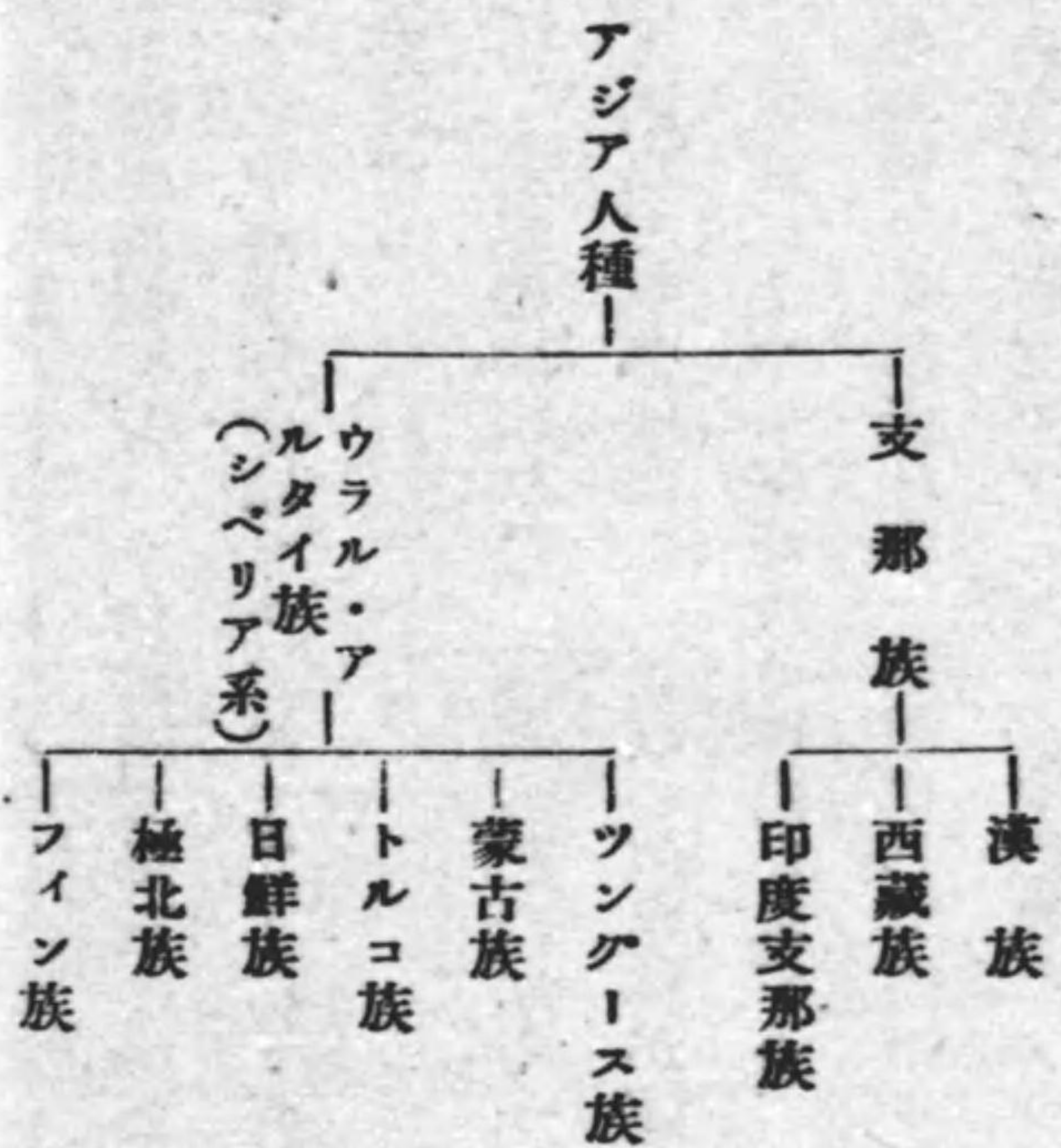


日本・支那・印度は、アジア洲の三大人口稠密地である。モンスーン地帯で沃野が連つてゐるため集約農業が行はれ、多數の人口を收容することが出来てゐるが、益々増加するに従ひ、人口の都市集中が行はれ工業が勃興する。

以上三大地域の人口稠密の原因としては  
1. 米作を主とする集約農業で、多數人口の居住を可能ならしめ、  
2. 古くより開け、家族制度によつて民族が發展し、土地に

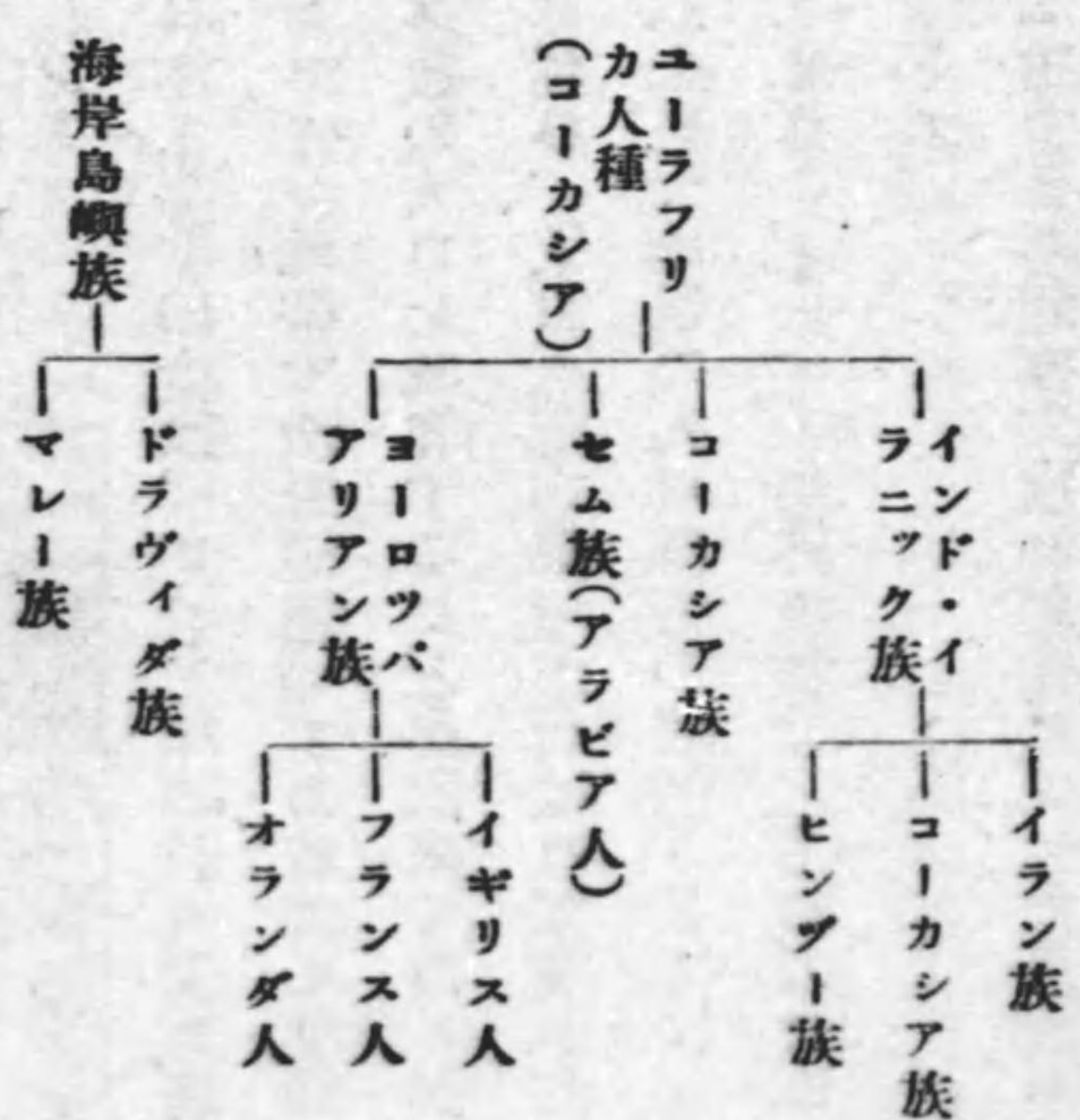
對する執着心が強く、人口が飽和状態に達しても故郷を離れず、原始的の農耕を営みつゝある。人口の疎なる地域は寒冷なる極北の凍土帯、乾燥地なる蒙古・中央アジア・アラビア等の草地・沙漠、及び中央部の高峻なる山嶽・高原地帯で、前記の稠密地帯と、自然・人文上著しき對照をなしてゐる。

三、アジア洲の人種分布



- 4. トルコ族 トルコ人・キルギス人・トルコマン人・ウズベク人・ヤクト人等之れに屬し、小アジア・中央アジア・新疆・青海・シベリアに亘り廣く分布する。
- 5. 極北族(古アジア民族又は古シベリア民族) 人種學上明瞭を欠くものであるがシベリアに多い。アイヌ・チュクチ・ギリヤーク・カムチャツカ・コリヤーク・ユカギル等總數三萬餘の少數である。
- 6. フィン族 アジア人種とされてゐるが主として歐洲のフィンランド人・ラップ人・エストニア人が之れである、マジヤール人も亦その一部と稱せられる。

- 1. 支那族 漢族が最も多く四億を數へ、華僑も亦八百萬人に達する。西蔵族二〇〇萬、安南・シヤム・ビルマ等の印度支那族四〇〇萬を加へ、アジア住民の四五%に達する。
- 2. ツングース 滿洲よりシベリア地方に住み、曾ては肅慎・靺鞨・渤海・契丹・金等の國を建て、近くは清朝を形成した民族である。
- 3. 蒙古族 昔は元の國を建てた民族で、今は内・外蒙古、滿洲の西部、シベリアの一部に住んでゐる。



- 7. インド・イラニク族 アリアン族に屬するもので、コーカシアよりイラン・アフガニスタン・ベルチスタン・印度平原に達する廣大なる地域を占居し、約三億の多數に及ぶ。
- 8. ヨーロッパアリアン族 普通ヨーロッパ人種といつてゐるもので、インド・イラニク族は之れと區別する場合アジア・アリアンと稱すべきものである。ヨーロッパアリアン族は、シベリアのロシア人、南方のフランス人・イギリス人・オランダ人等、總數一、三〇〇萬餘、主として指導的地位に立ち開拓に従事してゐる。
- 9. セム族 アラビア半島より北アフリカにかけて廣く居住し曾てはサラセン帝國を建設した民族である。
- 10. 海岸島嶼族 印度南部のドレイヴイダ族、マレー半島・マレー諸島にすむマレー人種を含み、原始的な生活を営んでゐる。

四、アジアの宗教分布





年頃より擡頭し、一九三四年遂に米國議會を通過し、一九四五年には完全に獨立することゝなつてゐる。

ロ、英領ビルマは一八八六年征服されて英領となり、印度の一州に加へられてゐたが、印度支那族で佛教徒たるビルマ人が、ヒンヅー教徒の印度より分離せんとする民族運動は熾烈となり、一九三七年四月を以て英議會を通過して英國の知事の下に上下兩院を有する自治植民地となる様になつた。然るに、印度人とビルマ人の民族的・宗教的・經濟的争闘はその後も引續き行はれ、一九三八年には排印・排英の騷擾となつて現はれて來た。

ハ、印度に於ける排英及び獨立運動の歴史は古く既に五十年の抗英史を綴つてゐる。ガンヂー等の活躍する國民會議派が一九二九年にラホールに於て獨立を目標とする宣言を行つてより運動は具體化され、遂に一九三七年四月土侯國以外の印度に曲りなりにも自治政府制が實施されるに至つた。ガンヂーのスワラジ運動は人種の平等、社會階級撤廢、民族自治より獨立へと目標を掲げてゐる。

目下實施されつゝある一部の自治は將來獨立に進む漸移的形態と見做さざるを得ない。急進派は共產化をすら叫んでゐる。ソ聯の進出と民族運動を目前にする英國の印度問題は前途多難なるものあらん。

ニ、更に西部アジアに於けるイラクの英國資本主義排除運動、パレスタインに於ける最近のユダヤ人・アラビア人の民族争闘等大英帝國は滿身瘡痍の状態を呈してゐる。全アラビア半島に勢力を張れるイブンサウドは、到る處に排英を實行して回教徒の獨立を企圖して居り、曾ては廣大なる回教國の懐柔にとめた英國も、現在は各所に彌漫する排英氣分に惱まざるゝに至つた。

4. 帝國主義侵略時代に領土を擴張した列強が、廣大なる領土を抱き舊時代の封建的體形を持続せんとし、澎湃として起つた民族運動に悩むとき、東亞新秩序建設とアジアの民族自主を叫んで立ちたる帝國が、歐米勢力を極東より驅逐し、日滿支ブロックを形成して世界平和に寄與せんとするは、眞に意義ある大事業といふべきである。

## 第二編 ヨーロッパ

### 第一章 序 説

#### 〔目的〕

ヨーロッパの教授に入るに先だち、既得知識を整理し、且つ若干の豫備的知識を與へる。ヨーロッパは世界文化の中心地として最も重要な地域であることを認識せしめ、地理的位置の優秀性が歐羅巴文化の發達を助長せる所以を理解せしめる。

#### 〔教 順〕

##### 1. 境 域

ユーラシア大陸の一大半島であること。大陸としての獨立性に乏しいこと。文化、人種等の見地よりアジアと區別したこと。アジアとの境界をはつきりさせる。

##### 2. 位 置

數理的位位置——略中央に於て東經二十度線、北緯五十度線が交叉してゐる。北温帯に屬して文化發達に便なること。

關係的位置——陸半球の中心に當る。世界的交通の中心地となつてゐること。

##### 3. 文 化

歐洲文化と位置的條件との關係。

##### 4. 國 家

英・獨・佛・伊・蘇の五大強國と三十有餘の獨立國。

#### 〔解 説〕

##### 一、位置、境域

ヨーロッパ大陸は孤立した大陸でなく、ユーラシア大陸の一部分であるから、地形上より見ればアジアと區別する必要を認めないが、人文上幾多の特性を有するが故に之を分つて取扱ふが便利である。面積は一〇一九萬方呎濠洲を除く諸大陸中最小のもので、比較的長大な海岸線を保有するのが特徴である。

即ち到る所半島岬角大小の彎入に富み、又島嶼によつて縁取られてゐる。歐洲は殆んど全部が北温帯に横はり、唯北部の小部分が北極圏内にあるにすぎない。北緯四十五度の緯線がスペイン、ポルトガルの略々中央を過ぎてゐること、英諸島が北緯五十度と六十度との間に位置を占めてゐること、零度の子午線がロンドンを通過してゐること等、數理的的位置の上から重要なことである。

### 二、歐亞の境界

歐亞の境界は他の大陸間の如く、大洋や狭い海峡に依つて隔絶されてゐる譯でなく、連続した一大陸をなすのでその境界は甚だ不明瞭である。従つて從來兩者の境界として擧げらるゝものを見ても時により人によつて多少の差異がある。先づ政治的境界について見れば北方に於ては古くより殆んどウラル山脈を以て境界としたが、南方に於ては歴史的に多少の變遷を示し來つた。即ち最初はアゾフ海に注ぐドン河が歐亞の境であつたが、十八世紀の初頭には、ウラル河が境となり、大戦前には更にウラ



陸半球

歐羅巴洲はその位置陸半球の中央を占め、海洋に依つて容易に他大地へ交通し得る好位置に在る。この地理的位置が人文的に偉大な効果を收むるに至つたのは近世の事である。即ち新大陸發見以後大洋航行時代に入つてから、殊に一八六九年スエズ運河の開通、一九一四年パナマ運河の開通によつて一層その効果が高められた。若し北極海を通過する所謂北東航路、北西航路が實現せられるなら、陸半球に於ける中心的位置は一層重視せられるに至るであらう。歐洲文明の發達は必ずしも地理的位置の優秀性のみで説明されない。地形も氣候も住民も政治も、あらゆる自然人文の條件が理解されて始めて、文化發達の理田を説明

ルを越えて亞細亞の方に進出してゐた。次に自然的境界について見れば學者に依つて幾分の差異がある。北方に於てウラル山脈を以て境とするは、傳統的に軌を一にしてゐるが、それ以南に於ては次の三種の境界が採用されてゐる。即ち、

1. 西南部の低き丘陵たるオプチーシルトよりカスピ海に通ずる線
2. ウラル山脈よりウラル河に沿ひ、カスピ海に入る線
3. ウラル山脈よりエンバ河を経てカスピ海に入る線の三線である。又カスピ海より黒海に至る間に至ては
  1. コーカサス山脈をとるもの
  2. 北方の低地即ちマニチ河谷を以つて之にあてるもの
 二者がある。然し今日最も一般的なるものとして採用されてゐるものをあげれば、ウラル山脈—ウラル河—カスピ海—コーカサス山脈—黒海—ボスポラス海峡—マルモラ海—ダルダネル海峡の線によるものである。

### 三、地理的位置と歐洲文化

することが出来る。然し歐羅巴の地理的位置もその一要因たりしことは云ふまでもない。(地形・氣候については總括の章に詳説する)

### 四、ヨーロッパの國家

歐羅巴は文化の開發が古く、更に東部を除けば地形が極めて複雑であるから、非常に多くの國家に分れ、世界大戰後は民族主義の國家も新しく形成せられ、現在では三十有餘の獨立國がある。他大陸の領土は殆んどなく、全くヨーロッパ人の歐洲を實現してゐる。英・佛・伊の三國は共に國勢が掉つて強國の範に入り、ドイツは大戰後一意國力の恢復に努力してゐたが、最近オーストリアを併せ、日・獨・伊三國の防共協定を結んで歐洲に頭角を現し、大國ソヴェト聯邦は革命により、獨特の産業組織をたて、復興にとめてゐる。その他の諸國は以上五大國の間に立つて、それらの文化建設に力をつくしてゐる。然しヨーロッパは面積に比して獨立國多きため國際關係は極めて複雑である。

## 第二章 東部ヨーロッパ

### 第一節 ソヴィエト聯邦

#### 〔目的〕

- 一、面積が廣く、人口の多いロシアは、主要經濟が農業なる事と、大都市が少いことに於て、ヨーロッパ的でない寧ろアジア的である。このアジアに近いロシアの宿命を地理的位置の上から、或は大陸的地形及氣候から論じ、農業ロシアを解剖することが本節の主眼である。
- 二、西歐文化を受け易いロシアが今日工業立國の大本を定めて躍進してゐる事實を語り、特殊な政治組織による人民の困窮の有様をも知らせたい。
- 三、ロシアの領土たるシベリアが我が國に近く、樺太北境に於て此の國の領土と境を接してゐることより、國際的に兩國の關係が密接なることを語り、防共協定によつて此の國の思想を排撃しつゝある現状を理解せしめ、國民

としての自覺を強固ならしめたい。

#### 〔教 順〕

- 一、概 説  
位置、面積、人口、人種、宗教、政治の概要を知らせる此の國の歴史的沿革を語り、北偏せる位置とロシアの南進政策について考察せしむ。
- 二、地勢、氣候、産業  
ソ聯の地勢・氣候等の自然と産業の關係を有機的に取扱ふ。
- 三、交通、貿易  
ロシアを四地理區に分ちてその自然的特色をあげ、その地域と産業との關係を考察させる。
- 三、交通、貿易  
ロシアの地形と氣候が交通を支配し、産業が貿易品を決定する。  
シベリア鐵道による歐亞連絡について語り、凍結せざる海への切望が、ロシアの進路を決定しつゝある事情を知らせる。

#### 四、文化生活、日本との關係

歐洲の大國でありながら教育の普及せざるこの國の文化は、諸文明國と甚だしく趣を異にせる事實を知らしめ、建國の主義たる共産思想の人類平和に及ぼせる悪影響を知らしめ、日本國民たる幸福を感知せしめる。

#### 〔考察問題〕

##### 一、ロシアの地形の特色を考察せよ。

1. ロシアには山らしい山がない。四八〇萬方杆一帯が低地である。もつともウラル山中のテルボス山は一六八二米あるが、北方の人口稀少地帯であるから、問題にならない。汽車がウラル山脈をこえても、いつ越えたかわからない位に平坦である。一番高い所がボルガ河畔の丘で四〇〇米である。中央のバルダイ丘でも、三二〇米しかない。これがボルガ、ドン、ドニエプル、ドヴィナ、ベチョラ等の大河の源であるから河の流れが急になる筈がない。しかし、ロシアの平原は決して日本に見るやうな沖積層の肥沃な平原ではない。地質は硬い古生層の臺地性

の平野である。

上の堆積層は氷河や河川に侵蝕されてとれてしまつてゐる。つまり剝離準平原といふ性質のものである。だから波浪状の小起伏のある平原である。多くの國民は山や海を見ないで死んで行くのである。

2. この廣大な平原がロシアの國民性をつくり上げたと言つてもよい。酷寒、酷暑の大陸性氣候と共に作用して、鈍感にして質朴な農民、打たれても、たゞかれても之に堪える國民性が培れたのである。日曜日にもなれば親子一族辨當持參で一日一回しか通らない汽車を見に行くのが楽しみだと云ふ程度の呑氣さである。學校は遠いし、冬は寒くて歩けず、夏は忙しくて通學出来ない。だから無學な男が五割、女が八割もある。名前でも書ければよい方である。どんな壓制的な政治にも堪え得る性質、どんな嚴寒にも耐え得る體軀、しかし一度怒れば夜叉となるロシア人の氣質、之は極端な自然がもたらした影響に外ならない。

二、ロシアの位置が北偏してゐる影響を述べよ。

1. ロシアは閉ぢこめられた強國であると云はれる。ロシアの一番南はクリミア半島で北緯四五度である。四五度と云へば北海道の一番北である。だから黒海岸のオデッサで一月零下一・六度の低温を示し、之が五五度のモスコで一月零下九・八度となり、六五度のアルハンゲルスクまで行けば零下一二・八度まで下つてしまふ。

2. ロシアには白海・バルト海・黒海・裏海の四つの海がある。之等の海の内、冬どうやら使用にたへるのは黒海だけである。この黒海も入口をトルコ領にはさまれてゐるので自由に航行することが出来ない。彼のバルト艦隊東航の際、黒海艦隊は近東海峡が通過出来ない爲、聯合し得なかつた事がある。つまり露國は閉ぢこめられた強國である。従つてロシアの年來の慾望は南の凍らない港をもつことで、この爲め、過去三〇〇年の争闘をつゞけて來たのである。ペートル大帝はバルト海へ進出してベトログラード(今のレーニングラード)の港を建設し、バ

ルカンに出でんとして歐洲戦役の源をつくつた。更にアジアに於ては土耳其と争つて黒海を得たが物足らず、ペルシアに出でんとして果さず、浦鹽を得たが冬凍結するので、更に旅順に築港して我が國と衝突した。かくして未だに閉ぢこめられた大國である。

3. だから冬は寒い夜は長い。寒い長い夜を過すには酒である。ペーチカである。さうして彼等は五月の陽春を待つ。十一月から四月迄半歳の冬を過してあとの半年がロシアの活躍期である。モスコイでは五月に一二度、六月に一七度、七月に一七・六度で、この月が最高。九月には早九度になり、つるべ落しに十月五度、十一月零下一・二度となる。この短い夏を利用してロシア人は麥をつくり、甜菜から砂糖を取る。亞麻を收穫する。ライ麥をとるのである。

三、ソヴィエト聯邦の地理的區分が植物分布を基とするのは何故か。

蘇聯は北歐に續く一大平原をなし、分水嶺をなすバルダ

イ丘すら三百餘米にすぎないので、地形の區分は明かでない。従つて植物帯の分布に依て區別してある。

1. 凍土帯……北極海沿岸の年中凍結してゐる低原で、全く經濟的價值がない地方である。
2. 針葉樹林帯……中部以北の針葉樹の多い地方である。沼澤地と森林が續ぎ、北部には狩獵地もある。
3. 潤葉樹林帯……針葉樹林帯より南方にあり、伐木されて耕地が多い。
4. 草原地帯……森林帯以南にあり、黒土帯は古代氷河に依つて送られた泥土層より成る地帯で、黒土地方は豊沃、南部は一帶に草原である。
5. 沙漠地帯……乾燥した不毛地である。

四、ツンドラの景觀を述べよ。

ツンドラは世界の極北を占める凍原である。冬の始めには太陽が南の地平線に近く這ふやうに鈍い光を投げてゐるが、次第に低くなつて遂に地平線下に没してからは長々／＼暗の世界となる。そこには冬を越す鳥獸もなく、

目の届く限り地上は眞白な荒野である。この憂鬱な冬が終つて八九箇月振りにツンドラの夏が來ると、雪のむら消えの下から草や苔が青む。遠い南國から各稱の鳥類が無數に飛來して、文字通りの「鳥の世界」となる。海からは鮭や鱒が河を溯る。狼や狐も雪のぬぐらから出てくる。殊に不凍港アレキサンドロフスクに至る世界最北の鐵道沿線は、桃色に塗りつぶした地衣類の花模様を織り出す。そして終日太陽の没せぬ永日の國になると、眩しい太陽の照りつける下に魚は河海に、鳥は樹上に馴鹿は野に、そしてそこに住むラップ人も活動を始める。然し夏の陽光も遂に地下二尺の水を溶かし得ない。表面の美しいツンドラは水のとけた沼澤となり、そこへ下り立つたら最後、進退極まる沼地獄である。夫故ツンドラの交通は冬の凍結時に限られる。さうした夏も早くも終つて夏の終りとなると、やはり大陸性の氣候の特色をあらはし、寒冷は日に／＼強くなつてくる。夏八月でさへ落日となると列車はスチームを焚いて暖をとらなければなら



るがこの人種の相違が別個の共和國を建設せしめたのである。

3. スラヴ民族は単調な平原の中に生活するため、個性の

発達が全くなき、凡ての人が同じ様な性格になつてしまつてゐる。こんな廣い國土に生活し、専制政治下にあるロシア人は口癖のやうに「ニチエボー」と云ふ。「どうでもよい。どうにかなるだらう」といふ意味の言葉である。だから例へば汽車が一時間や二時間位おくれたとて驛長室へどなり込んだりはしない。たゞ「ニチエボー」と云つてすましてゐるのである。その驚くべき鈍重さは、支那人の「メイ、ファーズ」(仕方がない)と云つてすましてゐる。流域面積はヨーロッパの三分一の地域を占め、人口の三七%を居住せしめてゐる。



てゐる無頓着さと好一對である。

### 三、ロシアの河川

1. ロシアは土地が低平であるから排水が悪く、廣大な地域に亘つて沼澤地が存在し、河川の如きもメアンダーすることが極めて多い。然かも河川は冬季悉く結氷し、夏季には水量を減ずるので、水路としての便は非常に制限される。又湿地や沼澤地が多い上に更に基底に於ける岩石の深い地域が多く、道路や鐵道の建設が阻害されてゐる。然し冬季地表が凍結すると鐵道として、之が利用され、ハルコフ、キエフ等の定期市は一月或は二月に開かれることが多い。

2. ボルガとは母の意でヨーロッパの最大河



3. 南は農業牧畜地帯で、北はマリンスカヤ運河によつて、ネバ河口のレーニングラード工業地帯に連つてゐる。ロシア汽船の四四%が河上に浮びニジェゴロド(ゴルキー)が第一の河港である。唯缺點は河口が内海たる裏海に入つてゐることである。

### 四、ソヴィエト聯邦の農業と林業

1. ロシアは廣大な平原ではあるが、氣候が寒いとか、原始林が



ソヴィエト聯邦の土地類型別

2. 農産物の主なものは小麦・ライ麦・燕麥・亞麻・大麻・甜菜・煙草・馬鈴薯である。

氣候が南北に變化するに従つて農産物の種類も變化してゐる。黒海の沿岸地方は黒土地帯といつて腐植土に富んだレースで、夏季も高温であるから小麦の世界的産地、歐洲の穀倉と云はれる。この小麦地帯の出口としてオデッサ港が大いに發達した。輸出货量は多くないが經濟政策上度々ダンピングを行ふので、ロンドン市場の小麦の値



段を不定にする。

小麦の次はライ麦である。これは氣候の寒い地味のやせた所でもよいので、ロシアではずつと北のレニングラードの附近まで作られてゐる。大麥や亞麻も小麦と共に世界一の産額を有し、燕麥も米國にまさつて世界一である。

馬鈴薯も世界の四分一を産出して、産額は歴史的である。かくして氣候的條件が主となつて、南から北へ、小麦・大麥・燕麥・ライ麦とならび、甜菜や亞麻や大麻は西方の



稍濕つた所に産出する。

3. 林業はロシアの經濟の主要なもので、三五%の森林中、今尙處女林が各地に存在してゐる點などカナダの林業とよく似てゐる。ロシアはこの木材を北のアルハンゲルスク又はアレキサンドロフスクから西歐諸國へ送り、或はボルガやドン河を利用して南部ロシアへも木材を供給する。バルブ工業はまだそれ程盛ではない。

〔参考〕

産業五ヶ年計畫とソ聯邦の將來

1. 歐洲大戰勃發後四年目、一九一六年に國內に政治的革命が起つたことは餘りにも有名な話でニコラス二世はシベリアで暗殺せられ、レーニンの指導するロシア社會主義國家が經營されるに至つた。ロシアの經濟組織はその後改まり、五回のたて直しが行はれた。

一九一七年……戰時共產政策

一九二一年……新經濟政策

一九二五年……新新經濟政策

一九二八年……第一次産業五ヶ年計畫

一九三三年……第二次五ヶ年計畫

2. 一九一七年の革命による社會主義の新政府は土地國有の制度を實施したが、多數の無智なる農民は土地國有の理論を解せず、新政府の理想の實現は困難であつたのみならず、一九二一年の未曾有の大飢饉に際會して新政府は従來の社會主義政策を放棄し、若干の個人企業と私有財産制を認めた所謂「新經濟政策」を樹立した。この政策によつて漸く大戰前の水準に追付くことが出來た政府は第一次五ヶ年計畫により、國家の經濟を社會主義的に改造せんと試み、社會主義的工業の發達と、農業の社會化を計畫した。この計畫實行の爲に拂つた國民の犠牲は莫大であつたが、とに角相當の好結果を齎らし得た事は事實である。殊に重工業の發達は國力強化の基礎となつた。3. 更に第二次五ヶ年計畫が實行されたが、初期の成果はあげ得なかつた。けれどもこの計畫によつて生じた種々の難點を合理化して國民の物質生活を潤澤ならしめんと努

力しつゝあるから、何れその成果は見るべきものがあらうと思はれる。然し、社會主義國家の完成を目標とする此の國が、日・獨・伊その他の防共諸國と對抗してよくその社會的特殊性を發揮せしめ維持し得るかは今後の興味ある問題だと云はなければならぬ。

第二節 バルト三国

〔目的〕

バルト海沿岸諸國は何れも大戰後新たに國をたてた小共和國で、大戰前被壓迫少數民族であつたのが民族自決により分離したのである。

これら弱小國の地理的事實を通して歐羅巴の現状を察するのが主眼である。

〔教順〕

一、歴史的沿革の概要

二、經濟事情の一斑

三、三國の比較をなす

〔考察問題〕

バルト沿海に何故小獨立國が多いか。

バルト海沿岸の三國はレット人・エストニア人・リシアニア人より成り、各民族を異にしてゐる。大戰前はロシア領に包括されてゐたが、大戰後獨立して各々共和國を建設した。これらの三國が獨立を永續し得るや否かは頗る興味ある問題で、地域は狭く、人口は少く、しかも天然資源に乏しいこれらの諸國は果して獨立を維持し得るか疑問である。

有力なる隣邦の保護を受けるか、又は三國相互の鞏固なる提携を結べば、或程度まで將來を保證し得よう。一九二四年に三國間に關稅同盟が結ばれ、更に一九三四年に政治協定が取り結ばれたのはその爲である。

〔讀圖〕

大戰後のバルト海東岸諸國

1. 三共和國は東西にはロシアとバルト海を分離せしめ南北

の方向にはフィンランドとポーランドを隔てゝある。今三共和國の地を南北の方向に従つて人種や文化の上から觀察するならば、そこにはポーランドからフィンランドへの漸移地帯としての特色を見出すことが出来る。即ちリシアニアはポーランド人を多く包括し、ポーランドの如くローマ



ン、カトリック教徒を主とするが故に、文化に於てポーランドに類似する。然るにエストニア人はフィンランド

人と同一の人種に屬し、同様の言語を用ひ、宗教に於ても同じく新教である。而して中間のラトヴィアは新教徒が過半数を占めてゐるが、舊教徒も約二四%に達し、中間的特色を示してゐる。

2. 漸移地帯として觀察は農業に於ても許される。即ちこの地方を南下するに従つて、その氣候が農業に適する事實は、これ等三國の耕地面積に現れてゐる。先づフィンランドの耕地面積が全面積の七%なるに對し、エストニアのそれは二三%で稍多く、ラトヴィアは二九%、リシアニアは四七%で更に多く、ポーランドの四八%に續いてゐる。又之と反對に草地や放牧地は北に至るに従つて多くなつてゐる。

第三章 北部ヨーロッパ

第一節 フィンランド

〔目的〕

一、ポーランドと共にロシアより分離した新興共和國であ

り萬湖の國とも稱せられる湖沼國で、土地の大部分は森林に依つて蔽はれ、僅かに北邊にある一林業國として國家を建設維持しつゝある現状を知らしめる。

〔教順〕

一、國勢

フィン族の建設した新興共和國

二、地形

氷蝕を受けた隆起臺地で、氷河湖に富む。

三、人文

林業國——全土の四分の三は森林。

農牧業——麥類・馬鈴薯・酪製品。

首府——ヘルシンキ。



〔考察問題〕

一、フィンランドの文化が進んでゐるのは何故か。

フィンランド人はフィンノ・ウグリア語族に属し、脊は低いが強健で、不撓不屈の精神を有する國民であり、又勤勉、懇懇、正直などの美德を備へてゐる。教育はよく普及し、三つの大學、一つの工業學校、三つの商業學校の外無数の中等學校を有し、フィンランド語の新聞雑誌のみにも五百餘種を數へる。これに依つてもこの國の文化程度は察知されやう。フィンランドが世界最北の文明國となりしは國民の精勵と教育の普及せる結果である。

二、フィンランドの經濟文化を支配する地理的條件を問ふ。

フィンランドの經濟文化を規定する支配的條件は、一、北偏の地理的位置、二、寒冷の氣候、三、湖沼多き低平な地形である。フィンランドの農業の不振であることや水力に富んでゐることや、寒帯性の木材を利用する製紙パルプ工業が盛であることなど何れも以上の三條件に支

陸に於ける唯一の交通路であつたことは我が國の水郷地方に類似する。

2.更に重要なのはこれ等の湖水の貯へてゐる水力であつて湖水の分布してゐる準平原臺地と、海岸平野との間に發達してゐる急流や瀑布を利用して、水力發電が盛に行はれてゐる。將來開發可能の水力は一八〇萬乃至三〇〇萬馬力と計算されてゐるから森林と水力とはこの國の二大資源だと云ふことが出来る。

二、フィンランドの林業

芬蘭は湖水面を除いた面積の六〇%迄が森林によつて占められ、その主なる樹種は唐檜・樺・白樺の三種である。従つて天然の牧場は二・八%、耕地も亦、七%といふ僅少さである。これに見ても國民の主要産業が林業及製材



配され、フィンランドの文化は、その住民と自然との交互作用のうち生じたものだと思ふことが出来る。

〔讀圖〕

一、フィンランドの水蝕地形とその利用。

1.フィンランドには湖沼が頗る多くその數凡そ一〇萬と



云はれ、その總面積は國土の約一%に相當してゐる。湖水は概して極めて小さく、凡て氷河に依つて削られて生じたもの故、氷河の流れた方向に長いものが多い。これらの湖沼は自然の河流に依つて連絡されてゐるが、連絡の缺けた所は人工の運河に依つて結合され、以前には内

業である

ことが知れよう。

この林業地帯は北緯六八度以南の地



に限られ、その最大の中心はラドガ湖に近いヴィプリーである。木材は製紙原料に適し、運材には湖水を結びつけた運河網が利用される。製材及製紙には水力が利用せられ、現在ではこの國輸出總額の中、五七%が木材、三〇%が紙類である。以て森林が國民經濟を左右してゐる現状を察することが出来るやう。

第二節 スカンディナヴィア二國

〔目的〕

一、北歐にその位置を占むるスカンディナヴィア二國は、

政治的にも民族的にも関係が深いが地形的に別個の環境を有し、ために二國に分れてゐる。この二國は巧にその自然環境を利用して今日の國勢を維持してゐる。彼等國民の努力、地理的環境の相違を正しく認識せしめたい。

二、スウェーデンとノルウェーとは一つの山脈を共有する反対側の斜面國で各特色がある。兩者の特色を見出さるためには地形・氣候・産業・交通をそれ／＼比較すればよい。かくしてスウェーデンが鐵産國、林産國、農産國、工業國であるに對し、ノルウェーは水産國、海上活躍國であることが了解される。

〔教 順〕

- 一、概説位置境域、人種、宗教、政體、氣候
- 二、スウェーデン
- 1. 地形
  - 高臺——スカンディナヴィア高臺
  - 高原——氷河湖多し
  - 海岸平野——湖脚に瀑布線あり(發電利用)

2. 土地利用・産業

森林——六割、パルプ、紙、マッチ(輸出)  
 鐵山——鐵(ゲリヴァラ、ナルヴィク)  
 耕地——一割二分、南部に多し、穀物・馬鈴薯・甜菜・牧草、酪農・製粉・製糖・製革

3. 都市

ストツクホルム——首都、製鐵  
 ゲテボルグ——貿易港

三、ノルウェー

1. 地形・氣候

海岸——峽灣、島嶼(氷蝕地形)  
 極北——夜半の太陽、極光(ハンメルフェスト)  
 氣候——偏西風、灣流

2. 土地利用・産業

耕地——三分強

海産——世界三大漁場の一、鱈・鯨・鱈・鯖、捕鯨業

中心地(バルゲン、スタヴァンゲル)

林産——木材・パルプ・紙・燐寸  
 工業——電力利用、冶金・化學・金屬・精鍊・空中窒素工業

3. 都市

オスロ——首府、木材・パルプの輸出

四、文化生活

國民性、探検事業、海運業、水産業

〔考察問題〕

一、スカンディナヴィア半島の東西兩斜面の地勢を比較せよ。

スカンディナヴィア半島は地球上最古の褶曲山脈たるカレドニア山脈が全域を占め、今は削剝されて一大隆起準平原地塊を形成してゐる。鋭利な分水界は存在しないが、西に急、東に緩かに傾斜して、全體は一つの傾動地塊をなしてゐる。ノルウェーが山の西斜面にあることはこの國をして大西洋と西歐に進出せしめる基をなし、スウェーデンが東斜面を占むることはこの國をしてバルティ

ック海と中歐・東歐とに關係を深からしむる環境を與へてゐる。高原上は氷河の雪原で不生産地をなし、又氷河は高原面を侵蝕して時に千米の峽谷を形成する。この氷河渠は沈水して、數多のフィオルド(峽灣)を形成してゐる。かゝるフィオルド式海岸をもつノルウェーは、高原上の不生産地と相俟つて國民をして海上に進出せしめ、スウェーデンが水力發電による工業や南部低地の農業に従事するのは全く異つた生活景をあらはしてゐる。今簡単に東西兩斜面の地形を比較すれば次の如くである。

西斜面(大西洋斜面)

一、山脈が西偏してゐるか  
 海岸に平野なく、斷崖絶壁が直ちに海に臨んでゐる。

二、河流は短く急湍瀑布が多く、斷崖には美しい瀑布を見ることが多い。

東斜面(バルティック斜面)

一、階段狀に緩斜してバルティック海に及ぶので、海岸には多少の平野がある

二、多くの河が並行して流れ、中流には湖水があり、臺地の末端に瀑布があつ

て、水力の利用に便である。

三、海岸は標式的のフィオルド式海岸である。

四、島嶼は多く氷蝕後地盤の沈降に依つて生じた陸島である。

二、夜半の太陽とは何か。

北諾威は北方に位置を占める關係から、夏は夜半に太陽を見ることが出来る。世界最北の都市ハンメルフェストでは五月十三日に出た太陽は、七月二十九日まで没しない。かかる太陽が夜も晝も水平面上に姿をあらはす夏は歐羅巴人の禮讚を受けるが、長い單調な冬は先住民族たるラップ人ですら倦怠の半年を過すのである。十一月十八日に地平線下に没した太陽は翌年の一月二十三日迄姿を見せないものである。かかる太陽の位置そのものが人々の活動に大きな影響を與へ、ロフォテンの島ですら、人

口に季節的増減が見られるのである。

三、ノルウェー人の海上へ進出するに至つた要因を考察せよ。

1. ノルウェーは耕地が狭いので國民は自然に活動の領域を農業以外に見出さなければならぬ。この場合彼等に許された活動舞臺は海である。海岸の島嶼は水夫に識標を捉供し、多くの江灣は彼等に投錨地を與へた。かくしてノルウェー人は古くから海洋國民として養成された。第九世紀の頃「ノースメン」の名を以て呼ばれた彼等は遠く海上に乗出して、北歐は云ふまでもなく、南方は地中海まで貿易や掠奪を行ひ、更に遠くはグリーンランドから、北米の南岸に迄も達した。海外への移住もノルウェーの地理的必然性に由るものである。

2. 世界大戦勃發當時にはノルウェーは商船噸數に於て、世界第一流國の間に伍してゐた。大戦に於て中立を嚴守せらるに拘らず、八百以上の隻數を喪失した。それにも拘らず、一人當りの噸數は今尙世界第一である。自國の貿易

考察せよ。

1. 瑞典人はノルマン人の子孫で性極めて剛健で忍耐力に富む。そして勤勉で、趣味に豊かで美術を愛好する。氣温は低いが雨量が少く晴朗な天氣が續き、圓く波打つ丘陵の起伏と湖と森の多い美しい國土とは、國を明るくし、人生を健康ならしむるスポーツの本場たらしめた。スエーデン式體操は北國の一種の藝術でもある。更に湖沼に富む此國の冬は到る所スキーの好フィールドである。そして男も女も冬は雪と氷のスポーツで暮す。

2. 諾威は直ちに海に接した海國であり、嘗てコロンブスに先立つてアメリカ大陸に渡つたノルマンの血を受けた海國民であり、その所有船舶は我が國に次ぐ世界第四位であるが人口一人當りの噸數は世界一である。

3. 彼等は英國の中古船を譲り受けて主として荷物の輸送に従事し、世界各國を巡航するのみならず、船員として諸外國船に乗組むものも多い。土地礫礫、雪線下に明け暮れする彼等の中には不撓不屈の性格が養はれ、嘗て世界

が振はないので、此國の商船は他國間の貨物を輸送して利益を收めてゐるが、貿易外收入の主なるものとなつてゐる。又ノルウェー人は世界第一の海員國であつて、諸外國の商船に雇はれて高級船員又は水夫として働くものが少くない。

3. 水産業も又ノルウェー人の海上活動の一方面である。屈曲の多い海岸線と、良好なる漁港と、沖には好漁場をもつために、歐洲に於ける最大の水産國となつた。鱈が最も重要品で、二月から六月迄が漁獲期で、ロフォテン島の沖合が鱈漁の中心である。之は鹽鱈・乾鱈としてスベイン及ポルトガルへ輸出される。鯨は第二の重要品であるが、これは鱈より時期がおくれる。水産物は木材に次ぐ産額を示し、何れも重要な輸出品である。ノルウェーは又世界最大の捕鯨國である。捕鯨隊を組織して北洋に或は南極近海に活躍する。漁業は土地に恵まれないこの國にとつて天與の恩恵である。

四、スウェーデン・ノルウェー兩國民性と自然との關係を

的探検家ナンセンを生み、更にアムンゼンを輩出せしめたのである。

〔讀圖〕

一、氷河地形

瑞典と諾威との分水嶺はスカンディナヴィア山脈によつて著しく西に偏し、最高峰カルヘビツグ山も海拔二、四六八米にすぎない。然しこの山脈は高緯度にあるので雪線の高さは一二〇〇米で、高原式氷河が山頂を蔽ひ、末端は崖上へ押し出して懸崖氷河及谷氷河となつてゐる。之をノルウェー式氷河と云つてゐる。この地方は氷河時代にスウェーデンの北部を中心とした大氷原に蔽はれ、その高さも今よりもずつと高かつたのである。之が山地



を削剝したのでこの山脈には世界最古の結晶片岩を露出し、所謂バルト海楯状地をなしてゐる。氷河の退却に際して明瞭な二條の終堆石の提防を築いた。又瑞典の山麓臺地から平野への遷移點に標式的な狭長な山麓水河湖を並べ湖脚は瀑布線をなしてゐる。又大湖群はウエーネル湖・ウエツテル湖・メラル湖等がオネガ湖・ラドガ湖・芬蘭灣と共に一大陥没地帯をなしてゐる。



然るに諾威側は瑞典のやうな山地湖を缺くのは、嘗て半島の地塊運動が瑞典側に隆起し、諾威側に沈降した爲で、諾威は之がために

フォテン島を始め無数の岬角島嶼を生じたのみでなく、海水は深い谷に沿うて細長く鬱入して多くの峽灣を造つてゐる。

二、スカンディナヴィア二國の鑛工業

1. 瑞典の鑛産資源は北部に産出する鐵鑛が良質なので知られてゐる。精



錬の動力として石炭が用ひられるやうになつてから、石炭に乏しいこの國は鐵鑛を原鑛のまま輸出してゐる。近來製錬の動力として水力電氣が利用されるに至つて次第に國內でも製錬するやうになつた。主要な鐵鑛産地としては南部 ダンネモラ・グレンゲルスベ

ルグ・ノルベルグの三鑛床と北部のゲリヴァラ・キルナヴァラの二鑛床である。

2. 諾威は鑛産資源に乏しいが、地形の急傾斜と瀑布に富んでゐる結果、水力電氣を起し易く、瑞典と共に世界に於ける屈指の白炭國である。

この豊富な水力が近時この地方の工業を發達せしむるに至つた。

3. 瑞典の主要工業はパルプ及製紙・マッチ・電氣・化學工業・機械製造・紡織工業等で、紡織工業が原料を外國に仰いで製品を専ら國內への供給にあててゐる外は、何れも國內の原始産業に原料を仰いでゐる。諾威も略瑞典と同一な工業が發達してゐる。

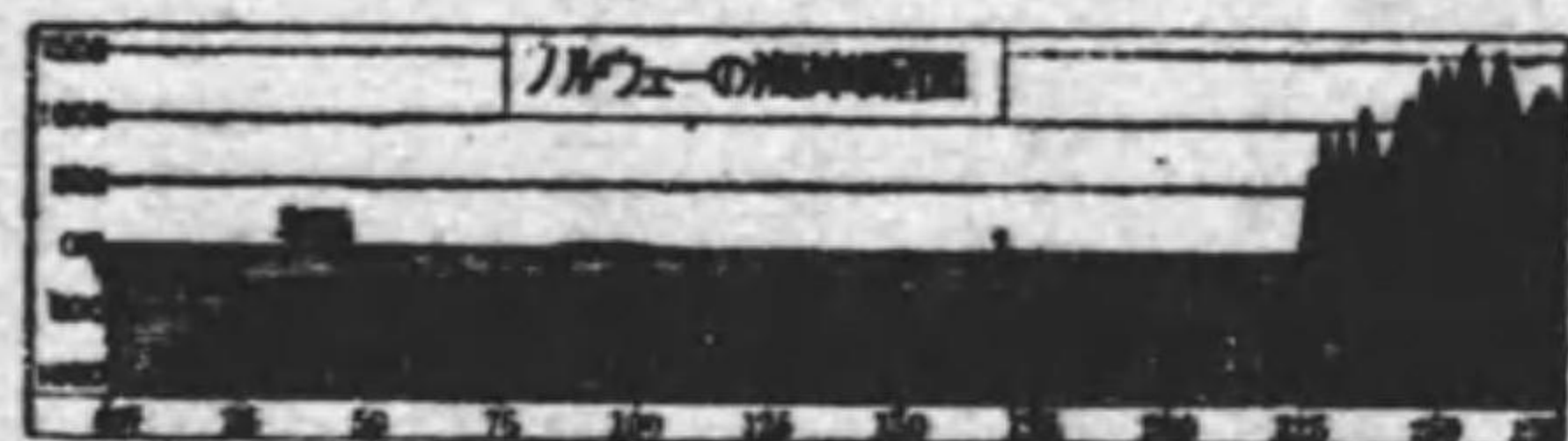
三、スウェーデンの製材・製紙工業

1. 瑞典の誇りはやはり、その風土上、國土の六〇%に近い森林にあつて木材とその製品は輸出貿易の半を占める。その面積は芬蘭と伯仲し、製紙・パルプはカナダ・ノルウェーと共に世界の三大供給國である。樹種は半以上ヨ



1 ロッパ  
赤松であるが日本の松のやうに幹が曲らず、美しい林相を呈し、殆んど平地林である。樹木は冬期伐採されて川や湖水に貯蔵され、雪融と共に大抵の河川が木材の流筏に利用されて頗る壯觀である。

2 瑞典の木材利用は誠に組織的で製材工場の木屑はパルプ工場に送られ、或はマツチ軸木・人造絹糸・アルコ



1ル等用途は極めて廣いのである。殊に製紙とマツチとは世界的なものである

四、ノルウェーの峽湾

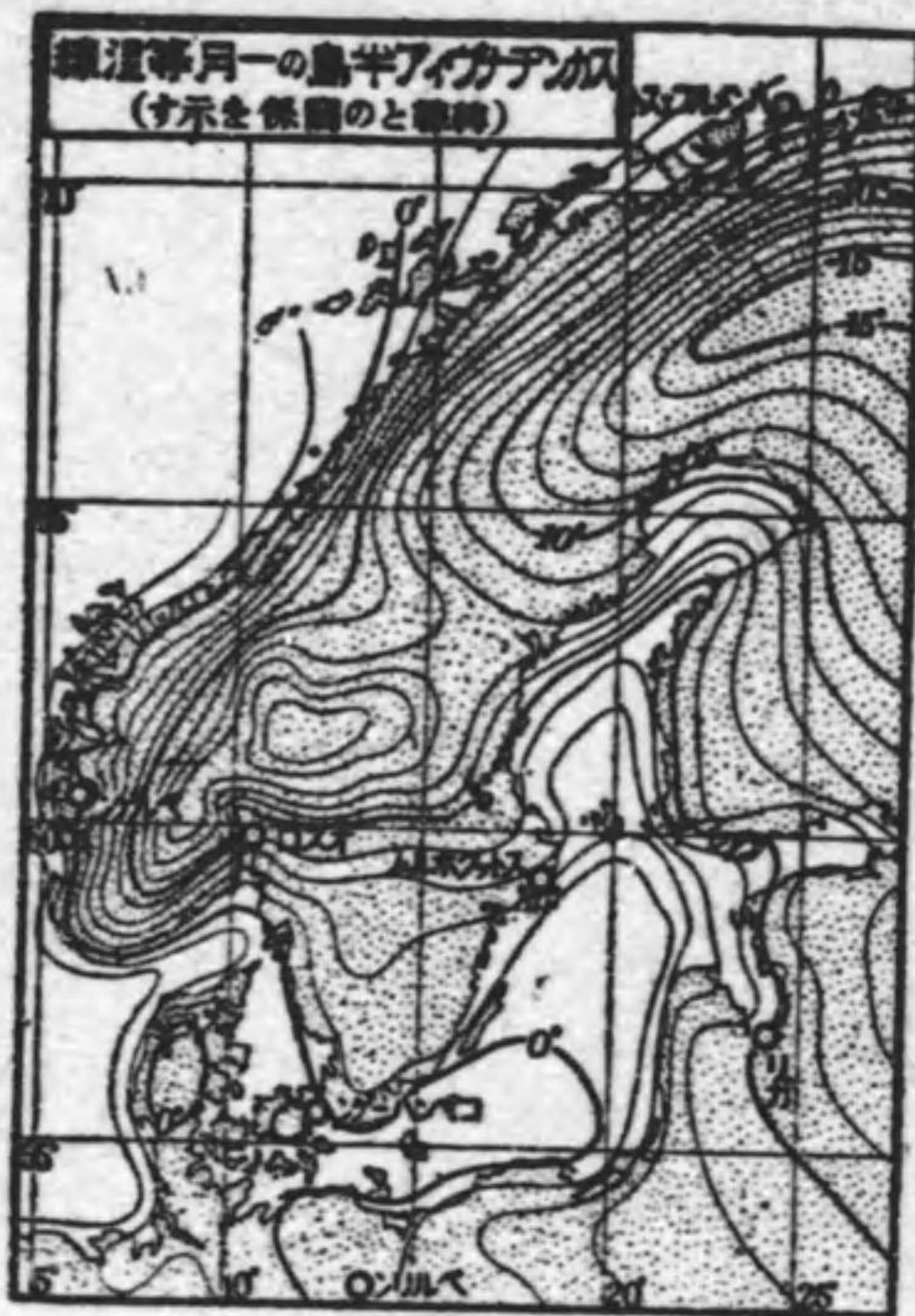
ノルウェーの海岸には水蝕地形の一特徴たる峽湾がよく發達して世界の奇觀をなしてゐる。これは水河の侵蝕を受けた土地が沈降し、そこに海水が浸入して出来たもので、その特徴は幅が狭くて支溝と屈曲とが數多あり、その兩岸は絶壁をなして水深が甚だ深く、谷はU字形をなしてゐる。その屈曲の多いのは地盤に網状の構造線があり、その弱線を水河が流れたためであると云はれてゐる。ソグネ峽湾はその典型的なもので、内陸に向つて彎入すること一三〇軒に及び、その幅は一



軒乃至三軒で、灣口の深さは約一、二二四米、外海よりも八六〇米も深い。又その絶壁の高さは七百米乃至八百米に及んでゐる。その他ハルダンゲル峽湾、トロニエム峽湾がある。

五、スカンディナヴィア半島の氣候

北緯五十五度より同七十一度に亘る北偏性と、大西洋岸、ボトニア灣岸を分つスカンディナヴィア山脈及びメキシコ灣流の存在とは半島の氣候に決定的條件を與へる。即ち緯度が高い關係上氣候は大體寒冷で、冬は殊に晝が短く、北部では冬の盛りには全く太陽は見られない。而して等温線は殆んどノルウェーの海岸と平行して走つて居り、海岸から遠ざかる



につれて冬寒く、夏暑い大陸性となつてゐる。例へばノルウェーのベルゲンとストックホルムとを比較すると緯度は何れも北緯六〇度であるが、氣温年較差がベルゲンの一三・一度に對してストックホルムは一九・七度を示してゐる。かくてノルウェーの海岸では、狭い峽湾の奥を除いては海に結水を見ることは極めて稀であるのに對して東部のボトニア灣及びフィンランド灣は冬季全く氷結し、ストックホルムでさへ冬季砕氷船を必要とする。更にノルウェーの海岸が世界三大漁場の一となつてゐるに對し、バルト海岸は何等の恩恵を蒙つてゐない。

第三節 デンマーク

〔目的〕

一、デンマークがバルト海の入口に位せることはこの國をして曾て世界の海上權を支配せしめた原因である。然るに産業革命以來、蒸氣力の應用と機械工業の發達により、海上支配權は英國に奪はれ、世界經濟の中心は北海に移

動するに至つたこと。  
二、この國が工業燃料の不足、土壤の不良、小面積等の自然的環境を征服して、世界の模範的集約農業國に發展せることを理解させる。

〔教順〕

一、概説

歴史的沿革、領土、政體、民族、宗教等の一斑を知らせる。

二、地勢・産業

境域、地形、地味

農業——集約的園藝農

牧畜——バター・ベーコン・チーズ、鶏卵（輸出の四分

の三）

工業——麥酒、砂糖、人造バター

三、都 邑

コペンハーゲン——首府

四、附説

立國の基礎とした。然し過去のこの國の農業と今日の農業とは全く異なる組織と方法を有するのである。今から六〇年前にはデンマルクは單なる原始農業國にすぎなかつた。然るに元來肥沃ならざる水河の堆積物によつて蔽はれた土地なるが故に農地もその地味が漸次瘠せて牧種を減少し、その上、新大陸の安價な小麥が多量にヨーロッパの市場に到着するため、小麥生産を主とするデンマルクの經濟は崩壊の止むなきに到つたのである。ここに於てデンマルクは根本的に農業法の改革を企て、酪農國として更生するに努めた。デンマルクの周圍には英・白・獨の如き數多の工業國を控へてゐるため、家畜（乳牛・豚）家禽を飼育し、肉製品・酪製品及鶏卵を輸出する事は誠に地の利を得たものと云ふことが出来る。又かくして家畜を飼育することによつて、一度瘠せた農地も又肥沃となつて、地力を回復し一舉兩得ともなるのである。しかもこの國は土地が狭小であるから大農場・大牧場の經營は不可能で、主として小農法による集約的農業

アイスランド——火山島、間歇泉、牧畜、漁業、君主國  
首府——ライキャビク

〔考察問題〕

一、デンマルクの地理的位置を考察せよ。

1.デンマルクは陸路から云へばスカンディナヴィア半島に渡るための大ヨーロッパ平原の腕である。又海路から云へば大西洋よりバルト海に入る入口である。即ちデンマルクはかゝる重要な交通的位置の上に位してゐる。

2.かゝる地理的位置はこの國をして曾てはバルト海の支配者たらしめ、海外發展の策源地たらしめた。グリーンランドやアイスランドは當時の遺物である。現在でもコペンハーゲン（商人の港の意）はバルト海の重要な商港であるが大戦後キールが國際運河となり、バルト海と北海とを結ぶ捷徑が出来た爲め、その地位に影響を受けた。

二、デンマルクが世界の模範農業國となつたのは如何なるわけであるか。

デンマルクは低平な平原國であるから、古來農をもつて經營を行つてゐる。政府は農業に關する學校の設立と講習會の開催とにより農業教育の普及發展に努める外、他方農村に於ける組合制度の實施によりて産業の合理化を促進し、斯くて農民の教育は普及向上し、農村の組織は整頓せられ今日では世界に於ける小農法の模範國となつてゐるのである。

〔讀圖〕

一、デンマルクの地形と土壤

デンマルクは北ドイツ平野の延長であり、土壤は概ね洪積期に於て、水河の堆積した瘠せた土壤で蔽はれてゐる。河川の侵蝕した低地は沖積層でこのみが稍肥沃である。水河の成生せるバルト沿岸の丘陵即ちバルテイツク、リツヂは



ユトランド半島の東部を占め、高度は一五〇米内外である西部の海岸は北海一帯の現象である沈降性の海岸で、僅かに北フリジア諸島の一部が海上に現れてゐる。一般に砂丘かヒース（多雨なる冷帯の沿海平野に生ずる石南種植物の密生する不生産地）の極めて不生産的な海岸である。これに反して東部は三大島と共に白堊の粘土を混する豊饒なる耕地をなし、西部と根本的な相違をなしてゐる。

二、アイスランドの地域性

アイスランドはその面積がデンマルクの二倍半に及ぶけれども、経済価値は少なく、南西部に僅かながら農牧が行はれてゐるにすぎない。

第四章 中部ヨーロッパ

第一節 ポーランド

〔目的〕

地勢——カルパチア山脈の断層崖に續いた丘陵地

産物——小麦、礦産物（石炭・鐵・岩鹽）

都邑——レンベルヒ、クラカウ（工業地帯）

(2) 北ポーランド

地勢——北獨逸平原の延長、ウイストラ河（重要水路）

氣候——東半は寒冷

産物——黒麥・燕麥・大麥・甜菜・馬鈴薯・木材

都邑——ワルソー（首都・交通要地・工業） ロツ（工業）

グデイニア（港市）

三、附説——ダンチヒ自由市

〔考察問題〕

一、ポーランドの地理的位置を考察せよ。

ポーランドはヨーロッパ平原の中央部に位してヨーロッパの東西交通路にあつてゐる。特に獨逸二國の緩衝國として存在価値がある。又ウイストラ河とドニエプル河とによつてバルト海・黒海を結ぶ通路にあつてゐる。この内陸水路は今日では利用されてゐないが、曾ては小舟による交通が盛で

一、百數十年前に滅亡したポーランドが歐洲大戰後再興して獨逸の間に位置を占むるに至つた経緯を述べ、緩衝國としての意義を明かにし、民族分布の上より見たポーランド廊下の問題、海への出口としてのダンチヒの自由市等國際關係上重視すべき點なることを力説する。

二、平原國としてのポーランドは産業上、交通上、國防上かゝる地形の影響を受けて、原始農業國であり、東歐と西歐を結ぶ要路にあたり、接壤國との政治的、軍事的問題が多い。これらの諸點を明かならしめ、ポーランドの地理的特色を把握せしめる。

〔教順〕

一、概説

位置、面積、人口、歴史的沿革

住民——ポール族、宗教——舊教徒

氣候——大陸的氣候

二、處誌

(1) 南ポーランド

あつた。今はワルソーからキエフに至る鐵道に依つて結ばれてゐる。シレジアの門戸を南下すればウイーンに達し、アドリア海とも結ばれてゐる。かくしてポーランドは東歐と西歐と南歐を結ぶ中央的位置を有し、交通上の要衝を占めてゐる。

二、ポーランド國の歴史的背景を考察せよ

第十七世紀より第十八世紀にかけて、ポーランドはヨーロッパに於ける大國家の一つであつたが、一七七二——一七九五年にかけてロシア、プロシヤ、オーストリアの三國に分割されて滅亡した。この國が滅亡するに至つた主なる理由は政治的には

1. 第十六世紀末より選舉王政を採つてゐた爲めに國王の權力が衰へ、外國人を君主に戴いた例も少なからず
2. 従つて外國の干渉を招き、國內の紛争を誘發し
3. 又自由拒否權と國會に於ける一人の異議も決議を不能ならしめる制度をとつた爲めに時宜を得た改革が行はれず

4. 加ふるに社会は中産階級を缺いた不完全なものであつた等の理由があるが、然し最も致命的なものは地理的な弱點であつた。

5. 即ち平原の中央に位し、自然的國境を缺いてゐたことである。

然るに世界大戦後民族自決主義の下にポーランド人は祖國を恢復し、共和政治を行ふことになつた。これは一面露獨の間の緩衝地帯たらしめんとする意味もあり、更にドイツの東方に有力なる國家を建設し、これに依つてドイツを牽制せんとするフランス側の意向もあつたのである。

三、人為的國境の通例としてポーランドの國境を考察せよ

A 上部シレジア

獨波兩國間の國境に於て問題視すべきは上部シレジアとポーランド廊下とである。上部シレジアの國境決定は大戦後の領土整理中の難問題であつた。蓋しこの地域は石炭鐵その他の鑛産が多く、しかもポーランド人とドイツ人とが廣範圍に亘つて雜居してゐるからである。そのため種々紛争

を重ねたが、結局現在の如き國境が劃定され、ポーランドは上部シレジア炭田の大部分と亜鉛・鉛・鐵などの鑛産地を獲得した。然し、そのため獨逸領に約五〇萬のポーランド人が残り、ポーランド側に三五萬の獨人が含まれることとなり、民族を基礎とする國境の劃定に無理があることが明かになり、又上部シレジアに於ける經濟的統一も無視することになつた。斯くの如き地形的及び經濟的に何等の必然性のない國境は頗る不安定だと云はなければならぬ。

B ポーランド廊下

ポーランド廊下はこの國にバルト海への通路を與へんが爲に設けられたもので、そのため獨逸の領土を中斷して東プロシアの飛地を作らしめた。従つて東プロシアからドイツ主部に通ずる列車はこの廊下を横切らなければならぬ。このため旅客や貨物の輸送上頗る煩雜な規程が必要となつて來た。これは明らかに不便である。更に又民族問題から考察してもこの地は難問題を包藏してゐる。即ちウイスマラ河岸からブロンベルヒを経てシュナイデミュールに亘つ

て、恰かも橋梁の如き分布線をなしてドイツ語民族が卓越してゐる。これは獨波兩國間の平和に雲翳を投ずるものと云はなければならぬ。又ここでダンチヒについて説明すべきであるが、讀圖の際に之にふれるので省略して置く。

C ヴィルナ問題

ロシアとの間の東部國境はこれ又北歐大平原の中に劃された人為的國境でビンスク沼澤地を除いて何等障害的部分はなく人種的にも言語的にも何等必然性が見出されない。又リヌアニアとの國境に於てはヴィルナを繞つて國際紛争が蟠つてゐる。歐洲大戦後リヌアニアはヴィルナ市をリ國の首府と規定し、自國領土と主張したが、波蘭は之を承認せず、ゼリゴウスキー將軍がこの地を占據して以來、永らく紛争を續けてゐたが、遂にヴィルナ駐屯の波蘭軍が假政府を樹立し、強制的に人民投票を執行した結果、一九二二年同地方をポーランドに併合することを宣言した。その後新國境が劃定され、表面的には兩國國交も調整されたが、自然的、人種的に何等の境界線がないため、將來の安全を保

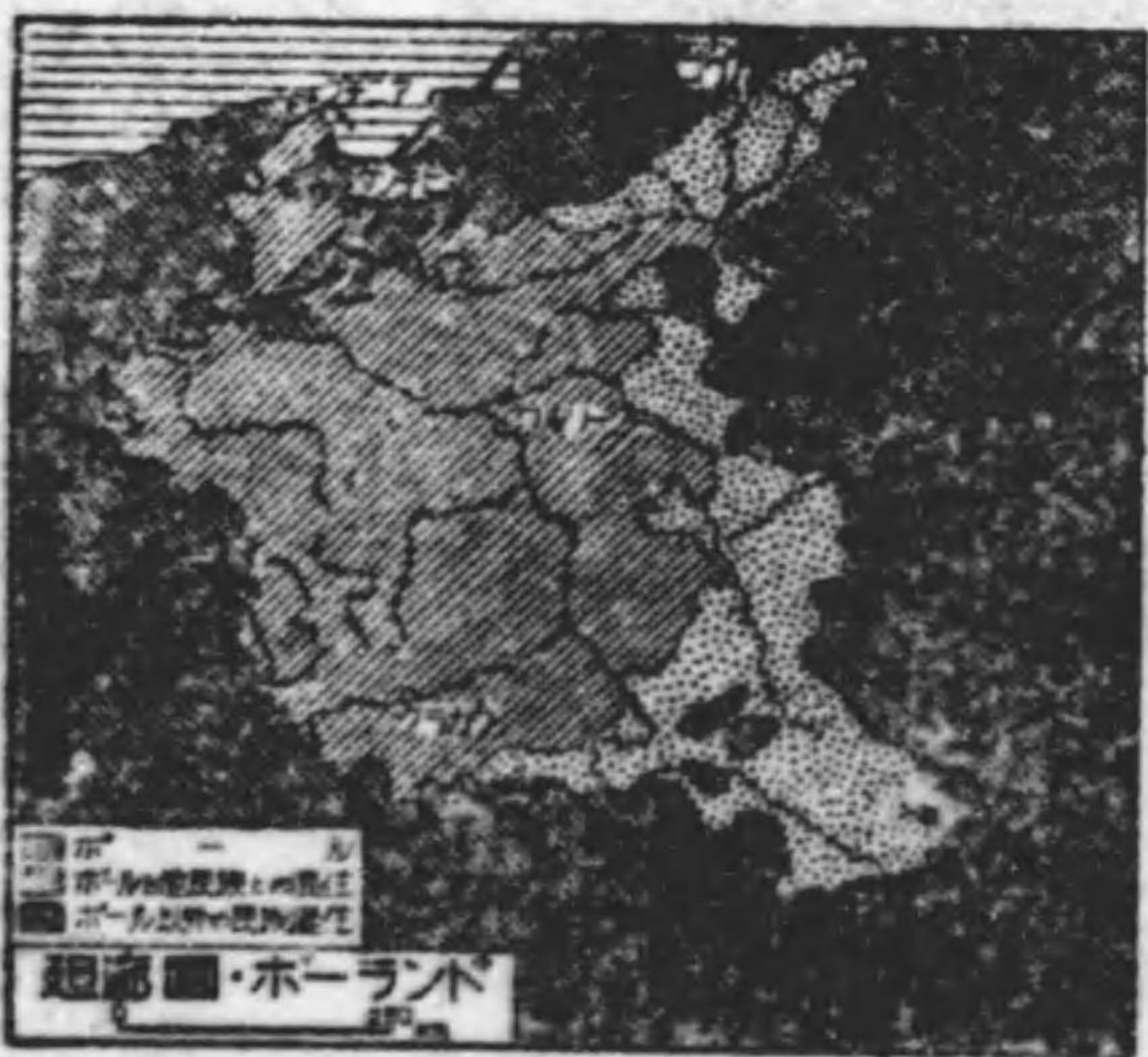
障することが出来ない。

以上述べたのはその主なる國境問題であるが、この國が大平原國で、四周に天然の障壁を有しないのは國防上極めて不利な點で、國境の不安定は波蘭國の一大弱點と云ふべきである。

〔讀圖〕

一、ポーランドの人種分布

1. ポーランドの人口は一九三四年に三三三一萬人で、その中ポーランド人が六九%、ウクライナ人一五%、ユダヤ人が八%、白ロシア人が三%、ドイツ人が七%、その他が一%となつてゐる。ポーランドは最も多く國の中央部及び北部に擴がり、特にウイスマラ河に沿つてバルト海岸まで達し、所謂ポーランド廊下を作つてゐる。スラヴ系





の民族ではあるが、経済的には高度な文化を示してゐる。ウクライナ人は國の南部及南東部に居住する。多くは農民でポーランド人と宗教・言語・教養を異にし、互ひに軋轢が行はれてゐる。

2. ユダヤ人は三〇〇萬人に近く、中産階級のない波蘭國內に於て、商人として中産階級の役割を果す爲に歓迎されたものである。然るに彼等は忽ちにしてポーランドの財政・商業・工業の實權を掌握した。今日ポーランドとユダヤ人との間に軋轢が激しいのは民族的意識のためばかりでなく、ポーランドの中産階級が勃興した爲である。

3. 白ロシア人は東部に居住し大部分農民で、文化の程度も低い。之も主要民族たるポーランド人との間に軋轢が見られる。

ドイツ人は二五〇萬人、北部及西部に住し、この國で最も進歩せる民族である。即ちポーランド經濟の指導者でポーゼン・ロツ、シレシアの工業地帯に住み、商工業に従事し、或は農民としても、科學的で集約的である。これもポーランド人との間に軋轢があり、ドイツ排斥運動が盛に行はれてゐる。

従つてこの國は政治的にも經濟的にも統制が困難で、常に國內で激しい争闘が續けられてゐる。

### 二、ポーランドの森林分布

曾て波蘭は廣く森林

に蔽はれてゐたけれども、林業は耕地の増加と共に衰へ、現在は二一%の森林面積を有するにすぎない。森林地帯は主としてカルパチア山麓と北東部に分布し、製材・製紙・パルプ工場などが諸方に起り、薪炭・木材・パルプ等は國用を充して外國へ輸出してゐる。



### 三、ポーランドの産業

1. ポーランドは一言にして言へば原始農業國である。その人口の七〇%は農林業者で、工業者は九%である。全土の四七%が耕地化され、一六%が牧場、二一%が森林である。曾

て蔽はれた氷河の作用は農産物に大なる影響を與へてゐる。その大部分は貧弱な土壤で、ライ麦・燕麥・馬鈴薯を産し、これ等の三つが全耕地の六〇%を占めてゐる。肥沃な地には小麦・甜菜・亞麻が栽培されるがその地積は僅少である。



### 2. ポーランドの森林

は松が最も多い。人工林は殆んどなく、多くは原始林である。輸出木材は年一億圓位で、農産物に次ぐ重要輸出品となつてゐる。

### 3. ポーランドは又鑛

物資源に富み、石炭の埋藏量はヨーロッパで第三位である。特に上シレシアの石炭はコークスになり得る良質のものであるから將來ポーランド國をして工業の發達を約束せしめるに充分である。その他に鐵鑛と石灰岩とは上シレシアの石炭地

域にあるが、國內需要の半を充す程度である。鉛と亞鉛が上シレシアに産すること

は全ヨーロッパ的に重要なもので、特に亞鉛はベルギーに次ぐ多産地である。又南ガリシアのカルパチア山麓は石油の産地でロシア・ルーマニアに次いでゐる。



4. かくの如く農林鑛の資源を有するにも係らず、工業の發達がおくれてゐる。今日ポーランドに勃興してゐる工業は多くドイツ人の資本か或は獨逸人の指導下にある。ポーランド人は中産階級以下が多く、投資者も少なく、文化も未だ工業發達に適するまでには至つてゐない。

### 四、ダンチヒ自由市について

ウイストラ河の流域は自然的にも歴史的にもポーランドの



海への出口である。故にバルト海に達する迄半島状地域をポーランド廊下として、ポーランドの有に歸せしめた。然るに河口のダンチヒ市は人口四〇萬の九〇%までがドイツ人なので、民族自決に依つて出来た波蘭の有には歸し難い。ために列強は之を自由市としてポーランドの入口として與へたのであるが、これではポーランドにとつて不便である爲めその西方にグディニアを築港した。グディニアの新港灣は以前沼澤地であつたのを浚渫して巨船の碇泊に適せしめたのである人口は未だ數萬を出ないが、今日では完全にダンチヒの勢力を奪つてゐる。

### 第二節 ドイツ

#### 〔目的〕

一、大戦に大敗し、領土を縮減したこの國が新興の意氣正に

天を衝かんとするの概を示し、今や歐羅巴のみならず世界の強國として、勢を振はんとするに至つた。その理由をドイツ國の内部に立ち入つて、その自然的環境を究明し、その國民性を明かにして、以てその國勢發展の偶然ならざることを知らしむ。

二、ドイツ國の殖産興業の状態を明かにする。特にライン工業地帯の發達、ドイツ平原の科學的農業、中帯山地の三つの炭田と、その上に發達した三つの工業地域について述べる。

三、ドイツを數箇の地理的單元に分ち、その各地域の地域性を明かにする。バヴァリア、シレシヤ、サクソニア等の如きはその例である。

四、ドイツを中心とした歐羅巴の國際情勢を明かにする。獨逸合邦、チェコの併合、スロヴァキアの獨立、ダンチヒ問題、日獨伊防共協定、等を中心とし最近の變動を知らせ、その理由を地理的にも考察させる。

#### 〔教 則〕

#### 1. 概説

國土の面積と人口、大戦前後の領土、政體の比較、現在の國勢

#### 2. 地勢・氣候・産業

地理的區分——七區に分けて述べる。

##### A 北ドイツ平野

地形——北歐平原の一部、氷河地形(砂礫土・湖沼)

土地分類——森林・耕地・牧牛地に利用

主要都市と産業

南——山麓帯は豊饒(裸麥・燕麥・馬鈴薯・甜菜を産す)

ハンノフェル・マグデブルグ・プレスラウ

ベルリン(首府、商工業學術の中心地)

北——バルト海岸は冬季凍結、北海岸は沈降性で三角

江多し、ハンブルグ・ブレイメン・ステテン

##### B 東プロシア

ポーランドに依つて隔てられた飛地

中心都市ケーニヒスベルヒ

##### C ライン工業地帯

ルール炭田地域を含む

主要工業地帯——製鋼業・織維工業・造船業

都市——アーヘン、ケルン

##### D ライン地溝帯

ライン峡谷——風光秀麗、森林・葡萄園

上流地溝帯——農耕地帯、大麥・小麥・煙草・葡萄

主要都市——コブレンツ、フランクフルト、マインツ、マンハイム

マンハイム

(附)ザール炭田——一九三五年獨領と確定

##### E バヴァリア高地

ボヘミア森、黒森、アルプ、中帯山脈に包まれた地域

牧羊、森林、農耕地(麥類)

主要都市——ミュンヘン、ニュールンベルヒ、スツット

ガルト

##### F サクソニア工業地方

北部平野の接壤地——農業地

エルツ山脈——牧羊、石炭、工業

主要都市——ケムニッツ、ドレスデン、ライプチヒ

G 上部シレジア

炭田——製鋼、製紙

主要都市——ブレスラウ

3. 交通・貿易

鐵道——我が國の二倍

水路——四大河、連河、運河、キール運河

海運——商船増加

航空——發達

貿易——精製品の輸出と原料品・食料品の輸入

4. 文化生活

國民性——勤勉尙武

産業——工業國

教育——普及、各國留學生多し

言語——學術語

住民——人口密度大、移住者多し

して存在する。この平野の平坦性は、又通商上にも利用せられ、道路や鐵道は容易に建設せられ、數條の就航可能な大河が流れ、今日に於ける中歐の交通上の要地ともなり、多くの商業都市を發達せしめてゐる。

3. 水河堆石の丘陵も交通路の妨害となることが少く、又この丘陵を横斷する幾多の谷があつて交通路に利用されてゐる。これらの谷は水河時代の末期に於ける水河退却に伴ふ融水の水路であつた所で、今日尙、ウイストラ、オーデル等の河流を通じ、これに併行して鐵道線路が通じて交通の便が甚だ大である。河川は運河で結ばれ、河岸に鐵道、道路が並行してゐる。

4. 平野面の起伏の單一性は以上述べた如くであるが、その地表面の景觀は各地一様ではない。東プロシアを始め、東部ドイツには無数の水河湖がある。その湖岸には森林があつて湖水を美化し、大都市附近の休養遊覽地となつてゐる。東ドイツの聚落の周圍には牧場と耕地が展開し、これを空中から眺めれば、耕地と聚落の一團は森を海とする樹海の文化島の觀

5. 日本との關係

文化的交渉——軍事、學術

外交關係——親善、日獨伊防共協定

貿易關係——輸出と輸入現狀

〔考察問題〕

一、北ドイツ平原の地域性を考察せよ。

1. ドイツ平原の西半はムーアとボグとが卓越する。ムーアとは沼澤性の荒蕪地であり、ボグとは泥炭質の沼地である又東半部は砂地と森林で、本來の北ドイツ平原の原始景觀は荒寥たる不生産地である。

しかし科學の發達と機械の發明とはこの低地の開拓に貢献して現在ではヨーロッパに於ける指導的農業生産地となり、工業盛大地域となつてゐるのである。

2. 北ドイツ平原は現ドイツ共和國の二分の一の面積を有し、地形の平坦性はプロシアといふ政治的渾一體を生じた原因ともなつてゐる。たゞ地形的に見らるゝ僅かな隆起は堆石の丘陵で、東プロシアからシュレスウィヒに至る間に數列並行

がある。

5. 西部に於ては全くその景觀を異にし、湖水は減少し、沼澤が廣く横はり、久しき間、人類の居住を妨げてゐた。森林も密度を減じて、沼澤性の荒蕪地が増してくる。開墾も容易でなく、此の地は牛の飼育を業とし、酪業が發達してゐる。

6. 北ドイツ平原の土壤は性質が各地一様でない。その大部分は砂と礫で之は農耕地としては適當でないから、科學的施肥により、ライ麥・燕麥・馬鈴薯の生産地となつてゐる。その間に堆石の混入せる粘土層(レース土壤)や河谷低地の沖積土があつて共に前者よりも肥沃で小麥・甜菜等を栽培してゐる。マグデブルグ附近は甜菜栽培の一中心地である。

二、ドイツ海岸線の特徴を考察せよ。

A バルト海沿岸

1. バルト海沿岸は堆石丘陵の前縁に隆起性砂濱を形成し沿岸潮流による砂嘴と砂丘列が發達し、ダンチヒ・ポメラニア・リュベックの三灣がある。このリュベック灣以西は却つて溺れて北歐式のフィヨルドを形成し、河谷から分離した

島々が明瞭となる。土質は東部の隆起性砂濱海岸が貧弱で、西部のフィヨルド式沈降海岸が次第に肥沃となり、ユトランド半島の粘土帯へと漸移する。氣候と土質の関係よりライ麦・馬鈴薯を栽培する。

2.バルト海の海岸には曾てヨーロッパ通商上最も重要な港市が出来、世はあげてバルト海を活動舞臺としたことがあつた。しかし今日では昔時の佛は消え失せて、ドイツ海上取引の八五%は北海岸に於て行はれる。と云ふのは地理的位置が内海にあつて大西洋時代に活動するに不便であるばかりでなく、バルト海岸のもつハンディキャップがある。第一は浅いこと、第二は冬凍結することである。かくしてハンザ同盟時代の商港、ケーニヒスベルヒ・ステチン・ロストック・リューベック・キールは今日僅に第二流の商港として昔日の命脈を保つてゐるにすぎない。

B 北海沿岸

エルベ河以西は全く沈降海岸でエルベ・ウエーゼル兩河の出口は著しい三角江をなし、河口附近に外港を有し、内地

はれてゐる。就中炭坑地域に位する東部のドルトムント中央のエッセン及西部のデュイスブルグは製鋼、製鐵に名高く、又デュイスブルグはルール・ライン兩河の會合點に位するが故に、鐵工業と共に造船業も盛んに行はれる。

炭坑地域の周辺には衛屋の如く、いくつかの工業都市がある。織物都市エルベルフェルト・バルメン・クレフェルト・グラツドバツハヤ、河港にして機械・化學藥品を産するデュッセルドルフや、双物の生産を以て知られてゐるゾーリンゲンやレムシャイトがある。これらの工業地域に對する商業上の中心は古代ローマ人の建設になるケルンである。尤もケルンも亦工業市で、織物・機械・香水・チョコレート製造等が行はれてゐるが、この地は水陸交通の要地で、商業の中心として約束づけられてゐる。既に古代ローマの時代より榮えてゐたが、近世の發達はルール炭田の開發に出發する。

さて、ルール地方が世界有数の工業地帯として發展したのは一に地理的環境の賜である。その原因の主なるものをあぐれば左の如くである。

に本港を有する特色を有する。特に西岸では曾ての砂丘の名残である東フリジア列島が沈水してオランダ海岸に移化してゐる。従つてオランダ同様に海岸に堤防を築き海水の侵入を防いでゐる低濕地があり、又運河がある。この低濕地は含水量及地味共に牧草の繁茂に適し、オランダ同様に牛の放牧及び酪業に適し、人口は稀薄で大都市に乏しい。ハンブルグがエルベ河口から一〇〇軒も内地に入つてゐるのは、かうして出来る丈け農業地帯及び工業地帯に接近せんとする努力のあらはれであり、ブレーメンも同様な關係にある。

三、ルール工業地帯の現状を述べ、之が發達要因を考察せよ  
ルール河流域の炭田地帯からライン河岸に至る地域が所謂ルールの工業地帯で、今日十二以上のドイツの大都市がここに集つてゐる。エッセン、バルメン、ドルトムント、デュイスブルグ、デュッセルドルフ等は即ちそれで、その大きさや主要製品の種類に於て相違はあるが何れも活潑な工業都市で特に此の地方工業の基礎たるべき製鋼、製鐵業は最も盛に行

(1) ルール河の流域はヨーロッパ最大のコークス用石炭埋藏地であつて、それに依つて造られるコークスは製鐵業に利用され、副産物は化學工業の原料を提供する。

(2) ライン河の水路はジゲルランドやスウェーデンその他からの鐵礦の輸入路をなし、そこには世界有数の河港たるデュイスブルグ・ルールオルトが發達してゐる。

(3) 南北に水陸の通路を提供するライン河谷は、この地に於てドイツ中帯山地の北邊を過る東西の通路と交叉し、鐵道や運河がこの工業地帯を一大都市として結合してゐる。

四、ドイツ國民の國民性を述べ、ドイツ國の發展する所以を考察せよ。

現在のドイツ國民は、先づ單一な民族から成つてゐると見て差支へはない。ドイツ國民はすべてドイツ民族に屬するといふ強い民族的自覺を有し、ドイツの歴史と傳統とに對して誇りを感じ、ドイツ文化の優越性を確信してゐる。ドイツ民族の國民性は鈍重であると云はれる。けれどドイツ民族の居

住する北部ヨーロッパは寒冷で、霧が深く、陰鬱な気候をもつてゐる。この自然的環境から生れ出たのがドイツ民族の鈍重性である。この氣候に培はれてドイツ人は南歐の民族の様に明朗ではなく、憂鬱であり、悲觀的である。その反面又不撓不屈であり、保守的で頑固、執拗である。物を徹底させなければやまない性格は、ドイツ人の精神活動をして、深刻で、力強く、且つ内省的ならしめてゐる。これドイツの哲學がすぐれ、自然科学、文化科學が發達し、藝術が進んでゐる所以である。又ドイツ人は森林の中で育つたので、個人主義的で、自由を尊ぶ一面、鬭争性に富んで居り、精力的である。ドイツ國民が惠まれる土地に居住しながらも、世界の強國となり得たのも、實にこれらの諸特性を有する國民の力である。世界大戦後、秩序整然として戦後の恢復に努力し、今や歐洲政局の注視のまこととなりつゝあるを見ても、その國民性の優秀性が察せられる。

五、オーストリアが獨逸と合邦するに至つた地理的理由を考察せよ。

1. オーストリアはもとスイスと同様なアルプスの山國であつた。たゞスイスと異なる所はその後次第に領土を擴張して、ドナウの流を跨いで、ハンガリーの平原に出で、或は南方の暖海アドリアをもとめ、北方の炭田シレジア、ボヘミアを扼して、ハプスブルグ家をして中歐に君臨せしめたのである。

2. されど歐洲の平和一度亂るゝや、數多の宗教、數多の人種を有するこの國家は一朝にして瓦解し、オーストリアは戦前の四分の一の面積と人口を有する一小共和國となつた。ハンガリーの大穀倉は失はれ、ボヘミアの炭田も、工業地帯もない。トリエストもフィウメも塞がれ、もとのアルプスの山國にかへつたのである。かくして此の國は食物の不足と物資の缺乏、入超に入超を重ね、國民の半は首府ウィーンに集つたが、之を養ふ工業もなく經濟的に困難な國情をもち、誠に不安定な國家であつた。

3. 然るにドイツも同様な國情を有し、しかも同一民族であるため、茲に民族合同の旗印の下に獨逸合邦は達成せられたのである。

〔讀圖〕

一、世界大戦後に於ける領土の喪失

ヴェルサイユ條約によつてドイツは本國に六倍する植民地の全部と本國に於て約一五%の領土を喪つた。

- (1) アルサス・ローレンはフランスに、
- (2) オイベン・マルメディー、モレネーはベルギーに
- (3) シュレスヴィヒの一部はデンマークに、
- (4) ポーゼンと西プロシアと上部シレジアの一部とは共にポーランドに
- (5) 更に上部シレジアの一部をチェコスロヴァキアに割譲し
- (6) 外にダンチヒは自由市として國際管理に委ね、
- (7) ザール及メーメルも同じく國際聯盟に委ねることとなつた。



而して、このザールはその石炭採掘権のみをフランスに譲り、十五年の後、人民投票によつて、獨逸の孰れかへ歸屬を決すべきものと定められてゐたが、その規定に基き、一九三五年一月、壓倒的多數を以てドイツに歸屬した。又メーメルは一九二三年、國際聯盟は之をリスアニアに與へたが一九三九年三月二十二日再び獨逸に復歸した。ローレンの鐵と上部シレシアの石炭の喪失は工業上莫大なる損失で、ポーゼンと西プロシアとの喪失は食料自給上の痛棒となつた。

ドイツの植民地はその經濟的價值からすれば、殆ど問題にならないものであつたが、帝國主義的活動の爲の成長尖端を喪つた意味で大なる痛手であつたことは云ふまでもない。

二、北ドイツの地形

この平原の下部は第三紀層であるが、洪積世に北方よりの氷河がその上を被ひ、又南部の山地から河流によつて土砂を運搬堆積し、殆ど平野全面はこれらに掩はれ、僅少な部分に第三紀層が露出してゐるにすぎない。氷河は南方から漸次後退し、堆石が東西の方向に丘陵列をつくり、それ等の丘陵

上には氷河作用による多数の湖沼を湛へ、湖沼の間は中歐特有の森林に蔽はれる不生産地である。堆石丘陵は略々東西に走る四條の並行した緩慢なリッチをなして居る。その北にはラグーンに富む隆起海岸に小さな崖を現してゐる。堆積丘陵間の東西へ走る谷低地は氷河の融水が流れた跡であるが、これが現在の水路を決定してゐる。

バルチックリッチの北斜面はスカンディナヴィア南部に於ける石灰質岩石より導かれたる肥沃なる土壌より成るも、之に反し、その南斜面は氷河後退に際し融水によりて沈積したる砂礫より成る地味瘠薄な不生産地である。その南方にトルンとエルベルスワルデとを結ぶ低地にウイスツラ河、ネルツエ河、及オーデル河の一部が流れ、更にその南にはプツラ河・ネル河・ワルテ河・オブラ河及スプレー河を導く所謂ワルソー・

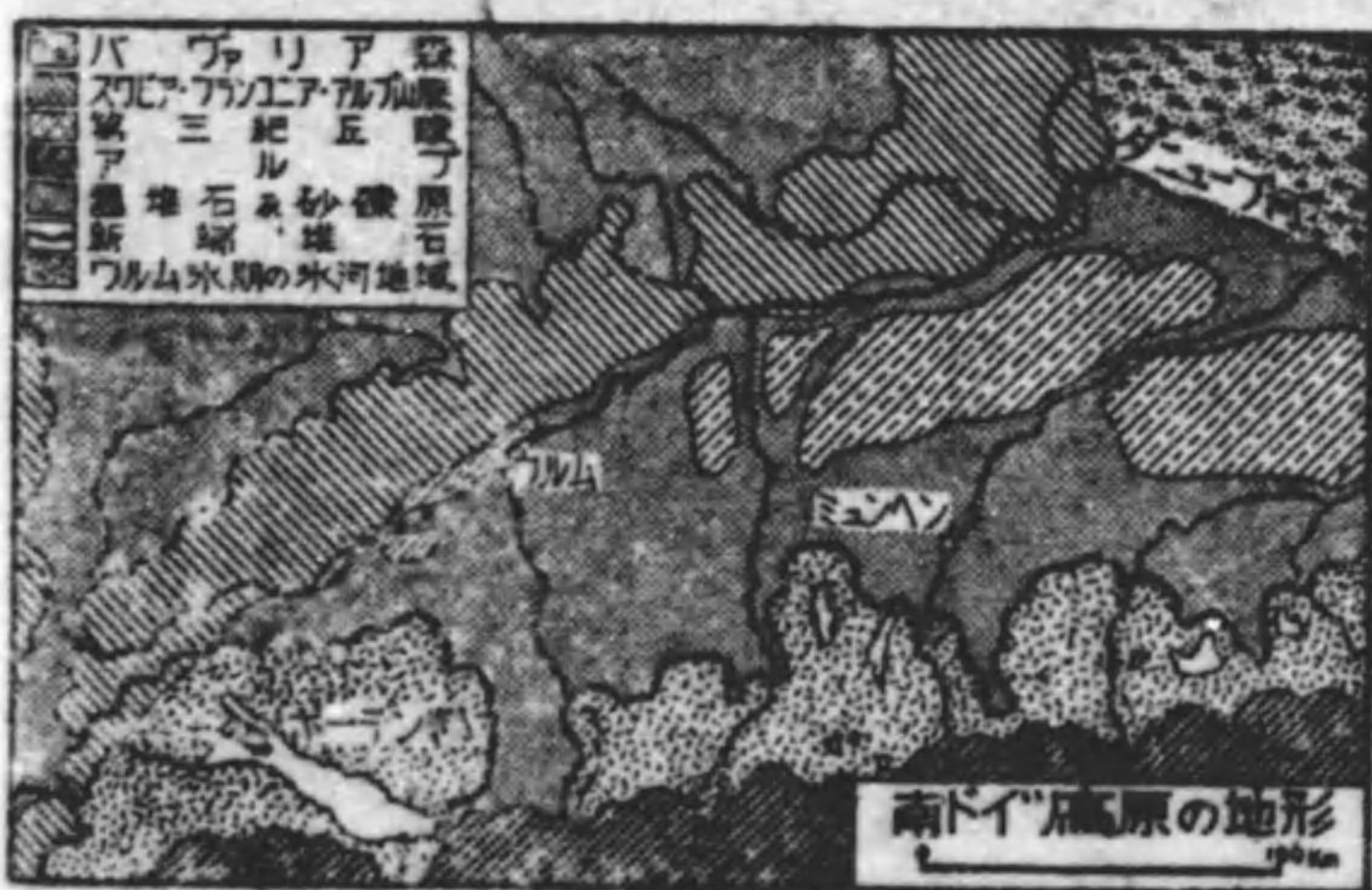


ベルリン谷と稱せらるゝ低地があり、更にその南にはバルツシユ河・パルト河の流れる低地があつてそれら氷河退却の際その融水の流れた跡を示してゐる。

三、南ドイツ高原の地形

1. 南ドイツの南端ドイツアルプスにはドイツの最高峰ツィグスピツエがある。この山は石灰岩よりなり、之よりドナウ河谷まで第三紀層及びその上を蔽うてゐる氷河堆石が緩傾斜をなしてゐる。氷河堆石礫層は南部に厚く排水良好で、常に土地は乾燥してゐるが、北部のミュンヘン附近の地層の薄い所は地下水が地上に滲出して沼澤をなしてゐる。

2. アルプス山麓に共通なる氷蝕湖は山麓に排列し、ポードンその他二三の狭長な湖水と



して現れてゐるが、その多くは人力に依つて排水され耕地化されてゐる。然し土壤は氷河堆石の砂礫が多く一般に地味瘠薄である。

3. ドナウ河以北の丘陵は、以南が第三紀層とその上に發達する洪積層であるに對し、ここは中生代の三疊紀層とジュラ紀層からなり、東部のボヘミア地塊の西斜面は花崗岩を以て構成されてゐる。先づドナウ河左岸一帯のシュワビテンアルプスとフランコニアンジュラはジュラ紀の石灰岩よりなり、西に急斜するケスタを示し、その多くは不生産地で農耕地は少く、廣漠たる牧場である。ケスタの西方はメイン河とネツカル河の流域で三疊紀層から成る肥沃な土壤である。然し更にその西は中部及下部の三疊紀層があらはれて、砂質土をなし、農業的不生産地で森林に蔽はれてゐる。

四、ライン地溝帯

1. 南のバーゼルから北のマインツに至るライン河岸一帯の地域がこれであり、南北延長三〇〇軒、東西の幅員三〇軒内外で肥沃なる沖積平野をなし、その兩側には花崗岩類からなる

黒森及びボージュの地壘が屹立してゐる。戦前はライン河の兩側共にドイツが所有してゐたのであるが、今はバーゼルからカールスルーエ間の右岸を残し、左岸のアルサスを戦後フランスに割譲した。地溝帯内の段丘は背後の丘陵と共に、嘗てアルプス及ジュラ山脈より氷河の水によりて運搬されて堆積した微細土の土壤を以て覆はれ地味頗る肥沃である。



2. 氣候は兩側の山地に依つて寒風から保護され爲めに春陽早

く至る地で、雨量は平地で五百乃至六百を示し、夏季は雨量好適なるに加へて良質なる土壌をもつ丘陵の下部、山麓の扇状地、地溝帯内の平野面、共に農耕に適し、この地一帯に亘つてドイツの他の地方に見ざる暖帯性の葡萄を廣く栽培してゐる。そのため葡萄の醸造は各處に行はれ、煙草・ホップ・甜菜・小麦・大麦等を産し、煙草製造、ビール醸造、製糖業等が行はれてゐる。

### 五、ドイツの人口分布

ドイツ本國の人口は六四五〇萬人に達し、一方軒當り人口約一三七人に及んでゐる。世界の有力國家の中でその本國人口密度がドイツより多いのはベルギー、オランダ、イギリス、日本内地の外にはない。更に屬領を含めた全領土について見れば、我が國のみが一四四人で

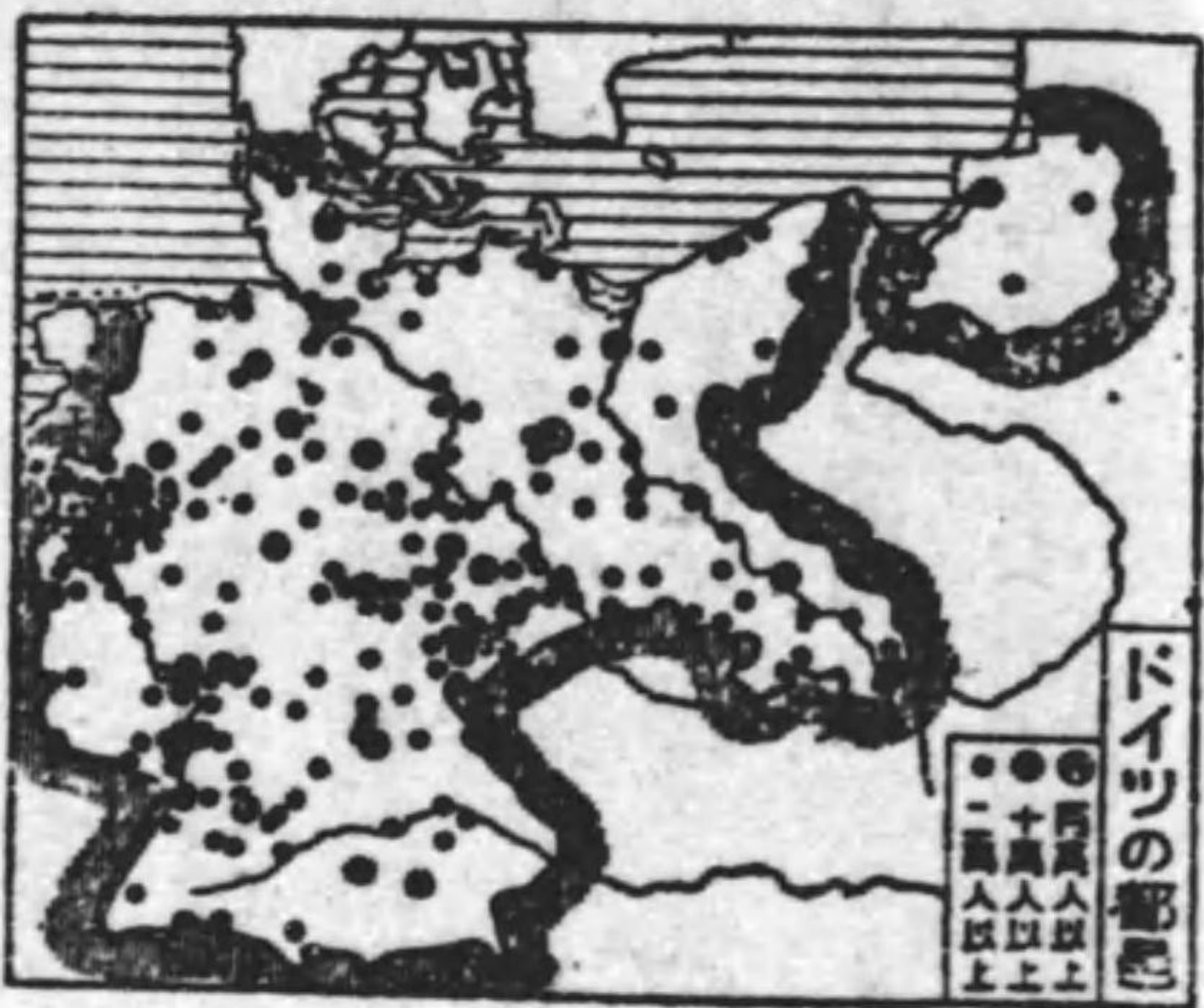


實に世界第一である。従つてドイツと我が國とは世界に於て最も人口密度の大なる國となるわけである。我が國はこの多數の人口を世界に比類のない集約的な農業によつて養つてゐるが、ドイツは工礦業者が四二%で最も多く、ドイツの稠密な人口は主として工礦業によつて養はれてゐる。従つてドイツに於ける人口稠密地帯はライン地方の工業地帯や、中部、南部の工礦地帯である。

工礦業や商業の發達は人口の都市集中を來し、従つて農村は人口稀薄殊に北部の低濕な地域や氷河堆積物の地域は人口密度が甚だ小である。

### 六、ドイツの都邑

前項にのべた如く、工礦業や商業の發達は人口の都市集中を來し、現在では實に全人口の六五%が都市に居住するやうになつた。ベルリンは實に四百萬人の大人を有し、ロンドン、ニューヨーク、東京について世界第四の大都會である。その他、ドイツには人口百萬以上の都市二、人口五十萬以上の都市が八、十萬以上の都市が實に四十に達してゐるのであ



### A 農業

總面積四七萬方杆の内四二%は耕地であり、その中生産能力の高い所は中帶山地と南ドイツ平野の境界地方、ライン地溝帯、バザリア盆地の一部である。地形、土壤、氣候は一般的に必ずしも良好でないが、そのすべては殆んど國民の勤勉なる努力と工夫によつて能率を高めてゐるのである。北部にはライ麦・オート麦を主とする穀物と、甜菜、馬鈴薯を産し、南部には小麦、葡萄、ホップ、大麦を産し、農業者は全人口の二七%である。

る。今五十萬以上の都市をあげれば、ベルリン、ブレスラウ、ドルトムント、フランクフルトアムメイン、エッセンケルン、ドレスデン、ライプチヒ、ミュンヘン、ハンブルグの十市である。

### 七、ドイツの産業

### B 牧畜業

牧場は全土の五分の一を占め、その大部分は豚を飼育してゐる。大戦中食料の缺乏に悩まされて多數の豚を屠殺したが、戦後又増加した。牛は二〇〇萬頭あり豚の二三〇〇萬頭と共に二大畜産物である。馬や羊も飼育されてゐる。

### C 鑛業

石炭は一・四億噸内外を産出し、世界第三位を占めてゐるが、近來著しく輸出を減じ、輸入量が増す傾向がある。鐵は石炭産地に接近して産出してゐるが、石炭産出量に比して少なく多量の鑛石を國外に仰いでゐる。アルミニウムの産額は



世界一である。その他岩鹽・銅・銀・亜鉛・鉛等を産出してゐるが、これらの大部分は中帯山地中に存在し、特にその山麓附近に多くドイツ工業の源泉をなしてゐる。

### D 工業

主要工業地帯は石炭産地に一致し、三大河の將に平野に出でんとする所に存在する。一はライン工業地帯、二はエベル河の上流サクソニア工業地帯、三はシレジアの工業地帯である。ドイツの人口分布はこの三つの工業地帯に最も大で、一方軒二〇〇人以上を示し、總じて中帯山脈の北麓は連続する高密度地帯となつてゐる。主なる工業としては製鐵、紡績、染織、機械、製藥、化學工業等があり、産額に於ては必ずしも大でないが、藥品と化學製品はドイツ工業の一大特色となつてゐる。工業者は三八%を占め、世界の四大工業國の一である。

### 八、河川の交通

ドイツに於て、河川の交通に對する意義は甚だ大である。東からウイストラ・オーダー・エルベ・ウェーゼル・エム

ス・ラインの諸川及び南のダニューヴ河等、これらの河川は何れも流れが緩かで、水量が豊富、その上分水界が低く又河床の高さが略々等しいので自由に運河で結ばれてゐる。従つてドイツの内陸水路の發達は誠に目覚ましく、その延長は一萬二千軒に餘つてゐる。その中比較的大きな汽船を通し得る距離は約七千四百軒である外に約二千軒の運河がある。これらの内陸水路の發達はドイツ



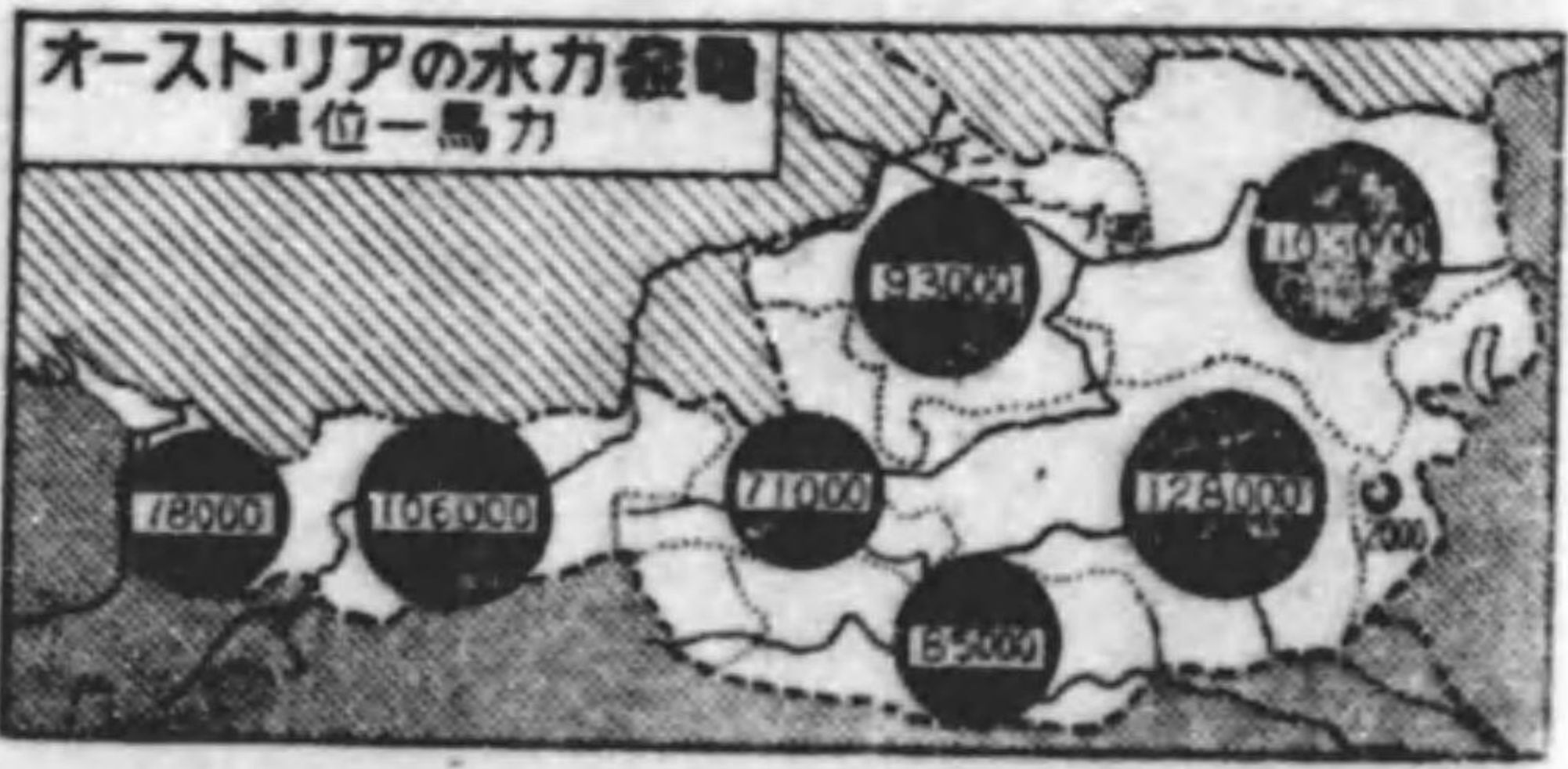
の占める地理的位置に基づく所多く、中央ヨーロッパの主要可航河川及び運河はその大部分がドイツ國內にあつて、物資の輸送に多大の貢獻をなしてゐる。特に西のライン河と東のウイストラ河とを結ぶ中央運河はひとり北ドイツに於ける物

資の交換に貢獻してゐるばかりでなく、西ヨーロッパの工業品をポーランドやロシアの農業國に送り、又東ヨーロッパの農産品を西のフランスやイギリスに送るに役立つてゐる。運送貨物の首位は石炭で、鐵礦・粘土・砂利の類が之に次ぎ、穀物や木材も之を利用する。これらの利用河川のうちに最も重要なのはいふ迄もなく、ライン河で全交通の五二%を占めてゐる。これはライン河が僅かな氷結と四時同一な水量を有し、流域に稠密な居住地域と、經濟的に發達した地域とをもつてゐるが爲である。殊にルドウィヒス運河によつてドナウ河と結ばれ、北海から黒海へと、歐洲大陸を横斷することが出来るので、その點もライン河の交通を盛ならしめた一原因である。

ライン河はひとりドイツばかりでなく、現在は國際河川として各國船舶に開放されてゐるので、オランダ、ベルギー、フランス、スイス等の諸國の船舶に利用され、デュニスブルグ、ルールオルト等の世界的大河港が發達してゐる。

### 九、オーストリアの水力發電

オーストリアは原料に乏しい上に石炭にもめぐまれてゐないので工業の發達には不利であるが、ただ水力の豊富なのは恵まれた點である。高山が多く降水量も又乏しくないで、その水力總量は三七〇萬馬力に達し、その中、利用可能量は一六五萬馬力であるといふ。而して現在の利用水力は七〇萬馬力を超過し、工業の發達に貢獻してゐる。主なる工業地としてはウイーン、リンツ、グラーツ、ヴェルス附近、及びライン河谷があげられる。主要工業は金屬工業、機械工業等で織維工業、化學工業も行はれてゐる。



#### 一、獨逸各邦の經濟

ドイツとオーストリアとの合邦は昭和十三年三月十三日公布實施せられた獨逸法律、及右法律を獨逸の法律となすべき旨を規定した獨逸法律によつて完成され、ヒットラー總統は



新オーストリア州總監として、オーストリア首相を任命し、又ドイツ政府はオーストリアの外交権を接收し、在外オーストリア公使館の閉鎖接收を行ひ、又これに對して帝國政府を初め、英米伊等の各國政府も在オーストリア公使館を閉鎖する等の意向を表明したので獨逸合邦は既成事實として承認された。併しヒットラー總統は全ドイツ即ちオーストリア國民を含む總意に於て再確認し、これを全世界に闡明すべく四月十日國民投票を行つた。その結果は豫期された通り、合邦賛成が壓倒的の優勢を示し、舊ドイツに於ても、舊オーストリアに於ても九九%以上といふ成績を示した。かくしてドイツ民族發展の上に、又歐洲政局の上に新紀元を劃した獨逸合邦は一滴の血を流すこともなく、全ドイツ民族の歡呼と、全世界各國の驚異の中に完成されたのである。

獨逸合併の波紋は、チェッコに對しても非常な衝擊を與へ、所謂ズデーテン、ドイツの運動が非常に活潑となつて遂にミュンヘン四國會議の結果、一九三八年十月十日ズデーテン地方の割讓が一戦も交ふることなくして完成され、更に、ドイツ

ツは一九三九年三月十六日チエコ(ボヘミア・モラヴィア)を保護國となしスロヴァキアを獨立せしめた。

### 二、ドイツの國境問題

紀元後數世紀の間ゲルマン民族は、西はライン河、東はウイッラ河、南はダニューヴ河までの地域を占據してゐたがその後スラヴ民族が之を壓迫して、ゲルマン民族の進出を阻止した。その第一の地域はエルツ山脈を自然的防塞としたボヘミヤ盆地で、そこにはチェツク人と呼ばれるスラヴ民族が彼等固有の言語・文化を維持してゐる。第二の地域はネツチエ・ブロンベルグ線に沿ふ低地帯の南方に位するもので、そこには、ポーランド人といふスラヴ民族が一集團をなしてゐる。このネツチエ・ブロンベルグ線の自然的障害はゲルマン民族の南東方進出を阻止したので、彼等はバルト海岸に沿つて東プロシヤに進んだ。然るに一方ポーランド人もウイッラ河に沿つて下降した爲め、この下流地方に兩民族の混淆を見るに至つた。ポーランド廊下と呼ばれるのはこの地域である。かくしてドイツの東部國境はゲルマン民族とスラヴ民族の

角逐の結果として決定された民族分布に基礎を置くものであるが、地形的にも經濟的にも何等の必然性がない。殊にポーランド廊下と上部シレジアとはヨーロッパに於て最も由々しき國境問題を包藏してゐる。前者はドイツ領を二分し、しかも多數のドイツ人をポーランド國內に包括せしめて居り、後者は上部シレジアの經濟的單位を破壊し、しかも民族問題が満足な解決を與へられてゐない。ドイツが國境の改訂を強く要望してゐるのは、これら兩地域である。西部のライン河は一見合理的の如くであるが、實はライン地溝帯の地域的統一性を無視するもので、戦前のヴォージュ山脈の合理的にして障害的なのは及ばない。更にデンマークとの國境も永久性を認めることは不可能である。

### 三、日獨伊の防共協定とその影響

昭和十一年十一月二十五日、日獨防共協定が成立して以來國際形勢は非常な變化を生じ、東亞に於ては支那事變の勃發を見るに至り、而もそれがコミンテルンの指導に基づくところの抗日の激化に端を發したことより見て、防共協定の使命は

益々重く、これが強化にとめる必要を痛感するに至つた。ここに昭和十二年十一月六日新たに伊太利がこの防共協定に加盟して日獨伊三國協定の成立を見たことは、歐亞を結ぶ防共の堅陣を結成し、世界人類の幸福と平和を維持する上から見て最も祝福されるべきことだと云はなければならぬ。

さてこの防共協定が歐洲の國際形勢に如何なる影響を與へたかと云ふに、獨伊兩國の協定はベルリン・ローマ樞軸の強化を來し、蘇佛の協定に基づくパリ・モスコイ樞軸を切斷するに至つた。しかもオーストリアの併合は更に獨伊を接近せしめ、伊ユ協定その他ルーマニア・ポーランド等との獨伊接近國との關係等よりチェツコスロヴァキアが全く獨伊勢力線にて包圍せられたるため、チェツコ國は國際關係上全く孤立の状態になつた。その上チェツコ國內にあるドイツ人はズデーテンドイツ黨を組織し、ドイツ政府との合併を希望し、獨、チエ兩國の國勢は日々に險惡となり、チェツコスロヴァキアは、僅かに英・佛・蘇の援助を受けて國力を維持せんと圖つたが成らず、遂にミュンヘン協定によつてズデーテン地方の

割譲に依つて小康を得たが、昭和十四年三月遂にチェッコ國は完全に崩壊して、ボヘミア、モラヴィア、は保護國として、スロヴァキアは獨立して共にドイツの勢力圏内に入ることとなつた。かくして日獨伊三國協定の成立は歐洲に於ける獨伊兩國の勢力を強化するに寄與した點が、甚だ大であつたと云ふことが出来る。

四、獨逸の中欧制覇

昭和十三年三月十三日オーストリアを合併して中央制覇の歩を進めたドイツは、遂に昭和十四年三月十六日に至つてボヘミア、モラヴィアを保護國として合併した。かくしてドイツの中欧制覇の大業は完成し、次いで來るべきものは恐らくルーマニアに對する進出であらう。而してこの勢に對して最も脅威を感じるのはポーランドで、英佛と提携してドイツに當らんと畫策しつゝある。

チェッコスロヴァキアは一九一八年十月二十八日に獨立してより僅か二十二年に滿たずして歴史の幕を閉じた。今簡單にその歴史をふりかへつて見ると、一九一六年奧洪帝國の敗

戦に刺戟されたチェク及スロヴァク兩民族はスラヴ民族自決の旗の下に獨立運動を起し、遂に一九一八年十月二十八日マサリック大統領の下にチェッコスロヴァキア共和國として誕生した。その後、國勢日に盛となり、一九三五年にはソ聯と相互援助の條約を締結し、反ヒットラーの旗幟を明かにしたが其後國內は種々紛糾し、ミュンヘン會談によりズデーテン地方を失ひ、今又全くチェッコ國は崩壊してドイツ領土として併合されるに至つたのである。かくしてドイツは今や面積に於て六八五萬平方杆、人口に於て八五七三〇萬人の大國となつたのである。

第三節 チェッコスロヴァキア

〔目的〕

一、チェッコスロヴァキアは舊奧洪國より分裂した新興國でボヘミア・モラヴィア・シレシヤ・スロヴァキア・ルテニアの五部よりなる内陸國なること、國の主要經濟地帯とし

三地形區に分けて説明する

(イ)ボヘミア盆地

河川——エルベ河・モルダウ河

農耕地帯——馬鈴薯・小麦・ライ麥・甜菜・ホップ

鑛産——石炭・鐵

工業——機業・製鐵業・硝子・化學工業・製材・製紙

主要都市——プラハ、ピルゼン、カルルスバード

(ロ)モラヴィア低地

農業——大麥・甜菜・玉蜀黍 鑛産——石炭・鐵

工業——毛織物・機械類

主要都市——ブルノ

(ハ)スロヴァキア山地

森林・鑛産・牧畜

三、交通・商業

國際河川——内陸國の交通路として重要なことを知らしむ。

貿易——輸出超過

てボヘミアの工業地帯を有すること等を知らしめ、中部ヨーロッパに於ける主要國家としての存立の意義を理解せしめるのが主眼點である。

二、獨逸合邦について起つたズデーテンドイツ黨の活躍がミュンヘン四國會談の結果、成功して、ズデーテン地方のドイツへの割譲となり、更にテツセン地方のポーランドへの割譲、ルテニヤ地方のハンガリーへの割譲等に發展した最近のこの國の國際關係を知らせ、複雑な歐洲政局の現状を理解せしめることも肝要である。

〔教 順〕

一、概 説

地理的位置——「ボヘミアを制するものは中欧を制す」と稱せられる形勝の地を占むること。

民族——チェク・スロヴァク・ルテニアの三族を以て組織すること。

國體——共和國なること。

二、處 誌

〔考察問題〕

一、チエコスロヴァキア國の成立の由來と現在の政治に就て述べよ。

中央的な地理的位置に支配され、この國は古くから諸民族交流の地となつた。歴史の初め頃ボヘミアにポエル人來り住み、六世紀の頃スラヴのチエツク人が移住してボヘミア王國を作つた。この王國は十六世紀に消滅し、舊境洪國の領土に編入された。世界大戰に際しては同盟軍に屬したが、チエク人もスロヴァク人もスラヴ系なので、中には本國に反旗を翻してロシア軍に投降するものもあつた。大戰後チエツコ、スロヴァキアはボヘミア・モラヴィアの外、カルパチアを含む獨立國となり、一九二〇年には憲法を制定し、共和政治を行つて今日に及んでゐる。議院は二院制で、兩院合同で大統領を選出する。

二、チエコスロヴァキアの民族構成につきて述べよ。

チエツコスロヴァキアの國名は西部のチエツク人、中部・東部のスロバツク人の民族名から取つたもので、何れも鬚の

易くなつたが、國境の不自然さは矢張りこの國の國際關係を安定せしむるには至つてゐない。

三、チエコスロヴァキア國の海外への通路を問ふ。

チエツコスロヴァキアは四方陸地を以てかこまれた内陸國であるから、三つの國際河川を以て外海と相通じてゐる。即ちドナウ河を以て黒海に通じ、エルベ川を以て北海に、オーデル河を以てバルト海に通じてゐる。重工業と棉花工業の原料を多く輸入するこの國にとつては、この三河川の交通は極めて重要な意義を有する。ドナウ河に於てはその支流モラヴァ河のブリュン河港があり、エルベ川にはハンブルグ・オーデル河にはステチンの兩港にこの國の使用し得る自由地域が與へられてゐる。ハンブルグに於けるこの國の港の設備は一九三一年に完成して海外との交通は以前に倍加した。尙アドリア海には、トリエスト自由港を利用し得る特權をもつてゐる。

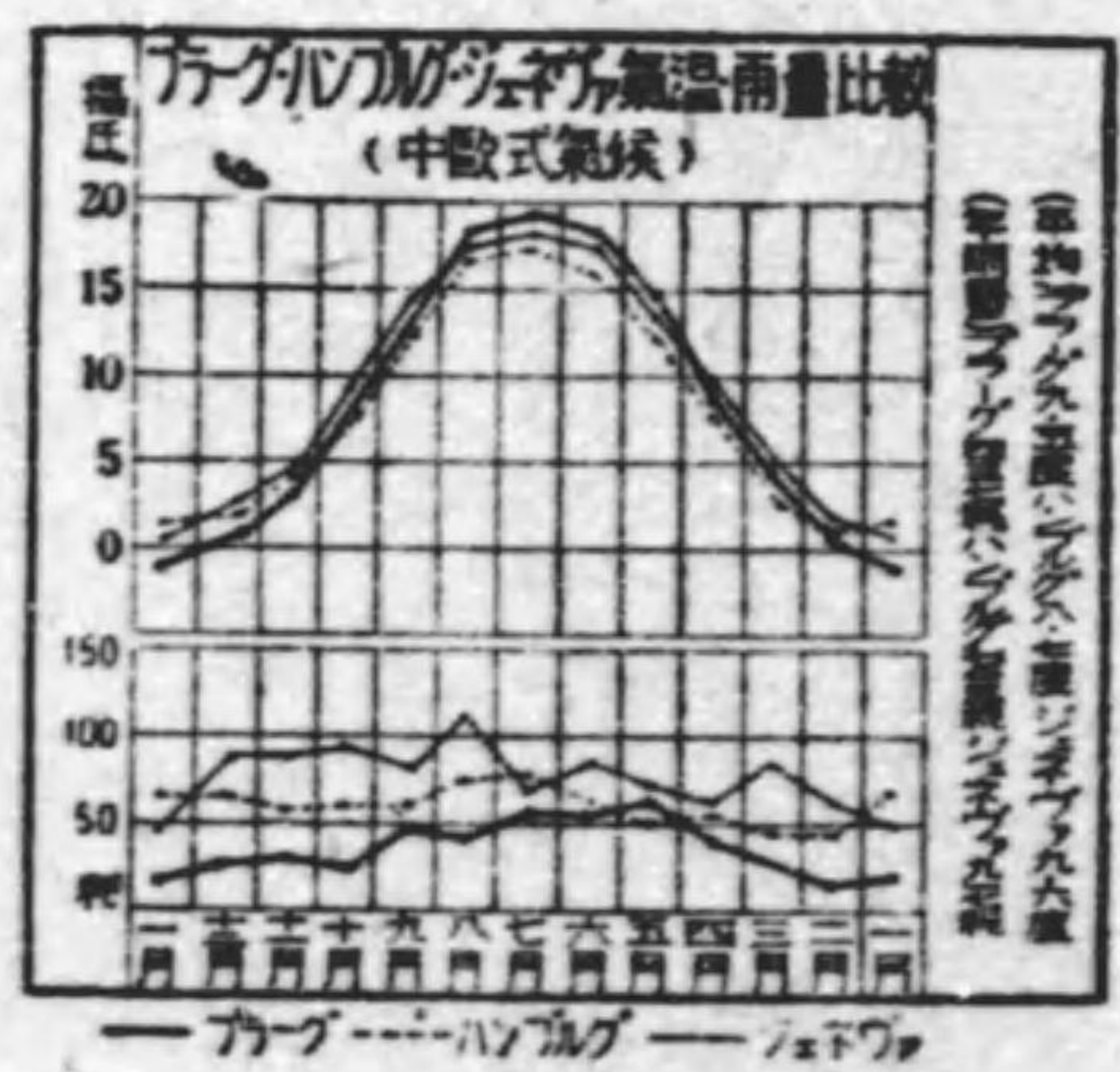
〔讀圖〕

一、チエコスロヴァキアの氣候

多いスラヴ人種に屬してゐる。然し詳しく云へばこの國の民族構成は頗る複雑で次の如き多數の異民族から成つてゐた。

- チエツク人・スロバツク人 六五・五%
- ドイツ人 二三・四%
- ハンガリー人 五・六%
- ウクライナ人 三・五%
- ユダヤ人 一・四%
- その他 〇・六%

この中チエツク人はボヘミアに多く、スロバツク人はモラヴィア・シレジア・スロヴァキアに多い。この兩民族はこの國の主要民族で工業のチエツク人と農業のスロバツク人と互ひに文化を異にせる寄合世帯であることはこの國の一つの缺點である。ズデーテン地方の主要民族たるドイツ人は獨逸合邦後、活動を開始し、現在では遂に、世界の承認を得て、獨逸國內に編入された。又ルテニアのハンガリー人の地域もウイン會議(獨・伊・チエツコスロヴァキア・ハンガリー)の結果、ハンガリー領となつたので、民族構成上よりは統一し



北緯五十度内外の所にある國であるから氣温は概して低いが、五月から九月までは十三度以上あり穀物の成熟には充分であり、平地では秋播の小麥も栽培され、馬鈴薯も春秋の收穫がある。冬にも零下二―三度で積

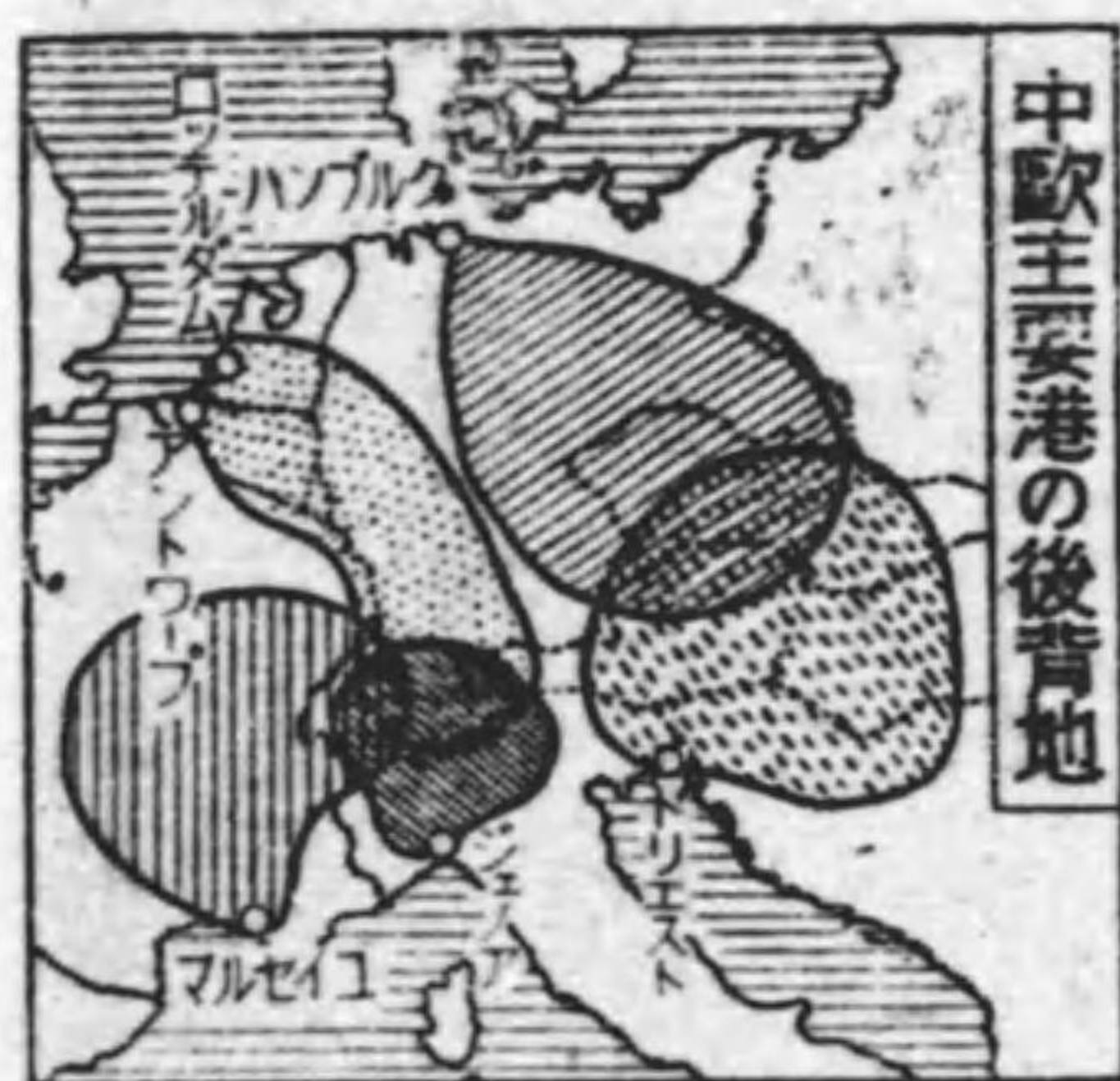
雪は少いから戸外の労働に差支へる程ではない。温度の年較差も二〇度内外であるからモンスーン地方の温帯よりは少い。西歐の海洋氣候から東歐の大陸氣候への漸移地域の特色をあらはしてゐる。降水量もこの氣候に對しては適度で、西から東へ漸減して、ステツプ氣候への漸移傾向を示してゐる。山地では降水量は稍多い。

二、チエコスロヴァキアの鑛業分布

鑛産物としてはエルツ山脈中の金、カルパチア山脈の銀・銅・鉛の外に東スロヴァキア及ルテニアに岩鹽の産があるが最も重要なものは石炭と鐵である。



石炭の産量は約千五百萬噸で、シレジャ炭田のものが最良質である。褐炭は約二千萬噸、ブラーグ西方の地域に最も多く産し、オーストリアに輸出されてゐる。鐵の埋藏量は大きく、テッシーン附近及ブラーグ南方に廣く分布し、カルパチヤンの内側にも連続して分布してゐる。鐵鑛の産出は一千五百萬噸であるが、品質が中位であるから最良のものはスウェ



ーデンから輸入してゐる。  
三、中欧主要港の後背地  
チェコスロヴァキア・ハンガリー・スイス等の内陸國は他國の領内へ海への出口を持たなければならぬ。勿論鐵道に依つ

て連絡される港も重要ではあるが自國內に源を發し、他國の領内を流れて海へ注ぐ河川の出口に港があればその港は更に重要である。従つて此等の河川に對しては關係諸國が全流域に共同に航行の自由を享有すべく協議し、特別條約を締結して萬國共通に商船の航行を許すのである。之を國際河川と云ふかかる河川の出口の港は流域諸國の汽船が集つて殷盛を來すのである。

チェコスロヴァキアに於てはドイツのハンブルグに特別の地域を得て港の設備を整へ、ブラーグとの間に定期航路を開いてゐる。又トリエスト自由港を利用する権利も有してゐる。即ちチェコスロヴァキアはこの兩港の後背地とも見做すべきである。

〔参考〕  
一 チェコスロヴァキアの崩壊

多年實現に困難を見てゐた獨逸合邦が、ヒットラー總統の宣言によつて僅か數日の間に達成し得たといふ事實は、その隣邦國たるチェコスロヴァキアに對して新しい問題を提起

した。即ちヒットラー總統の劃一化政策よりすれば、境地利の併合を見た以上、次いで來るべきものがチェツコの併合であらうと云ふのが一般の觀測で、チェツコ問題は歐洲危機の發火點として、歐洲政局の中心問題と化したのであつた。

抑もドイツの中歐覇權の確立と東方政策の實現とがチェツコの併合問題を惹起するに至るのは當然であつたとも云ひ得るが、それよりもドイツとチェツコの間直接の具體問題として起つてきたのは、ズデーテン・ドイツ人による少數民族問題であつた。これが特に問題となり得た理由は、サンゼルマン條約によつて、ズデーテン・ドイツ人の取扱ひにつきチェツコ政府が負へる條約上の義務を實行して居らないと云ふことで、この問題の取扱ひ如何が、戰爭の原因となる可能性をもつてゐたのである。チェツコの民族構成は考察問題の項に詳説した通り、ドイツ人はチェツコ人に次いで大多數を擁し、これらが主としてチェツコの國境地方に住居し、北部ボヘミアの如き主要工業地帯を占據してゐたことは、チェツコの國防上からも經濟上からも極めて重大なる關係があり、最

も注意しなければならぬ所であつた。全人口の二十二%を

占めるズデーテン・ドイツ人はスラヴ系チェツク政府の權下にあるを快しとせず、ドイツのナチスに呼應して祖國戰線の新運動に乗り出すや、ドイツ民族問題がチェツコの重大問題に進展したのであつた。しかもこの問題はひとり國內問題たるに止まらず、對ドイツの複雑なる外交問題となり、その處置如何に依つては中歐をして戰禍に投ぜしめるのであるから、英伊佛等の列強はもとより、歐羅巴の諸國は多大の關心を以て事件の推移を眺めてゐたのである。然るに事態は益々悪化し、チェツコ政府はズデーテン・ドイツ黨の

